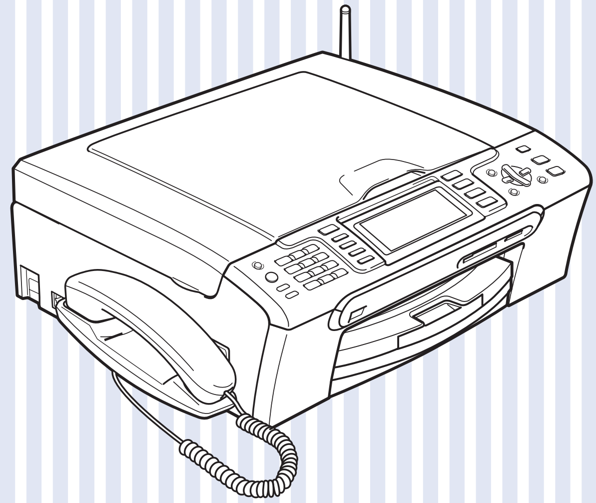
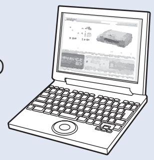
brother

MFC-650CD/CDW
MFC-870CDN/CDWN
MFC-880CDN/CDWN
ユーザーズガイド



画面で見るマニュアル (CD-ROM)

本製品の使い方に加え、
パソコンとつないだときの
詳しい使い方をすばやく
探せます。



困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、故障かな？と思ったときなどは、以下の手順で原因をお調べください。

1 **8章「こんなときは」で調べる** 159ページ

▼

2 サポート ブラザー [検索]

ブラザーのサポートサイト
にアクセスして、最新の情報を調べる
http://solutions.brother.co.jp/

▼

3 **お客様相談窓口で相談**
[ブラザーコールセンター]
0120-590-381

受付/9:00～20:00（土曜・祝日～17:00）
※日曜・当社指定休日は除きます。
ブラザーコールセンターは、ブラザー販売株式会社が運営しています。

オンラインユーザー登録 ▶ https://regist.brother.jp/

本書はなくさないように注意し、いつでも手に取って見ることができるようにしてください。

Version B

本書のみかた

本書で使用されている記号

本書では、下記の記号が使われています。

記号	説明
注意	お使いいただく上での注意事項、制限事項などを記載しています。
(メモアイコン)	知っていると便利なことや、補足を記載しています。
10ページ	本書内での参照先を記載しています。
画面で見るマニュアル	画面で見るマニュアルへの参照先を記載しています。

注意

■ 本書に掲載されている画面は、実際の画面と異なることがあります。

本書で使用されているイラスト

本書では本製品や操作パネルの説明に、MFC-650CD のイラストを使用しています。

- MFC-650CD と MFC-650CDW の違いは、子機の台数のみです。
- MFC-870CDN と MFC-870CDWN の違いは、子機の台数のみです。
- MFC-880CDN と MFC-880CDWN の違いは、子機の台数のみです。
- MFC-650CD と MFC-870CDN の違いは、主に LAN 接続機能の有無と液晶ディスプレイの大きさです。
- MFC-870CDN と MFC-880CDN の違いは、主に ADF（自動原稿送り装置）の有無、本体の色などです。
- MFC-880CDN の操作パネルのボタン位置や名称は、MFC-870CDN と同じです。

本書で対象となる製品

本書は、MFC-650CD、MFC-650CDW、MFC-870CDN、MFC-870CDWN、MFC-880CDN、MFC-880CDWN を対象としています。お使いの製品の型番は操作パネル上に表記してありますので、ご確認ください。

画面で見るマニュアルのみかた

CD-ROM に収録されている「画面で見るマニュアル」を見たいときは、以下の手順で操作します。

Windows® の場合

(1) **付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットする**

モデルを選択する画面が表示されたときは、お使いのモデルをクリックします。

◆ メイン画面が表示されます。

(2) **「画面で見るマニュアル」をクリックする**

(3) **「画面で見るマニュアル HTML 形式」をクリックする**

◆「画面で見るマニュアル」が表示されます。

パソコンにドライバをインストールすると、Windows® のスタートメニューから画面で見るマニュアルを閲覧できます。
[スタート] メニューから、[すべてのプログラム（プログラム）] − [Brother] − [MFC-XXXX] − [マニュアル] を選んでください。

Macintosh® の場合

(1) **付属の CD-ROM を Macintosh® の CD-ROM ドライブにセットする**

(2) **「Documentation」をダブルクリックする**

(3) **「MFC-XXX_JpnTop.html」をダブルクリックする**

◆「画面で見るマニュアル」が表示されます。

最新のマニュアルは、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。

目次

PictBridge

スキャン TO メディア

第 8 章　こんなときは 159

日常のお手入れ

困ったときは

付　録 201

その他の機能 .... CD-ROM

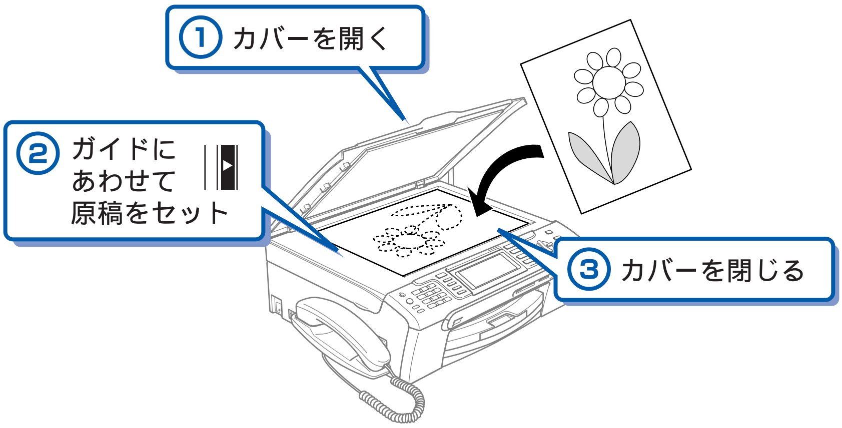
画面で見るマニュアル（HTML 形式）をみてください。

- ●プリンタ
- ●スキャナ
- ● PC-FAX
- ●フォトメディアキャプチャ
- ●リモートセットアップ
- ● Control Center

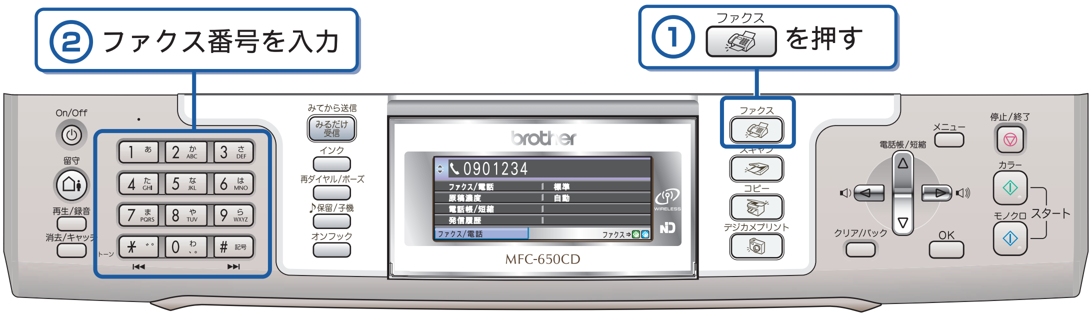
ファクスを送る

ファクスを送ります。

1 原稿をセットする



2 ファクス を押して、ダイヤルボタンで相手のファクス番号を入力する

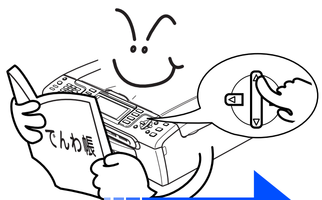


3 モノクロで送る場合は、モノクロ を、カラーで送る場合は、カラー を押す

ファクスが送られます。

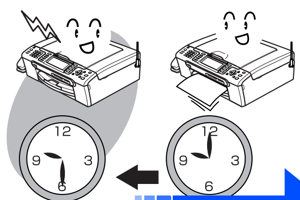
こんなこともできます

● 電話帳を使って送る



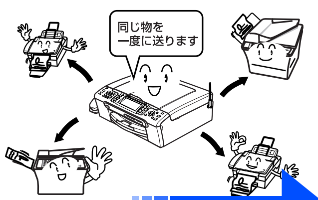
85 ページ

● 時間を指定して送る



92 ページ

●複数の相手に同じものを送る

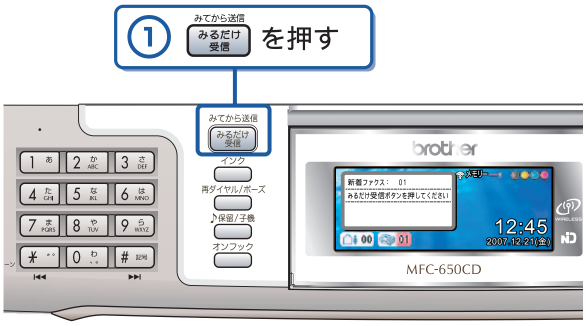


95 ページ

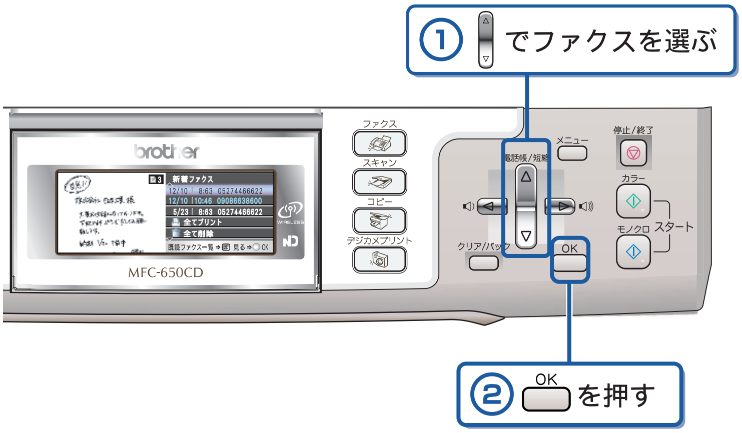
ファクスを受ける

液晶ディスプレイでファクスを確認できます。受信したファクスはメモリーに保存され、自動的にプリントされません。内容を確認してからプリントしたり、消したりできます。（⇒ 87 ページ「自動的に受ける」）

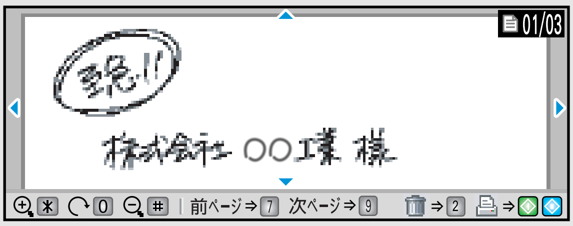
1 液晶ディスプレイに以下のメッセージが表示されたら、みてから送信 みるだけ受信 を押す



2 △▽ で確認したいファクスを選び、OK を押す



ファクスの内容が表示されます。



こんなこともできます

●着信音を鳴らさずにファクスを受ける

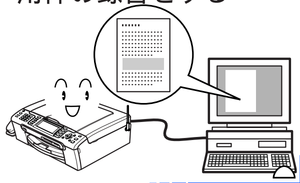
・電話のときは、呼出音が鳴ります。

46 ページ

●ファクスを受信後、自動的にプリントする（見るだけ受信を解除する）

88 ページ

●留守のとき、ファクス受信と用件の録音をする

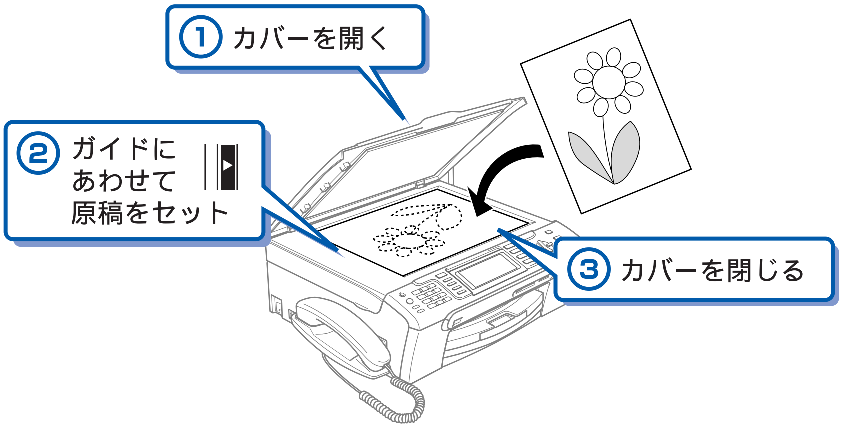


120 ページ

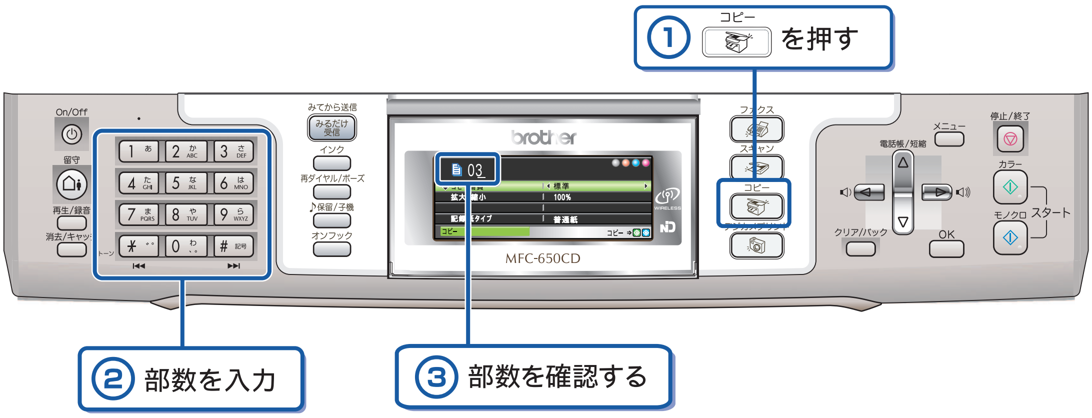
コピーする

モノクロ／カラーでコピーします。

1 原稿をセットする



2 コピー を押し、ダイヤルボタンで部数を入力する

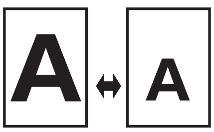


3 モノクロでコピーする場合は、モノクロ を、カラーでコピーする場合は、カラー を押す

コピーが開始されます。

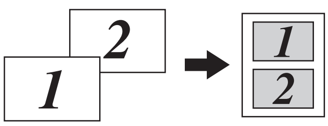
こんなこともできます

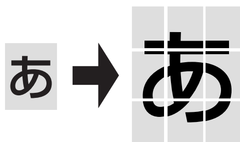
●拡大・縮小コピー



131 ページ

●N in 1 コピー／ポスターコピー





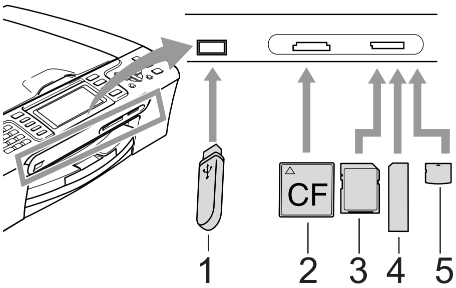
134 ページ

写真をプリントする

メモリーカードの写真をプリントします。

1 L 判の記録紙を、スライドトレイにセットする

2 メモリーカードを入れる

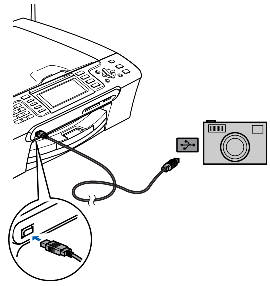


1. USBフラッシュメモリー
2. コンパクトフラッシュ
3. SD-メモリーカード、マルチメディアカード
   SDHCメモリーカード
4. メモリースティック、メモリースティックPRO
5. xDピクチャーカード

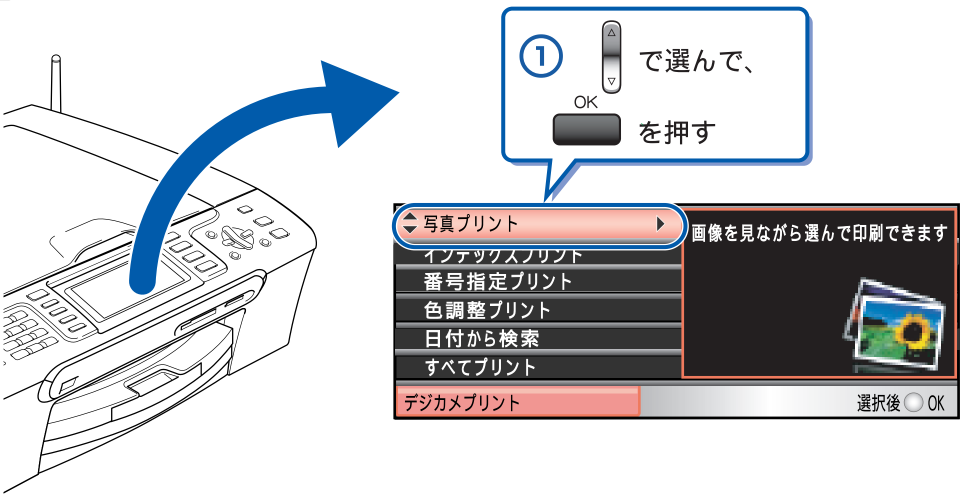
※ miniSDカード/microSDカード/メモリースティックデュオ/メモリースティックPROデュオを本製品にセットするときはアダプターが必要です。

PictBridge

デジタルカメラと本機をUSBケーブルで接続することもできます。



3 を押して、「写真プリント」を選ぶ



4 プリントする写真と枚数を設定する

※ 複数枚プリントしたいときは、①②をくり返します。

5 を押してプリントする

選択した写真がプリントされます。

プリンタとして使う

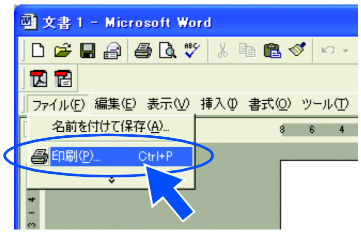
本製品とパソコンを接続して、パソコンから印刷を行えます。

注意

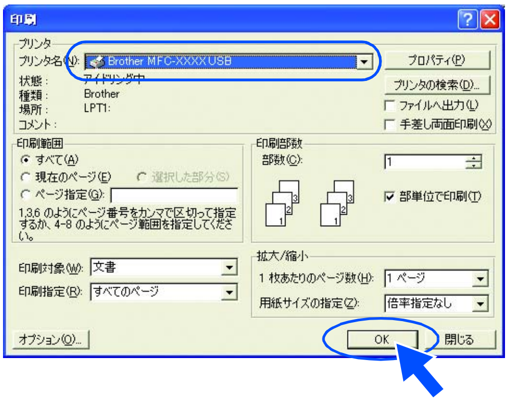
■ パソコンとの接続や、ドライバのインストール方法は、「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

Windows® の場合

1 アプリケーションソフトの［ファイル］メニューから［印刷］を選ぶ



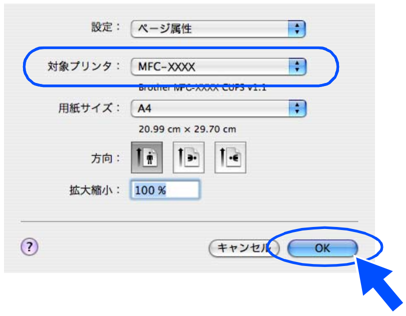
2 ［印刷］ダイアログボックスで、本製品を選び、［OK］をクリックする



Macintosh® の場合

1 アプリケーションの［ファイル］メニューから［ページ設定］を選ぶ

2 「対象プリンタ」で本製品のモデル名を選び、［OK］をクリックする

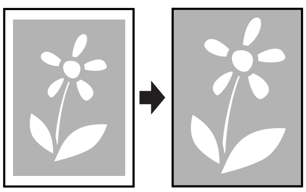


3 アプリケーションの［ファイル］メニューから［プリント］を選ぶ

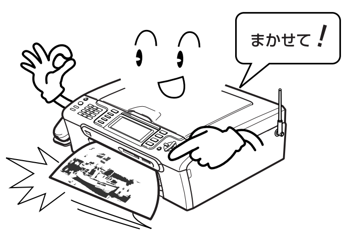
4 ［プリント］をクリックする

こんなこともできます

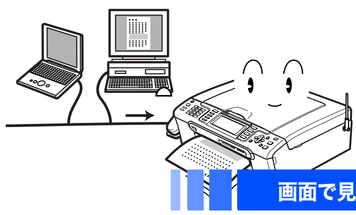
● ふちなし印刷



● おまかせ印刷



● ネットワークプリンタ
(MFC-870CDN/870CDWN/880CDN/880CDWNのみ)



画面で見るマニュアル

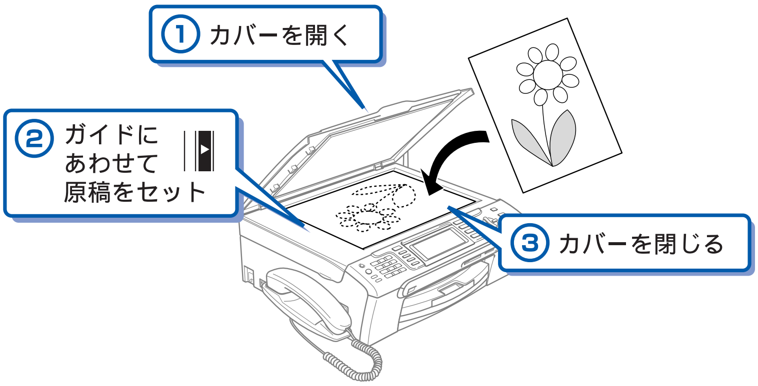
スキャンする

本製品でスキャンしたデータをパソコンに送ります。

注意

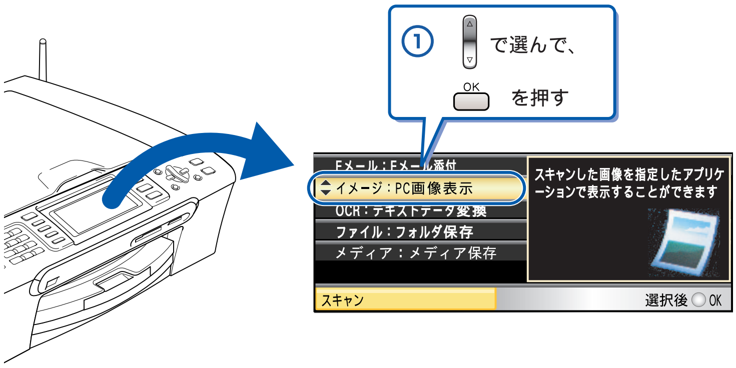
■ パソコンとの接続や、ドライバのインストール方法は、「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

1 原稿台ガラスに原稿をセットする



2 スキャン を押して、「イメージ：PC 画像表示」を選ぶ

MFC-650CD/CDW の場合、4 へ。



3 スキャンした画像を保存するパソコンを選び、OK を押す

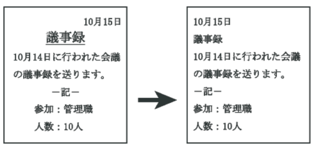
USB ケーブルで接続しているパソコンに保存する場合は、< USB >を選びます。

4 モノクロ または カラー を押す

スキャンが開始されます。

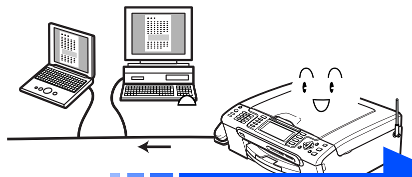
こんなこともできます

● テキストデータとしてスキャンする



● よく使う設定を登録（ControlCenter）

● ネットワークスキャナ（MFC-870CDN/870CDWN/880CDN/880CDWNのみ）



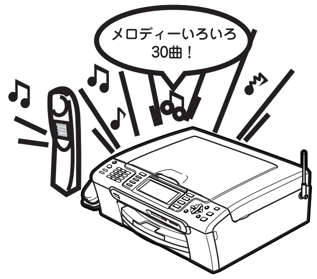
画面で見るマニュアル

こんなこともできます

● 電話＆ファクス

● 着信音・保留音を選ぶ

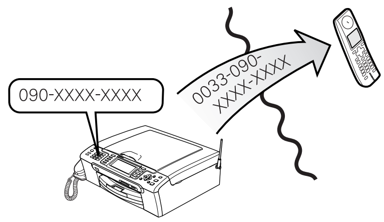
30 種類の着信メロディから、好きなメロディを選べます。



51 ページ

● ケータイ通話お得サービスを利用する

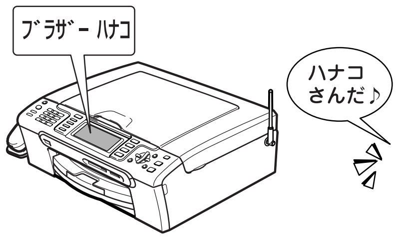
携帯電話に電話をかけるときに、通話料金がお得になる「事業者識別番号」を自動的につけてダイヤルします。



55 ページ

● ナンバー・ディスプレイ、ネームディスプレイを利用する

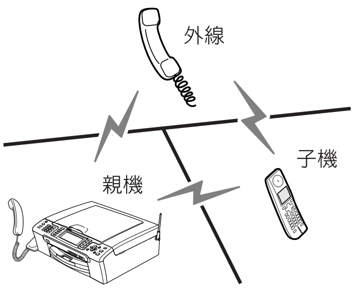
かけてきた相手の番号や名前を液晶ディスプレイで確認できます。



70 ページ

● 3人で同時に話す[トリプル通話]

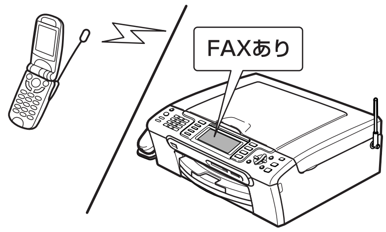
親機、子機、外線の相手の 3 人で通話することができます。



68 ページ

● 外出先から本製品を操作する

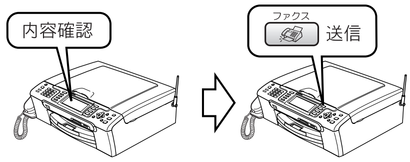
外出先から留守番電話に録音されたメッセージを聞いたり、ファクスが届いているかどうかを確認できます。



123 ページ

● 送信するファクスを液晶ディスプレイで確認する[みてから送信]

送信する前に、ファクスの内容を液晶ディスプレイで確認できます。



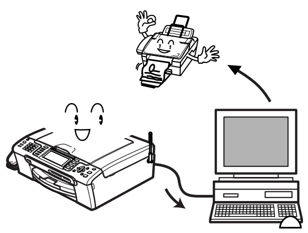
83 ページ

● その他の機能

画面で見るマニュアル（CD-ROM）12 ページ

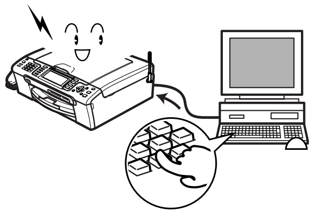
● パソコンからファクスを送る

パソコンで作成したファイルを、パソコンから直接ファクスできます。



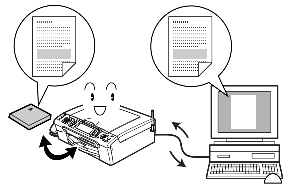
● 本製品の設定をパソコンから変更する

パソコンで電話帳を編集したり、本製品の設定を変更できます。



● メモリーカードやUSBフラッシュメモリーをリムーバブルディスクとして利用する

本製品にセットしたメモリーカードや USB フラッシュメモリーは、パソコン上で「リムーバブルディスク」として使用できます。※



● スキャナ、フォトメディアキャプチャなどをかんたんに起動する[ControlCenter]

スキャナやフォトメディアキャプチャ機能などをかんたんに起動できるソフトウェア「ControlCenter」を使用できます。

※ リムーバブルディスクとして使用できるのは、USB 接続の場合のみです。ネットワーク経由でメモリーカードにアクセスする場合は、Control Center をご利用ください。⇒画面で見るマニュアル「ネットワーク経由でメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーにアクセスする

画面で見るマニュアルについて

付属の CD-ROM には「画面で見るマニュアル（HTML 形式）」が収録されており、プリンタ、スキャナなどパソコンと接続して使う機能についても記載しています。以下では画面で見るマニュアル (HTML 形式) の画面と操作を説明しています。
※ この画面は説明のために作成したもので、実際の画面はご使用のモデルによって異なります。

パソコンにドライバをインストールすると、Windows® のスタートメニューから画面で見るマニュアルを閲覧できます。
［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［MFC-XXXX］－［マニュアル］を選んでください。

● 表紙

1	本ガイドの文書内で単語や単語の一部（文字列）を検索することができます。
2	各機能のページ（章）に移動します。
3	「やりたいこと目次」 やりたいことから操作を探せる目次を表示します。
4	「ご使用の前に」 ご使用の前に知っておいていただきたい内容を説明しています。
	「こんなときは」 日常のお手入れや困ったときの解決方法などを説明しています。
	「付録」 機能一覧／仕様／用語集／索引／ご注文シート／アフターサービスのご案内などについて説明しています。
	「安全にお使いいただくために」 本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を説明しています。
	「本ガイドを印刷するには」 画面で見るマニュアルを印刷する方法を説明しています。
	「消耗品の交換」「消耗品の注文」 インクカートリッジの交換方法や、ご注文方法を説明しています。
5	サポートサイト (ブラザーソリューションセンター) のホームページに移動します。
6	ブラザー工業株式会社のホームページに移動します。

● 内容

1	本ガイドの文書内で単語や単語の一部（文字列）を検索することができます。
2	各機能のページ（章）に移動します。
3	「やりたいこと目次」 やりたいことから操作を探せる目次を表示します。
4	現在のページを印刷します。
5	次のページに移動します。
6	操作内容を表示します。
7	現在のページの最上部に移動します。
8	ブラザー工業株式会社のホームページに移動します。
9	前のページに移動します。
10	「安全にお使いいただくために」 本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を説明しています。
	「ネットワーク設定」 ネットワーク接続でご利用になる場合の内容を説明しています。
	「本ガイドを印刷するには」 画面で見るマニュアルを印刷する方法を説明しています。
	「消耗品の交換」「消耗品の注文」 インクカートリッジの交換方法や、ご注文方法を説明しています。
11	中見出し・小見出しです。
12	大見出しです。
13	トップページに移動します。

安全にお使いいただくために

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
この「安全にお使いいただくために」では、お客さまや第三者への危害や損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

⚠ 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、かつその切迫の度合いが高い危害が想定される内容を示します。
⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示します。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

🚫	「してはいけないこと」を示しています。	❗	「しなければいけないこと」を示しています。
	「さわってはいけないこと」を示しています。		「電源プラグを抜くこと」を示しています。
	「分解してはいけないこと」を示しています。		「火気に近づいてはいけないこと」を示しています。
	「水ぬれ禁止」を示しています。		

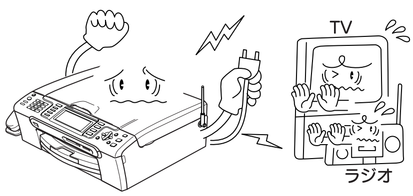
注意

- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく、クラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビ受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーズガイドに従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一不具合がありましたら、「お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）0120-590-381」までご連絡ください。
- お客さまや第三者が、本製品の使用の誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合、または本製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本製品の設置に伴う回線工事には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故のもととなりますので、絶対におやめください。
- 電話帳に登録した内容、メモリーに受信したファクスなどで重要な情報は、必ず印刷して保管してください（⇒ 112 ページ「電話帳リストを印刷する」⇒ 101 ページ「メモリー受信したファクスを印刷する」）。本製品は、静電気・電気的ノイズなどの影響を受けたとき、誤って使用したとき、または故障・修理・使用中に電源が切れたときに、メモリーに記憶した内容が変化・消失することがあります。これらの要因により本製品のメモリーに記憶した内容が変化・消失したために発生した損害について、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ユーザーズガイドなど、付属品を紛失した場合は、お買い上げの販売店にてご購入いただくか、ダイレクトクラブ（裏表紙）へご注文ください。

電波障害があるときは

本製品を設置することにより、近くに置いたラジオやスピーカ、マイク等に雑音が入ったり、テレビ画面にちらつきやゆがみが発生することがあります。
その場合は電源コードをコンセントから一度抜いてください。電源コードを抜くことにより、ラジオやテレビが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法で対処してください。

- 本製品をテレビから遠ざける
- 本製品またはテレビの向きを変える

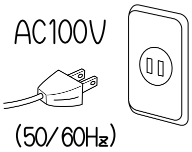


設置についてのご注意

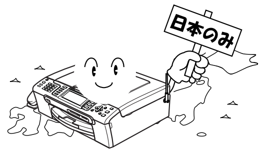
⚠ 警告

故障や変形、感電、火災の原因になります。

- 電源は AC100V 、50Hz または 60Hz でご使用ください。

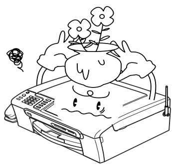


- 国内のみでご使用ください。海外ではご使用になれません。



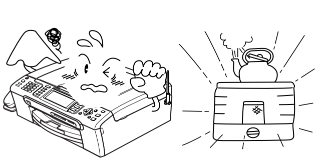
- 子機のバッテリー、AC アダプタ、充電器は必ず専用のものをご使用ください。
- バッテリーを指定以外の機器に使用しないでください。

- 水のかかる場所（浴室や加湿器のそばなど）や、湿度の高い場所には設置しないでください。漏電による感電、火災の原因になります。



- いちじるしく低温な場所、急激に温度が変化する場所には設置しないでください。装置内部が結露するおそれがあります。

- 火気や熱器具、揮発性可燃物やカーテンに近い場所に設置しないでください。火災や感電、事故の原因になります。

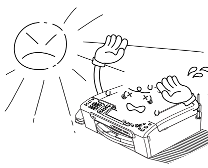


- 医療用電気機器の近くでは使用しないでください。本製品からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因となります。

⚠ 注意

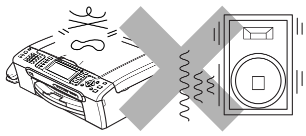
本製品は以下の場所に設置しないでください。故障や変形の原因になります。

- 温度の高い場所
  直射日光が当たるところ、暖房設備などの近く

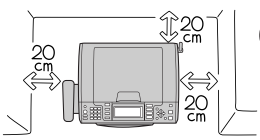


- 不安定な場所
  ぐらついた台の上や、傾いたところなど

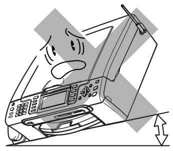
- 磁気の発生する場所
  テレビ、ラジオ、スピーカー、コタツなどの近く



- 壁のそば
  本製品を正しく使用し性能を維持するために周囲の壁から20cm以上はなす



- 傾いたところ
  傾いたところに置くと正常に動作しないことがあります



- 風が直接当たるところ
  クーラーや換気口の近く
- ほこりや鉄粉、振動の多いところ
- 換気の悪いところ
- じゅうたんやカーペットの上

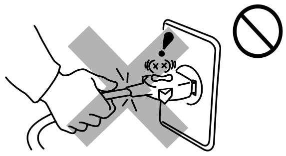
電源についてのご注意

⚠警告

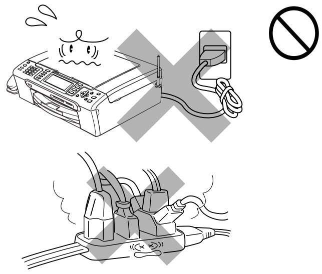
火災や感電、やけどの原因になります。

- ぬれた手で電源コードを抜き差ししないでください。

- 電源コードを抜くときは、コードを引っぱらずにプラグ（金属ではない部分）を持って抜いてください。



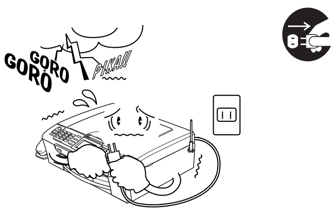
- たこ足配線はしないでください。
- 電源コードを破損するような以下のことはしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
  - 加工する
  - 無理に曲げる
  - 高温部に近づける
  - 引っ張る
  - ねじる
  - たばねる
  - 重いものをのせる
  - 挟み込む
  - 金属部にかける
  - 折り曲げをくりかえす



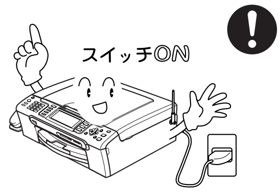
⚠注意

火災や感電、やけどの原因になります。

- 雷がはげしいときは、電源コードをコンセントから抜いてください。また、電話機コードを本製品から抜いてください。
  （電源プラグは抜きやすいところに差し込んでください。）

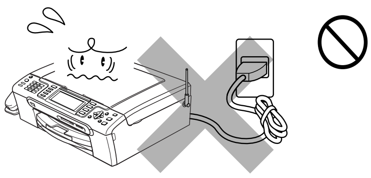


- 電源コードはコンセントに確実に差し込んでください。また、本製品の電源を完全に切るためにはコンセントから電源プラグを抜かなければいけません。緊急時に容易にアクセスできるように本製品はコンセントの近くに設置してください。

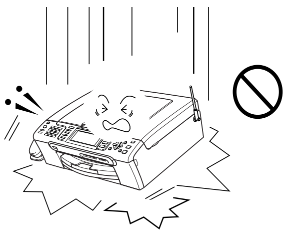


その他

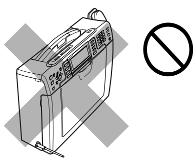
- 電源コンセントの共用にはご注意ください。複写機などの高電圧機器と同じ電源はさけてください。
  誤動作の原因となります。



- 落下、衝撃を与えないでください。

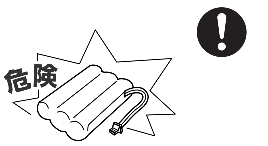
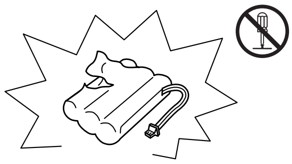
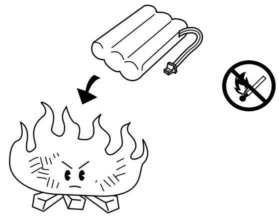


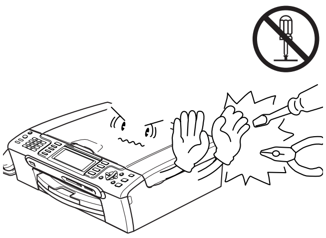
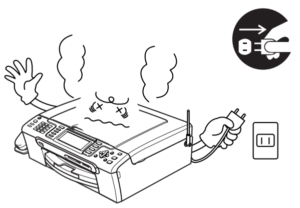
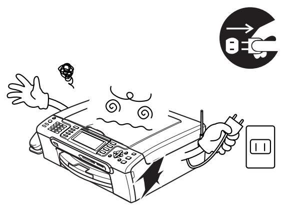
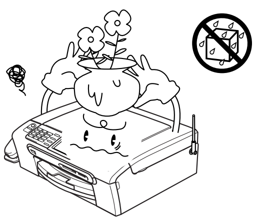
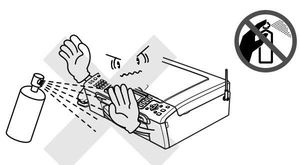
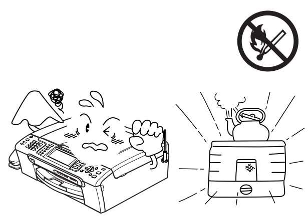
- 本製品を立てて放置しないでください。
  インクが漏れる場合があります。



- 本製品に貼られているラベル類ははがさないでください。
- 梱包されている部品は必ず取り付けてください。
- バッテリーをはじめて使用する際に、さびや発熱、その他異常と思われることがあったときは、使用しないでお買い上げの販売店に持参してください。

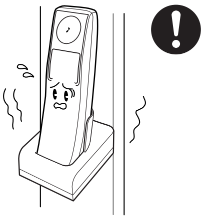
使用についてのご注意

⚠危険			
バッテリーの取り扱いを誤ると、火災や感電、けがの原因になります。			
● 液漏れしたときは、液が皮膚や衣服に付着したり、目に入らないようにしてください。 液が目に入ると、失明のおそれがあります。もし目に入ったら、こすらずにきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。  	● 分解、改造をしないでください。 ● バッテリー端子をショートさせないでください。やけどをする可能性があります。 ● コードの被覆やビニールカバーをはがしたり、傷をつけたりしないでください。 	● バッテリーを加熱したり、火中に投げ込まないでください。 	● バッテリーを子機から取り出して充電しないでください。 ● 温度の高いところでは充電しないでください。 ● 金属製品と一緒に保管しないでください。 ● バッテリーの極性（赤／黒）を間違えないように入れてください。 ● 電子レンジや高圧容器に入れないでください。

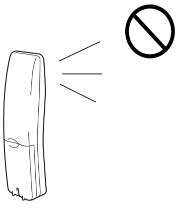
⚠警告			
故障、火災、感電、やけど、けがの原因になります。			
● 分解、改造をしないでください。修理などは販売店にご相談ください。分解、改造した場合は保障の対象外になります。 	● 煙が出たり、変なにおいがしたときは、すぐに電源プラグをコンセントからはずし、コールセンターにご相談ください。 	● 本製品を落としたり、破損したときは、電源プラグをコンセントからはずし、コールセンターにご相談ください。 	● 内部に異物が入ったときは、電源プラグやバッテリーをはずして、コールセンターにご相談ください。
● 本製品に水や薬品、ペットの尿などの液体が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。万一、液体が入ったときは、電源コードをコンセントから抜いて、コールセンターにご相談ください。 	● 本製品を清掃する際、可燃性のスプレーなどは使用しないでください。また、近くでのご使用もおやめください。 火災・感電の原因となります。 可燃性スプレーの例 ・ほこり除去スプレー ・殺虫スプレー ・アルコールを含む除菌、消臭スプレーなど ・アルコールなどの有機溶剤や液体 	● 火気を近づけないでください。 	● 電源コードのホコリなどは定期的にとってください。湿気などで絶縁不良の原因となります。 電源コードをコンセントから抜き、乾いた布でふいてください。 ● 電源コードは確実に差し込んでください。

警告

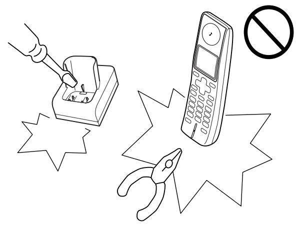
- 子機を壁掛けにするときは、落下のおそれがあり、ケガの原因となることがあるので、確実に取り付け・設置してください。（「かんたん設置ガイド」）



- 待機中は子機のスピーカーには絶対に耳を近づけないでください。突然ベルが鳴って、事故やケガ、聴覚障害の原因となることがあります。



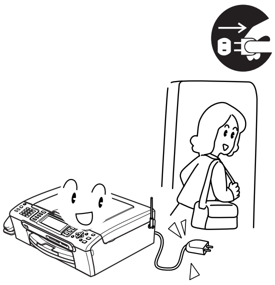
- 充電端子を金属でショートさせたり、金属の異物を入れないでください。



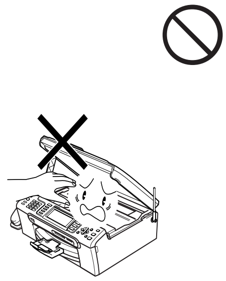
注意

火災、感電、やけど、けがの原因になります。

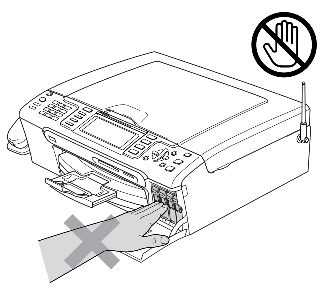
- 長期不在するときは、安全のため電源プラグをコンセントからはずしてください。



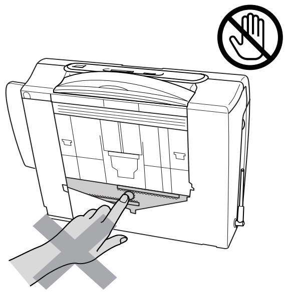
- 本体カバーを閉めるときに、指などをはさまないでください。



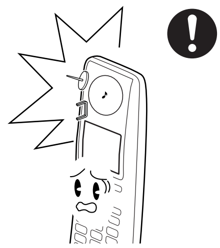
- インク挿入口に手や異物を入れないでください。



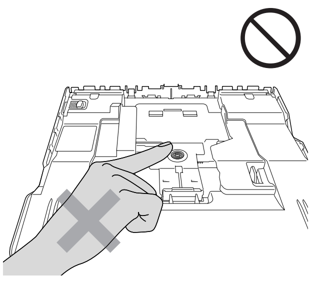
- 本製品底面の部分に手を触れないでください。



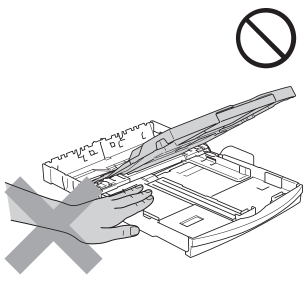
- 子機のスピーカーには磁石が使われています。金属片などを吸いつける可能性がありますので、金属片（ホチキス®の針、がびょう、針など）がついていたら取り除いてご使用ください。



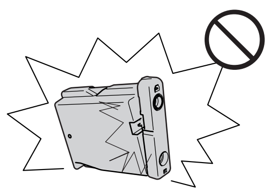
- スライドトレイの回転部に手をはさまないでください。



- 記録紙トレイのトレイカバーを閉めるときに、トレイの端に手を置かないでください。



- インクカートリッジを交換するときは、インクが目に入らないように注意してください。
- インクカートリッジは、子供の手の届かないところに保管してください。
- 誤ってインクを飲まないでください。
- インクカートリッジは強く振らないでください。強く振ったり振り回したりすると、インクカートリッジからインクが漏れることがあります。



子機の電波に関するご注意

● **本製品は、2.40GHz ～ 2.4835 GHz の全帯域を使用する無線設備です**

移動体識別装置の帯域が回避不可能で、変調方式は「FH-SS 方式」、与干渉距離は 80 m です。
本製品には、それを示す右記のマークが貼付されています。

2.4 FH8

● **本製品の使用周波数に関わるご注意**

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、混信回避のため設置場所を変えるなどして互いに干渉が起きないようにしてください。

無線 LAN の電波に関するご注意（MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ）

本製品は、日本の電波法に基づき認証された無線モジュールを搭載（内蔵）しています。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに本製品のチャンネルを変更するか、または電波の発射を停止してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの場合は、弊社「お客様相談窓口」へお問い合わせください。

● **電波の種類と干渉距離**

2.4 DS4/OF4

「2.4」：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。

「DS」：変調方式が DS-SS 方式であることを表す。（IEEE802.11b のとき）

「OF」：変調方式が OFDM 方式を表す。（IEEE802.11g のとき）

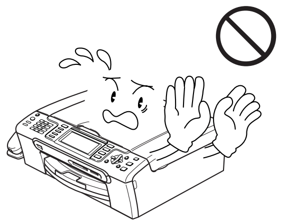
「4」：想定される与干渉距離が 40m 以下であることを表す。

「---（下線）」：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

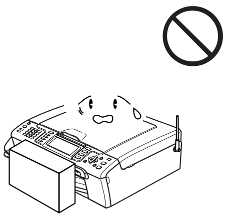
正しくお使いいただくために

本製品の使用について

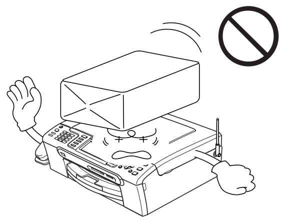
- **動作中に電源コードを抜いたり、開閉部を開けたりしないでください。**
誤動作の原因となります。



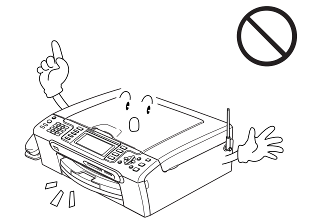
- **本製品の前方には物を置かないでください。**
記録紙の排出の妨げになります。



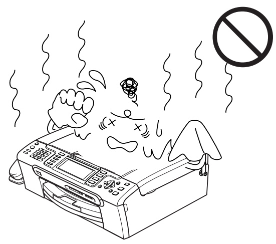
- **本製品の上に重い物を置いたり、強く押さえたりしないでください。誤動作の原因となります。**



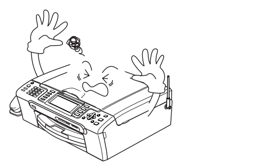
- **指定以外の部品は使用しないでください。**
誤動作の原因となります。



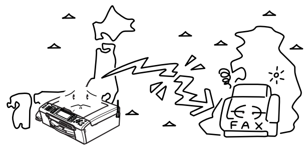
- **室内温度を急激に変えないでください。**
装置内部が結露するおそれがあります。



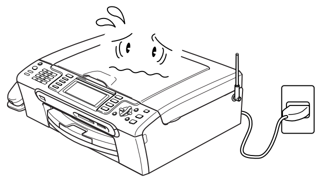
- **停電中は使用できません。**
本製品は AC 電源を必要としているため、停電時は親機も子機も使用できなくなります。停電時に備えて、あらかじめ停電用電話（AC 電源を必要としない電話機）をご用意いただくことをおすすめします。



- **海外通信をご利用になるとき、回線の状況により正常な通信ができないときがあります。**

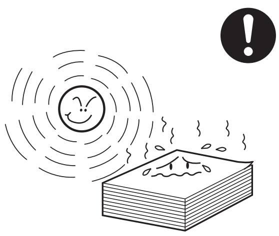


- **ご利用の電話会社の支店・営業所から遠距離の場合には、お使いになれないことがあります。ご利用の電話会社の支店、営業所へご相談ください。**



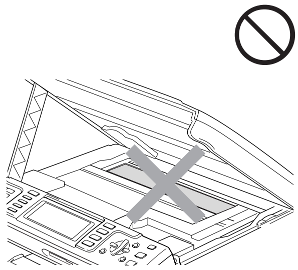
- **しわ、折れのある紙、湿っている紙などは使用しないでください。**

- **記録紙は直射日光、高温、高湿を避けて保管してください。**



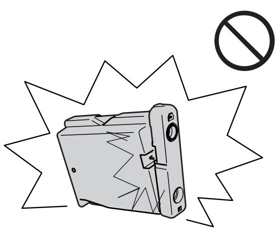
- **本製品をお使いいただける環境の範囲は次のとおりです。**
温度：10 ～ 35 ℃
湿度：20 ～ 80％

- **記録部にはさわらないでください。**



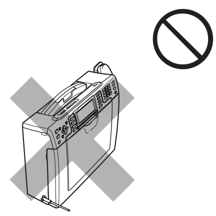
- **本製品を持ち上げるときは、本製品の底面を持ってください。本体カバーを持つと、本製品が傾いてしまいます。**

- **インカートリッジを分解しないでください。インクが漏れる原因になります。**



- **インクの補充はできません。必ず弊社指定の純正インクカートリッジをお使いください。純正以外のインクを使用すると、プリントヘッドなどを損傷する原因になります。**

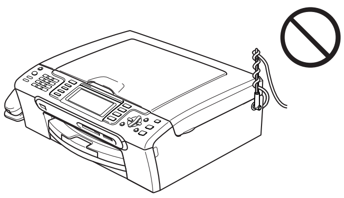
- **本製品を立てて放置しないでください。インクが漏れる場合があります。**



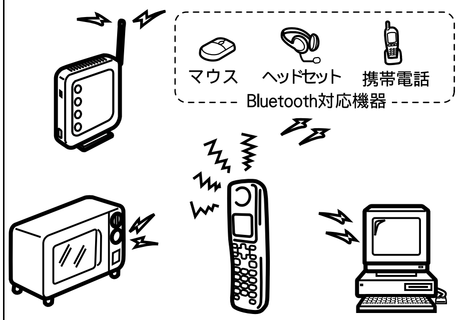
子機の使用について

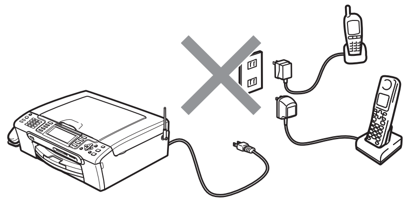
通話の途切れや、雑音について

- 電源コード、電話機コード、充電器の AC アダプタコードを、アンテナに巻きつけたり引っ掛けたりしているときは、子機の着信音が鳴らなかったり、通話時に雑音が入ったりすることがあります

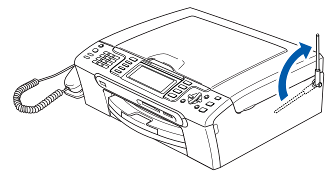


- 以下のような場合は雑音が入ることがあります。
  - 電気製品（OA 機器、電子レンジ、携帯電話や PHS の充電器や AC アダプタなど）の近くに設置しているとき
  - 携帯電話や PHS、無線 LAN 機器など の AC アダプタを、子機の AC アダプタや親機の電源コードと同じコンセントに接続しているとき

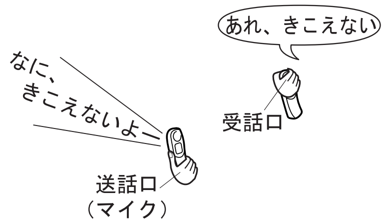




- 移動しながら子機を使用しているときは、使用場所により電波が弱い場所があります。雑音が少ない場所で使用してください。
- ご近所、同じマンション内で別のコードレス電話機を使用しているときは、通話が途切れることがあります。一時的に親機をご使用ください。
- アンテナに無理な力を加えないでください。
- 親機のアンテナを立ててください。アンテナを立てていないと電波の届く距離が短くなったり、雑音が入ることがあります。



- 受話口や送話口（マイク）を手でふさぐと、相手の声が聞こえにくくなったり、自分の声が相手に聞こえにくくなります。



- その他、下記の機器でも 2.4GHz の周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、声がとぎれたり、使えなくなることがあります。また、相手の機器の動作に影響を与えることがあります。なるべく設置場所や使用場所を離してください。
  - 電子レンジ、火災報知器、工場や倉庫などの物流システム、マイクロ波治療器、自動ドア、自動制御機器、アマチュア無線局
  - ワイヤレス AV 機器（テレビ、ビデオ、パソコンなど）、無線 LAN 機器、鉄道車両や緊急車両の識別システム
  - ゲーム機のワイヤレスコントローラー、万引き防止システム（書店や CD ショップなど）
  - その他、Bluetooth™ 対応機器や VICS（道路交通情報通信システム）など

着信音の遅れについて

- 電波を使用しているため、電話がかかってくると最初に親機の着信音が鳴り、少し遅れて子機の着信音が鳴ります。これは故障ではありません。そのままお使いください。

“傍受”にご注意ください

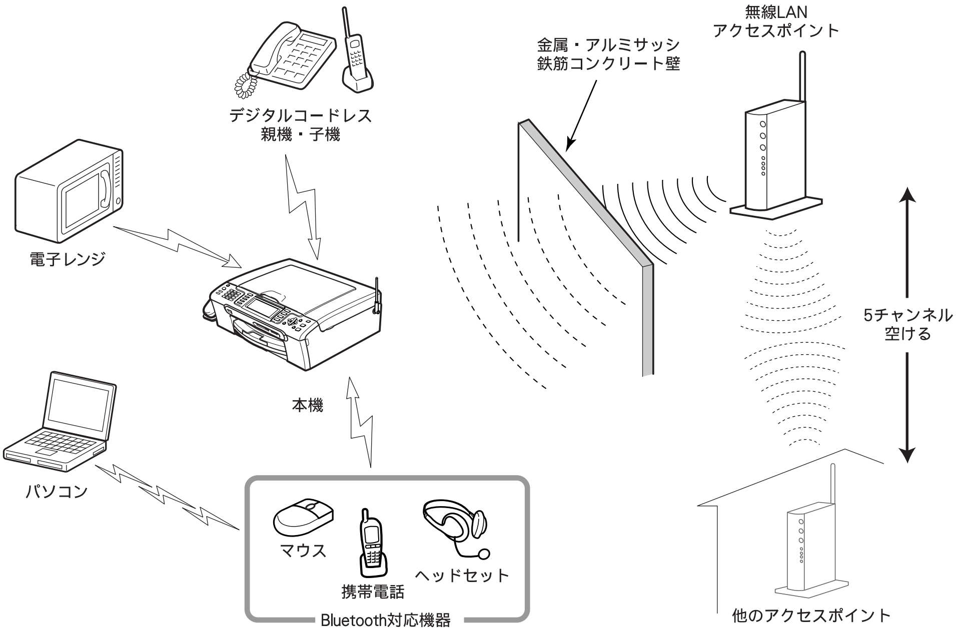
- 本製品は、デジタル信号を利用した傍受されにくい製品ですが、コードレス子機を使っての通話は電波を使用しているため、第三者が故意または偶然に受信することも考えられます。大切な通話は、親機のご使用をおすすめします。

「傍受」とは、無線連絡の内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信することです。

無線 LAN 機器の使用について

無線 LAN 接続に影響を及ぼす可能性のある環境について説明します。

本製品の近くに微弱な電波を発する電気製品、特に電子レンジやデジタルコードレス電話がある場合や、無線 LAN アクセスポイントと本製品の間に金属、アルミサッシ、鉄筋コンクリート壁がある場合、接続しにくくなったり、接続が切れたりすることがあります。また、建物自体が鉄筋コンクリートでできている場合、無線 LAN アクセスポイントと本製品の置いてある階や部屋が異なる場合も、影響を受けることがあります。接続状況が良くないときは、以下の図を参考に環境をご確認ください。



無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN 接続では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して、パソコン、無線 LAN アクセスポイントと本製品の間で情報のやり取りを行います。そのため、電波の届く範囲であれば、自由にネットワークに接続できます。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● **通信内容を盗み見られる**

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報やメールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● **不正に侵入される**

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）、特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）、傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っています。無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、これらの問題が発生する可能性は少なくなります。
セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、本製品を使用することをお奨めします。

Memo

第 1 章

ご使用の前に

かならずお読みください

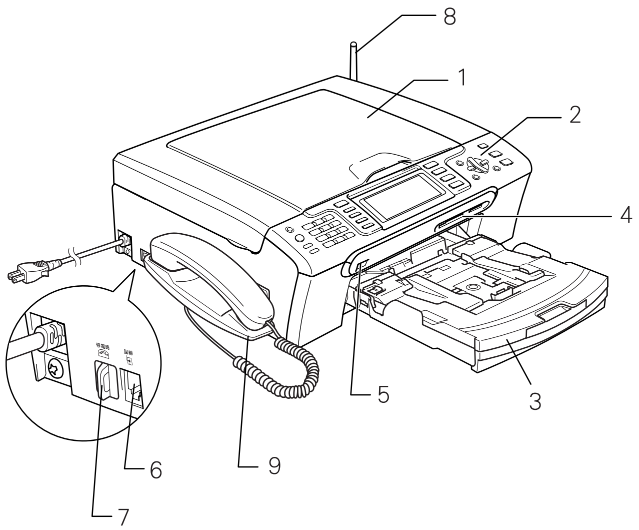
お好みで設定してください

各部の名称とはたらき

かならずお読みください

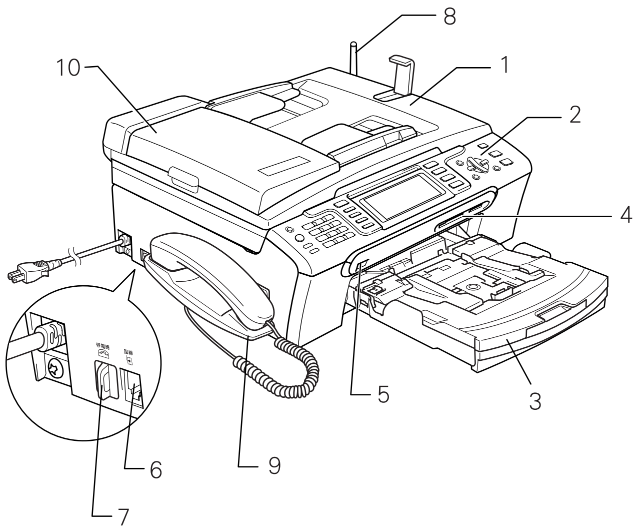
外観図

外面図（MFC-650CD ／ 650CDW、MFC-870CDN ／ 870CDWN）



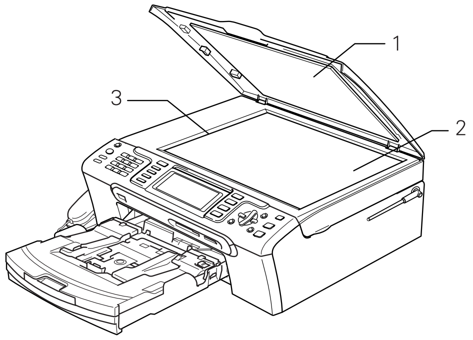
1	原稿台カバー
2	操作パネル
3	記録紙トレイ
4	カードスロット
5	PictBridge ケーブル差し込み口 /USB フラッシュメモリー差し込み口
6	回線接続端子
7	停電用電話機接続端子
8	アンテナ
9	受話器

外面図（MFC-880CDN ／ 880CDWN）



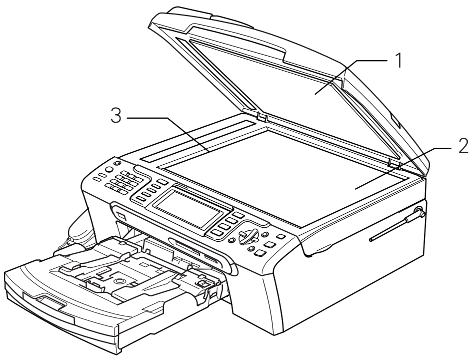
1	原稿台カバー
2	操作パネル
3	記録紙トレイ
4	カードスロット
5	PictBridge ケーブル差し込み口 /USB フラッシュメモリー差し込み口
6	回線接続端子
7	停電用電話機接続端子
8	アンテナ
9	受話器
10	ADF（自動原稿送り装置）

内面図：原稿台カバーを開いたとき（MFC-650CD ／ 650CDW、MFC-870CDN ／ 870CDWN）



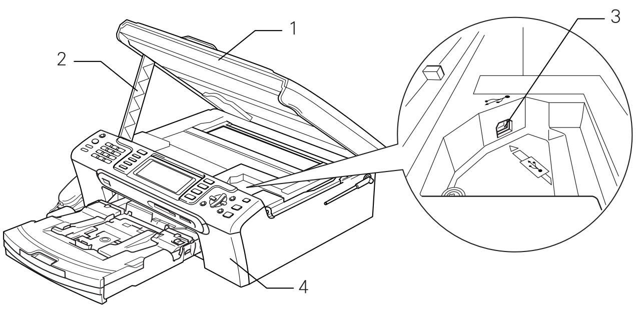
1	原稿台カバー
2	原稿台ガラス
3	原稿ガイド

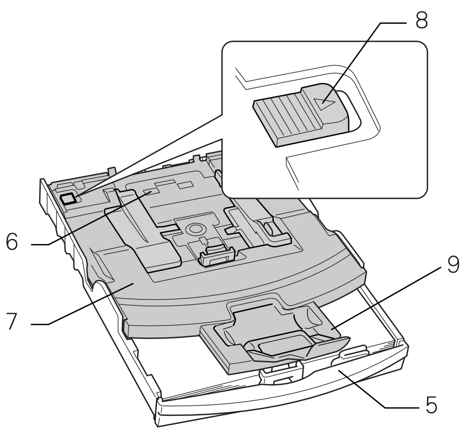
内面図：原稿台カバーを開いたとき（MFC-880CDN ／ 880CDWN）



1	原稿台カバー
2	原稿台ガラス
3	原稿ガイド

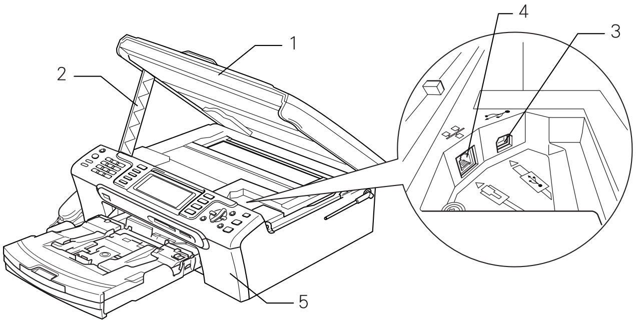
内面図：本体カバーを開いたとき（MFC-650CD ／ 650CDW）

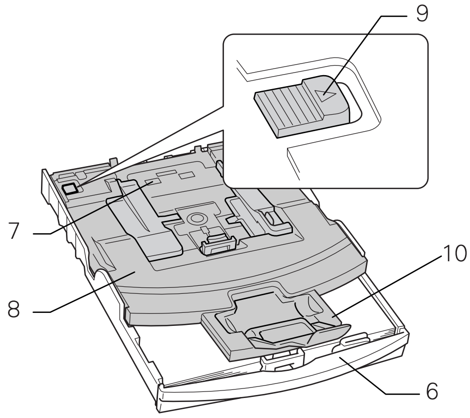




1	本体カバー
2	本体カバーサポート
3	USB ケーブル差し込み口
4	インクカバー（インク挿入口）
5	記録紙トレイ
6	スライドトレイ
7	トレイカバー（排紙トレイにもなります）
8	リリースボタン
9	記録紙ストッパー

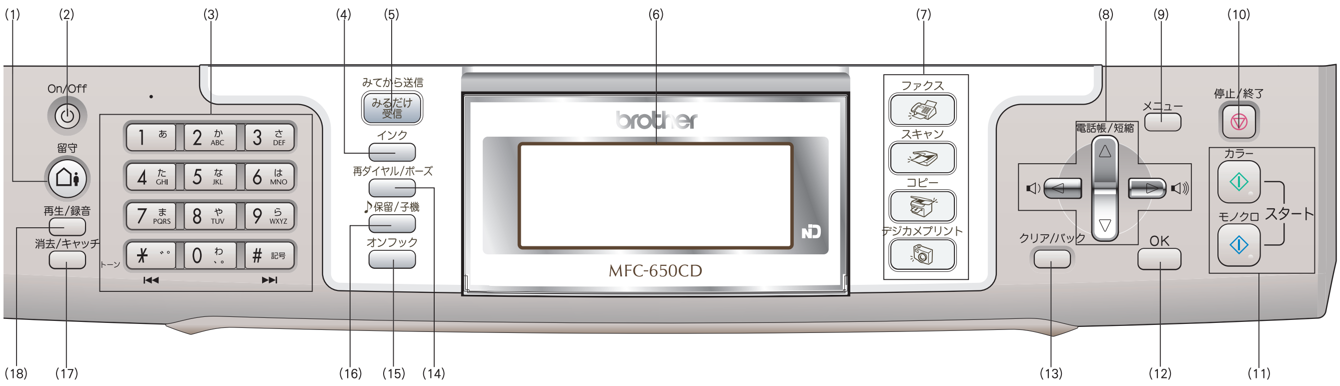
内面図：本体カバーを開いたとき（MFC-870CDN ／ 870CDWN ／ 880CDN ／ 880CDWN）





1	本体カバー
2	本体カバーサポート
3	USB ケーブル差し込み口
4	LAN ケーブル差し込み口
5	インクカバー（インク挿入口）
6	記録紙トレイ
7	スライドトレイ
8	トレイカバー（排紙トレイにもなります）
9	リリースボタン
10	記録紙ストッパー

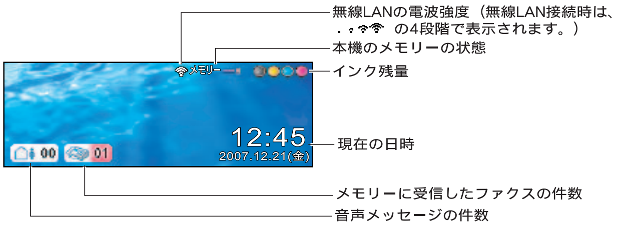
操作パネル



(1) 留守ボタン	留守モードにするときに押します。 ⇒ 121 ページ「留守番機能をセットする」
(2) 電源ボタン	電源をオン / オフするときに押します。⇒ 30 ページ「電源ボタンについて」 電源をオフにした場合でも、定期的にヘッドクリーニングを行います。
(3) ダイヤルボタン	ダイヤルするとき、文字を入れるときなどに押します。 ⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」
(4) インクボタン	インク残量を確認したり、印刷テスト、ヘッドクリーニングを行います。
(5) みるだけ受信／みてから送信ボタン	受信したファクスの内容を、液晶ディスプレイで確認できます。 また、液晶ディスプレイでファクスの内容を確認してから、ファクスを送信することもできます。
(6) 液晶ディスプレイ	各種メニュー、操作方法を案内するメッセージが表示されます。
(7) モードボタン	デジカメプリント／コピー／ファクス／スキャンの各モードに切り替えます。 ⇒ 29 ページ「モードについて」
(8) ナビゲーションキー	液晶ディスプレイの項目を選択します。⇒ 28 ページ「メニュー画面」 電話帳から検索するときに押します。⇒ 63 ページ「電話帳からかける」
(9) メニューボタン	設定できるメニューを表示します。
(10) 停止／終了ボタン	操作を中止するときや設定を終了したときに押します。
(11) モノクロ／カラースタートボタン	原稿をコピーまたはスキャンするときに押します。
(12) OK ボタン	機能を設定するときや設定した機能を確定（決定）するときに押します。
(13) クリア／バックボタン	設定内容をキャンセルして前の画面に戻ります。文字を入力しているときは、カーソル位置の文字を消去します。
(14) 再ダイヤル／ポーズボタン	最後にかけた相手にもう一度電話をかけるとき（⇒ 61 ページ「最後にかけた相手にかける（再ダイヤル）」）、電話番号にポーズを入力するとき（⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」）に押します。
(15) オンフックボタン	受話器を置いたまま電話をかけるときに押します。 ⇒ 61 ページ「受話器を置いたままかける」
(16) 保留／子機ボタン	通話を保留にするとき、子機を呼び出すときに押します。
(17) 消去／キャッチボタン	録音されたメッセージを消去するときに押します。 ⇒ 122 ページ「音声メッセージを確認する」 また、キャッチホンを受けるときに押します。 ⇒ 69 ページ「キャッチホンサービスを利用する」
(18) 再生 / 録音ボタン	通話を録音したり、録音されたメッセージを再生したりします。 ⇒ 64 ページ「通話を録音する（親機のみ）」 ⇒ 122 ページ「メッセージを再生する」

液晶ディスプレイ（待ち受け画面）

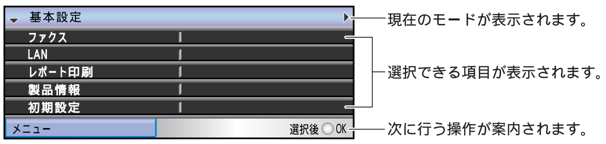
現在の状態やメッセージが表示されます。通常は、以下のように「待ち受け画面」が表示され、現在の日時やインク残量などを確認できます。

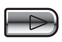
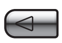


※液晶ディスプレイのデザインやメッセージなどは、変更されることがあります。

メニュー画面

メニュー を押すと、本製品の設定を変更できるメニュー画面が表示されます。
メニュー画面では、液晶ディスプレイに表示された項目を（ナビゲーションキー）で選びます。選んだ項目を確定するときは OK を押します。



ボタン	操作
	上下にカーソルを移動します。項目を選ぶときに押します。
	現在選択している項目の１つ下の階層に移動します。 または、項目を選ぶときに押します。
	１つ上の階層に戻ります。 または、項目を選ぶときに押します。
OK	現在選択している項目を確定します。
モノクロ　カラー	現在の設定を反映して、ファクス、コピー、スキャンなどの操作を実行します。

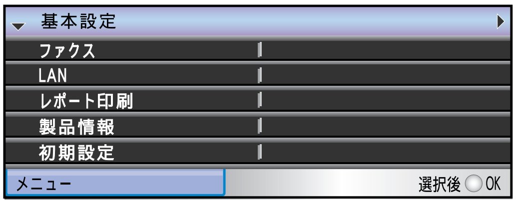
画面の操作例

ここでは、【基本設定】の【音量】の設定方法を例に説明します。

1 メニュー **を押す**

メニュー画面が表示されます。

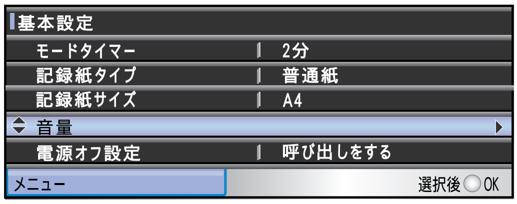
2 **で、【基本設定】を選ぶ**



3 OK **を押す**

１つ下の階層が表示されます。

4 **で、【音量】を選ぶ**



5 OK **を押す**

１つ下の階層が表示されます。

6 **で、【着信音量】を選ぶ**

7 ◁ または ▷ で音量を選ぶ

8 OK を押す

着信音量が変更されます。

注意

■ 設定変更後、上下キー（△▽）で項目を移動すると、OK を押さなくても、設定が確定されますので、ご注意ください。

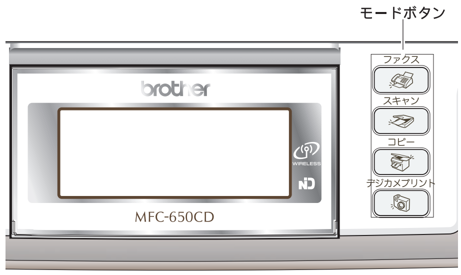
9 停止/終了 を押す

待ち受け画面に戻ります。

モードについて

操作パネルのモードボタンでファクス、コピー、スキャン、デジカメプリントの各モードに切り替えることができます。

現在選択されているモードボタンは黄緑色に点灯します。初期設定は「ファクス」です。



モードタイマーを設定する

各モードで操作したあと、自動的にファクスモードに戻る時間を設定できます。【切】を選ぶと、最後に使ったモードを維持します。お買い上げ時は【2 分】に設定されています。

1 メニュー を押し、△▽ で【基本設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【モードタイマー】を選ぶ

3 ◁ または ▷ で、ファクスモードに戻る時間を選び、OK を押す

時間は【切／ 0 秒／ 30 秒／ 1 分／ 2 分／ 5 分】から選びます。

【0 秒】を選んだ場合は、各モードでの操作が完了すると、すぐにファクスモードに戻ります。

4 停止/終了 を押す

設定を終了します。

電源ボタンについて

電源ボタンを押すと、本製品の電源をオン／オフできます。電源をオフにした場合でも、印刷品質を維持するために本製品のヘッドクリーニングを定期的に行います。

電源を オフにする

1 On/Off **を 2 秒以上押す**

液晶ディスプレイに【電源をオフにします】と表示されたあと、液晶ディスプレイの表示が消え、本製品の電源がオフになります。

電源を オンにする

1 On/Off **を押す**

電源がオンになります。

- ヘッドクリーニングの頻度は、ご利用の環境によって異なります。
- ヘッドクリーニング時は、全色のヘッドをクリーニングするため、カラーインクも消費します。

電源 オフ時の動作を設定する

電源ボタンで本製品の電源をオフ にしていても、【呼び出しをする】に設定していると、かかってきた電話に応答したり、ファクスを受信できます。【呼び出しをしない】に設定しているときは、電話がかかってきたりファクスが送られてきても応答しません。印刷品質を維持するために本製品のヘッドクリーニングが自動的に行われるのみです。お買い上げ時は、【呼び出しをする】に設定されています。

1 メニュー **を押し、** ▲▼ **で【基本設定】を選び、** OK **を押す**

2 ▲▼ **で【電源オフ設定】を選ぶ**

3 ◀ **または** ▶ **で、電源を切ったときの動作を選び、** OK **を押す**

設定は以下から選びます。

- 【呼び出しをする】：
  電源をオフ にしていても、かかってきた電話に応答したり、ファクスを受けることができます。親切受信（⇒ 96 ページ「電話に出ると自動的に受ける」）やタイマー送信、リモコンアクセス機能を使った本製品の操作（⇒ 123 ページ「外出先から本製品を操作する」）も行えます。また、子機から外線・内線へ電話をかけたり、子機間で通話することもできます。

※ かかってきた電話を親機で受けた場合は、子機に取り次いだり、保留にすることはできません。

※ かかってきた電話を子機で受けた場合は、親機に取り次ぐことができます。

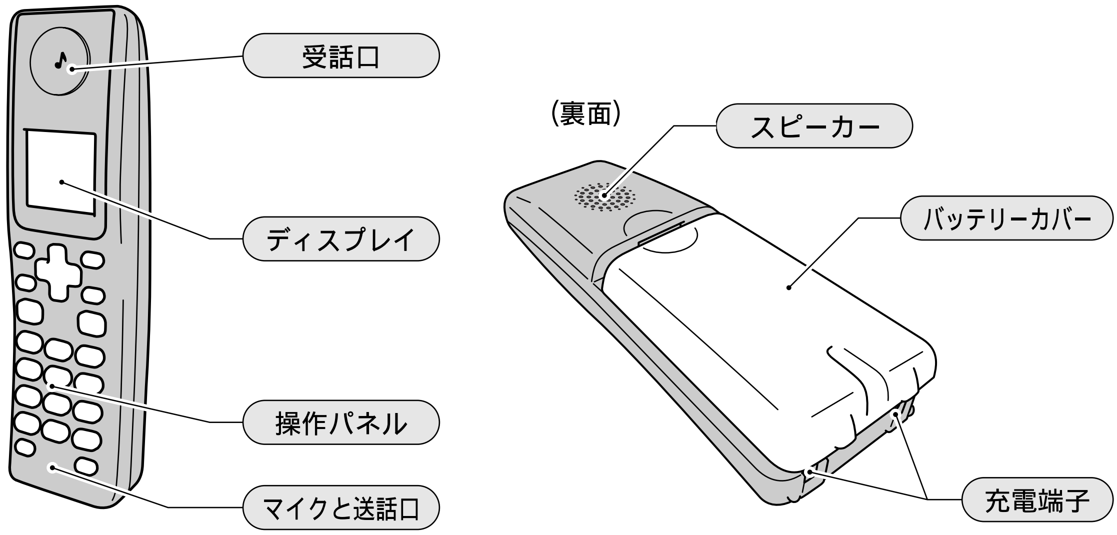
- 【呼び出しをしない】：
  電源をオフ にしていると、電話がかかってきても応答しません。ファクスの受信もできません。また、子機も使用できなくなります。

4 停止/終了 **を押す**

設定を終了します。

各部の名称とはたらき（子機）

外観図

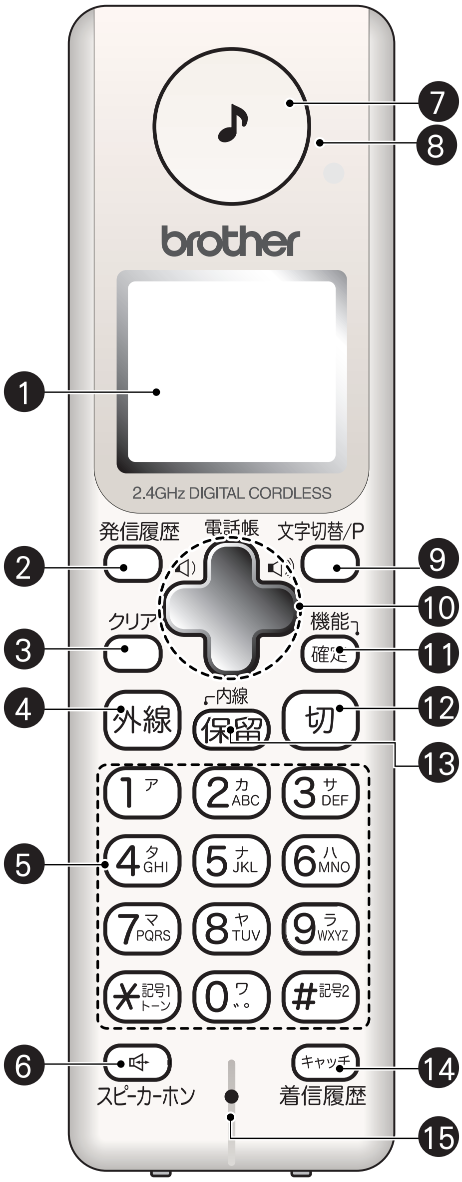


ディスプレイ

〈ピクト（絵文字）〉

- （バッテリー）バッテリーの残量の目安を表示します。
  〈バッテリー残量の目安〉
  ① ：20% 以上　② ：20% 未満
  ③ ：10% 未満　④ ：要充電
- 英 カナ　入力できる文字の種類が表示されます。
  英 ：アルファベット（大文字、小文字）、数字が入力できます。
  カナ ：半角カタカナが入力できます。
- （着信音OFF）着信音量を OFF に設定しているときに表示されます。
- 圏外　通話中、電波の届かない場所にいるときは （アンテナ） の代わりに「圏外」が表示されます。
- （アンテナ）通話中の電波の状態が表示されます。 の数が多いほど、電波状態が良好です。

操作パネル



1	液晶ディスプレイ	操作手順や本製品の状態、メッセージなどが表示されます。
2	発信履歴ボタン	最近かけた相手にもう一度ダイヤルするときに押します。
3	クリアボタン	文字を消すときに押します。
4	外線ボタン	電話をかけるときや受けるときに押します。
5	ダイヤルボタン	ダイヤルするときや文字を入力するときに押します。
	記号 1 ／トーンボタン	記号を入力するとき、一時的にプッシュホンサービス（トーン信号によるサービス）を利用するときに押します。
	記号 2 ボタン	記号を入力するときに押します。
6	スピーカーホンボタン	子機を持たずに通話するときに押します。
7	受話口	相手の声が聞こえます。
8	充電表示ランプ	充電中に点灯します。充電が終わると消灯します。
9	文字切替 /P ボタン	文字入力の種類を変えるとき、またはダイヤル番号入力時にポーズを入れるときに押します。
10	マルチセレクトボタン	ディスプレイの項目を選択します。
	電話帳ボタン	電話帳を表示するときに押します。
	音量ボタン	着信音量、受話音量、スピーカー音量を調整するときに押します。
11	機能 / 確定ボタン	各機能を設定するとき、または設定内容や子機ライトを設定するとき（54 ページ）に押します。
12	切ボタン	電話を切るとき、または操作を途中で中止するときに押します。
13	内線 / 保留ボタン	保留にして相手にメロディを流すとき、内線で通話するときに押します。
14	キャッチ / 着信履歴ボタン	キャッチホンを使うとき、着信履歴を表示するときに押します。
15	マイクと送話口	子機を持って通話するときやスピーカーホンで通話するときに使用します。

はじめに設定する

回線種別を設定する

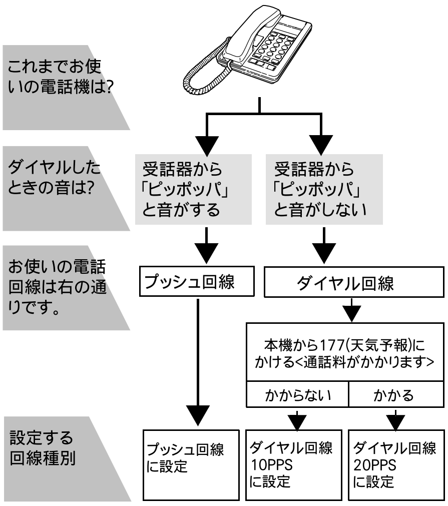
[回線種別設定]

回線種別がうまく自動設定されなかった場合や、あとで回線種別の設定を変更したい場合に手動で設定してください。

1 受話器を取り「ツー」という音が聞こえることを確認する

- 聞こえないときは、受話器および電話機コードを正しく接続し直してください。「接続する」(⇒かんたん設置ガイド)
- 正しく接続し直しても聞こえないときは、別の電話からご利用の電話会社にお問い合わせください。

2 電話回線の種別を確認する



3 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【回線種別設定】を選ぶ

5 ◀ または ▶ で、回線種別を選び、OK を押す

> 回線種別がわからないときは、「ダイヤル 20PPS」「プッシュ」「ダイヤル 10PPS」の順に設定してみてください。
>
> ひかり電話サービス、直収電話サービスをご利用の場合は、「プッシュ」に設定してください。

6 停止/終了 を押す

回線種別の手動設定終了後、「177」(天気予報)につながることをご確認ください。(通話料金がかかります)

設定を終了します。

日付と時刻を設定する

[時計セット]

親機の場合

現在の日付と時刻を合わせます。この日付と時刻は待ち受け画面に表示され、ファクスを送信したときに相手側の記録紙にも印刷されます。

1 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【時計セット】を選び、OK を押す

日付と時刻の入力画面が表示されます。

3 ダイヤルボタンで西暦の下 2 桁を押し、OK を押す

例:2008 年の場合は、0 8 を押します。

4 ダイヤルボタンで月を2桁で押し、OK を押す

例:12 月の場合は、1 2 を押します。

5 ダイヤルボタンで日付を2桁で押し、OK を押す

例:21 日の場合は、2 1 を押します。

6 ダイヤルボタンで時刻を 24 時間制で押し、OK を押す

例:午後 0 時 45 分の場合は、

0 1 4 5 を押します。

> 日付や時刻を間違って入力したときは、クリア/バック を押すと、入力し直すことができます。

7 停止/終了 を押す

設定が終わり、液晶ディスプレイに日付と時刻が表示されます。

> 時刻はあくまで目安です。気になるときは、1ヶ月おきに合わせ直してください。

子機の場合

子機の日付と時刻を設定します。

1 機能/確定 **を押す**

2 で「トケイセッテイ」を選び、機能/確定 **を押す**

3 **日付を入力し、** 機能/確定 **または** ▼ **を押す**

例：2008 年 12 月 21 日の場合

0ワ 8ヤTUV 1ア 2カABC 2カABC 1ア と押します。

4 **時刻を 24 時間制（4 桁）で入力し、** 機能/確定 **を押す**

例：12 時 45 分の場合

1ア 2カABC 4タGHI 5ナJKL と押します。

5 切 **を押す**

設定を終了します。

> 数字を入れ間違えたときは、◀ ▶ で間違えた箇所まで ■（カーソル）を移動し、入力し直してください。
>
> 設定を途中で中止するときは 切 を押してください。

名前とファクス番号を設定する

［発信元登録］

自分の名前とファクス番号を本製品に登録します。登録した名前とファクス番号は、ファクス送信したときに相手側の記録紙に印刷されます。

1 メニュー **を押し、** △▽ **で【初期設定】を選び、** OK **を押す**

2 △▽ **で【発信元登録】を選び、** OK **を押す**

名前とファクス番号の入力画面が表示されます。

3 **ファクス番号を入力し、** OK **を押す**

20 桁まで入力できます。ハイフンはできません。

4 **名前を入力し、** OK **を押す**

⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」

名前として入力できる文字数は 16 文字までです。

5 停止/終了 **を押す**

設定を終了します。

発信元登録を削除するときは

以下の手順で発信元登録を削除します。

(1) 「名前とファクス番号を設定する」（34 ページ）の手順 2 までを行う

(2) △▽ で【変更する】を選び、OK を押す

(3) クリア/バック を押して、1 文字ずつファクス番号を削除し、OK を押す

(4) 停止/終了 を押す

記録紙のセット

印刷品質は記録紙の種類によって大きく左右されます。目的に合った記録紙を選んでください。また、記録紙をセットしたときは、本製品の「記録紙タイプ」(⇒ 42 ページ「記録紙の種類を設定する」)またはプリンタドライバの「用紙種類」の設定を変更してください。(⇒画面で見るマニュアル「プリンタ」)
記録紙には色々な種類があるので、大量に購入される前に試し印刷することをお勧めします。

専用紙 ・推奨紙

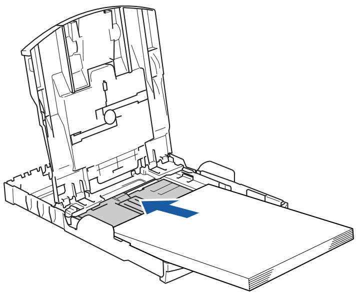
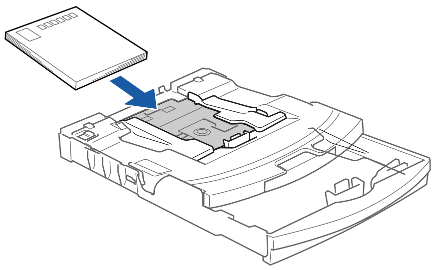
印刷品質維持のため、下記の弊社純正の専用紙をご利用になることをお勧めします。

記録紙種類	商品名	型番(サイズ)	枚数
普通紙	上質普通紙	BP60PA(A4)	250 枚入り
光沢紙	写真光沢紙	BP61GLA(A4)、BP61GLLJ(L 判)	20 枚入り
		BP61GLLJ50(L 判)	50 枚入り
		BP61GLLJ100(L 判)	100 枚入り
		BP61GLLJ300(L 判)	300 枚入り
マット紙	インクジェット紙(マット仕上げ)	BP60MA(A4)	25 枚入り

OHP フィルムは以下の推奨品をお使いください。
- Transparency 3M Transparency Film(型番:CG3410)

セットできる記録紙

記録紙をセットする場所は、「記録紙トレイ」と「スライドトレイ」の 2 種類のトレイがあります。

記録紙トレイ	スライドトレイ
	
主に、A4、B5 などの記録紙、写真用光沢はがき、封筒などをセットします。 ⇒ 37 ページ「記録紙トレイにセットする」 ⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」	主に、L 判光沢紙、はがき(普通紙)、はがき(インクジェット紙)をセットします。 ⇒ 39 ページ「スライドトレイにセットする」

注意

- 指定された記録紙でも、以下の状態の記録紙は使用できません。
  傷がついている記録紙、カールしている記録紙、シワのある記録紙、留め金のついた記録紙
  すでに印刷された記録紙(写真つきはがきを含む)
- よこ目用紙は、紙づまりや重送の原因になるため使用できません。
- 指定以外の記録紙は使用できません。誤って使用すると、故障や紙づまりの原因になります。封筒の場合は斜めに送り込まれたり、汚れたりします。
- ラベル用紙は使用できません。誤って使用すると、正しく印刷されなかったり、ラベルが内部に付着し、故障の原因となることがあります。
- 使用していない記録紙は袋に入れ、密封してください。湿気のある場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。
- 往復はがきには、「折ってあるタイプのもの」と「折り目はあるが折っていないタイプのもの」があります。「折ってあるタイプのもの」を使用すると往復はがきの後端に汚れなどが発生することがありますので、「折り目はあるが折っていないタイプのもの」をご使用ください。

記録紙トレイにセットできる記録紙

記録紙トレイには、以下の種類の記録紙をセットできます。

記録紙の種類		厚さ	記録紙トレイにセットできる枚数	用紙サイズ		
				コピー	デジカメプリント	プリンタ
普通紙		64g/m^2 ～ 120g/m^2（0.08mm ～ 0.15mm）	100	A4、B5、A5	A4	A4、レター、エグゼクティブ、B5(JIS)、A5、A6
			50	―	―	リーガル
インクジェット紙		64g/m^2 ～ 200g/m^2（0.08mm ～ 0.25mm）	20	A4、B5	A4	A4、レター、エグゼクティブ、B5(JIS)、A5、A6、リーガル、2L 判 (*1)
光沢紙		220g/m^2 以下（0.25mm 以下）	20	A4、B5	A4、 2L 判 (*1)	
OHP フィルム		0.13mm 以下	10	A4、B5	―	
封筒		75g/m^2 ～ 95g/m^2	10	―	―	DL 封筒、COM-10、C5 封筒、モナーク、洋形 4 号封筒
ポストカード		0.28mm 以下	20	―	―	102mm × 152mm、
インデックスカード		120g/m^2 以下（0.15mm 以下）	30	―	―	127mm × 208mm
はがき	普通紙	0.23mm 以下	30	100mm × 148mm、200mm × 148mm	―	100mm × 148mm、200mm × 148mm
	インクジェット紙					
	写真用光沢紙	220g/m^2 以下（0.25mm 以下）	20	100mm × 148mm	100mm × 148mm	100mm × 148mm

(*1) 127mm × 178mm

注意

- ■ 記録紙トレイに L 判サイズの用紙をセットすることはできません。スライドトレイにセットしてください。
  ⇒ 39 ページ「スライドトレイにセットする」

スライドトレイにセットできる記録紙

スライドトレイには、以下の種類の記録紙をセットできます。L 判光沢紙や、はがき（普通紙・インクジェット紙）をスライドトレイにセットすると、記録紙トレイに入っている記録紙を入れ替えることなくセットできて、便利です。

記録紙の種類		スライドトレイにセットできる枚数
L 判光沢紙		20
はがき	普通紙	20
	インクジェット紙	

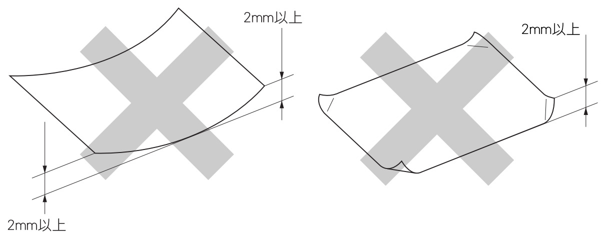
注意

- ■ L 判サイズの記録紙は、必ずスライドトレイにセットしてください。
- ■ 写真用光沢はがきは、必ず「写真用光沢はがきをセットする場合」をよくお読みになった後で、記録紙トレイにセットしてください。
  ⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

カールしている記録紙について

特に、はがきや光沢紙（L 判、2L 判）はカールしている場合があるため、曲がりやそりを直して使用してください。

カールしている記録紙をそのまま使用すると、インク汚れ、印刷のずれ、記録紙づまりが発生します。



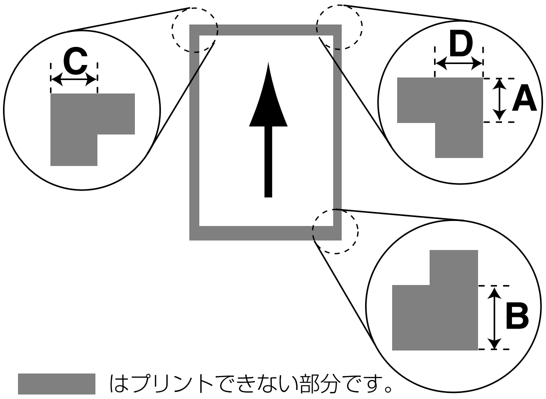
最大排紙枚数について

厚さ80g/m^2のA4記録紙の場合、最大50枚まで排紙できます。

写真用光沢紙や OHP フィルムに印刷した場合は、インク汚れを防ぐため、排紙トレイから 1 枚ずつ取り出してください。

記録紙の印刷範囲

記録紙には印刷できない部分があります。以下の図と表に、印刷できない部分を示します。なお、図と表の A、B、C、D、はそれぞれ対応しています。



（単位：mm）

記録紙	A	B	C	D
A4 エグゼクティブ 官製はがき レター・リーガル	3	3	3	3
洋形 4 号	12	24	3	3

※ 印刷できない部分の数値（A、B、C、D）は、概算値です。また、この数値はお使いの記録紙やプリンタドライバによっても変わることがあります。

上記の数値は、プリンタ機能でふちなし印刷を行っていない場合の数値です。ふちなし印刷を行っている場合、印刷できる範囲はお使いの OS やプリンタドライバによって異なります。

記録紙のセットのしかた

注意

- 光沢紙をセットするときは、印刷面に直接手を触れないようにしてください。
- ブラザー専用光沢紙（A4：BP61GLA）をセットするときは、用紙に同梱の使用説明書（厚紙）を記録紙トレイにセットしてからその上に光沢紙をセットしてください。
- インクジェット紙、光沢紙、OHP フィルムには表側と裏側があります。記録紙の取扱説明書をお読みください。
- 記録紙を強く押し込まないでください。用紙先端が傷ついたり、装置内に入り込んでしまうことがあります。
- 種類の異なる記録紙を一緒にセットしないでください。
- L 判サイズの記録紙は、必ずスライドトレイにセットしてください。
- 写真用光沢はがきは、必ず「写真用光沢はがきをセットする場合」をよくお読みになった後で、記録紙トレイにセットしてください。
  ⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

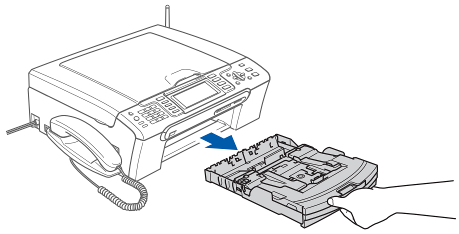
記録紙トレイにセットする

ここでは、A4 サイズの記録紙をセットする操作を例として説明します。

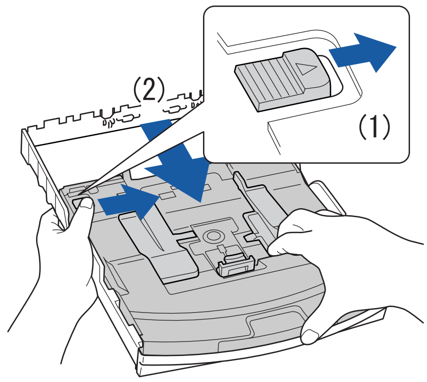
注意

- 写真用光沢はがきは、必ず「写真用光沢はがきをセットする場合」をよくお読みになった後で、記録紙トレイにセットしてください。
  ⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

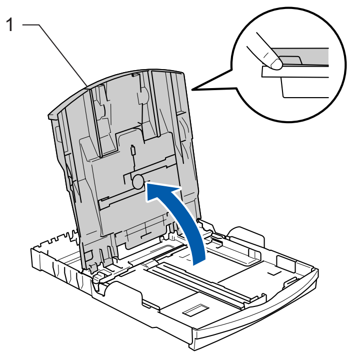
1 記録紙トレイを引き出す



スライドトレイが奥にセットされているときは、左手親指でリリースボタンを押し（1)、スライドトレイを手前に引いておいてください（2)。

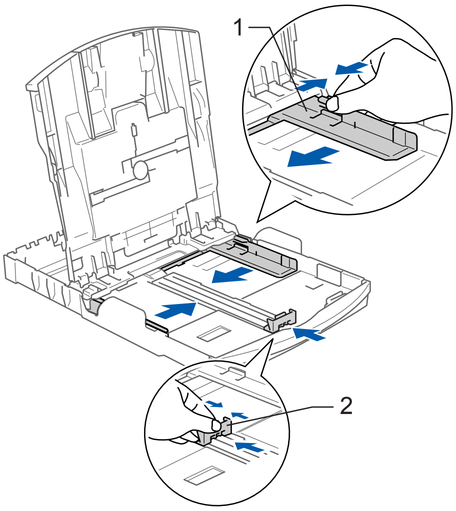


2 トレイカバー（1）を開く



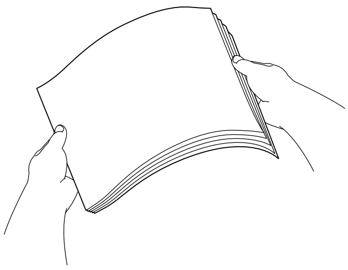
記録紙ストッパーが開いている場合は、閉じてからトレイカバーを開いてください。

3 幅のガイド（1）と長さのガイド（2）をつまんで動かし、記録紙のサイズに合わせて広げる



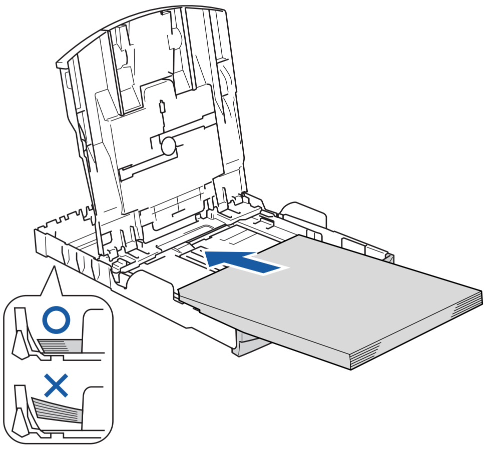
4 記録紙をさばく

紙づまりや給紙ミスがないように、記録紙をさばきます。
記録紙がカールしていないことを確認してください。



5 印刷したい面を下にして、記録紙の上端から先にセットする

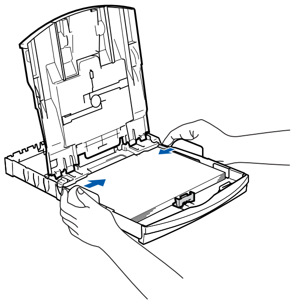
記録紙の先端がコツンと当たるところまでセットします。強く押し込まないでください。



6 幅のガイドと長さのガイドを、記録紙サイズに合わせて調節する

両手で幅のガイドを寄せるように調節します。

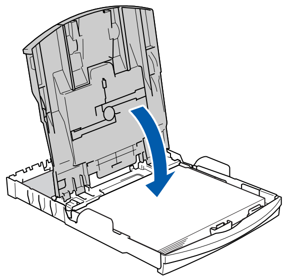
記録紙が記録紙トレイの中で平らになっていることを確認してください。また、幅と長さのガイドが記録紙に合っていることを確認してください。



注意

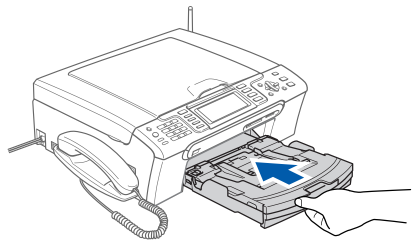
- ■ トレイカバーが倒れて、指をはさまないようにご注意ください。
- ■ トレイカバーが倒れないよう、平らな場所で行ってください。

7 トレイカバーを閉じる

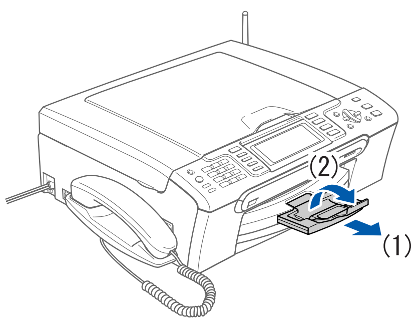


8 記録紙トレイを元にもどす

記録紙トレイをゆっくりと確実に本製品に戻します。トレイを強く押し込むと、紙づまりの原因になります。力を入れて押し込まないでください。



9 トレイに手をそえ、記録紙ストッパーを「カチッ」と音がするまで確実に引き出し（1）、フラップを上げる（2）



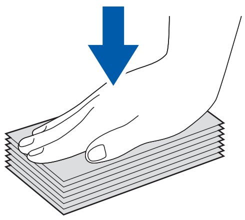
スライドトレイにセットする

はがき（普通紙、インクジェット紙）、L 判の記録紙は、スライドトレイにセットします。

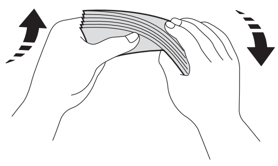
注意

■ 写真用光沢はがきは、必ず「写真用光沢はがきをセットする場合」をよくお読みになった後で、記録紙トレイにセットしてください。⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

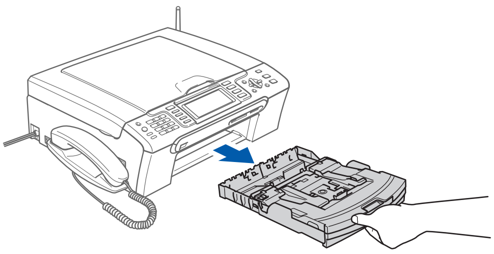
1 記録紙の端をそろえて、まっすぐにする



記録紙がそっているときは、対角線上の端を持ってゆっくり曲げ、そりを直します。

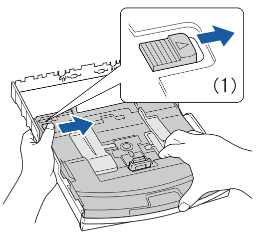


2 記録紙トレイを引き出す

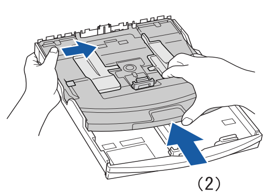


3 左手親指でリリースボタンを押し（1）、スライドトレイを記録紙トレイの奥にセットする（2）

(1) リリースボタン（1）を押す

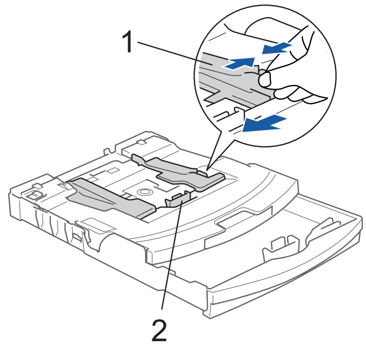


(2) リリースボタンを押したまま、スライドトレイを奥にずらす（2）



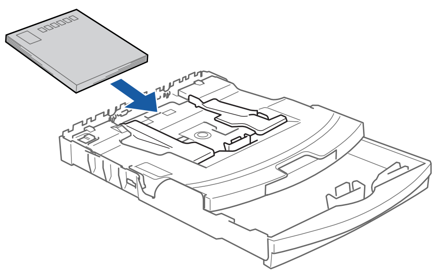
4 幅のガイド（1）と長さのガイド（2）を、記録紙サイズに合わせて調節する

幅のガイドは、両手で持って調節します。



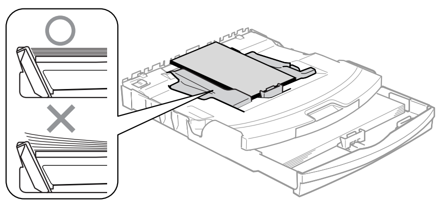
5 印刷したい面を下にして、記録紙の下端から先に、図のようにセットする

はがきを印刷する場合は、上側（郵便番号欄）が記録紙トレイの奥になるようにセットしてください。



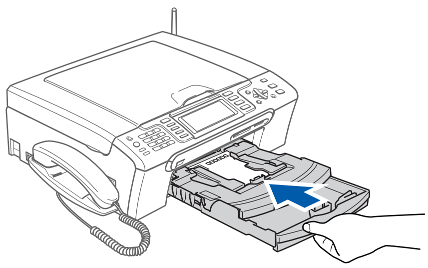
強く押し込まないでください。

記録紙がスライドトレイの中で平らになっていることを確認してください。また、幅と長さのガイドが記録紙に合っていることを確認してください。



6 記録紙トレイを元にもどす

記録紙トレイをゆっくりと確実に本製品に戻します。トレイを強く押し込むと、紙づまりの原因になります。力を入れて押し込まないでください。

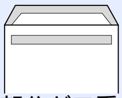


封筒をセットする場合

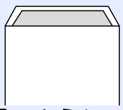
封筒は、記録紙トレイにセットします。
⇒ 37 ページ「記録紙トレイにセットする」

注意

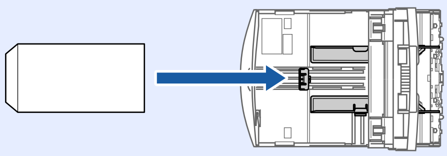
- 封筒は､坪量75g/m^2～95g/m^{2}のものをお使いください。
- 印刷時にパソコンのアプリケーション上で余白の設定が必要なことがあります。印刷する前に、同じ大きさの用紙などを使用して、試し印刷を行ってください。
- 以下の封筒は使用できません。誤って使用すると、故障や紙づまりの原因になります。
  - ・窓付き封筒・エンボス加工がされたもの
  - ・留め金のついたもの
  - ・内側に印刷がほどこされているもの
  - ・ふたにのりが付いているもの



  - ・二重封筒（ふたの部分が二重になった封筒）

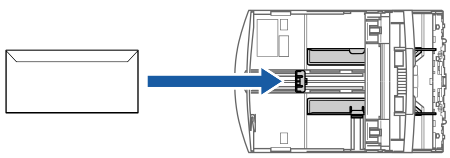


- 封筒のふたが下の図のようについている場合は、封筒を横長・横書きで使用してください。（縦長・縦書きでの印刷はできません。）このとき、ふたのない方向から給紙してください。



- 封筒の厚みやサイズ、ふたの形状によっては、うまく給紙されない場合があります。

うまく印刷できない場合は、以下の内容をお試しください。
- 使用しているアプリケーションで、用紙サイズ、余白を調整してみてください。
- 横長封筒は、ふたを折りたたんだ状態でセットしてください。



- 縦長の封筒を給紙する場合、ふたのある方向から給紙すると、印刷面が汚れたり封筒が重なって給紙されたりすることがあります。

光沢紙をセットする場合

光沢紙は、紙を良くさばいてセットします。枚数が少ない場合など、光沢紙がうまく引き込まれないときは、光沢紙に付属している補助紙を敷き、その上に光沢紙をセットします。

注意

- 補助紙を使っても光沢紙がうまく引き込まれないとき（光沢紙が 2 ～ 3 枚ずつ送られたりするとき）は、補助紙を外して光沢紙を 1 枚ずつセットしてください。

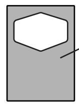
写真用光沢はがきをセットする場合

注意

- 写真用光沢はがきは、必ず下段の記録紙トレイにセットしてください。

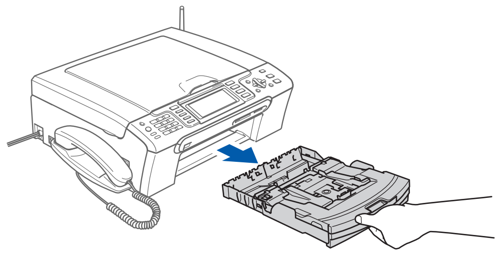
準備するもの

・複数枚を印刷する場合：「光沢はがき印刷用下じき」

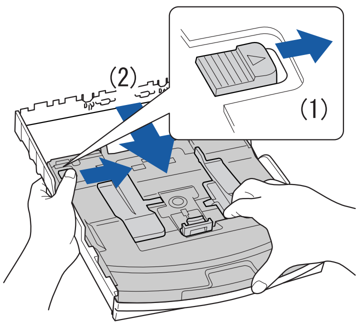


・1 枚ずつ印刷する場合：
補助紙 (写真用光沢はがきに同梱されている取扱説明書)

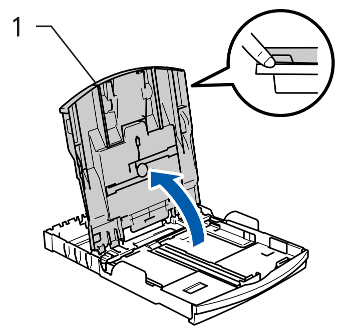
1 記録紙トレイを引き出す



スライドトレイが奥にセットされているときは、左手親指でリリースボタンを押し（1)、スライドトレイを手前に引いておいてください（2)。

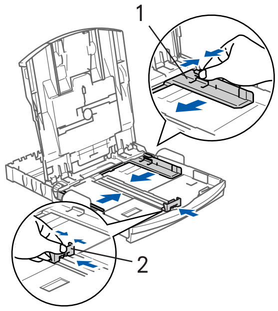


2 トレイカバー（1）を開く



3 **記録紙トレイに他の記録紙が入っている場合は、取り除く**

4 **幅のガイド（1）と長さのガイド（2）をつまんで動かし、はがきのサイズに合わせる**

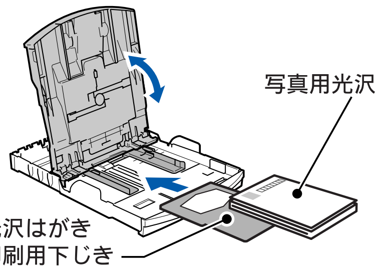


5 **印刷したい面を下にして、はがきの上側（郵便番号欄）から先にセットする**

A）複数枚を連続印刷する場合

「光沢はがき印刷用下じき」をセットして、その上に写真用光沢はがきを必要な枚数だけセットしてください。

写真用光沢はがきは一度に最大20枚までセットできますが、印刷枚数は、19 枚に設定してください。



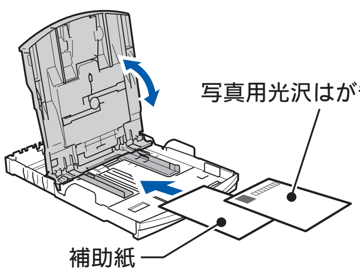
注意

- 最後の 1 枚は印刷できません。残った 1 枚は、「B）1 枚ずつ印刷する場合」を参照して印刷してください。
- 「光沢はがき印刷用下じき」および、下じき上の最後の1枚は、印刷しないでください。故障の原因となります。
- 写真用光沢はがきをセットする際は、すべての写真用光沢はがきの方向、表裏がそろっていることを確認してください。

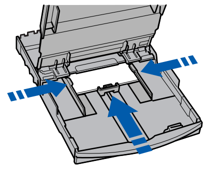
B）1 枚ずつ印刷する場合

写真用光沢はがきに同梱されている取扱説明書を補助紙としてセットし、その上に写真用光沢はがきをセットしてください。

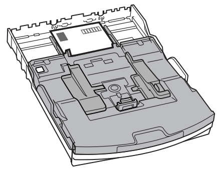
写真用光沢はがきが送られない場合は、記録紙トレイに写真用光沢はがきを 1 枚ずつセットして印刷してください。



6 **写真用光沢はがきの先端がコツンと当たるところまで入れ、幅と長さのガイドを写真用光沢はがきに合わせて調節する**



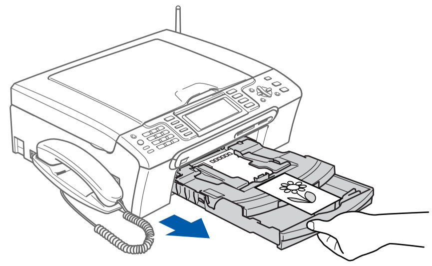
7 **写真用光沢はがきが図の位置に入っていることを確認する**



8 **記録紙トレイを元に戻す**

印刷した後、はがき、L 判の記録紙を取り出す

はがきや L 判サイズの記録紙など、小さなサイズの記録紙に印刷したときは、記録紙トレイを引き出して、印刷した記録紙を取り出してください。



記録紙の種類を設定する

[記録紙タイプ]

セットした記録紙の種類を本製品で設定します。
お買い上げ時は、【普通紙】に設定されています。

> コピーやフォトメディアキャプチャを行うときに、一時的に記録紙の種類を変更することもできます。
> ⇒ 131 ページ「いろいろなコピー」
> ⇒ 151 ページ「いろいろなプリント方法」
>
> パソコンから印刷するときは、パソコンで記録紙の種類を設定します。
> ⇒画面で見るマニュアル「プリンタ」

1 メニュー を押し、△▽ で【基本設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【記録紙タイプ】を選ぶ

3 ◁ または ▷ で、記録紙の種類を選び、OK を押す

記録紙タイプは、【普通紙／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／その他光沢紙／ OHP フィルム】から選びます。

> 写真のような高画質な原稿を印刷するときは、【ブラザー専用光沢紙】または【その他光沢紙】を選ぶと、よりきれいに印刷できます。
>
> カラーやグラフなどを多く含むビジネス文書を印刷する時は、【インクジェット紙】を選ぶと、よりきれいに印刷できます。

4 停止/終了 を押す

設定を終了します。

記録紙のサイズを設定する

[記録紙サイズ]

セットした記録紙の種類を本製品で設定します。お買い上げ時は【A4】に設定されています。

> コピーやフォトメディアキャプチャを行うときに、一時的に記録紙のサイズを変更することもできます。
> ⇒ 131 ページ「いろいろなコピー」
> ⇒ 151 ページ「いろいろなプリント方法」
>
> パソコンから印刷するときは、パソコンで記録紙のサイズを設定します。
> ⇒画面で見るマニュアル「プリンタ」

1 メニュー を押し、△▽ で【基本設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【記録紙サイズ】を選び、OK を押す

3 ◁ ▷ で記録紙サイズを選び、OK を押す

記録紙サイズは、【A4 ／ A5 ／ B5 ／ハガキ／ 2L 判／ L 判】から選びます。

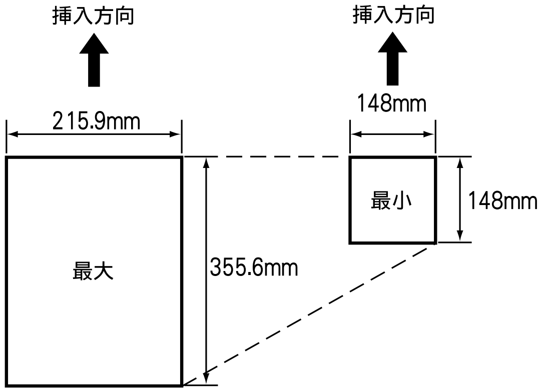
4 停止/終了 を押す

設定を終了します。

原稿のセット

ADF にセットできる原稿（MFC-880CDN/CDWN のみ）

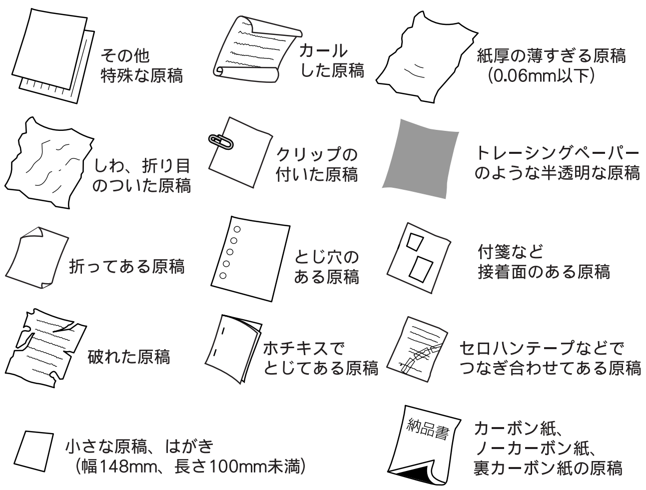
ADF（自動原稿送り装置）にセットできる原稿サイズは次のとおりです。これ以外のサイズの原稿は、原稿台ガラスにセットしてください。



厚さ：0.08 ～ 0.12mm
坪量：64g/m2 ～ 90g/m2

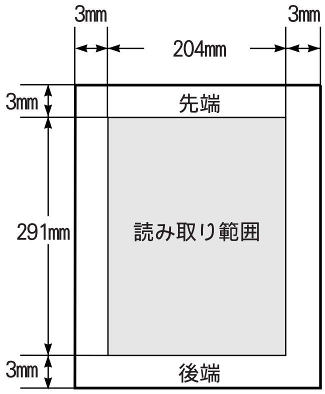
ADF に原稿をセットする場合の注意事項

- インクや修正液、のりなどが付いている原稿は、完全に乾いてからセットしてください。
- 原稿にクリップやホチキスの針が付いていると、故障の原因になります。取り外してください。
- 異なるサイズ・厚さ・紙質の原稿を混ぜて ADF にセットしないでください。
- ADF に原稿を強く押し込まないでください。原稿づまりを起こしたり、複数枚の原稿が一度に送られることがあります。
- 以下のような原稿は、ADF にセットしないでください。原稿台ガラスから送信してください。



原稿の読み取り範囲

ADF または原稿台ガラスに、A4 サイズの原稿をセットしたときの最大読み取り範囲は下記のようになります。



- ファクスを送る場合の読み取り範囲幅は 208mm です。
- スキャン時の読み取り範囲幅は、210mm です。

原稿をセットする

原稿台ガラスに原稿をセットする

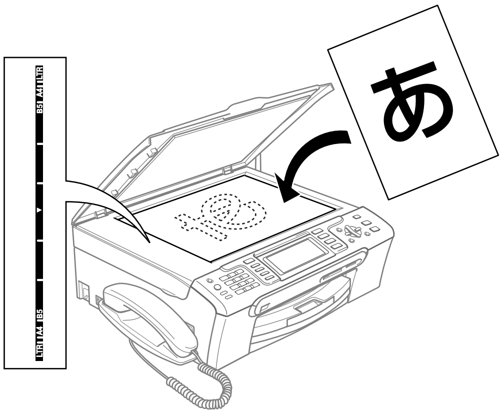
原稿台ガラスの原稿ガイドに合わせて、原稿をセットします。原稿台には、最大重量 2kg までの原稿をセットできます。

注意

- ■ インクやのり、修正液などが乾いていない原稿は、完全に乾いてからセットしてください。

1 原稿台カバーを持ち上げる

2 原稿ガイドの「▶」マークに原稿上端の中央を合わせ、原稿の表面を下にしてセットする



3 原稿台カバーを閉じる

本などの厚みのある原稿のときは、上から軽く押さえてください。

注意

- ■ 原稿台カバーは必ず閉じてください。開いたままファクスを送ると、画像が黒くなることがあります。
- ■ 原稿台カバーを閉じるときは、静かに閉じてください。また、強く押さえないでください。

ADF に原稿をセットする（MFC-880CDN/CDWN のみ）

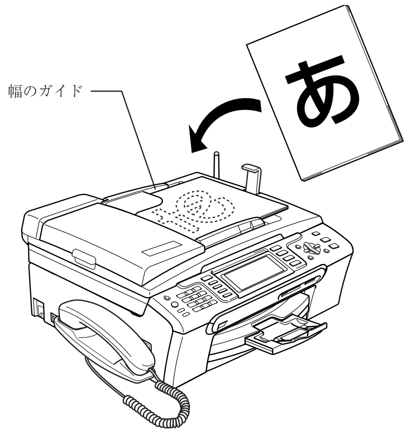
本製品には、複数枚の原稿を連続して読み取ることのできる ADF（自動原稿送り装置）が搭載されています。複数枚の原稿を読み込むときは、ADF に原稿をセットすると便利です。

1 原稿をそろえ、原稿の表面を下にして、原稿の先が軽く当たるまで差し込む

液晶ディスプレイに【原稿セット OK】と表示されます。

原稿は一度に 10 枚までセットできます。

原稿は、一番下の原稿から順番に読み込まれます。



2 幅のガイドを原稿の幅に合わせる

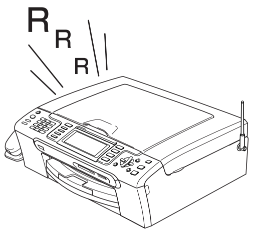
電話とファクスの受信設定

電話・ファクスの受けかた（お買い上げ時）

お買い上げ時は、次のように設定されています。

家にいるとき（在宅モード：　が消灯しているとき）

着信音が8回鳴る



自動的に
回線がつながる

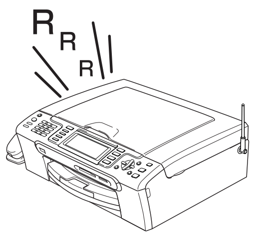
※ここから相手に
料金がかかり
ます。

電話のとき → 再呼出音が鳴る

ファクスのとき → ファクスを自動受信

留守にするとき（留守モード：　が点灯しているとき）

着信音が2回鳴る



自動的に
回線がつながる

※ここから相手に
料金がかかり
ます。

電話のとき → 留守応答メッセージが流れる

ファクスのとき → ファクスを自動受信

- 着信音をメロディに設定しているときでも、回線が再呼出に切り替わるとベル音が鳴ります。
- 回線が切り替わると相手には、「トゥルー・トゥルー」というベル音（お買いあげ時）が流れます。その後、電話に出ないときは、相手に「ただ今近くにおりません。のちほどおかけ直しください。」というメッセージが流れて回線が切れます。

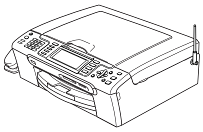
電話・ファクスの受けかたを変更する

在宅モードに設定しているときの電話・ファクスの受け方を、以下のように変更することができます。

着信音を鳴らさずにファクスを受けたい場合（無鳴動受信）

着信音の呼出回数を 0 回にします。
⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

着信音は鳴らない

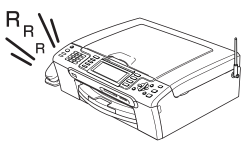


→ 自動的に回線がつながる
※ここから相手に料金がかかります。

- 電話のとき → 再呼出音が鳴る
- ファクスのとき → ファクスを自動受信

ファクス専用として使う場合

再呼出設定を【オフ（ファクス専用）】にします。
⇒ 48 ページ「在宅応答ベル / メッセージと再呼出時間の設定をする」



→ 自動的に回線がつながる
※ここから相手に料金がかかります。

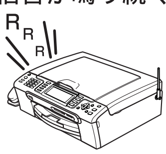
- 電話のとき → 電話に出られません
- ファクスのとき → ファクスを自動受信

呼出回数は、お好みで設定できます。
⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

ファクスを自動受信しない場合（受話器を上げてファクスを受信する）

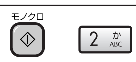
着信音の呼出回数を【無制限】にします。
⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

着信音が鳴り続く



→ 受話器をとる → 回線がつながる
※ここから相手に料金がかかります。

- 電話のとき → 通話
- ファクスのとき →



を押して受信

呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）

[呼出回数]

着信してから本製品が応答するまでに鳴る呼出回数を設定します。お買い上げ時は「在宅モード 8 回」、「留守モード 2 回」に設定されています。
呼出回数を 0 回に設定すると、ファクスのときは自動受信し、電話のときだけ着信音を鳴らすことができます。（回線状況が悪い場合は、ファクスのときでも着信音が数回鳴ることがあります。また、電話のときは相手に料金がかかります。）

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【受信設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【呼出回数】を選び、OK を押す

設定値の一覧が表示されます。

4 ▲▼ で呼出回数を設定するモードを選ぶ

5 ◁ または ▷ で、呼出回数を選ぶ

A）【在宅モード】のとき

呼出回数は【0 ～ 15（回）／無制限】から選びます。

- 【0 ～ 15（回）】：
  設定した呼出回数分の着信音が鳴ったあと、自動的に応答します。【0 回】の場合は、着信音が鳴らずに自動的に応答します。
- 【無制限】：
  自動的に受信しません。

B）【留守モード】のとき

呼出回数は【0 ～ 7（回）／トールセーバー】から選びます。

- 【0 ～ 7（回）】：
  設定した呼出回数分の着信音が鳴ったあと、自動的に応答します。
- 【トールセーバー】：
  外出先から留守番電話にメッセージが入っているか確認できます。

6 OK を押す

7 停止/終了 を押す

設定を終了します。

【トールセーバー】を設定したとき

留守モードで【トールセーバー】を選択すると、外出先から留守番電話のメッセージが入っているかどうかを確認できます。
外出先からメッセージの有無を確認するときは、外出先から自宅に電話をかけて、留守応答メッセージが再生されるまでの呼出回数を確認します。

- メッセージがあるとき――呼出 2 回
- メッセージがないとき――呼出 5 回

※ 着信音が 3 回鳴った時点で、メッセージが記憶されていないことがわかります。3 回鳴った時点で電話を切れば通話料はかかりません。2 回鳴って電話がつながったときは、リモコンアクセス（⇒ 123 ページ「外出先から本製品を操作する」）によって音声メッセージを確認するなど、本製品を操作することができます。

在宅応答ベル / メッセージと再呼出時間の設定をする

[再呼出設定]

在宅モード時に電話がかかってきた場合の対応を設定します。（ファクスのときは、自動的に受信します。）お買い上げ時は、【オン（電話呼び出し）／オン（相手にベル）】に設定されています。

1 **[メニュー] を押し、[▲▼] で【ファクス】を選び、[OK] を押す**

2 **[▲▼] で【受信設定】を選び、[OK] を押す**

3 **[▲▼] で【再呼出設定】を選ぶ**

4 **[◁] または [▷] で、在宅応答のしかたを選び、[OK] を押す**

在宅応答は、【オン（相手にメッセージ）/ オン（相手にベル）／オフ（ファクス専用）】から選びます。

- 【オン（相手にメッセージ）】
  本製品が応答後、相手が電話の場合は、在宅応答メッセージを再生します。
  相手がファクスの場合は自動的に受信します。
- 【オン（相手にベル）】：
  本製品が応答後、相手が電話の場合は「再呼出音」（「トゥルートゥルー」というベル音）が鳴ります。
  相手がファクスの場合は自動的に受信します。
- 【オフ（ファクス専用）】：
  本製品がファクス専用として応答するので、相手が電話の場合でも「再呼出音」は鳴りません。

【オン（相手にメッセージ）/ オン（相手にベル）】を選んだ場合 ⇒ **5** へ
【オフ（ファックス専用）】を選んだ場合 ⇒ **6** へ

> お買い上げ時は、在宅応答メッセージとして「この電話は、電話とファクスに接続されています。電話の方は、呼び出しておりますので、そのまましばらくお待ちください。ファクスの方は発信音の後に送信してください。」と録音されています。
>
> 応答メッセージの内容は変更できます。
> ⇒ 119 ページ「応答メッセージを設定する」

5 **[◁] または [▷] で、再呼出時間を選び、[OK] を押す**

時間は【20 秒 /30 秒 /40 秒 /70 秒】から選びます。

6 **[停止/終了] を押す**

設定を終了します。

> 「ベル」に設定された状態で在宅応答メッセージを録音すると、在宅応答メッセージは自動的に「ベル」から「メッセージ」に変更されます。
> ⇒ 119 ページ「応答メッセージを設定する」

音量を設定する

お好みで設定してください

本製品の、着信音量、ボタン確認音量、スピーカー音量、受話音量を調整します。

親機の音量を設定する

1 メニュー を押し、△▽ で【基本設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【音量】を選び、OK を押す

音量調節画面が表示されます。

3 △▽ で変更したい音量を選ぶ

(1) 着信音量

着信時のベルやメロディの音量を調整します。

(2) ボタン確認音量

ダイヤルボタンを押したときに鳴る確認音を調整します。

(3) スピーカー音量

オンフック時の音量や留守録モニターの音量を調整します。

(4) 受話音量

受話器を持って通話するときの音量を調整します。

4 ◁ または ▷ で、音量を選び、OK を押す

音量は【切／小／中／大】から選びます。

受話音量には【切】はありません。

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

スピーカー音量は オンフック を押し「ツー」という音が聞こえているときに △ を押すと、◁ ▷ でも調整できます。

スピーカー音量を【切】に設定していても、下記の場合は【小】の音量で音が鳴ります。

- 留守ボタンを押すと、応答メッセージが再生されます。
- 再生ボタンを押すと、録音メッセージが再生されます。

着信音量を【切】に設定していても、下記の音は最小音量で鳴ります。

- 本製品が自動着信した後、相手が電話だということを知らせる「トゥルッ、トゥルッ」という再呼出音
- 内線呼出音

ボタン確認音量を【切】に設定していても、エラーのときはブザー音が鳴ります。

通話中に受話音量をかえる

通話中に ◁ ▷ を押すと、受話音量を変更できます。

子機の音量を調整する

着信音量を設定する

お買い上げ時は、「■■■」(3 段階目) に設定されています。

1 ▶ を押す

2 ◀▶ で音量を選ぶ

着信音量は「OFF」(ディスプレイに 🔕 と表示されます) と 4 段階の調整ができます。

> 2 秒間操作しないと元の画面に戻ります。

ボタン確認音量を設定する

お買い上げ時は、「ON」に設定されています。

1 機能/確定 を押す

2 ▲▼ で「メイドウオンセッテイ」を選び、機能/確定 を押す

3 ▲▼ で「3. ボタンカクニンオン」を選び、機能/確定 を押す

4 ▲▼ で設定を選び、機能/確定 を押す

ボタン確認音量は「ON ／ OFF」から選びます。

5 切 を押す

設定を終了します。

スピーカー音量を設定する

スピーカーホンで通話するときの音量を調整します。

スピーカーホン を押して、「ツー」という音が聞こえているとき、またはスピーカーホンで通話中のときに設定できます。
お買い上げ時は、「■■」(2 段階目) に設定されています。

1 スピーカーホン を押す

2 ▶ を押す

3 ◀▶ で音量を選ぶ

スピーカー音量は 4 段階の調整ができます。

> 2 秒間操作しないと元の画面に戻ります。
>
> 通話中に「キーン」という音 (ハウリング) がしたときは、スピーカー音量を下げて使用ください。

受話音量を設定する

お買い上げ時は、「■■」(2 段階目) に設定されています。

1 通話中に ▶ を押す

2 ◀▶ で音量を選ぶ

受話音量は 4 段階の調整ができます。

> 2 秒間操作しないともとの画面に戻ります。
>
> 通話中に「キーン」という音 (ハウリング) がしたときは、受話音量を下げて使用ください。

着信音と保留音を設定する

電話やファクスを受信したときの着信音と保留音を設定します。本製品には、あらかじめ 4 種類のベル音と 30 曲のメロディが登録されています。お買い上げ時は、着信音は「ベル 1」、保留音は「花のワルツ」に設定されています。

注意

- 着信音や保留音は、受話器を置いた状態で設定してください。（受話器を上げていると設定できません。）
- 呼出回数を 0 回に設定していると、メロディを設定していても、回線が再呼出に切り替わるとベル音が鳴ります。着信音をメロディにしたいときは、呼出回数を 3 回以上に設定してください。⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

親機の着信音・保留音を選ぶ

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【メロディ設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【着信音】または【保留メロディ】を選び、OK を押す

4 ▲▼ でメロディを選び、OK を押す

現在選択されているメロディが流れます。
メロディは右の「メロディ一覧」から選びます。

ベル音は保留メロディには設定できません。

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

構内交換機、ターミナルアダプタ、ADSL モデムなどに接続している場合、それらの機器の着信音選択を【ベル 2】または【SIR】に設定しているときは、本製品で【ベル 1】に設定しても、メニュー選択時に聞こえる【ベル 1】の音と異なるベル音が鳴ることがあります。

再呼出音をメロディにすることはできません。

相手先ごとに着信音を変える

ナンバー・ディスプレイサービスを契約しているときは相手先ごとに着信音を設定することができます。
⇒ 72 ページ「着信鳴り分けを設定する」

メロディ一覧

本製品では、下記のメロディが着信音や保留音として設定できます。

● 親機

	曲名		曲名
1	アイネクライネ	16	小フーガト短調
2	愛の喜び	17	ダッタン人の踊り
3	アヴェ・マリア	18	ちょうちょう
4	仰げば尊し	19	トルコ行進曲
5	威風堂々	20	ドナドナ
6	うれしいひなまつり	21	ノクターン第2番
7	大きな古時計	22	小さな白鳥の踊り
8	歓喜の歌 （交響曲第9番）	23	花
9	ガボット	24	花のワルツ
10	きらきら星	25	春の声
11	グリーンスリーブス	26	ハッピーバースデイ
12	ケンタッキーの我が家	27	故郷（ふるさと）
13	木枯らしのエチュード	28	蛍の光
14	四季より「春」	29	メヌエット
15	主よ人の望みよ喜びよ	30	諸人こぞりて

● 子機

	曲名
1	アヴェ・マリア
2	オオキナフルドケイ
3	ガボット
4	キラキラボシ
5	シキヨリ［ハル］
6	ハナノワルツ

子機の着信音を選ぶ

1 **機能/確定 を押す**

2 **▲▼で「メイドウオンセッテイ」を選び 機能/確定 を押す**

3 **▲▼で「1.チャクシンオン」を選び 機能/確定 を押す**

4 **▲▼で着信音を選び、機能/確定 を押す**

着信音は「ベル／アヴェ・マリア／オオキナフルドケイ／ガボット／キラキラボシ／シキヨリ[ハル]／ハナノワルツ」から選びます。

⇒ 52 ページ「メロディ一覧」

5 **切 を押す**

設定を終了します。

再呼出音をメロディにすることはできません。

画面の設定を変更する

本製品の液晶ディスプレイの設定を変更します。

1 メニュー を押し、▲▼ で【基本設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【画面の設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で設定したい項目を選ぶ

【壁紙選択】を選んだ場合は、OK を押して、次の画面に進みます。

(1) 画面のコントラスト

液晶ディスプレイの見やすさ（コントラスト）を調整します。

(2) 画面の明るさ

液晶ディスプレイの明るさを調整します。

(3) 照明ダウンタイマー

液晶ディスプレイのバックライトを暗くするまでの時間を設定します。（暗くなっても画面の表示は確認できます。）

(4) 照明オフタイマー

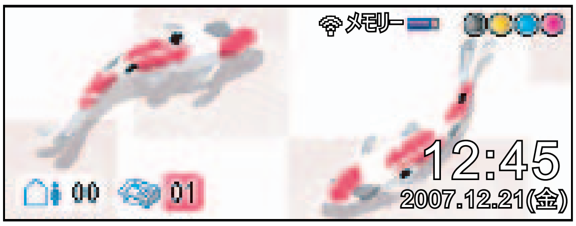
液晶ディスプレイのバックライトを消灯するまでの時間を設定します。（消灯すると、画面の表示が確認できなくなります。）バックライト分の電力が節約できます。

(5) 壁紙選択

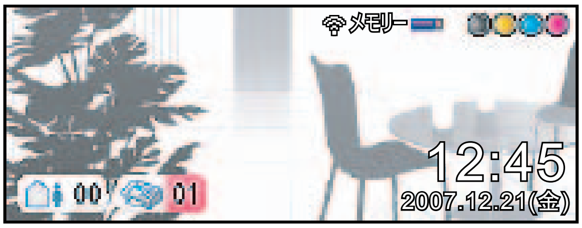
待ち受け画面のデザインを選択します。以下は画面の一例です。
※画面のデザインは変更されることがあります。

- 例 1

- 例 2



- 例 3



4 設定を変更する

A）壁紙選択以外の場合

(1) ◀ ▶ で設定を選び、OK を押す

- 画面のコントラスト
  【薄く／標準／濃く】
- 画面の明るさ
  【明るく／暗く】
- 照明ダウンタイマー
  【切／ 10 秒／ 20 秒／ 30 秒】
- 照明オフタイマー
  【切／ 1 分／ 2 分／ 3 分／ 5 分／ 10 分／ 30 分】

B）壁紙選択の場合

(1) OK を押す

(2) △▽ で設定を選び、OK を押す

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

子機の画面設定を変更する

［画面のコントラスト］

1 機能/確定 を押す

2 ▲▼ で「ガメンノコントラスト」を選び、機能/確定 を押す

3 ◀▶ で明るさを選び、機能/確定 を押す

4 切 を押す

設定を終了します。

子機のライトを設定する

［子機ライト］

子機のバックライトを点灯させたままの状態にすることができます。

1 待ち受け画面のときに、機能/確定 を２秒以上押す

バックライトが点灯します。

- バックライトを消灯させるには、操作パネルのいずれかのボタンを押すか、子機を充電器に戻します。
- 子機のバッテリー残量が少なくなると、設定が解除され、バックライトが消灯します。

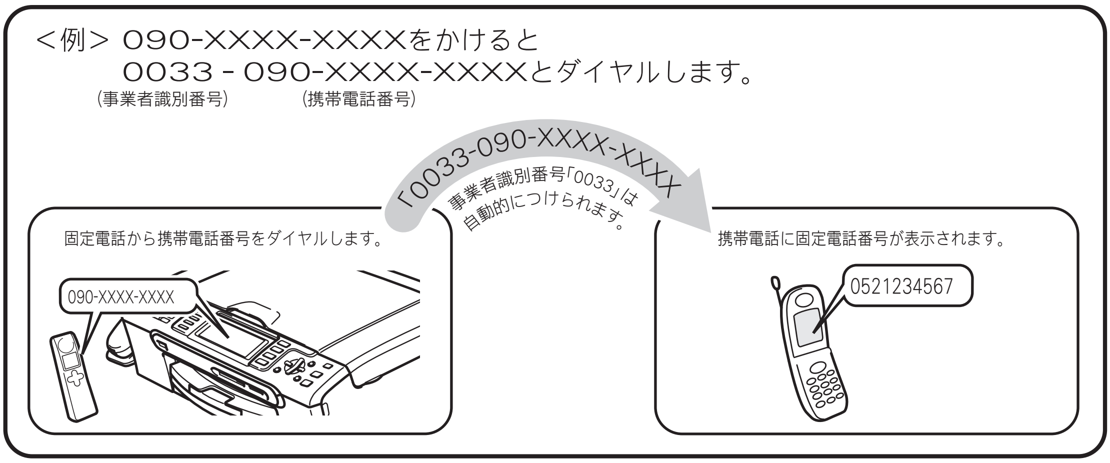
ケータイ通話お得サービスを利用する

ケータイ通話お得サービスとは

固定電話から携帯電話に電話をかけるときに、携帯電話番号の前に事業者識別番号をダイヤルすると、固定電話の電話会社が設定した料金でご利用できるサービスです。

【ケータイ通話お得サービス】を【する】に設定をすると、本製品から携帯電話に電話をかけるときに、携帯電話番号の前に事業者識別番号を自動的につけてダイヤルすることができます。

お買い上げ時の事業者識別番号は、【0033】（NTT コミュニケーションズ）に設定されています。



注意

- NTT 東日本・西日本の「ひかり電話」や NTT 東日本・西日本以外のサービス事業者が提供する直収電話サービス（＊1）、その他の事業者が提供するすべての光電話サービス、ケーブル TV 局が提供する電話サービスをご利用時は、この機能はご利用できません。【しない】に設定してください。

  ＊ 1：直収電話サービスとは、NTT 東日本・西日本の電話回線を介さずに、直接お客様のご自宅と各サービス事業者を結ぶ電話サービスです。（例　ソフトバンクテレコムのおとくライン、KDDI のメタルプラスなど）
- ケータイ通話お得サービスは、登録した各事業者によりサービス提供エリアが異なります。サービス提供エリアについては、各事業者にお問い合わせください。
- ケータイ通話お得サービスを利用するときは、携帯電話番号の前に事業者識別番号や IP 電話解除番号＊ 2 をダイヤルしないでください。電話をかけることができなくなったり、通話料が異なる場合があります。
- ケータイ通話お得サービスを【する】に設定していても、ケータイ通話お得サービスを利用しないで電話をかけることができます。この場合は、通話状態にしてから 消去/キャッチ を押した後に、ご利用になる事業者識別番号や IP 電話解除番号＊ 2 をダイヤルしてください。

  ＊ 2：IP 電話サービスを利用時、一時的に IP 電話を利用しないための番号です。
- 直収電話サービスについては、各サービス事業者へお問い合わせください。
- 構内交換機（PBX）、ビジネスホン、ホームテレホンに接続している場合は、ケータイ通話お得サービスを利用できません。【しない】に設定してください。
- 電話をかけても、しばらく「ツー」という音だけが聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
- 事業者識別番号を自動的につけて電話をかけた場合、電話がつながるまで時間がかかることがありますが故障ではありません。
- 国内の携帯電話会社への通話が対象です。対象となる携帯電話番号は、「090」「080」から始まる番号のみです。PHS への通話は利用できません。
- マイラインおよびマイラインプラスの登録に関係なく利用できます。
- 通話先、通話時間や発信事業者の料金体系により、料金は安くならない場合があります。サービスについては、各事業者へお問い合わせください。

NTT コミュニケーションズの 0033 モバイルサービスのご案内

- お申し込み手続きは不要です。定額料もかかりません。
- 携帯電話会社の留守番電話サービスの遠隔操作、フリーアクセス（「0800」で始まる番号）など一部サービスを利用できない場合があります。電話を通話状態にしてから電話をかけてください。
- 携帯電話への通話料金は NTT コミュニケーションズご利用分として請求されます。
- NTT コミュニケーションズが提供する「固定電話から携帯電話への通話サービス（0033 モバイル）」詳細については、NTT コミュニケーションズのカスタマーズフロントにお問い合わせください。

NTT コミュニケーションズ　カスタマーズフロント
0120-506506
受付時間：午前 9:00 ～午後 9:00（年末年始除く）
※本製品の機能・設定については、弊社のお客様相談窓口（コールセンター）：0120-590-381 にお問い合わせください。

注意

■ NTT 東日本・西日本の「ひかり電話」や NTT 東日本・西日本以外のサービス事業者が提供する直収電話サービス（*）、その他の事業者が提供するすべての光電話サービス、ケーブル TV 局が提供する電話サービスをご利用時は、この機能はご利用できません。【しない】に設定してください。

*：直収電話サービスとは、NTT 東日本・西日本の電話回線を介さずに、直接お客様のご自宅と各サービス事業者を結ぶ電話サービスです。（例：ソフトバンクテレコムのおとくライン、KDDI のメタルプラス など）

ケータイ通話お得サービスを設定する

【ケータイ通話お得サービス】

お買い上げ時は、事業者識別番号「0033」に設定されています。ひかり電話や直収電話サービスをご利用の場合は、この機能はご利用できません。

1 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【その他】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【ケータイ通話お得サービス】を選び、OK を押す

ケータイ通話お得サービスの設定画面が表示されます。

4 ▲▼ で【する】を選び、OK を押す

ケータイ通話お得サービスを使用しない場合は、【しない】を選びます。ひかり電話サービスや直収電話サービスをご利用の場合も【しない】を選びます。

5 ▲▼ で電話回線を選び、OK を押す

- 【一般回線】：一般回線をお使いの場合に選びます。
  ⇒手順 9 へ
- 【IP 電話】：IP 電話をお使いの場合に選びます。
  ⇒手順 6 へ
- 【不明】：この場合は、ケータイ通話お得サービスをご利用できません。停止/終了 を押して、設定を終了してください。

6 メッセージを確認して、OK を押す

7 IP 電話解除番号を入力して、OK を押す

ダイヤルボタン 0 ～ 9 を使って入力します。

IP 電話解除番号の例（2007 年 6 月現在）

事業者名	サービス名	IP 電話解除番号
Yahoo! BB（ソフトバンク BB）	Yahoo! BB フォン（※ 1）	0000p（※ 2）
OCN（NTT コミュニケーションズ）	OCN ドットフォン（※ 1）	0000
KDDI (DION)	KDDI － IP 電話（※ 1）	0009（※ 3）

- その他の IP 電話サービスをご利用のお客様は、ご利用中の IP 電話事業者に IP 電話解除番号とポーズ入力「p」（再ダイヤル/ポーズ で入力）が必要かお問い合わせください。
- IP 電話解除番号は予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

※ 1 Yahoo! BB 光、OCN 光サービス、KDDI メタルプラスはご利用になれません。
※ 2 Yahoo! BB をご利用の場合は「0000」のあとにポーズ「p」（再ダイヤル/ポーズ で入力）を入力してください。
※ 3「IP 電話対応機器（NTT 東日本・西日本提供）」をご利用の場合は「0000」を入力してください。

- IP 電話解除番号を空白にしたまま設定するとケータイ通話お得サービスが利用できなくなります。
- IP 電話解除番号は、携帯電話に発信するときなどに、IP 電話を使わずに NTT などの一般回線で発信するための番号です。

8 1 あ を押す

IP 電話解除番号を修正するときは 2 か ABC を押して入力し直してください。

9 停止/終了 を押す

設定を終了します。

- 携帯電話以外への通常の発信は、IP 電話サービスを利用します。
- ケータイ通話お得サービスは、次の場合も利用できます。
  - 「184」「186」などの番号を付けたとき（「184」をつけて非通知で電話をかけると、携帯電話に電話番号は表示されません。）
  - 再ダイヤル、発信履歴からかけ直すとき（事業者識別番号は液晶ディスプレイに表示されません）
  - 電話帳からかけるとき
  - 着信履歴からかけ直すとき（ナンバー・ディスプレイ利用時のみ）
- 【する】に設定していても、その通話に限り、ケータイ通話お得サービスを利用しない場合は 消去/キャッチ を押してからダイヤルしてください。

事業者識別番号を変更する

「0033」（NTT コミュニケーションズ）以外のサービスをご利用のときは、事業者識別番号を変更します。
お買い上げ時は、事業者識別番号「0033」に設定されています。

1 メニュー を押し、△▽ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【その他】を選び、OK を押す

3 △▽ で【事業者識別番号】を選び、OK を押す

事業者識別番号の設定画面が表示されます。

4 ダイヤルボタンで事業者識別番号を入力して、OK を押す

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

Memo

第２章

電話

電話の基本機能

電話の応用機能

オプションサービス

電話をかける／受ける

電話の基本機能

親機や子機で電話をかけたり受けたりできます。

電話をかける

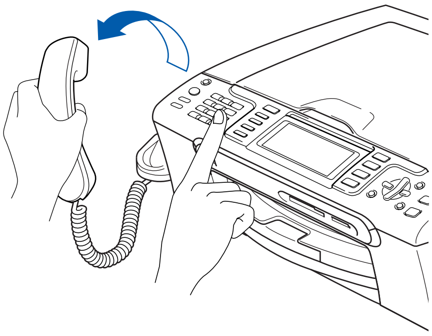
親機の場合

1 ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

2 受話器をとる

3 0 わ ～ 9 ら WXYZ で相手の電話番号を押す



通話が終わったら受話器を戻します。

子機の場合

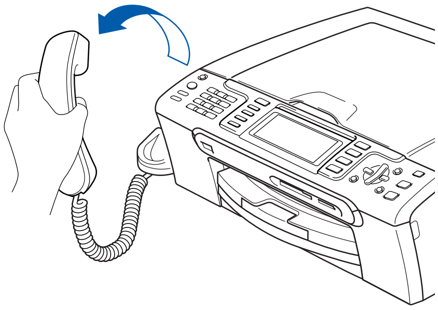
1 充電器から子機をとり、0ワ ～ 9ラWXYZ で相手の電話番号を押す

通話が終わったら子機を充電器に戻します。
（または 切 を押します。）

電話を受ける

親機の場合

1 電話が鳴ったら、受話器を取って受ける

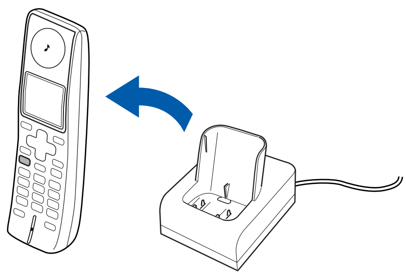


通話が終わったら受話器を戻します。

子機の場合

1 電話が鳴ったら、充電器から子機をとる

子機を充電器に置いていないときは、外線 を押します。



通話が終わったら子機を充電器に戻します。
切 を押しても通話が終了します。

いろいろな電話のかけかた

リダイヤルや発信履歴・着信履歴を使って電話がかけられます。

注意

■ 着信履歴を利用するには、ご利用の電話会社と「ナンバー・ディスプレイサービス」の契約が必要です。
⇒ 70 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを利用する」

最後にかけた相手にかける（再ダイヤル）

親機の場合

(1) ファクス を押す

(2) 受話器をとる

(3) 再ダイヤル/ポーズ を押す

子機の場合

(1) 充電器から子機をとる

(2) 発信履歴 を押す

受話器を置いたままかける

親機の場合

(1) ファクス を押す

(2) オンフック を押し、相手先の電話番号を押す

(3) 相手が出たら、受話器をとる

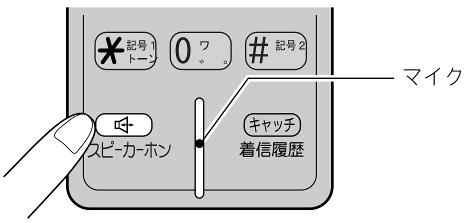
※途中で操作をやめるときやかけ直すときは、もう一度 オンフック を押します。

子機の場合

(1) スピーカーホン を押す

(2) 相手先の電話番号を押す

(3) 相手が出たら、マイクに向かって話す



※まわりの騒音などによって声が聞き取りにくいときは、子機を充電器からとって話してください。

最近かけた相手にかける（発信履歴）

親機の場合

(1) ファクス を押す

(2) 受話器をとる

(3) ▲▼ で【発信履歴】を選び、OK を押す

(4) ▲▼ で相手先を選ぶ

(5) モノクロ または カラー を押す

子機の場合

(1) 充電器から子機をとる

(2) 切 を押す

(3) 外線 が消灯していることを確認し、発信履歴 を押す

(4) ✥ で相手先を選ぶ

(5) 外線 を押す

発信履歴を削除する（親機）
⇒ 84 ページ「発信履歴や着信履歴を削除する」

発信履歴を削除する（子機）
⇒ 76 ページ「履歴を削除する（子機）」

最近かかってきた相手にかける（着信履歴）

※ 着信履歴は、ナンバー・ディスプレイサービスをご利用の場合のみ、使用できます。

親機の場合

(1) ファクス を押す

(2) 受話器をとる

(3) で【着信履歴】を選び、OK を押す

(4) で相手先を選ぶ

(5) モノクロ または カラー を押す

子機の場合

(1) 充電器から子機をとる

(2) 切 を押す

(3) 外線 が消灯していることを確認し、キャッチ を押す

(4) で相手先を選ぶ

(5) 外線 を押す

電話帳からかける

［電話帳検索（親機）］

親機の電話帳に登録した電話番号から相手を検索して電話をかけます。（⇒ 108 ページ「親機の電話帳を利用する」）

1 を押す

2 受話器をとり、で【検索】を選び、OK を押す

A）あいうえお順で選ぶ場合

3 で【あいうえお順検索】を選び、OK を押す

4 で電話をかける相手を選び、OK を押す

「五十音順→アルファベット→数字→記号→名前を登録していない電話番号」の順に表示されます。

登録している番号が 2 つあるときは、どちらかの番号を選び、OK を押します。

> ア行～ワ行ごとに検索したいときは、検索したい行の表記されたダイヤルボタンを押し、相手の名前を検索します。
>
> 例）「シミズ」を検索したいときは、3 DEF を押します。→「サ行」の先頭となる相手先が画面に表示されるので、を押して相手先を選択します。

5 で【電話をかける】を選び、OK を押す

選んだ相手先に電話がかかります。

B）番号順で選ぶ場合

3 で【番号順検索】を選び、OK を押す

4 で電話をかける相手を選び、OK を押す

登録している番号が 2 つあるときは、どちらかの番号を選び、OK を押します。

5 で【電話をかける】を選び、OK を押す

選んだ相手先に電話がかかります。

C）短縮番号を入力する場合

3 ダイヤルボタンで、2 桁の短縮番号を押す

登録している番号が 2 つあるときは、どちらかの番号を選び、OK を押した後、で【電話をかける】を選び、OK を押します。

選んだ相手先に電話がかかります。

> 通話が終わったら受話器を戻します。

子機の電話帳からかける

(1) 充電器から子機をとる

(2) を押す

(3) で電話をかける相手を選ぶ

(4) 外線 を押す

第 1 章 ご使用の前に
第 2 章 電話
第 3 章 ファクス
第 4 章 電話帳
第 5 章 留守番機能
第 6 章 コピー
第 7 章 フォトメディアキャプチャ
第 8 章 こんなときは
付 録

通話のときは

保留にしたり、通話内容を録音することができます。

通話を保留にする

親機の場合

(1) 通話中に [保留/子機] を押す

◆ 保留メロディが流れます。（相手にこちらの声が聞こえなくなります。）

(2) 受話器をおく

(3) 通話に戻るときは、受話器をとる

子機の場合

(1) 通話中に [内線 保留] を押す

◆ 保留メロディが流れます。（相手にこちらの声が聞こえなくなります。）

(2) 通話に戻るときは、[内線 保留] または [外線] を押す

通話を録音する（親機のみ）

(1) 通話中に [再生/録音] を押す

◆ 録音が始まります。

(2) 録音をやめるときは、[停止/終了] を押す

※ 録音時間を設定する
⇒ 118 ページ「メッセージの録音時間を設定する」

※ 録音した内容は、留守録メモリーに記憶されます。

※ 設定した録音時間が過ぎると、録音は中止されます。

※ 受話器を置いて、[再生/録音] を押すと、録音した内容が再生されます。

子機でスピーカーホン通話に切り替える（子機のみ）

スピーカーホン通話にすると、子機のスピーカーから相手の声が聞こえ、子機を置いたままで通話することができます。

(1) 通話中に [スピーカーホン] を押す

◆ スピーカーホン通話が始まります。

(2) スピーカーホン通話をやめるときは、[スピーカーホン] を押す

プッシュホンサービスを利用する

プッシュ回線をお使いの場合は、プッシュホンサービスのサービス番号をダイヤルして、サービスを利用することができます。
ダイヤル回線をお使いの場合は、プッシュホンサービスのサービス番号をダイヤルする前に、トーンボタンを押してください。

※ ダイヤルしたときに「ピッポッパ」と音がするのがプッシュ回線、音がしないのがダイヤル回線です。

(1) 受話器をとり、プッシュホンサービスの電話番号をダイヤルする

(2) ダイヤル回線の場合は、[＊ トーン]（子機の場合は [＊ 記号 トーン]）を押す

(3) サービスの指示に従ってダイヤルボタンを押す

※ プッシュホンサービスには、交通機関やチケットの予約、銀行の残高照会などさまざまなサービスがあります。

電話を取り次ぐ

電話の応用機能

親機から子機へ電話を取り次ぐ

親機で受けた電話を子機に取り次ぎます。

1 通話中に ♪保留/子機 を押す

外線の相手との通話が保留になります。

2 取り次ぐ子機の内線番号を押す

子機が 1 台の場合は、1 を押します。

子機の内線呼出音が鳴ります。

- 呼び出している子機が出ないときなど、保留している相手ともう一度話すときは ♪保留/子機 を押します。
- 親機・子機の内線番号について ⇒ 67 ページ「親機と子機の内線番号について」

3 子機を充電器からとる

充電器から外しているときは、内線 保留 または 外線 を押します。

4 子機の相手に電話を取り次ぐことを伝えて、受話器を置く

子機と外線の相手が通話できるようになります。

子機から親機へ電話を取り次ぐ

子機で受けた電話を親機に取り次ぎます。

1 通話中に 内線 保留 を押す

外線の相手との通話が保留になります。

2 ▲▼ で、「オヤキ」を選び、機能 確定 を押す

親機の内線呼出音が鳴ります。

- 親機が出ないときなど、外線の相手ともう一度話すときは 内線 保留 を押します。

3 親機の受話器をとる

4 親機の相手に電話を取り次ぐことを伝えて 切 を押す

親機と外線の相手が通話できるようになります。

子機から子機へ電話を取り次ぐ

子機を2台以上使用しているとき、子機でとった電話を別の子機に取り次ぐことができます。ここでは「子機 1 で受け、子機2へ取り次ぐ場合」を例として説明しています。

1 通話中に 内線/保留 を押す

外線の相手との通話が保留になります。

2 ▲▼で、「コキ 2」を選び、機能/確定 を押す

子機2の内線呼出音が鳴ります。

呼び出している子機2が出ないときなど、外線の相手ともう一度話すときは、内線/保留 を押します。

3 子機2を充電器からとる

充電器から外しているときは、内線/保留 または 外線 を押します。

4 子機2の相手に電話を取り次ぐことを伝えて、切 を押す

子機 2 と外線の相手が通話できるようになります。

用件を伝えずに電話を取り次ぐ

電話をかんたんに取り次ぐことができます。

親機から子機へ

1 通話中に ♪保留/子機 を押す

外線の相手との通話が保留になります。

2 親機の受話器を置く

3 充電器から子機をとる

充電器に置いていないときは 外線 を押します。

子機と外線の相手が通話できるようになります。

子機から親機へ

1 通話中に 内線/保留 を押す

外線の相手との通話が保留になります。

2 子機を充電器に戻す

3 親機の受話器をとり、♪保留/子機 を押す

親機と外線の相手が通話できるようになります。

内線通話をする

親機から子機へ、子機から親機へ、子機から子機へ内線電話をかけることができます。

親機から子機へかける

1 **ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す**

ファクスモードに切り替わります。

2 **受話器をとって、保留/子機 を押す**

3 **通話したい子機の内線番号を押す**

子機が 1 台の場合は、1 を押します。

子機の内線呼出音が鳴ります。

4 **子機を充電器からとる**

充電器から外しているときは、内線 保留 または 外線 を押します。

親機と子機で通話できます。

子機から親機へかける

1 **子機を充電器からとり、切 を押してから 内線 保留 を押す**

2 **で、「オヤキ」を選び、機能 確定 を押す**

親機の内線呼出音が鳴ります。

3 **親機の受話器をとる**

親機と子機で通話できます。

> 内線通話中に外線がかかってきたときは、内線通話状態のまま親機の着信音が鳴ります。親機の受話器を戻して、もう一度受話器をとると外線と電話がつながります。

子機から子機へかける

子機を 2 台以上使用しているとき、子機同士で通話することができます。

外線通話中でも、通話を保留にして子機間通話することができます。⇒ 66 ページ「子機から子機へ電話を取り次ぐ」

ここでは、子機 1 から子機 2 に内線をかける場合を例に説明します。

1 **子機を充電器からとり、切 を押してから 内線 保留 を押す**

2 **で、「コキ 2」を選び、機能 確定 を押す**

子機 2 の内線呼出音が鳴ります。

3 **子機 2 を充電器からとる**

充電器から外しているときは、内線 保留 または 外線 を押します。

子機 1 と子機 2 で通話できます。

> 電波状態がよくない場合、子機間通話中に待ち受け状態に戻ったり、接続できないことがあります。このときは子機間通話をやり直してください。

親機と子機の内線番号について

親機と子機の内線番号は、以下のように設定されています。

機種 ＼ 内線番号	0	1	2	3	4
MFC-650CD MFC-870CDN MFC-880CDN	親機	子機 1	増設 子機 2	増設 子機 3	増設 子機 4
MFC-650CDW MFC-870CDWN MFC-880CDWN	親機	子機 1	子機 2	増設 子機 3	増設 子機 4

3 人で同時に話す

[トリプル通話]

親機と子機と外線の相手、または子機同士と外線の相手の 3 人で同時に話すことができます。

注意

- 外線の相手 2 人と同時に通話することはできません。
- 三者通話中は、保留にできません。三者通話から二者通話に戻す場合は、親機の受話器を戻すか、子機の切を押してください。

親機から子機を呼び出して三者通話をする

1. **親機で外線通話中に ♪保留/子機 を押す**

   通話が保留になります。

2. **通話したい子機の内線番号を押す**

   子機が 1 台の場合は、1 を押します。

   子機の内線呼出音が鳴ります。

3. **子機を充電器からとる**

   充電器から外しているときは、内線保留 または 外線 を押します。

4. **子機の相手に 3 人で話すことを伝えて、♪保留/子機 を押す**

   三者通話が始まります。

子機から親機を呼び出して三者通話をする

1. **子機で外線通話中に 内線保留 を押す**

   通話が保留になります。

2. **▲▼ で「オヤキ」を選び、機能確定 を押す**

   親機の内線呼出音が鳴ります。

3. **親機の受話器をとる**

4. **親機の相手に 3 人で話すことを伝えて、内線保留 を押す**

   三者通話が始まります。

子機 1 から子機 2 を呼び出して三者通話をする

1. **子機 1 で外線通話中に 内線保留 を押す**

   通話が保留になります。

2. **▲▼ で「コキ 2」を選び、機能確定 を押す**

   子機 2 の内線呼出音が鳴ります。

3. **子機 2 を充電器からとる**

   充電器から外しているときは、内線保留 または 外線 を押します。

4. **子機 2 の相手に 3 人で話すことを伝えて、内線保留 を押す**

   三者通話が始まります。

キャッチホンサービスを利用する オプションサービス

本製品では、電話会社（NTT など）との契約によって「キャッチホンサービス」をご利用いただくことができます。

キャッチホン／キャッチホン II は、外線通話中に別の電話やファクスを受けられる、電話会社のサービスです。サービスの詳細についてはご利用の電話会社にお問い合わせください。

注意

- 「キャッチホン／キャッチホン II」を利用するには、ご利用の電話会社との契約が必要です。（有料）
- ISDN 回線を利用しているときは、ターミナルアダプタのデータ設定が必要です。
- ブランチ接続（並列接続）をしているときは、キャッチホンが正常に動作しません。
- 電話回線にガス検針器やセキュリティ装置などが接続されている場合は、誤動作することがあります。
- ファクスの送信中や受信中にキャッチホンを受けると、画像が乱れたり、通信が中断することがあります。画像の乱れが気になる場合は「キャッチホン II」のご利用をおすすめします。

キャッチホンで電話を受けた場合

1 「ピピッ」と聞こえたら 消去/キャッチ（キャッチ）を押す

新しくかかってきた相手の声が聞こえます。
待たせている相手の方には保留メロディが流れます。

2 新しくかかってきた相手と通話する

3 最初の相手に戻るときは、消去/キャッチ（キャッチ）を押す

最初の相手に戻ります。

消去/キャッチ（キャッチ）を押すごとに、通話の相手が切り替わります。

キャッチホンを受けなかったときは、相手が電話を切った後もしばらくキャッチホンの着信音が鳴り続けることがあります。

キャッチホンでファクスを受けた場合

1 「ピピッ」と聞こえたら 消去/キャッチ（キャッチ）を押す

「ピーピー」という音が聞こえます。
相手先は保留メロディが流れます。

2 もう一度 消去/キャッチ（キャッチ）を押し、最初の相手に戻る

最初の相手につながります。

3 手短に通話を終えて 消去/キャッチ（キャッチ）を押す

キャッチの相手（ファクス）につながります。

注意

- ファクスを受ける場合は、最初の相手に戻ってから、なるべく手短に話を終えてください。会話が長くなるとファクスが受信できなくなることがあります。

4 親機の モノクロ または カラー を押し、2 かABC【受信】を押す

5 ファクスの受信が終わったら、受話器を戻す

親切受信を【する】に設定していると、消去/キャッチ（キャッチ）を押して「ピーピー」ときこえたときに自動的にファクスを受信することがあります。自動的にファクスを受信したくないときは親切受信を【しない】にしてください。
⇒ 96 ページ「電話に出ると自動的に受ける」

ナンバー・ディスプレイサービスを利用する

本製品では、電話会社（NTT など）との契約によって「ナンバー・ディスプレイサービス」をご利用いただくことができます。

ナンバー・ディスプレイサービスとは

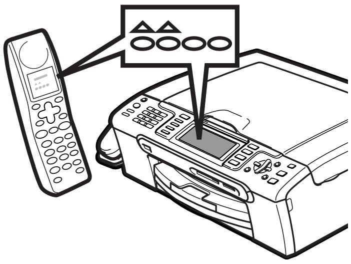
電話がかかってきたときに相手の電話番号をディスプレイに表示する、電話会社のサービスです。サービスの詳細についてはご利用の電話会社にお問い合わせください。

注意

- 本製品の設定だけでは、「ナンバー・ディスプレイサービス」は利用できません。ご利用の電話会社との契約が必要です。（有料）
- ISDN 回線を利用しているときは、ナンバー・ディスプレイ対応のターミナルアダプタの設定が必要です。
- 構内交換機（PBX）に接続しているときは、構内交換機（PBX）がナンバー・ディスプレイに対応していなければ利用できません。
- ブランチ接続（並列接続）をしているときは、ナンバー・ディスプレイが正常に動作しません。
- 電話回線にガス検針器やセキュリティ装置などが接続されている場合は、誤動作することがあります。
- 転送電話など同時に利用できないサービスがあります。
- IP 電話による発信や着信は、契約しているプロバイダや、接続している機器により、ナンバー・ディスプレイの動作が異なります。ご不明な点は、お客さまが契約しているプロバイダ、接続している機器メーカーへお問い合わせください。

電話番号表示機能

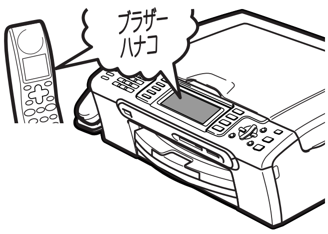
電話がかかってくると、相手の電話番号が液晶ディスプレイに表示されます。



名前表示機能

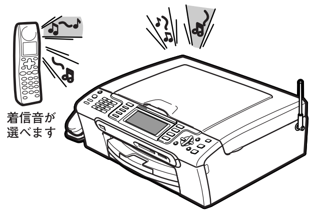
親機と子機の電話帳に登録してある相手から電話がかかってくると、相手の名前が液晶ディスプレイに表示されます。

※ 電話帳に登録してある相手から電話がかかってきた場合は、「ネーム・ディスプレイ」のご契約にかかわらず、本製品に登録された名前が表示されます。



着信音鳴り分け機能

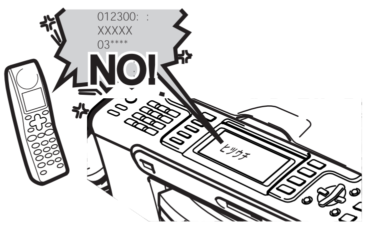
電話番号ごとに着信音を指定できます。
また、迷惑指定にして、特定の番号からかかってきても、着信音を鳴らさないこともできます。



迷惑電話防止／非通知着信拒否／公衆電話拒否機能

迷惑電話などの受けたくない電話がかかってきたときに、着信音が鳴らないように設定できます。
また、相手の電話番号が非通知、または公衆電話の場合、着信を拒否し、お断りメッセージを流します。

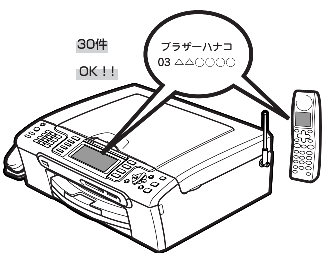
※ ISDN 回線でご利用のターミナルアダプタによっては、着信を拒否できない場合があります。



着信履歴機能

電話がかかってくると、相手の電話番号を記録します。（着信履歴は 30 件まで記録できます。31 件以上になると、古い順に削除されます。）記録した電話番号は次のように活用できます。

- 液晶ディスプレイに表示する
- 「着信履歴」として印刷する（親機のみ）
- 親機または子機の電話帳に登録する
- 記録した電話番号に電話をかける



ナンバー・ディスプレイサービスを設定する

電話会社とのご契約後、ナンバー・ディスプレイサービスを利用するときは【あり】に、利用しないとき、または利用を一時的に中止するときは【なし】に設定します。

【あり】に設定しているときは、「着信鳴り分け」「迷惑電話防止」「着信拒否」「着信拒否モニター」「キャッチホン・ディスプレイ」などが設定できます。また、「着信履歴」を表示したり、「着信履歴リスト」を印刷することができます。お買い上げ時は、ナンバー・ディスプレイ【あり】に設定されています。

注意

- ■ 「ナンバー・ディスプレイ」をご利用いただくためには、電話会社（NTT など）との契約が必要です（有料）。契約していない場合は【なし】にしてください。
- ■ ナンバー・ディスプレイサービスを契約されている場合は、必ず「ナンバー・ディスプレイ」の設定を【あり】にしてください。【なし】に設定すると、電話を受けたとき、すぐに電話が切れてしまう場合があります。

1 メニューを押し、△▽で【初期設定】を選び、OKを押す

2 △▽で【ナンバーディスプレイ】を選び、OKを押す

3 △▽で【ナンバーディスプレイ】を選ぶ

4 ◁または▷で、【あり】または【なし】を選び、OKを押す

設定は【あり】または【なし】から選びます。

- 【あり】：
  ナンバー・ディスプレイが使用できます。（別途、電話会社との契約が必要です）。
- 【なし】：
  ナンバー・ディスプレイが使用できなくなります。

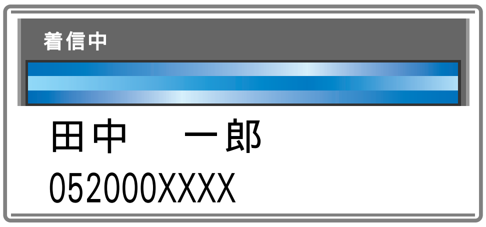
5 停止/終了を押す

設定を終了します。

電話がかかってきたときは

着信音が鳴り、相手の名前や電話番号が表示されます。

親機



子機

ガイセン　チャクシン
タナカ　イチロウ
052000XXXX

● その他の表示例

- 非通知
  相手が電話番号非通知契約のとき、電話番号の先頭に「184」を付けて電話をかけてきたとき
- 公衆電話
  公衆電話からかけてきたとき
- 表示圏外
  相手がサービス対象地域外や新幹線の列車公衆電話からかけてきたとき

【なし】に設定しているときは、【着信鳴り分け設定】【非通知着信拒否】【公衆電話拒否】【着信拒否モニター】【キャッチディスプレイ】などのメニューは表示されません。

ナンバー・ディスプレイサービスを利用するときは、着信回数を 3 回以上に設定してください。2 回以下に設定していると、子機のディスプレイに相手先の電話番号が表示できないことがあります。

電話帳に登録してある相手から電話がかかってきた場合は、「ネーム・ディスプレイ」のご契約にかかわらず、本製品に登録された名前が表示されます。

「ネーム・ディスプレイ」の契約をしている場合は、電話帳に登録していなくても相手の名前を表示することができます。

着信鳴り分けを設定する

[着信鳴り分け]

ナンバー・ディスプレイサービスの設定を【あり】にしているときは、かけてきた相手によって着信音を変えたり、着信音を鳴らす電話機（着信先）を指定したりすることができます。

電話帳に登録した電話番号によって着信音を変える（親機）

お買い上げ時、着信鳴り分けは設定されていません。

1 **メニューを押し、▽△で【初期設定】を選び、OKを押す**

2 **▽△で【ナンバーディスプレイ】を選び、OKを押す**

3 **▽△で【着信鳴り分け設定】を選び、OKを押す**

4 **▽△で【あいうえお順検索】または【番号順検索】を選び、OKを押す**

5 **▽△で着信音を鳴りわけさせたい電話番号を選び、OKを押す**

6 **▽△で着信先を選び、OKを押す**

着信先は【ファクス／迷惑指定／電話】から選びます。

- 【ファクス】
  着信音が鳴らず、自動的にファクスを受信します。
- 【迷惑指定】
  着信音が鳴りません。⇒ 74 ページ「迷惑電話を防止する」
- 【電話】
  親機の着信音が鳴ります。

【電話】を選んだ場合　⇒ 7 へ
【ファクス】【迷惑指定】を選んだ場合　⇒ 8 へ

7 **▽△で着信音を選び、OKを押す**

⇒ 52 ページ「メロディー覧」

8 **停止/終了を押す**

設定を終了します。

電話帳に登録している相手からの着信音を変える（子機）

お買い上げ時、着信鳴り分けは設定されていません。

1 機能/確定 **を押し、▲▼「メイドウオンセッテイ」機能/確定「2. チャクシン ナリワケ」を選び、機能/確定 を押す**

着信鳴り分けの設定画面が表示されます。

```
2. チャクシン ナリワケ

▲▼センタク / カクテイ
```

2 ▲▼ **で着信音を選び、**機能/確定 **を押す**

着信音は、「ベル／アヴェ・マリア／オオキナフルドケイ／ガボット／キラキラボシ／シキヨリ［ハル］／ハナノワルツ」から選びます。

3 切 **を押す**

- 子機では、電話番号によって着信音を個別に設定することはできません。
- 子機の電話帳に登録していない相手から電話がかかってきたときは、通常の着信音が鳴ります。

ナンバー・ディスプレイの利用方法（親機のみ）

迷惑電話を防止する

(1) 「電話帳に登録した電話番号によって着信音を変える（親機）」（72 ページ）の手順 4 までを行う

(2) で着信音を鳴らしたくない電話番号を選び、OK を押す

(3) で【迷惑指定】を選び、OK を押す

(4) 停止/終了 を押す

迷惑指定を設定している相手から電話がかかってきた場合、相手には呼出音が聞こえています。

番号非通知の電話や公衆電話からの着信を拒否する

(1) メニュー を押し、で【初期設定】を選び、OK を押す

(2) で【ナンバーディスプレイ】を選び、OK を押す

(3) で【非通知着信拒否】または【公衆電話拒否】を選ぶ

(4) または で【する】を選び、OK を押す

(5) 停止/終了 を押す

番号非通知の電話がかかってきたときは、着信音を鳴らさずに電話を受け、「恐れ入りますが、電話番号の前に 186 をつけて電話番号を通知しておかけ直しください。」というメッセージを 3 回再生した後、自動的に電話を切ります。

公衆電話から電話がかかってきたときは、着信音を鳴らさずに電話を受け、「公衆電話からおかけになった電話は、都合によりお受けできません。」というメッセージを 3 回再生した後、自動的に電話を切ります。

着信拒否メッセージは、親機のスピーカーから聞くことができます。⇒ 74 ページ「着信拒否モニターを設定する」

ファクスの場合は、自動的に電話を切ります。（ファクスは受信しません。）

着信拒否モニターを設定する

ナンバー・ディスプレイサービスの設定を【あり】にしているときは、非通知着信拒否または公衆電話拒否のときの着信拒否メッセージを本製品のスピーカーから聞くことができます。

(1) メニュー を押し、で【初期設定】を選び、OK を押す

(2) で【ナンバーディスプレイ】を選び、OK を押す

(3) で【着信拒否モニター】を選ぶ

(4) または で【する】を選び、OK を押す

(5) 停止/終了 を押す

スピーカーから着信拒否メッセージが聞こえている間に受話器をとると、電話に出ることができます。

着信履歴を利用する

[着信履歴]

注意

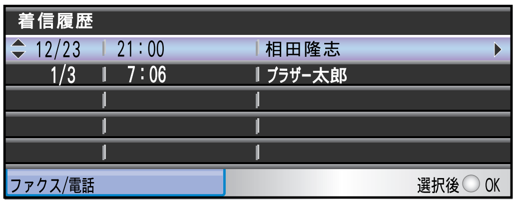
■「ナンバー・ディスプレイサービス」の契約をしていないときは、「着信履歴」は使えません。【着信がありません】（親機）「チャクシンリレキ　ナシ」（子機）と表示されます。

着信履歴を見る

親機の場合

(1) ファクス を押し、▲▼ で【着信履歴】を選び、OK を押す

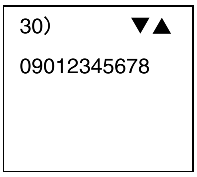
◆ 最新の着信履歴が表示されます。



子機の場合

(1) キャッチ を押す

◆ 着信履歴が表示されます。



着信履歴は最新の 30 件が記録されています。

着信履歴から電話をかけたり、電話帳に登録できます。
⇒ 62 ページ「最近かかってきた相手にかける（着信履歴）」
⇒ 110 ページ「発信履歴・着信履歴から電話帳に登録する」

着信履歴を印刷する（親機のみ）

(1) 記録紙をセットする

(2) メニュー を押し、▲▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押す

(3) ▲▼ で【着信履歴リスト】を選び、OK を押す

(4) モノクロ または カラー を押す

◆ 着信履歴が印刷されます。

(5) 停止/終了 を押す

着信履歴を削除する（親機）

(1) ファクス を押し、▲▼ で【着信履歴】を選び、OK を押す

◆ 最新の着信履歴が表示されます。

(2) ▲▼ で削除したい着信履歴を選び、OK を押す

(3) ▲▼ で【消去】を選び、OK を押す

◆【消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(4) 1 あ を押す

◆ 指定した着信履歴を削除し、一つ前の（より古い）着信履歴が繰り上がって表示されます。

(5) 停止/終了 を押す

履歴を削除する（子機）

1 件のみ削除する場合

(1) 機能/確定 を押し、上下キー で「チャクシンリレキ」または「ハッシンリレキ」を選び、機能/確定 を押す

(2) 上下キー で削除したい履歴を選び、機能/確定 を押す

(3) 上下キー で「1 ケン　ショウキョ」を選び、機能/確定 を押す

(4) 1ア を押す

◆ 選択した履歴が削除されます。

(5) 切 を押す

◆ 設定を終了します。

すべての履歴を削除する場合

(1) 機能/確定 を押し、上下キー で「チャクシンリレキ」または「ハッシンリレキ」を選び、機能/確定 を押す

(2) 機能/確定 を押す

(3) 上下キー で「ゼンケン　ショウキョ」を選び、機能/確定 を押す

(4) 1ア を押す

◆ 子機の着信履歴または発信履歴がすべて削除されます。

ネーム・ディスプレイサービスを利用する

ネーム・ディスプレイは NTT が行っているサービスです。本製品の電話帳に登録していなくても、電話がかかってきたときに相手の名前、電話番号が液晶ディスプレイに表示されます。サービスの詳細については NTT（116：無料）にお問い合わせください。
ネーム・ディスプレイサービスを利用する場合は、ナンバー・ディスプレイの設定を【あり】にしてください。
⇒ 71 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを設定する」

- 子機は対応していません。
- ひかり電話では、ネーム・ディスプレイサービスを契約することができません。
- お客様がご利用されている電話会社が NTT 東日本、NTT 西日本以外の場合、ネーム・ディスプレイサービスを契約することができません。付加サービスの詳細は、ご利用の電話会社にお問い合わせください。
- IP 電話（050 番号）への着信には「発信者名」を表示させることはできません。

かける人

❶ 相手の電話番号をダイヤル

03-1234-5678
ブラザー太郎

❷発信者番号と「発信者名」を通知

受ける人

❸発信電話番号とともに「発信者名」を表示

電話をかけるときに、「発信者名」が発信電話番号とともに相手の電話機に表示されるので、安心して電話に出てもらえます。

ご自分の「発信者名」を通知するには

NTT東日本・NTT西日本にお申し込みください。費用はかかりません。

電話に出る前に、かけてきた相手の「発信者名」が発信電話番号とともに、電話機に表示されるので、安心して電話に出ることができます。

「発信者名」をご自分の電話機に表示させるには

「ネーム・ディスプレイ」、「ナンバー・ディスプレイ」のご契約が必要です。NTT東日本・NTT西日本にお申し込みください。

● 提供地域
全国（NTT 東日本、NTT 西日本のサービス提供地域）※一部交換機の種類などにより提供できない地域があります。

● 発信者名を表示する通話
NTT 東日本および NTT 西日本の加入電話回線から発信され、発信者名を通知する通話について発信者名を通知します。なお、発信者のお客様が「マイライン」でどの会社を選択されていても発信者名を表示します。

● 表示される文字
10 文字以内の漢字などで発信者名が表示されます。

● 料金
月額使用料：住宅用、事務用とも 105 円（INS ネット 1500 については 1,050 円）
別に、「ナンバー・ディスプレイ」のご契約が必要です。
(参考) ナンバー・ディスプレイ料金（2007 年 9 月 1 日現在）

- 月額使用量
  加入電話、ライトプラン：420 円（住宅用）、1,260 円（事務用）
  INS ネット 64、INS ネット 64 ライト：630 円（住宅用）、1,890 円（事務用）
  INS ネット 1500：18,900 円
- 工事料：2,100 円

お申し込み・お問い合わせは

局番なしの「116：無料」

受付時間 9:00 ～ 21:00
（年末年始を除き、土日・祝日も営業しております）

キャッチホン・ディスプレイサービスを利用する

キャッチホン・ディスプレイサービスは、外線通話中にかかってきた相手先の電話番号を液晶ディスプレイに表示する、電話会社のサービスです。
サービスの詳細についてはご利用の電話会社にお問い合わせください。
お買い上げ時は、キャッチホン・ディスプレイ【なし】に設定されています。

注意

- 本製品の設定だけでは、液晶ディスプレイに相手の電話番号は表示されません。「キャッチホン・ディスプレイサービス」をご利用いただくためには、「キャッチホン」または「キャッチホン II」（⇒ 69 ページ「キャッチホンサービスを利用する」）と「ナンバー・ディスプレイサービス」（⇒ 70 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを利用する」）を契約した上で、別途ご利用の電話会社との契約が必要です。（有料）
- ISDN 回線を利用されているときは、ターミナルアダプタのデータ設定が必要です。
- 構内交換機（PBX）に接続しているときは、キャッチホン・ディスプレイが正常に動作しません。
- ブランチ接続（並列接続）をしているときは、キャッチホン・ディスプレイが正常に動作しません。
- 電話回線にガス検針器やセキュリティ装置などが接続されている場合は、誤動作することがあります。
- 子機通話中、キャッチホン・ディスプレイが入ると「ピポッ、ザー」というデータ通信音が聞こえ、通話が途切れます。
- 子機のキャッチホン・ディスプレイの表示は、約 10 秒間です。

1 メニューを押し、▲▼で【初期設定】を選び、OKを押す

2 ▲▼で【ナンバーディスプレイ】を選び、OKを押す

3 ▲▼で【キャッチディスプレイ】を選ぶ

4 ◀または▶で、設定を選び、OKを押す

設定は、【あり／なし】から選びます。
- 【あり】：
  キャッチホン・ディスプレイが設定されます。
- 【なし】：
  キャッチホン・ディスプレイは設定されません。

5 停止/終了を押す

設定を終了します。

第３章

ファクス

基本

応用

通信管理

ファクスを送る

基本

カラーまたはモノクロでファクスを送ります。原稿に合わせて、画質を変更することもできます。

原稿台ガラスからファクスを送る（1 枚のとき）

［自動送信］

1 枚のファクスを送ります。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

注意

■ 原稿台カバーは必ず閉じてください。開けたままファクスを送ると、画像が黒くなることがあります。

2 ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

3 ダイヤルボタンで相手のファクス番号をダイヤルする

- オンフック は押さないでください。
- 受話器をとらないでください。
- 再ダイヤル/ポーズ を押すと、最後にダイヤルした相手にダイヤルできます。

4 モノクロで送るときは モノクロ を、カラーで送るときは カラー を押す

モノクロ を押した場合は、原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。 ⇒手順 5 へ

カラー を押した場合は、原稿の送信が開始されます。

5 2 かABC または モノクロ または カラー を押す

ファクスが送られます。

送信する前にファクスをキャンセルする

(1) 停止/終了 を押す

◆【キャンセル／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(2) 1 あ を押す

◆ 送信が中止されます。

送信した後でファクスをキャンセルする

相手が通話中などの理由でファクスを送ることができなかったときは、5 分おきに 3 回まで「再ダイヤル」を行います。再ダイヤルをやめたい場合は、メニュー【ファクス】から【通信待ち確認】を選んでキャンセルします。（105 ページ）再ダイヤルしてもファクスを送ることができなかったときは、送信レポートが印刷されます。あらかじめ記録紙をセットしておくことをおすすめします。

※ 手動送信（86 ページ）の場合は、自動で再ダイヤルしません。自動送信をする場合は、オンフック を押さずにダイヤルします。

注意

■ 相手先のファクシミリがモノクロの場合は、カラーで送ってもモノクロで受信されます。

■ カラーでファクスを送ると、常に原稿の内容がメモリーに読み取られずに送信（リアルタイム送信）されます。

■ モノクロ原稿とカラー原稿が混在する場合は、すべてモノクロで送信するか、カラー原稿だけ別に送信してください。

■ ファクスをカラーで送ると、モノクロより送信時間が長くかかります。

■ ファクスをカラーで送ると、メモリーに読み込まれずに送信されます。そのため、メモリーを使った送信（同報送信、タイマー送信、とりまとめ送信、ポーリング送信、デュアルアクセス、再ダイヤル）をすることができません。

原稿台ガラスからファクスを送る（2 枚以上のとき）

［自動送信］

モノクロでファクスを送る場合は、複数枚の原稿を送ることができます。このとき、すべての原稿をメモリーに記憶してから送信します。複数枚の原稿を送る場合は、ADF に原稿をセットすると便利です。（⇒ 82 ページ「ADF（自動原稿送り装置）からファクスを送る（MFC-880CDN/CDWN のみ）」）

注意

■ リアルタイム送信を【する】にしている場合は、複数枚の原稿を一度に送ることができません。リアルタイム送信を【しない】にしてください。⇒ 91 ページ「原稿をすぐに送る」

1）1 枚目の原稿を送る

1　1 枚目の原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

注意

■ 原稿台カバーは必ず閉じてください。開けたままファクスを送ると、画像が黒くなることがあります。

2　［ファクス］が黄緑色に点灯していない場合は、［ファクス］を押す

ファクスモードに切り替わります。

3　ダイヤルボタンで相手のファクス番号をダイヤルする

- ［オンフック］は押さないでください。
- 受話器をとらないでください。
- ［再ダイヤル/ポーズ］を押すと、最後にダイヤルした相手にダイヤルできます。

4　［モノクロ］を押す

1 枚目の原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

5　［1 あ］を押す

【次の原稿をセットして／OKを押してください】と表示されます。

2）2 枚目の原稿を送る

6　原稿台に 2 枚目の原稿をセットして、［OK］を押す

2 枚目の原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

- 3 枚目の原稿がある場合 ⇒ 7 へ
- これで送信する場合 ⇒ 8 へ

3）3 枚目の原稿を送る

7　［1 あ］を押し、3 枚目の原稿をセットして、［OK］を押す

送りたい原稿をすべて読み取るまで、この手順をくり返します。

8　最後の原稿を読み取ったら、［2 か ABC］または［モノクロ］を押す

ファクスが送られます。

送信中・印刷中に次のファクスを読み取る（デュアルアクセス）

ファクス送信中や印刷中でも、次に送りたい原稿の読み取りができます。これを「デュアルアクセス」といいます。液晶ディスプレイには、新しいジョブ番号とメモリー残量が表示されます。

※ カラーでファクスを送る場合は、デュアルアクセス機能は無効になります。

ADF（自動原稿送り装置）からファクスを送る（MFC-880CDN/CDWN のみ）

［自動送信］

MFC-880CDN/CDWN には、複数枚の原稿を連続して読み取ることのできる ADF（自動原稿送り装置）が搭載されています。複数枚の原稿を送るときは、ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットしてファクスを送ります。

1 ADF（自動原稿送り装置）に原稿をセットする

⇒ 44 ページ「ADF に原稿をセットする（MFC-880CDN/CDWN のみ）」

2 ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

3 ダイヤルボタンで相手のファクス番号をダイヤルする

- オンフック は押さないでください。
- 受話器をとらないでください。
- 再ダイヤル/ポーズ を押すと、最後にダイヤルした相手にダイヤルできます。

4 モノクロで送るときは モノクロ を、カラーで送るときは カラー を押す

原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終わると、ファクスが送られます。

送信する前にファクスをキャンセルする

(1) 停止/終了 を押す

◆【キャンセル／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(2) 1 あ を押す

◆ 送信が中止されます。

送信した後でファクスをキャンセルする

相手が通話中などの理由でファクスを送ることができなかったときは、5 分おきに 3 回まで「再ダイヤル」を行います。再ダイヤルをやめたい場合は、メニュー【ファクス】から【通信待ち確認】を選んでキャンセルします。（105 ページ）再ダイヤルしてもファクスを送ることができなかったときは、送信レポートが印刷されます。あらかじめ記録紙をセットしておくことをおすすめします。

※ 手動送信（86 ページ）の場合は、自動で再ダイヤルしません。自動送信をする場合は、オンフック を押さずにダイヤルします。

内容を確認してからファクスを送る

［みてから送信］

送信する前に、液晶ディスプレイでファクスの内容を確認できます。

注意

- みてから送信を行うときは、「リアルタイム送信」と「ポーリング受信」を【しない】に設定してください。⇒ 91 ページ「原稿をすぐに送る」、⇒ 98 ページ「本製品の操作で相手の原稿を受ける」
- みてから送信を行うときは、カラーファクス送信はできません。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

注意

- 原稿台カバーは必ず閉じてください。開けたままファクスを送ると、画像が黒くなることがあります。

2 ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

3 ダイヤルボタンで相手のファクス番号をダイヤルする

- オンフック は押さないでください。
- 受話器をとらないでください。
- 再ダイヤル/ポーズ を押すと、最後にダイヤルした相手にダイヤルできます。

4 みてから送信（みるだけ受信）を押す

1 枚目の原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終わると、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

- 2 枚目の原稿がある場合 ⇒ 5 へ
- これで送信する場合 ⇒ 6 へ

5 1 を押し、2 枚目の原稿をセットして、OK を押す

3 枚以上原稿がある場合は、この手順をくり返します。

6 2 を押す

液晶ディスプレイに、これから送るファクスの内容が表示されます。

7 液晶ディスプレイで、ファクスの内容を確認する

以下のボタンが使用できます。

ボタン	操作内容
＊	拡大表示します。
#	縮小表示します。
▲▼	縦方向にスクロールします。
◀ ▶	横方向にスクロールします。
0	90° ずつ右回転します。
7	前のページを表示します。
9	次のページを表示します。

A）ファクスを送る場合

8 モノクロ を押す

ファクスが送られます。

B）ファクス送信を中止する場合

8 停止/終了 を押す

液晶ディスプレイに、【キャンセル／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

9 1 を押す

送信が中止されます。

発信履歴・着信履歴を使ってファクスを送る

最近ダイヤルした相手先にファクスを送る場合は、発信履歴を利用します。また、ナンバー・ディスプレイサービスをご利用の場合は、着信履歴からファクスを送ることができます。

注意

■「ナンバーディスプレイ」をご利用いただくには、ご利用の電話会社との契約が必要です。
⇒ 70 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを利用する」

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

3 ▲▼で【発信履歴】または【着信履歴】を選び、OKを押す

4 ▲▼でファクスを送る相手先を選び、OKを押す

5 ▲▼で【ファクス送信】を選び、OKを押す

6 モノクロで送るときは モノクロ を、カラーで送るときは カラー を押す

ファクスが送られます。

発信履歴や着信履歴を削除する

(1) 「発信履歴・着信履歴を使ってファクスを送る」の手順 3 までの操作を行う

(2) ▲▼で削除する相手先を選び、OK を押す

(3) ▲▼で【消去】を選び、OK を押す

◆【消去しますか？／はい⇒ 1 を押してください／いいえ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(4) 1 を押す

◆ 選んだ番号が消去されます。

(5) 停止/終了 を押す

電話帳・短縮ダイヤルを使ってファクスを送る

あらかじめ電話帳に短縮ダイヤルなどを登録しておくと、かんたんな操作でダイヤルすることができます。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押す

ファクスモードに切り替わります。

3 △▽ で【電話帳 / 短縮】を選び、OK を押す

4 △▽ で【検索】を選び、OK を押す

A）あいうえお順で選ぶ場合

5 △▽ で【あいうえお順検索】を選び、OK を押す

6 △▽ で送り先を選び、OK を押す

「五十音順→アルファベット→数字→記号→名前を登録していない番号」の順に表示されます。
登録している番号が 2 つあるときは、どちらかの番号を選び、OK を押します。

> 行を指定して検索するときは、検索したい行が表記されているダイヤルボタンを押します。
>
> 例）「シミズ」を検索する場合は、3 を押します。
> 「サ行」の先頭が表示されるので、△▽ を押して相手先を選択します。

7 △▽ で【ファクス送信】を選び、OK を押す

8 モノクロで送るときは モノクロ を、

カラーで送るときは カラー を押す

ファクスが送られます。

B）番号順で選ぶ場合

5 △▽ で【番号順検索】を選び、OK を押す

6 △▽ で送り先を選び、OK を押す

登録している番号が 2 つあるときは、どちらかの番号を選び、OK を押します。

7 △▽ で【ファクス送信】を選び、OK を押す

8 モノクロで送るときは モノクロ を、

カラーで送るときは カラー を押す

ファクスが送られます。

C）短縮番号を入力する場合

5 ダイヤルボタンで、2 桁の短縮番号を押す

- **登録している番号が 2 つの場合**

(1)ダイヤルボタンで 2 桁の短縮番号を押した後、△▽ でどちらかの番号を選び、OK を押す

(2) △▽ で【ファクス送信】を選び、OK を押す

6 モノクロで送るときは モノクロ を、

カラーで送るときは カラー を押す

ファクスが送られます。

話をしてから送る

［手動送信］

相手と話をして、ファクスを送ることを伝えてから送ります。お買い上げ時は、画質【標準】（モノクロ）に設定されています。

注意

- 「手動送信」の場合、原稿台ガラスに原稿をセットすると、一度に複数枚のファクスを送ることはできません。（1 回に送ることができるのは 1 枚のみです。）
- 子機で電話をかけたときは、「手動送信」はできません。

1 相手先に電話をかける

⇒ 60 ページ「電話をかける」

2 相手と通話してファクスを送ることを伝え、相手側のファクシミリのスタートボタンを押してもらう

相手先のファクスが応答すると「ピー」という音が聞こえます。

3 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

4 ファクス が黄緑色に点灯していない場合は、ファクス を押す

5 モノクロ を押す

ADF に原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、液晶ディスプレイに【ファクスしますか？／送信 ⇒ 1 を押してください／受信 ⇒ 2 を押してください】と表示されます。　⇒手順 6 へ

6 1 【送信】を押す

原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

7 受話器を戻す

送るのをやめるときは

(1) 停止/終了 を押す

◆【キャンセル／はい⇒ 1 を押してください／いいえ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(2) 1 を押す

◆ ファクスの送信が中止されます。

「話をしてから送る」の手順でファクスを送信したときは、自動再ダイヤルは行われません。同じ相手に再度ダイヤルするときは 再ダイヤル/ポーズ を押します。

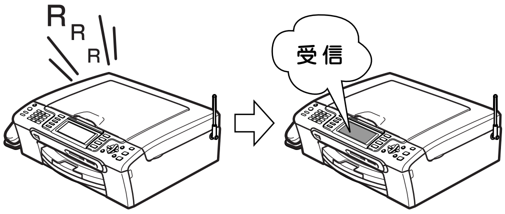
ファクスを受ける

本製品では、以下の方法でファクスを受けることができます。

自動的に受ける

［自動受信］

設定した回数の着信音が鳴り終わると、本製品が自動的にメモリーに受信します。⇒ 88 ページ「受信したファクスをディスプレイで見る (みるだけ受信)/ 印刷する」



注意

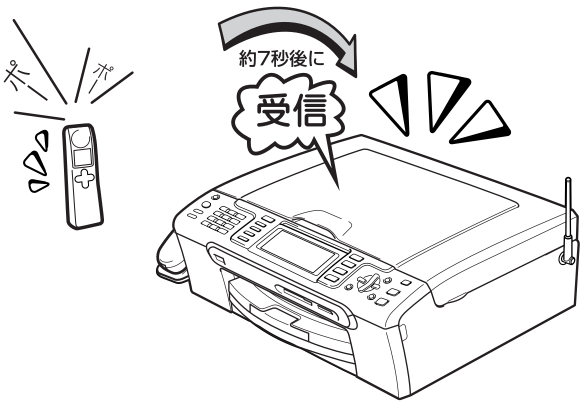
■ 呼出回数を【無制限】に設定しているときは自動的に受信しません。⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

ファクスはメモリーに受信します。受信後に印刷したり、液晶ディスプレイで内容を確認できます。はじめから記録紙で受信したいときは、「みるだけ受信」を設定しないでください。お買いあげ時は、みるだけ受信が【する】に設定されています。（⇒ 89 ページ「ファクスを自動的にプリントする （みるだけ受信を設定する / 解除する）」）

※「みるだけ受信」を設定しないと、液晶ディスプレイで確認したり、後でもう一度印刷したりすることはできません。

子機で受ける

あらかじめ「親切受信」を【する】に設定しておくと、子機を取って約 7 秒後に自動的に受信します。お買い上げ時は親切受信 (⇒ 89 ページ「ファクスを自動的にプリントする（みるだけ受信を設定する / 解除する）」) が【する】に設定されています。



親切受信を設定していないときや、相手と話した後に受信するときは、親機の モノクロ 2 を押して受信します。

電話に出てから受ける

［手動受信］

電話に出た後でファクスを受信します。

1 **受話器を取って電話を受ける**

2 **「ポー、ポー」と音がしていたら、ファクス を押してファクスモードにしてから、モノクロ または カラー を押す**

相手と通話したあとにファクスを受信したいときは、相手へファクスに切り替えることを伝えて モノクロ または カラー を押します。

【ファクスしますか？／送信 ⇒ 1 を押してください／受信 ⇒2を押してください】と表示されます。

【ファクスしますか？】のメッセージが表示されないときは、停止/終了 を押して、モノクロ または カラー を押してください。

3 **2 【受信】を押す**

ファクスを受信します。

4 **受話器を戻す**

親切受信 （⇒ 96 ページ「電話に出ると自動的に受ける」）を【する】に設定している場合は、受話器をとって約 7 秒待つと、自動的にファクスを受信します。

記録紙がなくなったときは

「みるだけ受信」を設定していなくても、以下の場合は、送られてきたファクスを自動的にメモリーに記憶します。（メモリー代行受信）

- 記録紙がなくなったとき
- インクがなくなったとき
- 記録紙が詰まったとき
- 間違ったサイズの記録紙をセットしたとき

液晶ディスプレイの指示に従って操作すると、メモリーに記憶された内容を印刷できます。

※ メモリーがいっぱいになると、それ以降はメモリー代行受信はできません。

※ 電源を抜いたときや停電のときは、数時間以上たつとメモリーに記憶された受信ファクスメッセージが消去されます。

受信したファクスをディスプレイで見る（みるだけ受信）/ 印刷する

［みるだけ受信］

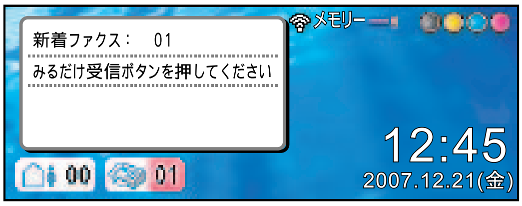
受信したファクスの内容を、液晶ディスプレイで確認できます。お買い上げ時は、みるだけ受信が【する】に設定されています。ファクスはメモリーに受信します。はじめから記録紙で印刷したいときはみるだけ受信を【しない】に設定してください。（⇒ 89 ページ）

注意

■ みるだけ受信に設定していても、カラーファクスを受信したときは、メモリーに記憶せず、本製品で印刷します。

1 ファクスを受信したメッセージが表示されたら、みてから送信 みるだけ受信 を押す

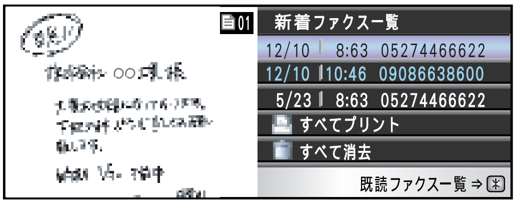
現在メモリーに記憶されているファクスの件数は、液晶ディスプレイの下中央に表示されています。

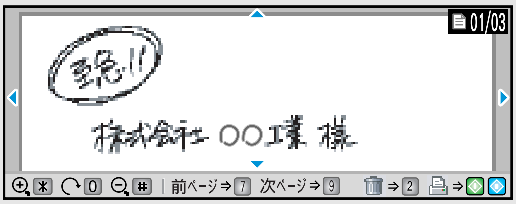


左側にファクスの内容が、右側に新着ファクスの一覧が表示されます。

新着ファクスがないときは、既読ファクスの一覧が表示されます。

2 で確認したいファクスを選び、 を押す





ファクスの内容が全画面に表示されます。

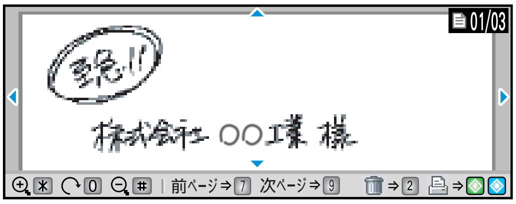
表示されたファクスは、既読ファクスの一覧に移動します。

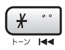
受信したファクスの画像が大きい場合は、表示に時間がかかることがあります。

メモリーに記憶できるファクスは 99 件分です。不要なファクスのデータは削除してください。

既読ファクスの一覧を表示するときは、新着ファクス一覧画面で、 を押してください。

プレビュー画面での操作一覧



ボタン	操作内容
	拡大表示します。 新着ファクスの一覧を表示している場合は、既読ファクスの一覧へ移動します。
	縮小表示します。 既読ファクスの一覧を表示している場合は、新着ファクスの一覧へ移動します。
	縦方向にスクロールします。
	横方向にスクロールします。
	90°ずつ右回転します。
	ファクスを削除します。
	前のページを表示します。
	次のページを表示します。
	プリント前画面へもどるなどの操作を行う画面に移動します。
	受信データ一覧に戻ります。
	ファクスを印刷します。

ファクスを印刷する

(1) 印刷するファクスが表示された状態でOKを押す

(2) ▲▼で、【すべてのページをプリント】または【表示ページのみプリント】を選び、OKを押す

◆ ファクスのデータが印刷されます。

◆【すべてのページをプリント】を選んだ場合は、【すべてのページを消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) 消去する場合は 1 を、メモリーに残す場合は 2 を押す

(4) 終了する場合は 停止/終了 を押す

ファクスをメモリーから消去する

(1) 消去するファクスが表示された状態で、2 を押す

◆【すべてのページを消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(2) 1 を押す

◆ ファクスのデータが消去されます。

すべてのファクスを印刷する

(1) みてから送信 みるだけ受信 を押す

(2) ▲▼で、【すべてプリント】を選び、OK を押す

◆ ファクスのデータがすべて印刷されます。

すべてのファクスを消去する

(1) みてから送信 みるだけ受信 を押す

(2) ▲▼で、【すべて消去】を選び、OK を押す

◆【消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) 1 を押す

◆ ファクスのデータがすべて消去されます。

ファクスを自動的にプリントする（みるだけ受信を設定する / 解除する）

［みるだけ受信］

みるだけ受信を使用するかどうかを設定します。お買い上げ時には【する】に設定されています。【しない】に設定するとファクスを自動的にプリントします。

注意

■ 印刷していないファクスがメモリーに残っている場合は、【みるだけ受信】を【しない】に設定できません。設定をする前に、すべてのファクスデータを消去するか、設定時に画面の表示にしたがって、ファクスを印刷してください。

■「ファクス転送」「PC-FAX 受信」と同時に設定することはできません。

1 メニュー を押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す

2 ▲▼で【受信設定】を選ぶ

3 ▲▼で【みるだけ受信】を選び、OKを押す

4 ◀ または ▶ で【する】または【しない】を選び、OKを押す

- 【すべてのファクスをプリントしますか？】と表示された場合
  本製品のメモリーに、印刷していないファクスデータが残っています。1 を押して、ファクスを印刷してください。印刷されたファクスは、メモリーから消去されます。
- 【ファクスを消去しますか？】と表示された場合
  本製品のメモリーに、印刷済みのファクスデータが残っています。2 を押して、ファクスデータを消去してください。

> ファクス転送や PC-FAX 受信の設定をしていた場合は、ファクス転送や PC-FAX 受信の設定を解除するか確認するメッセージが表示されます。画面の指示に従って、設定を解除します。

5 停止/終了 を押す

ファクスの便利な送りかた

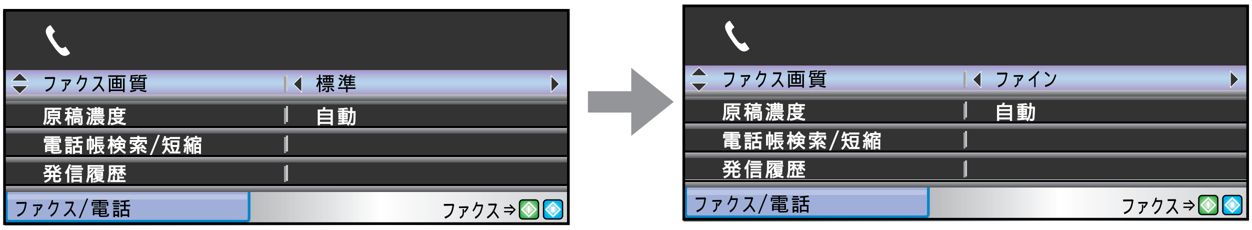
応用

設定を変えてファクスするには

ファクス を押して表示されるメニューから、ファクスを送るときの設定を変えることができます。

で項目を選ぶ

または で設定値を選ぶ



画質や濃度を変更する

［ファクス画質／原稿濃度］

ファクス を押して表示されるメニューから、ファクスを送るときの設定を変えることができます。ここで変更した設定は、ファクスの送信が終わると元に戻ります。設定を保持することもできます。⇒ 91 ページ「変更した設定を保持する」

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押し、 で【ファクス画質】または【原稿濃度】を選ぶ

3 または で、設定を選び、OK を押す

画質は以下の設定から選びます。

- 【標準】：
  お買い上げ時に設定されている標準的な画質モードです。
- 【ファイン】：
  原稿の文字が小さいときに選びます。
- 【スーパーファイン】：
  原稿の文字が新聞のように細かいときに選びます。
- 【写真】：
  原稿に写真が含まれているときに選びます。

濃度は以下の設定から選びます。

- 【自動】：
  読み取った原稿に合わせて自動的に濃度を設定します。
- 【薄く】：
  原稿が濃いときに選びます。
- 【濃く】：
  原稿が薄いときに選びます。

4 相手のファクス番号をダイヤルして、モノクロで送るときは モノクロ を、カラーで送るときは カラー を押す

- みてから送信を行う場合は、ダイヤルした後に、みてから送信 みるだけ受信 を押します。
- みてから送信を行うときは、カラーファクス送信はできません。

画質を変更して、ファクスが送られます。

- ファイン、スーパーファイン、写真モードで送ると、標準に比べて送信時間がかかります。
- 写真モードで送っても、相手のファクシミリが標準モードで受け取ると、画質が劣化します。
- 原稿濃度を濃くすると、全体に黒っぽくなることがあります。
- ファクス画質で【写真】を選択すると、原稿濃度は【自動】で送信されます。
- カラーファクスを送信する場合、画質を【スーパーファイン】や【写真】に設定していても、【ファイン】で送信されます。

原稿をすぐに送る

［リアルタイム送信］

すぐに相手先にダイヤルし、原稿を読み取りながら送ります。ファクスを急いで送りたいとき、送信状況を確認しながら送信したいときに便利です。
メモリーに送信待ち原稿があるときでも、優先して原稿を送ることができます。お買い上げ時は【しない】に設定されています。
ここで変更した設定は、ファクスの送信が終わると元に戻ります。設定を保持することもできます。
⇒ 91 ページ「変更した設定を保持する」

注意

- ■ 原稿台ガラスから送信する場合、原稿は 1 枚しか送信できません。
- ■ リアルタイム送信で指定できる相手先は 1 件です。複数の相手先に 1 回の操作で同じ原稿を送ることはできません。
- ■ ファクスをカラーで送ると、この設定をしなくても常にリアルタイム送信になります。
- ■ 相手先が通話中でも自動再ダイヤルは行いません。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押し、▲▼ で【リアルタイム送信】を選ぶ

3 ◀ または ▶ で、設定を選び、OK を押す

設定は【する／しない】から選びます。

- 【する】：
  リアルタイム送信で送ります。
- 【しない】：
  通常の送信で送ります。

画質など、他の設定も変更する場合は、続けて ▲▼ で項目を選び、◀ または ▶ で設定を選びます。

4 相手のファクス番号をダイヤルして、

モノクロで送るときは モノクロ を、

カラーで送るときは カラー を押す

原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

本製品は通常、読み取った原稿をメモリーに蓄積してから送信する「メモリー送信」を行っていますが、リアルタイム送信を行うと、原稿はメモリーに蓄積されません。

変更した設定を保持する

(1) ファクス を押して表示される画面で、初期値にしたい設定に変更する

保持できる設定は以下のとおりです。

- ファクス画質
- 原稿濃度
- リアルタイム送信

(2) ▲▼ で【設定を保持する】を選び、OK を押す

◆【設定を保持しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) 1 を押す

◆ 現在の設定が初期値として登録されます。

※ 初期値をお買い上げ時の状態に戻すには【設定をリセットする】を選びます。

時間を指定して送る

［タイマー送信］

24 時間以内の指定した時刻にファクスを送信します。通信料の安い時間に送ることで、通信料を節約できます。

注意

- タイマー送信のときは、モノクロで送信されます。（カラーでの送信はできません。）
- タイマー送信できる原稿枚数は、原稿の内容によって異なります。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクスを押し、▲▼で【タイマー送信】を選ぶ

3 ◀または▶で【する】を選び、OKを押す

送信時刻を入力する画面が表示されます。

4 送信時刻を入力し、OKを押す

送信時刻は、24 時間制で入力します。

例）午後 3 時 5 分の場合は、「15:05」と入力します。

1 つ前の画面に戻ります。

画質など、他の設定も変更する場合は、続けて▲▼で項目を選び、◀または▶で設定を選びます。 ⇒ 90 ページ「画質や濃度を変更する」

5 相手先のファクス番号をダイヤルして、モノクロを押す

ADF に原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、液晶ディスプレイに【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

送る原稿が 1 枚の場合　⇒ 7 へ

送る原稿が複数枚の場合　⇒ 6 へ

6 1 を押し、原稿台ガラスに次の原稿をセットしてOKを押す

送りたい原稿について、この手順を繰り返します。

7 2 またはモノクロを押す

設定を終了します。

読み取った原稿が、指定した時刻に送られます。

相手が話し中などで送信できないときは、5 分おきに 3 回まで再ダイヤルします。

タイマー送信が終了すると、自動的にタイマー送信レポートが印刷され、送信結果を確認できます。

同じ相手への原稿をまとめて送る

[とりまとめ送信]

タイマー送信を複数設定している場合、相手先の番号と送信時刻が同じものは、1 回の通信でまとめて送るように設定できます。まとめて送ることで、通信料を節約できます。

注意

- とりまとめ送信のときは、モノクロで送信されます。(カラーでの送信はできません。)
- とりまとめ送信のときは、同じダイヤル方法でダイヤルしてください。

1 ファクスを押し、▲▼で【とりまとめ送信】を選ぶ

2 ◀または▶で【する】を選び、OKを押す

設定は、【する/しない】から選びます。

3 停止/終了を押す

設定を終了します。

海外へ送る

[海外送信モード]

海外へ送信するときは、回線の状況によって正常に送信できないことがあります。このときは海外送信を【する】に設定すると通信エラーを少なくできます。
海外送信モードは送信が終了するとに自動的に【しない】に戻ります。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクスを押し、▲▼で【海外送信モード】を選ぶ

3 ◀または▶で【する】を選び、OKを押す

> 画質など、他の設定も変更する場合は、続けて▲▼で項目を選び、◀または▶で設定を選びます。⇒ 90 ページ「画質や濃度を変更する」

4 相手先のファクス番号をダイヤルして、モノクロを押す

ADF に原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。
原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、液晶ディスプレイに【次の原稿はありますか?/はい⇒1を押してください/いいえ⇒2を押してください】と表示されます。
送る原稿が 1 枚の場合 ⇒ 6 へ
送る原稿が複数枚の場合 ⇒ 5 へ

5 1 を押し、原稿台ガラスに次の原稿をセットしてOKを押す

送りたい原稿について、この手順を繰り返します。

6 2 またはモノクロを押す

ファクスが送られます。

相手の操作で原稿を送る

[ポーリング送信]

本製品に原稿を登録しておくと、ポーリング機能のある他のファクシミリからその原稿を自由に受信することができます。これを「ポーリング送信」といいます。

また、受信側と送信側が同じパスワードを使用することによって、パスワードを知っている人だけが原稿を受信できる「機密ポーリング送信」を行うこともできます。

> 機密ポーリング送信は、相手側のファクシミリもブラザー製の場合のみ行えます。

注意

- 相手側のファクシミリにポーリング機能がない場合は、この機能が利用できないことがあります。
- ポーリング送信のときは、モノクロで送信されます。（カラーでの送信はできません。）
- ポーリング通信の場合、通信料は受信側の負担となります。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押し、▲▼ で【ポーリング送信】を選ぶ

3 ◀ または ▶ で【標準】または【機密】を選び、OK を押す

4 【機密】を選んだ場合は、4 桁のパスワードを入力して、OK を押す

> 画質など、他の設定も変更する場合は、続けて ▲▼ で項目を選び、◀ または ▶ で設定を選びます。⇒ 90 ページ「画質や濃度を変更する」

5 モノクロ を押す

ADF に原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、液晶ディスプレイに【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

送る原稿が 1 枚の場合　⇒ 7 へ

送る原稿が複数枚の場合　⇒ 6 へ

6 1 あ を押し、原稿台ガラスに次の原稿をセットして OK を押す

送りたい原稿について、この手順を繰り返します。

7 2 かABC または モノクロ を押す

原稿を読み取り、メモリーに記憶します。

> ポーリング送信が終了すると、自動的に「ポーリングレポート」が印刷され、送信結果を知らせてくれます。
>
> ポーリング送信を解除したいときは、メニュー【ファクス】から【通信待ち確認】を選んで解除します。⇒ 105 ページ「送信待ちファクスを確認・解除する」

複数の相手先に同じ原稿を送る

[同報送信]

1 回の操作で複数の相手に同じ原稿を送ります。送信先は、ダイヤルボタン・短縮ダイヤル・グループダイヤルから、合わせて最大 250 箇所まで指定できます。

注意

■ 同報送信のときは、モノクロで送信されます。（カラーでの送信はできません。）

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 ファクス を押し、▽△ で【同報送信】を選び、OK を押す

3 ▽△ で【番号追加】を選ぶ

4 相手先のファクス番号をダイヤルして、OK を押す

電話帳に登録されている短縮ダイヤルやグループダイヤルから相手先を選ぶ場合は、▽ で【電話帳検索】を選び、OK を押して設定できます。

グループダイヤルで相手先を指定するには、事前にグループダイヤルを設定する必要があります。
⇒ 111 ページ「グループダイヤルを登録する」

5 手順 3、4 と同様に 2 件目以降の相手先を選ぶ

6 すべての相手先を選び終わったら、▽△ で【確定】を選び、OK を押す

7 モノクロ を押す

ADF に原稿をセットしたときは、原稿の読み取りが開始され、ファクスが送られます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、液晶ディスプレイに【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

送る原稿が 1 枚の場合　⇒ 9 へ

送る原稿が複数枚の場合　⇒ 8 へ

8 1 を押し、原稿台ガラスに次の原稿をセットして OK を押す

送りたい原稿について、この手順を繰り返します。

9 2 または モノクロ を押す

原稿を読み取り、指定した相手先にファクスが送られます。

すべての相手先に送り終わると、自動的に「同報送信レポート」が印刷されます。

同報送信レポートでは、指定した相手先に正常に送信できたかどうかを確認できます。エラーなどで送ることのできなかった相手先がある場合は、個別に送り直してください。

送るのをやめるときは

メニュー【ファクス】から【通信待ち確認】を選んでキャンセルします。
⇒ 105 ページ「送信待ちファクスを確認・解除する」

- 相手先を重複して指定したときは、自動的に重複した相手先を削除します。
- 送信できる枚数は、メモリーの残量によって制限されます。
- 原稿読み込み中に【メモリーがいっぱいです】と表示されたら、停止/終了 を押して送信を中止するか、モノクロ を押して読み込まれた分だけ送ります。

ファクスの便利な受けかた

電話に出ると自動的に受ける

[親切受信]

受話器をとったときに相手がファクスだった場合、受話器を上げたまま約７秒待つと自動的にファクスを受信します。
お買い上げ時は【する】に設定されています。

1 メニューを押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す

2 ▲▼で【受信設定】を選び、OKを押す

3 ▲▼で【親切受信】を選ぶ

4 ◁または▷で【する】を選び、OKを押す

設定は【する／しない】から選びます。
- 【する】：親切受信をする
- 【しない】：親切受信をしない

5 停止/終了を押す

設定を終了します。

注意

■ 通話中、または外部からの音が入ったとき突然ファクスに切り替わってしまう場合は、「親切受信」の設定を【しない】にしてください。

親切受信を設定した場合のファクスの受け方

(1) 着信音が鳴ったら、受話器をとる
◆「ポー、ポー」と音が聞こえます。

(2) そのまま７秒待つ
◆７秒後に、自動的にファクスが受信されます。

(3) 液晶ディスプレイに【受信中】と表示されたら、受話器を戻す

- ファクスの受信が始まったら受話器を置いてください。子機で受けたときは子機を充電器に戻してください。
- 本製品にファクスが送られてきたとき、自動受信を開始する前に電話を受けると「ポー、ポー」という音が聞こえます。親切受信を設定していない場合にファクスを受信したいときは、モノクロまたはカラーを押した後、2を押します。

- 回線の状態により、「ポー、ポー」という音が聞こえても、自動的にファクスを受信しないときがあります。このようなときは、モノクロまたはカラーを押した後、2を押して、手動でファクスを受信してください。
- 親切受信は、親機または子機で電話に出た後、約40秒間有効です。40秒経過したあとに「ポーポー」という音が聞こえても、自動的にファクスを受信しません。この場合は、親機で電話に出たまま親機のモノクロまたはカラーを押した後、2を押して手動でファクスを受信します。

自動的に縮小して受ける

［自動縮小］

A4 の長さを超える原稿が送信された場合、自動的に A4 サイズの記録紙に収まるように縮小して印刷します。
お買い上げ時は【する】に設定されています。
ファクスが 2 枚に分かれて印刷されるときは【する】に設定してください。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【受信設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【自動縮小】を選ぶ

4 ◁ または ▷ で【する】を選び、OK を押す

設定は【する／しない】から選びます。

- 【する】：自動縮小受信をする
- 【しない】：自動縮小受信をしない

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

- 原稿の長さが約 420mm 以内のときは、長さに応じて自動縮小して印刷されます。
- 原稿の長さが約 420mm 以上のときは、縮小せず等倍のままで複数枚の記録紙に分割して印刷されます。
- A3 や B4 の原稿が送信された場合は、送信側で縮小して送信されます。このため、自動縮小受信を【しない】にしても縮小して印刷されます。

本製品の操作で相手の原稿を受ける

［ポーリング受信］

本製品から操作して、相手側のファクシミリにセットされた原稿を受けます。（これを「ポーリング受信」といいます。）
ファクス情報サービスなどから情報を受けるときに使用します。ポーリング受信をする時刻を指定したり、パスワードが設定されている「機密ポーリング受信」も行えます。

相手がブラザー製のファクシミリの場合に、機密ポーリング受信が行えます。ただし、相手先のファクシミリにポーリング機能がない場合は、この機能が利用できないことがあります。

注意

- ポーリング通信の場合、通信料は受信側の負担となります。
- 相手側のファクシミリがポーリング送信の準備をしていないときは、受信できません。

1 ファクス を押し、▲▼ で【ポーリング受信】を選ぶ

2 ◀ または ▶ で設定を選び、OK を押す

- 【標準】：
  通常のポーリング受信を行う場合に選びます。
- 【機密】：
  パスワードが設定されている場合に選びます。
- 【タイマー】：
  ポーリング受信を行う時刻を設定する場合に選びます。
- 【しない】：
  ポーリング受信を行いません。

3 （【機密】を選んだ場合）4 桁のパスワードを入力して、OK を押す
（【タイマー】を選んだ場合）受信時刻を入力し、OK を押す

時刻は 24 時間制で入力します。
例）午後 3 時 5 分の場合は、「15:05」

4 相手先のファクス番号をダイヤルし、モノクロ または カラー を押す

相手先のファクス番号を電話帳から選ぶこともできます。

ファクスを受信します。

本製品では、各種のファクス情報サービスを利用できます。ファクス情報サービスにはガイダンス方式（音声が聞こえるもの）とポーリング方式（ピーと音がするもの）があります。各種サービスに合わせて操作してください。

ダイヤル回線をお使いのお客様は、情報サービスの暗証番号などを電話帳に登録する場合、登録する暗証番号の前に ＊ を入力してください。

複数の相手先から原稿を受信する場合は、手順 4 で ▲▼【同報送信】OK【番号追加】より相手先のファクス番号を入力して OK を押す、という操作を繰り返します。すべての相手先のファクス番号を設定したら、【確定】を選び、OK を押します。その後、モノクロ を押すと、ファクスが受信されます。

タイマーポーリング受信を解除したいときは、メニュー【ファクス】から【通信待ち確認】を選んで解除します。
⇒ 105 ページ「送信待ちファクスを確認・解除する」

ファクスを転送する

［ファクス転送］

受信したファクスを別のファクシミリに転送します。お買い上げ時は【オフ】に設定されています。

注意

- 「ファクス転送」は、「みるだけ受信」「PC-FAX 受信」「留守録転送」「メモリー受信」と同時に設定することはできません。
- ファクス転送を設定すると、本製品でカラーファクスは受信できません。（相手のファクシミリによっては、モノクロに変換して受信します。）

1 メニューを押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す

2 ▲▼で【応用機能】を選び、OKを押す

3 ▲▼で【転送／メモリー受信】を選び、OKを押す

4 ▲▼で【ファクス転送】を選び、OKを押す

5 ダイヤルボタンで転送先のファクス番号を入力し、OKを押す

すでに転送先のファクス番号が登録されている場合は、登録済みのファクス番号が表示されます。

転送先のファクス番号をを変更する場合は ▲▼ で【変更する】を選び、OK を押します。

6 ▲▼で本製品で印刷するかしないかを選び、OKを押す

- 【本体でも印刷する】：
  受信したファクスを転送すると同時に、本製品で印刷します。
- 【本体では印刷しない】：
  受信したファクスを転送するだけで、本製品で印刷しません。

7 停止/終了 を押す

設定を終了します。

転送先のファクシミリが通話中のときは、自動的に 5 分おきに 3 回まで再ダイヤルされます。

ファクス転送が終了すると、メモリーに保存されたファクスは自動的に消去されます。

受信したファクスをパソコンに送る

[PC-FAX 受信]

受信したファクスメッセージを本製品と接続しているパソコンに転送できます。パソコンと接続されていない場合は、受信したファクスメッセージをメモリーに記憶し、パソコンに接続したときにまとめて転送します。パソコンでファクスメッセージを受信した後、ファクスメッセージは本製品のメモリーから消去されます。

注意

- ■「PC-FAX 受信」は、「みるだけ受信」「ファクス転送」「留守録転送」「メモリー受信」と同時に設定することはできません。
- ■【PC ファクス受信】に設定していても、カラーファクスを受信したときは、パソコンに転送せず本製品で印刷します。
- ■ PC-FAX 受信は Windows® でのみ使用できます。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【応用機能】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【転送／メモリー受信】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【PC ファクス受信】を選び、OK を押す

5 ▲▼ で受信するパソコンの名前を選び、OK を押す

USB 接続しているパソコンを選ぶ場合は、< USB >を選びます。

注意

- ■ このとき、PC-FAX 受信が起動しているパソコンしか選択できません。受信するパソコンの名前が表示されない場合は、パソコン上で PC-FAX 受信を起動してください。

すでに受信するパソコンが選択されている場合、受信先のパソコンを変更するときは ▲▼ で【変更する】を選び、OK を押します。そのあと、受信するパソコンを選び、OK を押してください。

6 ▲▼ で本製品で印刷するかしないかを選び、OK を押す

- 【本体でも印刷する】：
  受信したファクスを転送すると同時に、本製品で印刷します。
- 【本体では印刷しない】：
  受信したファクスを転送するだけで、本製品で印刷しません。

7 停止/終了 を押す

設定を終了します。

パソコンで受信したファクスを確認・印刷する方法については、画面で見るマニュアルをご覧ください。
⇒画面で見るマニュアル「パソコン活用」－「PC ファクス (Windows®)」－「ファクスをパソコンで受ける」

手順 6 で【本体では印刷しない】に設定して、パソコンからファクスを取り出さないまま【オフ】にすると【すべてのファクスをプリントしますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。設定を解除しないでファクスの内容をメモリーに残しておくときは、2 を押してください。1 を押すとメモリーに蓄積されているファクスが印刷されます。

ファクスをメモリーで受信する

［メモリー受信］

メモリー受信を設定すると、受信したファクスを印刷するとともに本製品のメモリーに記憶します。お買い上げ時は【オフ】に設定されています。

注意

- 「メモリー受信」は、「ファクス転送」「PC-FAX 受信」「留守録転送」と同時に設定することはできません。
- メモリー受信を設定すると、本製品でカラーファクスは受信できません。（相手のファクシミリによっては、モノクロに変換して受信します。）

1 メニュー を押し、△▽ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 △▽ で【応用機能】を選び、OK を押す

3 △▽ で【転送／メモリー受信】を選び、OK を押す

4 △▽ で、【メモリー受信】を選び、OK を押す

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

メモリー受信は最大 99 通信または 400 ページまでできます。ただし、メモリーの残量や原稿の内容によって、メモリー受信できる枚数は変化します。

メモリー受信したファクスを印刷する

みるだけ受信を【しない】に設定している場合に、本製品のメモリーに記憶されているファクスメッセージを印刷します。印刷したファクスメッセージは、メモリーから消去されます。

1 メニュー を押し、△▽ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 △▽ で【応用機能】を選び、OK を押す

3 △▽ で【ファクス出力】を選び、OK を押す

4 モノクロ または カラー を押す

メモリーに記憶されていたファクスメッセージが印刷されます。

印刷されたファクスメッセージは、メモリーから消去されます。

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

ファクスメッセージをメモリーから消去する

本製品のメモリーに記憶されているファクスメッセージを、すべて消去します。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【応用機能】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【転送／メモリー受信】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【オフ】を選び、OK を押す

【ファクスを消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

5 1 あ を押す

メモリーからすべてのファクスメッセージが消去されます。
メモリー受信の設定が解除されます。

6 停止／終了 を押す

設定を終了します。

通信状態を確かめる

通信管理

本製品では、ファクスの送受信についてのレポートを印刷したり、液晶ディスプレイで送信待ちファクスを確認したりできます。

通信管理レポートを印刷する

[通信管理レポート]

最近送受信した 200 件分の通信結果を印刷します。お買い上げ時は、50 件ごとに印刷する設定になっています。

すぐに印刷するとき

1 記録紙をセットする

2 メニュー を押し、▲▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【通信管理レポート】を選び、OK を押す

4 モノクロ または カラー を押す

通信管理レポートが印刷されます。

5 印刷が終了したら 停止/終了 を押す

定期的に印刷するとき

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【レポート設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【通信管理レポート】を選ぶ

4 ◀ または ▶ で印刷間隔を選び、OK を押す

印刷間隔は、【レポート出力しない／ 50 件ごと／ 6 時間ごと／ 12 時間ごと／ 24 時間ごと／ 2 日ごと／ 7 日ごと】から選びます。

A)【7 日ごと】を選んだ場合

(1) 印刷時間を入力し、OK を押す

(2) ◀ または ▶ で曜日を選び、OK を押す

(3) 停止/終了 を押す

◆ 通信管理レポートが設定されます。

B)【2 日ごと／ 24 時間ごと／ 12 時間ごと／ 6 時間ごと】を選んだ場合

(1) 印刷時間を入力し、OK を押す

(2) 停止/終了 を押す

◆ 通信管理レポートが設定されます。

C)【レポート出力しない／ 50 件ごと】を選んだ場合

(1) 停止/終了 を押す

◆ 通信管理レポートが設定されます。

定期的に通信管理レポートが印刷されると、レポートの内容はメモリーから消去されます。

送信レポートを印刷する

[送信レポート]

送信結果を印刷します。お買い上げ時は、送信エラー時に、ファクスの 1 ページ目が印刷されるように設定されています。

すぐに印刷するとき

1. **記録紙をセットする**
2. **メニューを押し、▲▼で【レポート印刷】を選び、OKを押す**
3. **▲▼で【送信レポート】を選び、OKを押す**
4. **モノクロまたはカラーを押す**

   送信レポートが印刷されます。
5. **印刷が終了したら 停止/終了 を押す**

印刷するタイミングと内容を設定する

1. **メニューを押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す**
2. **▲▼で【レポート設定】を選び、OKを押す**
3. **▲▼で【送信レポート】を選ぶ**
4. **◁または▷で設定を選び、OKを押す**

   設定は【オン／オン+イメージ／オフ／オフ+イメージ】から選びます。
   - 【オン】：
     ファクス送信後に、毎回結果レポートを印刷します。
   - 【オン+イメージ】：
     ファクス送信後に、毎回結果レポートと 1 ページ目の画像を印刷します。
   - 【オフ】：
     送信エラーがあるときだけ、結果レポートを印刷します。
   - 【オフ+イメージ】：
     送信エラーがあるときだけ、結果レポートと送信したファクスの 1 ページ目を印刷します。

   リアルタイム送信（⇒ 91 ページ「原稿をすぐに送る」）の場合は、画像は印刷されません。
5. **停止/終了 を押す**

   設定を終了します。

送信待ちファクスを確認・解除する

タイマー送信など、設定している内容を確認し、解除できます。

1 メニューを押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す

2 ▲▼で【通信待ち確認】を選び、OKを押す

3 ▲▼で確認または解除する設定を選び、OKを押す

【解除しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

4 解除する場合は、1 を押す

送信待ちのファクスが解除されます。

5 停止/終了を押す

設定を終了します。

Memo

第４章

電話帳

電話帳

リモートセットアップ

親機の電話帳を利用する　電話帳

よく電話をかける相手や緊急時の連絡先などを電話帳に登録します。さらに、ナンバー・ディスプレイサービスをご利用の場合は、相手先に応じた着信音の鳴り分けや、着信拒否などを設定できます。（⇒ 71 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを設定する」）また、複数の相手先をグループダイヤルに登録すると、ひとつのグループ番号を指定するだけで複数の相手先にファクスを送ることができます。

> 「リモートセットアップ」を使用して、パソコンから簡単に電話帳に登録することもできます。⇒ 115 ページ「パソコンを使って電話帳に登録する」

電話帳に登録する

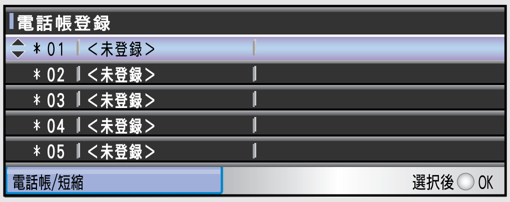
［電話帳／短縮］

相手先の電話（またはファクス）番号と名称を、2 桁の短縮番号 00 ～ 99（最大 100 件）に登録します。

1 △ を押す

2 △▽ で【電話帳登録】を選び、OK を押す

電話帳の登録画面が表示されます。



3 △▽ で空いている番号を選び、OK を押す

4 相手先の名前を入力し、OK を押す

名前は 10 文字まで入力できます。読みがなは、自動的に 16 文字まで入力されます。

⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」

5 読みがなを編集し、OK を押す

読みがなを編集する必要がない場合は、そのまま OK を押します。

6 【番号 1】に登録する相手先の電話番号を入力し、OK を押す

電話・ファクス番号は 20 桁まで入力できます。入力できる文字は、以下の通りです。

- 数字（0 ～ 9）
- 記号（＊、＃）
- スペース
  ▷ を押す
- ポーズ（p）
  再ダイヤル/ポーズ を押す

※電話番号にハイフンは入力できません。

7 同様の手順で【番号 2】に登録する相手先の電話番号を入力し、OK を押す

【番号 2】を登録しない場合は、そのまま OK を押してください。

8 △▽ で【確定】を選び OK を押す

9 停止/終了 を押す

短縮ダイヤルが登録されます。

注意

■ 電話帳にファクス番号を間違って登録すると、自動再ダイヤルなどの際に、間違った相手を何度も呼び出すことになります。新しくファクス番号を登録したときは、電話帳リストを印刷して確認することをおすすめします。⇒ 112 ページ「電話帳リストを印刷する」

短縮ダイヤルを忘れてしまったときは、電話帳リスト（⇒ 112 ページ「電話帳リストを印刷する」）を印刷すると確認できます。

こんなときは～電話番号を登録するとき～

(A) **「186」または「184」を付ける場合**

同一市内であっても必ず市外局番を付けて電話番号を登録してください。市外局番を付けずに登録すると、着信時に相手の名前が表示されなかったり、着信鳴り分けができなくなります。
例）
○ 186 XXX XXX XXXX
（市外局番）（市内局番）（相手先番号）
× 186 XXX XXXX
（市内局番）（相手先番号）

(B) **構内交換機（PBX）で“0”発信の場合**

“0”の後にポーズ (約 3 秒の待ち時間）を入れてください。

(C) **国際電話の場合**

国番号の後にポーズ（約 3 秒の待ち時間）を入れてください。

- 「マイライン」「マイラインプラス」の国際区分に登録されている場合
  010+ 国番号 + 市外局番 + 電話番号
- 「マイライン」「マイラインプラス」の国際区分に登録されていない場合
  （国際電話サービス会社指定の番号）+010+ 国番号 + 市外局番 + 電話番号

※ 入力したポーズは「p」で表示されます。

電話帳から電話をかける

⇒ 63 ページ「電話帳からかける」

電話帳の内容を変更する

(1) **「電話帳に登録する」の手順 ❸ で、変更したい相手先を [▲▼] で選び、[OK] を押す**

(2) **[▲▼] で【変更】を選び、[OK] を押す**

(3) **[▲▼] で変更したい項目を選び、[OK] を押す**

(4) **名前や電話番号を入力し直し、[OK] を押す**

複数の項目を変更する場合は、手順（3）（4）をくり返します。

(5) **[▲▼] で【確定】を選び、[OK] を押す**

◆ 変更した内容が反映されます。

(6) **[停止/終了] を押す**

電話帳の内容を削除する

(1) **「電話帳に登録する」の手順 ❸ で削除したい番号を [▲▼] で選び [OK] を押す**

(2) **【消去】を選び、[OK] を押す**

◆【消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) **[1 あ] を押す**

◆ 選んだ番号が削除されます。
※ 登録している番号が 2 つあるときは、手順 1 ～ 3 をくり返して 2 つの番号を削除すると、相手先が削除されます。

発信履歴・着信履歴から電話帳に登録する

注意

■「ナンバー・ディスプレイサービス」の契約をしていないときは、「着信履歴」は使えません。
■ 電話帳に同じ番号や同じ相手先名がすでに登録されていても、重複して登録されます。

1 ファクス を押し、 で【発信履歴】または【着信履歴】を選び、OK を押す

最新の履歴が表示されます。

履歴は最新の 30 件が記録されています。

2 で電話帳に登録したい番号を選び、OK を押す

3 で【電話帳登録】を選び、OK を押す

電話帳画面が表示されます。
番号 1、番号 2 ともに空いている短縮番号のリストが表示されます。

4 で短縮番号を選び、OK を押す

5 登録したい相手先の名前を入力し、OK を押す

名前は 10 文字まで入力できます。読みがなは、自動的に 16 文字まで入力されます。

⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」

6 読みがなを編集し、OK を押す

7 【番号 1】に選択した番号が入力されていることを確認して、OK を押す

8 【番号 2】に設定する番号を入力し、OK を押す

【番号 2】を登録しない場合は、そのまま OK を押してください。

9 で【確定】を選び OK を押す

選択した番号が電話帳に登録されます。

10 停止/終了 を押す

グループダイヤルを登録する

[電話帳／グループ]

電話帳に登録した複数の相手先を、1 つのグループとしてまとめて登録します。これを「グループダイヤル」といいます。グループダイヤルは、ファクスを同報送信 (⇒ 95 ページ「複数の相手先に同じ原稿を送る」) をするときに使用します。グループは、最大 6 つまで登録でき、1 つのグループに最大 198 箇所（短縮番号に、電話番号が 2 つ登録されている場合）の相手先を登録できます。

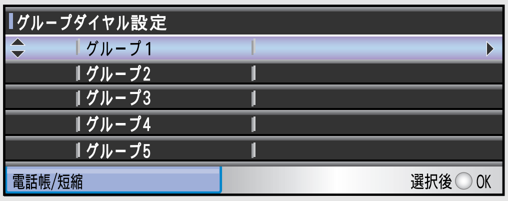
注意

■ グループダイヤルを登録する前に、電話帳にファクス番号を登録してください。ファクス番号をそのままグループダイヤルに登録することはできません。

1 △ を押す

2 で【グループ登録】を選び、OK を押す

グループダイヤルの登録画面が表示されます。



3 で登録先のグループを選び、OK を押す

空いている短縮番号のリストが表示されます。

4 で短縮番号を選び、OK を押す

5 で【番号追加】を選び、OK を押す

6 グループに登録する相手先を選ぶ

以下の 2 通りの方法があります。

A）あいうえお順で選ぶ場合

(1) で【あいうえお順検索】を選び、OK を押す

(2) で登録する相手先を選び、OK を押す

B）番号順で選ぶ場合

(1) で【番号順検索】を選び、OK を押す

(2) で登録する相手先を選び、OK を押す

登録する相手先の数だけ手順 5、6 をくり返します。

7 登録する番号をすべて設定したら、 で【確定】を選んで、OK を押す

グループダイヤルが電話帳に登録されます。

8 停止/終了 を押す

設定を終了します。

途中で登録をやめると、登録中のデータは破棄されます。

注意

■ 間違った番号を登録すると、自動再ダイヤルなどの際に、間違った相手を何度も呼び出すことになります。新しくグループを登録したときは、電話帳リストを印刷して確認することをおすすめします。
⇒ 112 ページ「電話帳リストを印刷する」

グループ名を変更する

(1) 「グループダイヤルを登録する」の手順 ❸ で、名前を変更したいグループを選び、OK を押す

(2) ▲▼ で【グループ名変更】を選び、OK を押す

(3) ダイヤルボタンでグループ名を入力し、OK を押す
⇒ 202 ページ「親機での文字の入れかた」
◆ グループ名が変更されます。

(4) ▲▼ で【確定】を選び、OK を押す
◆ 変更内容が反映されます。

(5) 停止/終了 を押す

グループダイヤルから相手先を削除する

(1) 「グループダイヤルを登録する」の手順 ❸ で、削除したい相手先が入っているグループを選び、OK を押す

(2) 削除する相手先を ▲▼ で選び、OK を押す
◆【消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) 1 を押す
◆ 選んだ相手先が削除されます。

(4) ▲▼ で【確定】を選び、OK を押す
◆ 変更内容が反映されます。

(5) 停止/終了 を押す

グループダイヤルを削除する

(1) 「グループダイヤルを登録する」の手順 ❸ で、削除したいグループを選び、OK を押す

(2) ▲▼ で【消去】を選び、OK を押す
◆【消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(3) 1 を押す
◆ グループが削除されます。

(4) 停止/終了 を押す

電話帳リストを印刷する

[電話帳リスト]

電話帳に登録された内容を印刷します。登録した電話番号に間違いがないかを確認するとき、登録した内容を忘れてしまったときなどにお使いいただくと便利です。

1 記録紙をセットする

⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」

2 メニュー を押し、▲▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【電話帳リスト】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【あいうえお順】または【番号順】を選び、OK を押す

5 モノクロ または カラー を押す

電話帳リストが印刷されます。

6 停止/終了 を押す

設定を終了します。

子機の電話帳を利用する

電話帳には 100 件まで登録できます。

電話帳に登録する

1 で「デンワチョウトウロク」を選び、機能 確定 を押す

2 名前を入力し、機能 確定 を押す

名前は 11 文字まで入力できます。

⇒ 204 ページ「子機での文字の入れかた」

3 電話番号を入力し、機能 確定 を押す

電話番号は 20 桁まで入力できます。(数字、＊、#、P（ポーズ）のみ。)

電話番号が登録されます。

4 切 を押す

ナンバー・ディスプレイサービスを契約しているときは、電話帳に登録した相手先からの着信音を変更できます。

⇒ 73 ページ「電話帳に登録している相手からの着信音を変える（子機）」

「186」を付けて登録する場合は、国際電話、構内交換機をお使いの場合は、以下のページをご覧ください。

⇒ 196 ページ「こんなときは」

電話帳の内容を変更する

(1) を押す

(2) で変更したい電話帳データを選び、機能 確定 を押す

(3) で「ヘンコウ」を選び、機能 確定 を押す

(4) 「電話帳に登録する」の手順 **2** 以降の手順で登録内容を変更する

※ 変更しない項目は、確定を押すと次の手順へ進むことができます。

電話帳の内容を削除する

(1) を押す

(2) で削除したい電話帳データを選び、機能 確定 を押す

(3) で「ショウキョ」を選び、機能 確定 を押す

(4) 1ア を押す

◆ 選んだ電話帳データが削除されます。

注意

■ 親機と子機間、または子機どうしの間で電話帳データを転送することはできません。

発信履歴・着信履歴から電話帳に登録する

注意

- 「ナンバー・ディスプレイサービス」の契約をしていないときは、「着信履歴」は使えません。

1. **機能/確定 を押す**
2. **▲▼ で「ハッシンリレキ」または「チャクシンリレキ」を選び、機能/確定 を押す**
3. **▲▼ で登録する番号を選び、機能/確定 を押す**
4. **▲▼ で「デンワチョウトウロク」を選び、機能/確定 を押す**
5. **名前を入力し、機能/確定 を押す**

   名前は 11 文字まで入力できます。

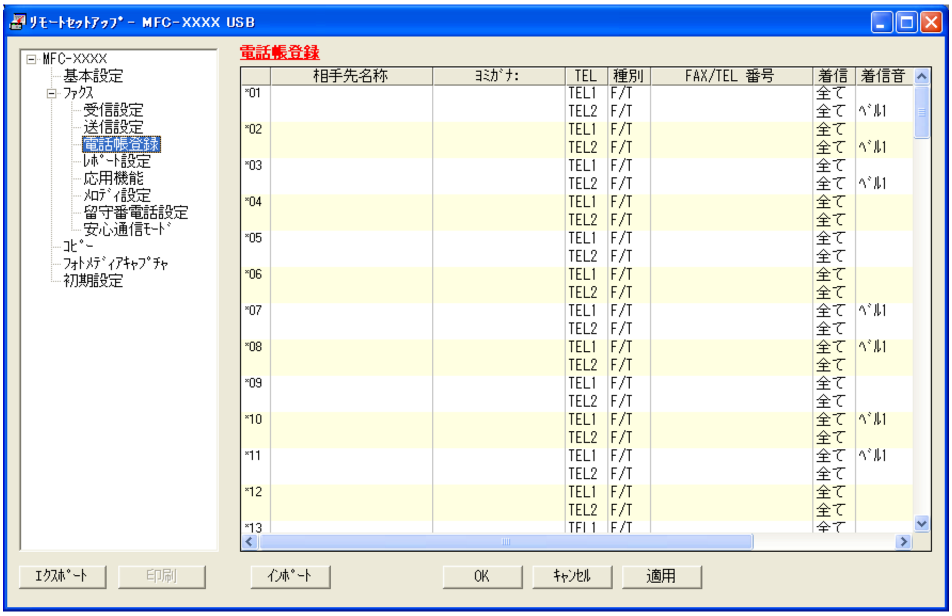
   ⇒ 204 ページ「子機での文字の入れかた」
6. **機能/確定 を押す**

   電話番号が登録されます。
7. **切 を押す**

パソコンを使って電話帳に登録する リモートセットアップ

本製品と接続しているパソコン上で、電話帳の登録・編集を行うことができます。これを「リモートセットアップ」といいます。
リモートセットアップを使って、パソコンから電話帳を登録する手順については、画面で見るマニュアル（HTML形式）をご覧ください。
⇒画面で見るマニュアル「パソコン活用」－「リモートセットアップ」

（画面例）



Memo

第 5 章

留守番機能

留守番機能

外出先での機能

留守番機能を設定する

留守番機能

本製品の留守番機能を使うと、外出するときなど、電話に出られないときにかかってきた電話に自動的に対応できます。
留守番機能では、以下のような設定をすることができます。

留守番機能で設定できること

● メッセージの録音時間

留守モード中にかかってきた相手からのメッセージの 1 回あたりの録音時間を設定することができます。
⇒ 118 ページ「メッセージの録音時間を設定する」

> 録音時間は、相手側の状況（声の質や周りの騒音など）によって変わることがあります。また、受信したファクスメッセージがメモリーに記憶されているときは録音時間が短くなります。

● 留守応答メッセージ

本製品にはあらかじめ留守応答メッセージが録音されていますが、必要に応じて、自分の声で留守応答メッセージ（2 種類）を録音することができます。
⇒ 119 ページ「応答メッセージを設定する」
また、録音した留守応答メッセージは、留守モードにしたあとで選ぶことができます。
⇒ 121 ページ「留守応答メッセージを選ぶ」

> お買い上げ時の在宅応答メッセージは「この電話は、電話とファクスに接続されています。電話の方は、呼び出ししておりますので、そのままりばらくお待ちください。ファクスの方は発信音の後に送信してください。」と録音されています。
>
> お買い上げ時の留守応答メッセージは「ただいま留守にしております。電話の方は発信音の後にお話ください。ファクスの方はそのまま送信してください。」と録音されています。

● 呼出回数

着信してから本製品が自動的に応答するまでの呼出回数を設定することができます。
⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」

● 留守録モニター

留守モード中に着信した場合に再生される応答メッセージと、相手の録音メッセージを、本製品のスピーカーで聞く（モニターする）かどうかを設定できます。
⇒ 120 ページ「留守録モニターを設定する」

> 留守録モニターの音量を変更したい場合は、スピーカー音量を変更してください。
> ⇒ 49 ページ「親機の音量を設定する」

メッセージの録音時間を設定する

留守モード時や通話を録音するとき、1 回あたりの録音時間を設定します。
1 回の最大録音時間は約 3 分、最大件数は 99 件、合計で 29 分まで録音可能です。お買い上げ時は、【60 秒】に設定されています。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【留守番電話設定】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【録音時間】を選ぶ

4 ◁ または ▷ で録音時間を選び、OK を押す

録音時間は、【30 秒／ 60 秒／ 120 秒／ 180 秒】から選択します。

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

応答メッセージを設定する

［応答メッセージ］

本製品にはあらかじめ在宅応答メッセージと留守応答メッセージが録音されていますが、必要に応じて自分の声で在宅応答メッセージ（1 種類）と留守応答メッセージ（2 種類）を録音（20 秒まで）することができます。

1 メニュー を押し、△▽ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 △▽ で【留守番電話設定】を選び、OK を押す

3 △▽ で【応答メッセージ】を選び、OK を押す

4 △▽ で設定したい応答メッセージを選び、OK を押す

応答メッセージは、【留守応答 1 ／留守応答 2 ／在宅応答】から選びます。

5 △▽ で【応答録音】を選び、OK を押す

6 受話器を取り、モノクロ を押してメッセージを録音する

7 録音が終わったら受話器を戻す

今録音した内容が自動的に再生されます。

8 停止/終了 を押す

設定を終了します。

応答メッセージを削除する

(1) 手順 5 で、【応答消去】を選び、OK を押す

◆【応答を消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(2) 1 あ を押す

(3) 停止/終了 を押す

◆ 応答メッセージが削除されます。

※ 本製品にあらかじめ録音されている応答メッセージは削除できません。

応答メッセージを確認する

(1) 手順 5 で、【応答再生】を選び、OK を押す

◆ 応答メッセージが再生されます。

(2) 停止/終了 を押す

◆ 確認を終了します。

留守録モニターを設定する

［留守録モニター］

留守モード中に着信した場合に再生される応答メッセージと、相手の録音メッセージを、本製品のスピーカーで聞く（モニターする）かどうかを設定できます。お買い上げ時は【する】に設定されています。

1. **メニューを押し、▲▼で【ファクス】を選び、OKを押す**
2. **▲▼で【留守番電話設定】を選び、OKを押す**
3. **▲▼で【留守録モニター】を選ぶ**
4. **◀または▶で【する】または【しない】を選び、OKを押す**
5. **停止/終了を押す**

設定を終了します。

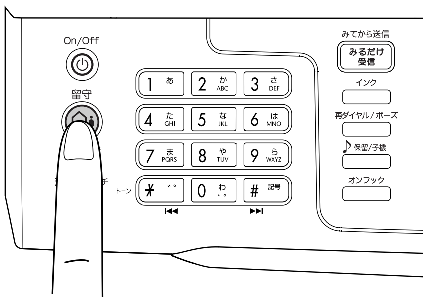
> 留守録モニターの音量を変更したい場合は、スピーカー音量を変更してください。
> ⇒ 49 ページ「親機の音量を設定する」

出かけるとき

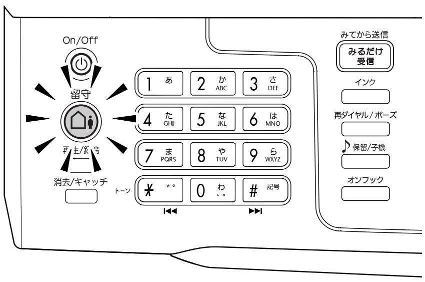
お出かけ前に「留守モード」に設定すると、留守中にかかってきた電話やファクスを自動的に受けることができます。

留守番機能をセットする

1 **を押す**



が点灯します。



留守番機能を解除する

(1) もう一度 を押す

◆ が消灯します。

◆ 新しい音声メッセージが録音されているときは、新しい音声メッセージが再生されます。

留守応答メッセージを選ぶ

自分の声で留守応答メッセージを録音してあるとき、留守応答メッセージを選ぶことができます。

1 **を押す**

ボタンが点灯しているときは、 を押し、ボタンを消灯させてから再度 を押してください。

2 **メッセージ再生中に、トーン ＊ または # 記号 で留守応答メッセージを選ぶ**

応答メッセージは、【応答再生／応答再生 1 ／応答再生 2】 から選択します。

- 【応答再生】：
  あらかじめ録音されている留守応答メッセージ
- 【応答再生 1】：
  自分で録音した留守応答メッセージ 1
- 【応答再生 2】：
  自分で録音した留守応答メッセージ 2

メッセージを再生後、選んだメッセージで、留守モードにセットされます。

メッセージ再生中に OK を押すと、そのメッセージで留守モードにセットされます。

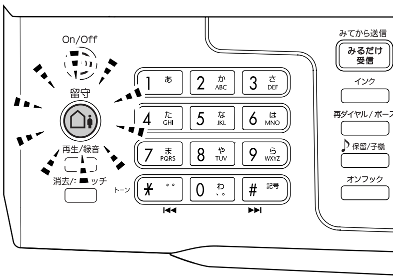
メッセージ再生中に 停止/終了 を押すと、再生を中止し、前回選んだメッセージで留守モードにセットされます。

帰ってきたとき

電話やファクスがあったときは、以下の手順で確認します。

音声メッセージがあるとき

音声メッセージが録音されているときは、本製品の が点滅しています。



留守番機能を解除する

1 **を押す**

留守番機能が解除されます。新しいメッセージが録音されているときは、メッセージが再生されます。

メッセージを再生する

1 再生/録音 **を押す**

新しく録音されたメッセージが再生されます。新しいメッセージが1件もないときは、保存されているすべてのメッセージが再生されます。

音声メッセージを確認する

(A) **メッセージを聞き直すとき**

再生中のときは * を押す。

再生中以外のときは 再生/録音 を押す。

(B) **次のメッセージを聞くとき**

再生中に # を押す。

(C) **途中でメッセージの再生をやめるとき**

再生中に 停止/終了 を押す。

(D) **メッセージを1件消去するとき**

再生中に 消去/キャッチ を押し、【もう一度押すと消去】と表示されたら、もう一度 消去/キャッチ を押す。

◆ 再生中のメッセージが消去されます。

(E) **すべてのメッセージを消去するとき**

再生中以外のときに 消去/キャッチ を押し、【音声消去しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されたら、1 を押す。

◆ すべてのメッセージが消去されます。

ファクスが届いているとき

みてから送信 みるだけ受信 を押して、受信したファクスの内容を確認できます。

⇒ 88 ページ「受信したファクスをディスプレイで見る（みるだけ受信）/ 印刷する」

「みるだけ受信」を設定していない場合は、受信したファクスが印刷されています。

記録紙がなくなると、液晶ディスプレイに、【記録紙を送れません。記録紙を入れ直して を押してください】と表示されます。このとき、ファクスはメモリーに記憶されています。記録紙をセットして モノクロ または カラー を押してください。

外出先から本製品を操作する

外出先での機能

外出先からトーン信号でリモコンコードを入力し、本製品を操作できます。

暗証番号を設定する

[暗証番号]

外出先から本製品を操作するためには、あらかじめ暗証番号（3桁の数字と＊）を設定しておく必要があります。お買い上げ時は、暗証番号は設定されていません。

1 メニューを押し、△▽で【ファクス】を選び、OKを押す

2 △▽で【応用機能】を選び、OKを押す

3 △▽で【暗証番号】を選ぶ

4 暗証番号を入力し、OKを押す

「＊」の左側の 3 桁に、0～9、＊、#からお好みの番号を設定します。（暗証番号は「＊」を加えた4桁の番号になります。）

例）暗証番号「123」の場合は、1 2 3を押し、OKを押します。

暗証番号の4桁目の「＊」は変更できません。

5 停止/終了を押す

設定を終了します。

暗証番号を削除するときは

(1) 「暗証番号を設定する」の手順3までの操作を行う

(2) クリア/バックを押す

(3) OKを押す

◆ 暗証番号が削除されます。

(4) 停止/終了を押す

外出先から本製品を操作する

[リモコンアクセス]

外出先からは、以下の手順で本製品を操作します。在宅モードでも操作できます。

注意

- リモコンアクセスするためには、あらかじめ暗証番号の設定が必要です。⇒123ページ「暗証番号を設定する」
- ブランチ接続（並列接続）をしている場合は、リモコンコードを正しく識別できないことがあります。
- 電話回線にドアホン、ガス検針器、セキュリティ装置などが接続されている場合は、リモコンコードを正しく識別できないことがあります。
- 携帯電話の一部モデルで、送出されるトーン信号が不規則なため、本製品がリモコンコードを正しく識別できないことがあります。

1 外出先から本製品に電話する

呼出回数を【無制限】に設定している場合は、約100秒間呼出音を鳴らし続けると本製品が応答します。

2 応答メッセージが再生されたら#、＊を押し、「暗証番号（3桁の暗証番号と＊）」を入力する

暗証番号を受けつけるとメッセージの有無を音でお知らせします。

- 「ポー」：
  ファクスメッセージが記憶されています。
- 「ポーポー」：
  音声メッセージが記憶されています。
- 「ポーポーポー」：
  ファクスメッセージ、音声メッセージの両方が記憶されています。

3 リモコンコードを入力する

次のページの「リモコンコード」を入力します。

例）録音されている音声メッセージを再生するときは9 1を押します。

「リモコンアクセスカード」を切り取ってお使いいただくと便利です。
⇒229ページ「リモコンアクセスカード」

4 終了するときは9 0を続けて押す

間違った操作をしたときは、「ピピピッ」という音が聞こえます。このときはもう一度操作してください。

第1章 ご使用の前に / 第2章 電話 / 第3章 ファクス / 第4章 電話帳 / 第5章 留守番機能 / 第6章 コピー / 第7章 フォトメディアキャプチャ / 第8章 こんなときは / 付録

リモコンコード

コード	操作内容	
音声メッセージ		
91	音声メッセージを再生する	再生中に(1)：メッセージを最初から再生 メッセージとメッセージの間で(1)：前のメッセージを再生 再生中に(2)：次のメッセージを再生 再生中に(9)：再生を中止
93	録音されているすべての音声メッセージを消去する	一度も再生されていないメッセージが残っているか、消去するメッセージがないときは「ピピピッ」という音がする
設定		
951	メモリー受信を【オフ】にする（留守録転送やファクス転送の設定も解除されます） ※受信データがメモリーに残っている場合は、メモリー受信を【オフ】にすることはできません。	
952	ファクス転送を設定する（番号が登録されていないときは設定不可）	
954	ファクス転送先を設定する	(9)(5)(4)のあと「ピー」と鳴ったら転送先番号を入力し、(#)を 2 回押す。ファクス転送の設定がされていないときは自動的に「ファクス転送」になります。
956	メモリー受信を有効にする	
メモリー操作		
962	メモリーに記憶されたファクスを取り出す	(9)(6)(2)のあと「ピー」と鳴ったら転送先番号を入力し(#)を 2 回押して受話器を置く
971	ファクスが記憶されているかを確認する	記憶されているとき：「ピー」という音がする 記憶されていないとき：「ピピピッ」という音がする
972	音声メッセージが記憶されているか確認する	記憶されているとき：「ピー」という音がする 記憶されていないとき：「ピピピッ」という音がする
モード変更		
981	留守モードにする	
982	在宅モードにする（留守モードを解除する）	
リモコンアクセスの終了		
90	リモコンアクセスを終了する	

外出先でメモリーに記憶されたファクスを取り出すには、【みるだけ受信】を【する】に設定するか、【転送 / メモリー受信】を【メモリー受信】に設定する必要があります。

⇒ 89 ページ「ファクスを自動的にプリントする　（みるだけ受信を設定する / 解除する）」

⇒ 101 ページ「ファクスをメモリーで受信する」

外出先に転送する

留守録転送を設定する

[留守録転送]

「留守モード」のときに音声メッセージが録音されると、指定した外出先の電話に転送することができます。（留守録転送）

注意

- ■ 留守モードのときのみ転送できます。
- ■ 留守録転送するためには、あらかじめ暗証番号の登録が必要です。⇒ 123 ページ「暗証番号を設定する」
- ■「留守録転送」は、「PC-FAX 受信」「ファクス転送」「メモリー受信」と同時に設定することはできません。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【応用機能】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【転送／メモリー受信】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【留守録転送】を選び、OK を押す

暗証番号が設定されていないときは、【暗証番号を登録してください】と表示されます。このときは暗証番号を設定してください。
⇒ 123 ページ「暗証番号を設定する」

5 転送先の電話番号を入力し、OK を押す

6 停止/終了 を押す

設定を終了します。

転送先で確認する

(1) 電話を受けたあと、音声ガイダンスにしたがって暗証番号を入力する

(2) メッセージを聞く

◆ 2 件以上あるときは連続して再生されます。

◆ 再生終了後に電話は自動的に切れます。

留守録転送を解除する

(1) 「留守録転送を設定する」の手順 4 で【オフ】を選び、OK を押す

(2) 停止/終了 を押す

◆ 留守録転送が解除されます。

NTT のボイスワープサービスとは異なります。

転送先の電話が話し中のときは、10 分おきに 5 回まで再ダイヤルされます。

Memo

第 6 章

コピー

基本

応用

コピーに関するご注意 基本

コピーを行うときは、以下の点にご注意ください。

● 法律で禁止されているもの（絶対にコピーしないでください）

- 紙幣、貨幣、政府発行有価証券、国債証券、地方証券
- 外国で流通する紙幣、貨幣、証券類
- 未使用の郵便切手や官製はがき
- 政府発行の印紙、および酒税法や物品税法で規定されている証券類

● 著作権のあるもの

- 著作権の目的となっている著作物を、個人的に限られた範囲内で使用する以外の目的でコピーすることは、禁止されています。

● その他注意を要するもの

- 民間発行の有価証券（株券、手形、小切手）、定期券、回数券
- 政府発行のパスポート、公共事業や民間団体の免許証、身分証明書、通行券、食券などの切符類など

● 記録紙について

- しわ、折れのある紙、湿っている紙、一度記録した紙の裏などは使用しないでください。
- 記録紙の保管は、直射日光、高温、高湿を避けてください。
- コピーをする場合（特にカラーの場合）は、記録紙の選択が品質に大きな影響を与えます。推奨紙をお使いください。

● 原稿について

- インクやのり、修正液などが付いている原稿は、完全に乾いてからセットしてください。スキャナ (読み取り部) が汚れて印字品質が悪くなることがあります。
  ⇒ 43 ページ「ADF にセットできる原稿（MFC-880CDN/CDWN のみ）」

● スキャナ (読み取り部) について

- スキャナ (読み取り部) は常にきれいにしておいてください。汚れているときれいにコピーすることができません。
  ⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」

> 原稿の読み取り範囲について
> ⇒ 43 ページ「原稿の読み取り範囲」

コピーする

カラーまたはモノクロでコピーします。

注意

- 原稿台ガラスからコピーする場合、原稿は 1 枚しかセットできません。MFC-880CDN/CDWN をお使いの場合は、ADF をご利用いただけます。
- コピーを途中で中止する場合は、停止/終了 を押してください。

スキャナ (読み取り部) はきれいにしておきましょう。汚れているときれいなコピーができません。
スキャナ (読み取り部) のお手入れ方法について　⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」

1 部コピーする

[コピー]

1 枚の原稿をモノクロまたはカラーでコピーします。

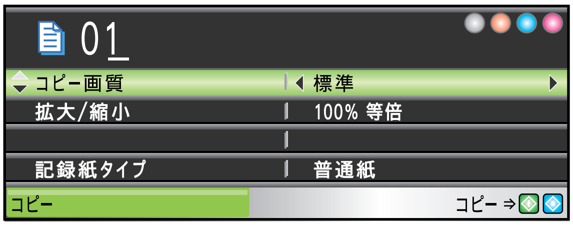
1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 コピー を押す

コピーモードに切り替わります。

3 液晶ディスプレイで設定を確認する



画質や記録紙サイズなど、一時的に設定を変更することもできます。
⇒ 131 ページ「設定を変えてコピーするには」

4 モノクロでコピーするときは モノクロ をカラーでコピーするときは カラー を押す

原稿がコピーされます。

複数部コピーする

1 ～ 99 部までコピーする枚数を指定してコピーします。

1 原稿をセットする

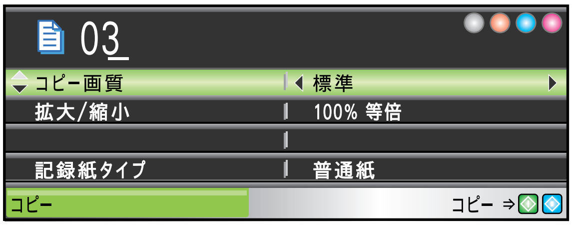
⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 コピー を押す

コピーモードに切り替わります。

3 ダイヤルボタンで部数を入力する

部数は 1 ～ 99 部まで設定できます。



入力した部数を取り消すときは、クリア/バック を押します。

4 モノクロでコピーするときは モノクロ をカラーでコピーするときは カラー を押す

原稿がコピーされます。

複数の原稿を一度にコピーする（880CDN/880CDWN のみ）

MFC-880CDN/880CDWN には、複数枚の原稿を連続して読み取ることのできる ADF（自動原稿送り装置）が搭載されています。複数枚の原稿をコピーするときは ADF に原稿をセットしてコピーします。

1 ADF に原稿をセットする

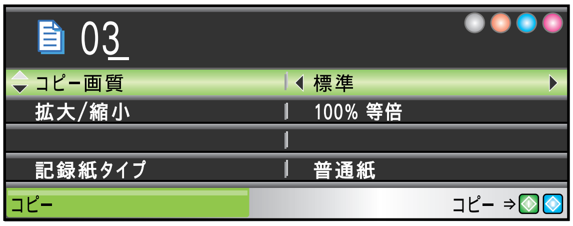
⇒ 44 ページ「ADF に原稿をセットする （MFC-880CDN/CDWN のみ）」

2 コピー を押す

コピーモードに切り替わります。

3 ダイヤルボタンで部数を入力する

部数は 1 ～ 99 部まで設定できます。



入力した部数を取り消すときは、クリア/バック を押します。

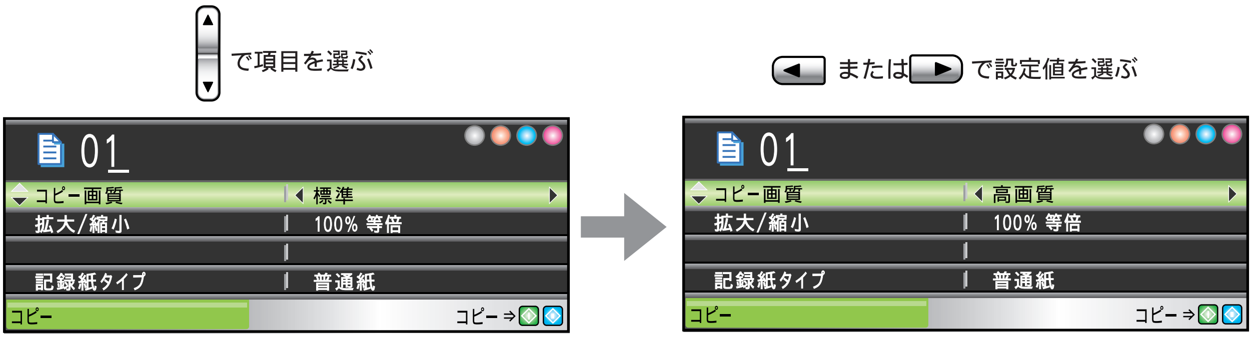
4 モノクロでコピーするときは モノクロ をカラーでコピーするときは カラー を押す

原稿がコピーされます。

いろいろなコピー 応用

設定を変えてコピーするには

を押して表示される画面で、コピーの設定を変更できます。ここで変更した内容は、コピー後に元に戻ります。



(1) コピー画質

コピーの画質を設定します。設定を保持することもできます。⇒ 132 ページ「変更した設定を保持する」

- 【高速】
  速くコピーしたい場合に選びます。
- 【標準】
  通常のコピーを行う場合に選びます。
- 【高画質】
  写真やイラストなどをよりきれいにコピーする場合に選びます。

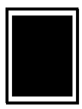
※ 1 部コピーと複数部コピーでは、画質が異なることがあります。

(2) 拡大／縮小

倍率を変更してコピーします。

- 【40% A4 ⇒ L 判】
- 【46% A4 ⇒ハガキ】
- 【69% A4 ⇒ A5】
- 【86% A4 ⇒ B5 】
- 【100% 等倍】
- 【113% L 判⇒ハガキ】 *1
- 【115% B5 ⇒ A4 】
- 【142% A5 ⇒ A4 】
- 【204% ハガキ⇒ A4】
- 【240% L 判 ⇒ A4】
- 【カスタム (25-400%)】 *2

*1 L 判タテ向きの写真 (124mm × 89mm) をハガキにフィットさせます。



*2 【カスタム (25-400%)】 を選択した後、 を押し、ダイヤルボタンで直接倍率を入力して、 を押します。

(3) 記録紙タイプ

使用する記録紙に合わせて、記録紙タイプを設定します。
設定を保持することもできます。⇒ 132 ページ「変更した設定を保持する」
【普通紙／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／その他光沢紙／ OHP フィルム】

(4) 記録紙サイズ

使用する記録紙に合わせて、記録紙サイズを設定します。
【A4 ／ A5 ／ B5 ／ハガキ／ 2L 判／ L 判】

(5) 明るさ

コピーの明るさを調整します。5段階の調整ができます。[▷]を押すと明るくなり、[◁]を押すと暗くなります。
設定を保持することもできます。

(6) コントラスト

コピーのコントラストを調整します。5段階の調整ができます。[▷]を押すとコントラストが強くなり、[◁]を押すとコントラストが弱くなります。設定を保持することもできます。

(7) カラー調整（レッド・グリーン・ブルー）

色バランスの設定を調整します。レッド・グリーン・ブルーの各色ごとに、5段階の調整ができます。[▷]を押すと色味が増し、[◁]を押すと色味が減少します。設定を保持することもできます。

(8) レイアウトコピー

2枚または4枚の原稿を1枚の記録紙に割り付けてコピーしたり、原稿をポスターサイズに拡大してコピーしたりできます。
⇒134ページ「2 in 1 コピー /4 in 1 コピー / ポスターコピーする」

変更した設定を保持する

(1) [コピー]を押して表示される画面で、初期値にしたい設定に変更する

保持できる設定は以下のとおりです。
- コピー画質
- 記録紙タイプ
- 明るさ
- コントラスト
- カラー調整

(2) [△▽]で【設定を保持する】を選び、[OK]を押す

◆【設定を保持しますか？／はい ⇒1を押してください／いいえ ⇒2を押してください】と表示されます。

(3) [1]を押す

◆ 変更した設定が初期値として登録されます。
※ 初期値をお買い上げ時の状態に戻すには【設定をリセットする】を選びます。

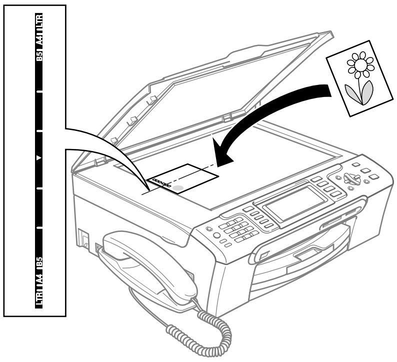
例）L 判の写真を写真用光沢はがきにコピーする

L 判の写真を、写真用光沢はがきにコピーする手順を例にして説明します。

1 記録紙トレイに写真用光沢はがきをセットする

⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

2 原稿台カバーを持ち上げ、原稿ガイドに合わせて、コピーしたい写真面が下になるようにセットする



3 原稿台カバーを閉じる

4 コピー を押す

コピーモードに切り替わります。

1）コピー画質を設定する

5 ▲▼で【コピー画質】を選ぶ

6 ◀ または ▶ で【高画質】を選び、OK を押す

2）拡大・縮小率を設定する

7 ▲▼で【拡大／縮小】を選ぶ

8 ◀ または ▶ で【113%L 判⇒ハガキ】を選び、OK を押す

3）記録紙タイプを設定する

9 ▲▼で【記録紙タイプ】を選ぶ

10 ◀ または ▶ で【その他光沢紙】を選び、OK を押す

ブラザー専用紙をお使いの場合は、【ブラザー専用光沢紙】を選びます。

4）記録紙サイズを設定する

11 ▲▼で【記録紙サイズ】を選ぶ

12 ◀ または ▶ で【ハガキ】を選び、OK を押す

13 カラー を押す

写真が写真用光沢はがきにコピーされます。

2 in 1 コピー /4 in 1 コピー / ポスターコピーする

［レイアウトコピー］

2 枚、または 4 枚の原稿を 1 枚の記録紙に割り付けてコピーしたり、原稿をポスターサイズに拡大してコピーしたりできます。

注意

■ レイアウトコピーでは、記録紙サイズを【A4】に設定してください。

1 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

2 コピー を押す

コピーモードに切り替わります。

3 複数部コピーするときは、ダイヤルボタンで部数を入力する

※ この設定は、2 in 1、4 in 1 のモノクロコピーのみ有効です。

4 で【レイアウト コピー】を選ぶ

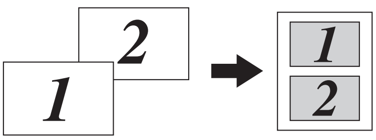
5 または でレイアウトを選び、OK を押す

レイアウトは【オフ（1 in 1）／2 in 1（タテ長）／2 in 1（ヨコ長）／4 in 1（タテ長）／4 in 1（ヨコ長）／ポスター（3 x 3)】から選びます。

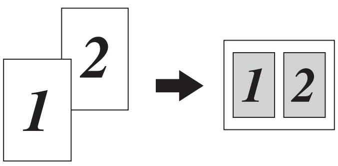
<原稿のセットのしかた>

※ A4 サイズの原稿を使った場合のイメージです

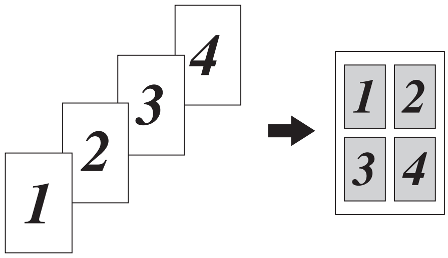
- 2 in 1（タテ長）



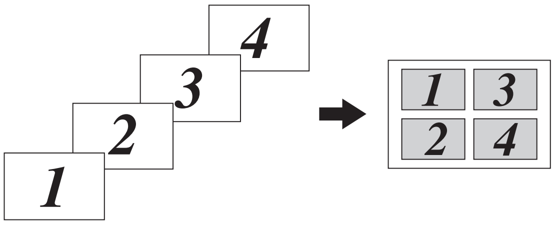
- 2 in 1（ヨコ長）



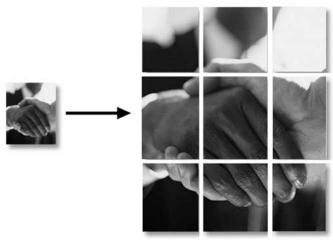
- 4 in 1（タテ長）



- 4 in 1（ヨコ長）



- ポスター（3 x 3)



ポスターコピーは、原稿をポスターサイズに拡大し、9 枚の記録紙に分割してコピーします。ポスターコピーをする場合は、あらかじめ記録紙トレイに記録紙を 9 枚以上セットしてください。

6 モノクロでコピーするときは モノクロ を、カラーでコピーするときは カラー を押す

ADF に原稿をセットしたときや、【オフ】または【ポスター (3 x 3)】を選んだときは、コピーが開始されます。

原稿台ガラスに原稿をセットして、【2 in 1】または【4 in 1】を選んだときは、原稿の読み取りが開始され、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

7 1 あ を押す

8 次の原稿をセットし、OK を押す

コピーするすべての原稿に対して、手順 7、8 を繰り返し行います。

9 すべての原稿を読み取ったら、2 か ABC を押してコピーを終了する

Memo

第 7 章

フォトメディアキャプチャ

デジカメプリント

PictBridge

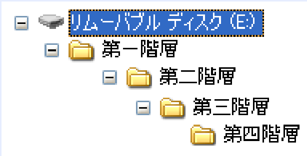
スキャン TO メディア

写真を印刷する前に　デジカメプリント

デジタルカメラで撮影した写真が保存されているメモリーカードやUSBフラッシュメモリーなどのメディアを、本製品のカードスロットまたはUSBフラッシュメモリー差し込み口に差し込んで写真を印刷します。パソコンがなくてもデジタルカメラの写真を印刷できます。

注意

■ L判サイズの記録紙は、必ず「スライドトレイ」にセットしてください。⇒39ページ「スライドトレイにセットする」
■ 写真用光沢はがきは、必ず「記録紙トレイ」にセットしてください。⇒37ページ「記録紙トレイにセットする」
■ メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーは正しくフォーマットされたものをお使いください。
■ 画像データのフォーマットは「JPEG」形式をお使いください。（プログレッシブ JPEG、TIFF、その他の形式の画像データには対応していません。）
■ 拡張子が「jpeg」「jpe」のファイルは認識しません。拡張子を「jpg」に変えてください。
■ 日本語のファイル名が付けられたデータは、インデックスプリント（⇒141ページ「インデックスプリントを印刷する」）を行うと、ファイル名が正しく表示されません。画像データのファイル名を英数字に変えてください。
■ メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリー内の画像データは、4階層までしか認識されません。メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーにパソコン上から画像データを書き込んだ場合、5階層以上のフォルダに保存しないでください。

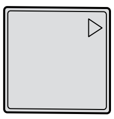


■ メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリー内の画像データは、フォルダとファイルを合わせて999個まで認識します。
■ フォトメディアキャプチャとパソコンからのメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーの操作は同時にできません。必ず、どちらかの作業が終わってから操作してください。
■ Macintosh® の場合、デスクトップにメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーのアイコンが表示されているときは、フォトメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーキャプチャが使用できません。デスクトップのメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーアイコンをゴミ箱に移動したあと、フォトメディアキャプチャをお使いください。

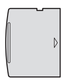
使用できるメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリー

本製品では、下記のメモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーを使用できます。

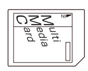
- コンパクトフラッシュ®
（TYPE1、最大8GB）



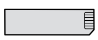
- xD-Picture Card™（最大512MB）
TypeM／TypeH（最大2GB）



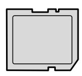
- マルチメディアカード™
（最大2GB）



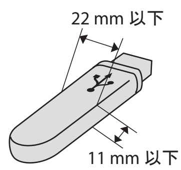
- メモリースティック®（最大128MB）
メモリースティックPRO™（最大8GB）



- SDメモリーカード™（最大2GB）
SDHCメモリーカード™（最大8GB）



- USB　フラッシュメモリー
（最大8GB）



※メモリースティックデュオ、メモリースティックPROデュオも使用できます。
※メモリースティックデュオ、メモリースティックPROデュオを本製品にセットするときは、アダプターが必要です。

※miniSDカード/microSDカードを本製品にセットするときは、アダプターが必要です。
※著作権保護機能には対応していません。

注意

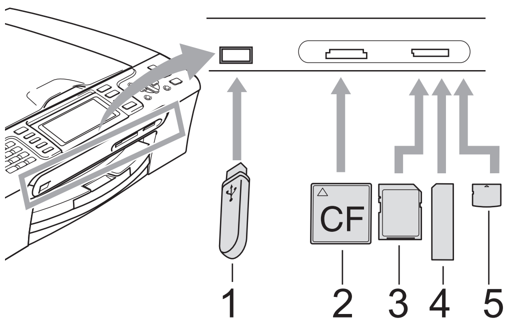
■ スマートメディア、マイクロドライブには対応していません。

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットする

1 本製品の USB フラッシュメモリー差し込み口またはカードスロットにメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを差し込む

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーは、正しい差し込み口またはカードスロットにしっかりと差し込んでください。

①USB フラッシュメモリー
②コンパクトフラッシュ®
③SDメモリーカード™、SDHCメモリーカード™、マルチメディアカード™
④メモリースティック®、メモリースティック Pro™
⑤xD-Picture Card™



デジカメプリント が点灯します。

注意

- デジカメプリント が点滅しているときは、電源コードを抜いたり、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーの抜き差しをしないでください。
  データやメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを壊す恐れがあります。
- 差し込み口またはカードスロットには、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー、PictBridge 対応デジタルカメラ以外のものを差し込まないでください。内部を壊す恐れがあります。
- コンパクトフラッシュ® はメーカーによって印刷表記が異なります。差し込む前に表裏をご確認ください。
- 2 つ以上のメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを同時に挿入しても、最初に挿入したメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーしか認識しません。

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーのアクセス状況

デジカメプリント の表示で、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーのアクセス状況がわかります。

表示	状況
点灯	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーが正しく差し込まれています。このときは、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを取り出すことができます。
点滅	読み取り、または書き込みが行われています。このときはメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーにさわらないでください。
消灯	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーが差し込まれていません。または、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーが正しく差し込まれていないため、本製品に認識されていません。

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーが認識されないときは、記録した機器に戻して確認してください。

写真を見る・プリントする

デジタルカメラで撮影した写真が保存されているメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを本製品のカードスロットまたは USB フラッシュメモリー差し込み口に差し込んで写真をプリントします。

注意

■ 撮影年月日の印刷機能はありません。

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真を見る・プリントする

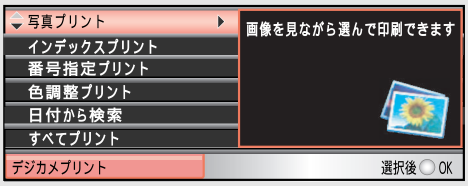
[写真プリント]

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーの写真を液晶ディスプレイで確認・プリントできます。

1 本製品のカードスロットまたは USB フラッシュメモリー差し込み口にメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを差し込む

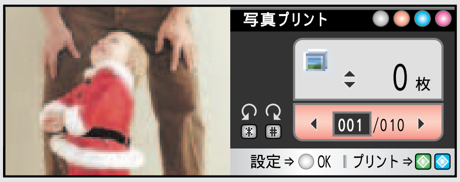
⇒ 139 ページ「メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットする」

デジカメプリント が点灯し、液晶ディスプレイにフォトメディアキャプチャメニューが表示されます。



2 で【写真プリント】を選び、OK を押す

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真が表示されます。



写真のファイルサイズによっては、表示されるまでに時間がかかる場合があります。

を押すと右方向に、 を押すと左方向に 90° ずつ回転します。

写真を印刷する場合⇒ 3 へ

3 または で印刷したい写真を選ぶ

ダイヤルボタンで番号を入力すると、入力した番号の写真が表示されます。（例：3、13、103）

写真番号を確認するには、インデックスプリントを印刷してください。

⇒ 141 ページ「インデックスプリントを印刷する」

4 でプリント枚数を設定する

5 手順 3 ～ 4 をくり返して、プリントしたい写真をすべて選び、OK を押す

6 液晶ディスプレイでプリントの設定を確認する

画質や記録紙のサイズなど、設定を変えることもできます。

⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

7 モノクロ または カラー を押す

写真が印刷されます。

DPOF を使用する場合

DPOF（デジタルプリントオーダーフォーマット）を利用して、プリントする写真や枚数を指定している場合、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットすると、【DPOF で印刷しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】というメッセージが表示されます。
DPOF でプリントする場合は、以下の手順で操作してください。

(1) 1 を押す

◆ デジカメプリントの設定画面が表示されます。

(2) ▲▼で【記録紙サイズ】を選ぶ

(3) ◀ ▶で記録紙のサイズを選び、OK を押す

◆ 他の設定を変更することもできます。ただし、プリント枚数とプリント画質はDPOFで設定されているため、ここでは変更できません。

(4) モノクロ または カラー を押す

◆ DPOFで指定したとおりに写真がプリントされます。

※ DPOF（デジタルプリントオーダーフォーマット）とは、デジタルカメラの記録フォーマットの一つで、撮影した画像のプリントに関する規格です。印刷する写真の選択や印刷枚数の指定をデジタルカメラ側で行えます。DPOF を使用すると、印刷したい写真や枚数を本製品側で指定する必要がありません。

インデックスプリントを印刷する

［インデックスプリント］

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーに保存されている画像データを、一覧にして印刷（インデックスプリント）できます。
A4 サイズの記録紙 1 ページ内に最大 30 個の画像が印刷されます。

注意

■ インデックスプリントは、カラーでしか印刷できません。

1 **メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す**

2 **▲▼で【インデックスプリント】を選び、OK を押す**

記録紙タイプとサイズのメニューが表示されます。

3 **▲▼で【記録紙タイプ】を選び、OK を押す**

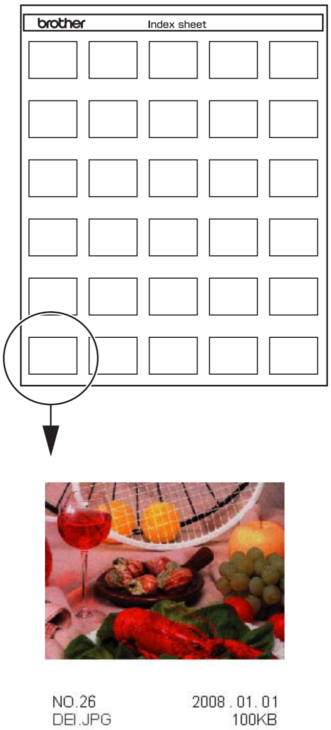
4 **◀ ▶で記録紙のタイプを選び、OK を押す**

記録紙のタイプは、【普通紙】【インクジェット紙】【ブラザー専用光沢紙】【その他光沢紙】から選びます。

5 **カラー を押す**

インデックスプリントが印刷されます。
インデックスプリント終了後は、手順 2 の画面に戻ります。

- デジタルカメラでつけた名称やパソコンでのファイル名が半角英数字 8 文字以内の場合は、ファイル名が認識されます。ファイル名が認識されない場合は、順番に、1、2、3 のように番号が割り振られます。
- インデックス（サムネール）で一度に印刷できるのは 999 画像までです。それ以上の画像が保存されていても無視されます。
- インデックスプリントでは、記録紙タイプ以外の設定（明るさやコントラストなど）は固定です。
- 印刷できる画像は JPEG ファイル形式（＊ .jpg）だけです。



番号を指定して写真をプリントする

［番号指定プリント］

インデックスプリントに表示されている番号で、プリントする写真を指定できます。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトメディアキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽ で【番号指定プリント】を選び、OK を押す

3 ダイヤルボタンでプリントしたい写真の番号を入力し、OK を押す

例 1：1 ～ 5 番をプリントしたいとき

1 # 5 ＊ の順番でボタンを押す

例 2：1、3、5 番をプリントしたいとき

1 ＊ 3 ＊ 5 ＊ の順番でダイヤルボタンを押す

- 入力できる文字は、区切り記号も含めて 12 文字までです。

4 液晶ディスプレイで設定を確認する

プリント枚数

- 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
  ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

5 ダイヤルボタンでプリント枚数を入力する

6 モノクロ または カラー を押す

指定した番号の写真がプリントされます。

色や明るさを補正してプリントする

［色調正プリント］

写真をプリントする際に、色や明るさを補正して美しくプリントすることができます。

人物と風景を美しくプリントする［自動色補正］

人物も風景も美しく印刷したいときに使用します。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリントを押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 ▲▼で【色調整プリント】を選び、OKを押す

3 ◀または▶で、印刷したい写真を選び、OKを押す

- ダイヤルボタンで番号を入力し、OKで選ぶこともできます。
- #を押すたびに 90°ずつ時計回りに、＊を押すたびに 90°ずつ反時計回りに回転します。

4 ▲▼で【自動色補正】を選び、OKを押す

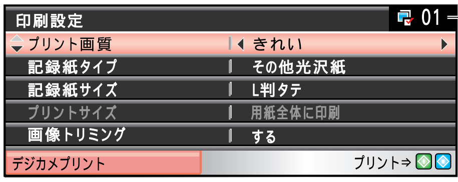
補正後の写真が表示されます。

- 画面下に「赤目補正」と表示されたら、#で赤目補正を行ってください。
⇒ 145 ページ「赤目を修正する［赤目補正］」
- ＊を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

5 OKを押す

6 ▲▼でプリント枚数を入力し、OKを押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



プリント枚数

- 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

8 カラーを押す

選択した写真がプリントされます。

肌を美しくプリントする［肌色明るさ補正］

人物の肌を美しく印刷したいときに使用します。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリントを押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 ▲▼で【色調整プリント】を選び、OKを押す

3 ◀または▶で、印刷したい写真を選び、OKを押す

- ダイヤルボタンで番号を入力し、OKで選ぶこともできます。
- #を押すたびに 90°ずつ時計回りに、＊を押すたびに 90°ずつ反時計回りに回転します。

第１章 ご使用の前に
第２章 電話
第３章 ファクス
第４章 電話帳
第５章 留守番機能
第６章 コピー
第７章 フォトメディアキャプチャ
第８章 こんなときは
付録

4 で【肌色明るさ補正】を選び、OKを押す

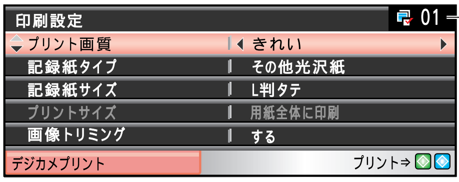
補正後の写真が表示されます。

> で補正量を 3 段階に調節できます。補正が終了したらOKを押してください。
>
> を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

5 OKを押す

6 でプリント枚数を入力し、OKを押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



プリント枚数

> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

8 カラーを押す

選択した写真がプリントされます。

風景を美しくプリントする［色あざやか補正］

風景を美しく印刷したいときに使用します。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリントを押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 で【色調整プリント】を選び、OKを押す

3 または で、印刷したい写真を選び、OKを押す

> ダイヤルボタンで番号を入力し、OKで選ぶこともできます。
>
> # を押すたびに 90°ずつ時計回りに、
>
> * を押すたびに 90°ずつ反時計回りに回転します。

4 で【色あざやか補正】を選び、OKを押す

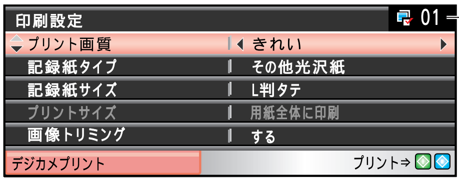
補正後の写真が表示されます。

> で補正量を 3 段階に調節できます。補正が終了したらOKを押してください。
>
> を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

5 OKを押す

6 でプリント枚数を入力し、OKを押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

8 カラー を押す

選択した写真がプリントされます。

赤目を修正する［赤目補正］

フラッシュ撮影時の赤目を修正して印刷できます。

> 赤目補正は付属のソフトウェア「FaceFilter Studio」でも行うことができます。パソコンに保存されている写真の赤目を修正するときは「FaceFilter Studio」を使用してください。
> ⇒ 画面で見るマニュアル「FaceFilter Studio で写真を印刷する」
>
> フラッシュ撮影時の条件によっては赤目補正ができないことがあります。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽で【色調整プリント】を選び、OK を押す

3 ◁ または ▷ で、赤目を補正してプリントしたい写真を選び、OK を押す

> ダイヤルボタンで番号を入力し、OK で選ぶこともできます。
>
> # 記号 を押すたびに 90° ずつ時計回りに、
> ＊ トーン を押すたびに 90° ずつ反時計回りに回転します。

4 △▽で【赤目補正】を選び、OK を押す

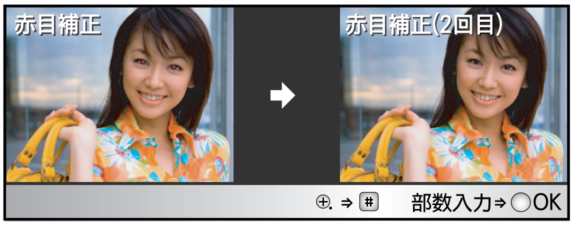
■補正できたとき
補正後の写真が表示され、顔が赤枠で囲まれます。

> ＊ トーン を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

■補正できなかったとき
「赤目を検出できません」と表示されます。

5 再度補正するには、# 記号 を押す

補正をしない場合は、OK を押して、手順 7 へ進みます。
■補正できたとき
補正後の写真が表示され、目が赤枠で囲まれます。



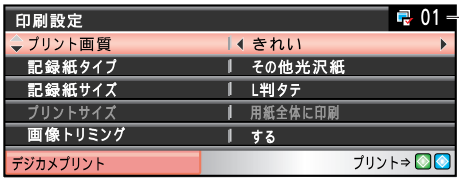
> ＊ トーン を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

■補正できなかったとき
「赤目を検出できません」と表示されます。

6 OK を押す

7 △▽でプリント枚数を入力し、OKを押す

8 液晶ディスプレイで設定を確認する



プリント枚数

> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

9 カラー を押す

赤目補正した写真がプリントされます。

モノクロでプリントする［モノクロ］

写真をモノクロで印刷します。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽で【色調整プリント】を選び、OKを押す

3 ◁または▷で、印刷したい写真を選び、OKを押す

> ダイヤルボタンで番号を入力し、OKで選ぶこともできます。
>
> # を押すたびに 90°ずつ時計回りに、
>
> ＊ を押すたびに 90°ずつ反時計回りに回転します。

4 △▽で【モノクロ】を選び、OKを押す

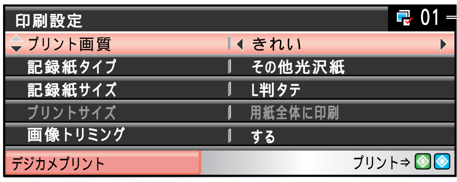
モノクロに補正された写真が表示されます。

> ＊ を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

5 OKを押す

6 △▽でプリント枚数を入力し、OKを押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



プリント枚数

> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

8 モノクロ または カラー を押す

選択した写真がモノクロプリントされます。

セピア色でプリントする［セピア］

写真をセピア色で印刷します。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽で【色調整プリント】を選び、OKを押す

3 ◁ または ▷ で、印刷したい写真を選ぶ

> ダイヤルボタンで番号を入力し、OK で選ぶこともできます。
>
> # を押すたびに 90° ずつ時計回りに、
>
> ＊ を押すたびに 90° ずつ反時計回りに回転します。

4 △▽ で【セピア】を選び、OK を押す

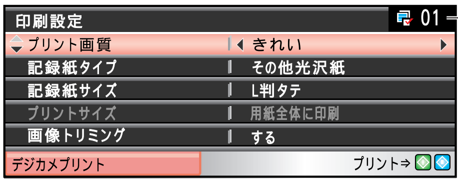
セピア色に補正された写真が表示されます。

> ＊ を押すと拡大表示されます。もう一度押すと、元に戻ります。

5 OK を押す

6 △▽ でプリント枚数を入力し、OK を押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



プリント枚数

> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
>
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

8 カラー を押す

選択した写真がセピア色でプリントされます。

撮影した日付で写真を探す

[日付から検索]

撮影した日付で、プリントする写真を指定できます。

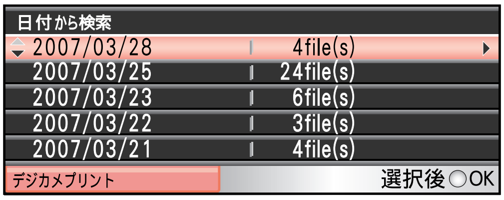
1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽ で【日付から検索】を選び、OK を押す

撮影日と撮影枚数の一覧が表示されます。

3 △ で日付を選び、OK を押す



4 ◁ または ▷ で、印刷したい写真を選び、OK を押す

> ◁ または ▷ を押し続けると、他の日付の写真も表示できます。◁ で古い日付、▷ で新しい日付の写真が表示されます。
>
> ダイヤルボタンで番号を入力し、OK で選ぶこともできます。
>
> # を押すたびに 90° ずつ時計回りに、
>
> ＊ を押すたびに 90° ずつ反時計回りに回転します。

5 △▽ でプリント枚数を入力する

6 手順 4、5 をくり返して、印刷したい写真をすべて選び枚数を指定する

7 OK を押す

8 液晶ディスプレイで設定を確認する

プリント枚数

画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

9 モノクロ または カラー を押す

選択した写真がプリントされます。

メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリー内の写真をすべて印刷する

[すべてプリント]

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーの写真をすべて印刷するときは、以下の手順で行います。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトメディアキャプチャメニューが表示されます。

2 △▽ で【すべてプリント】を選び、OK を押す

3 液晶ディスプレイで設定を確認する

プリント枚数

画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

4 ダイヤルボタンでプリント枚数を入力する

5 モノクロ または カラー を押す

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内のすべての写真がプリントされます。

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真を次々に表示する

［スライドショー］

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真を液晶ディスプレイに次々に表示することができます。このとき、必要な写真を選んで印刷することもできます。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリント を押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 ▲▼で【スライドショー】を選び、OK を押す

スライドショーが始まります。

3 終了するには 停止/終了 を押す

スライドショーが終了します。

スライドショーの途中で写真を印刷する

1 印刷したい写真が表示されている間に OK を押す

2 ▲▼でプリント枚数を入力する

> 印刷したい写真は、◁ または ▷ で変更したり、ダイヤルボタンで番号を入力し、OK で変更したりできます。
>
> # を押すたびに 90° ずつ時計回りに、＊ を押すたびに 90° ずつ反時計回りに回転します。

3 OK を押す

4 液晶ディスプレイで設定を確認する

プリント枚数

> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

5 モノクロ または カラー を押す

選択した写真が印刷されます。

画像の一部を印刷する

［トリミング］

写真の中から必要な部分だけを切り出して印刷することができます。写真を回転させることもできます。

> 写真のサイズが非常に小さい場合（縦横それぞれ 240 ピクセル未満）や縦横比が非常に大きい場合は、トリミングできないことがあります。

1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、デジカメプリントを押す

フォトキャプチャメニューが表示されます。

2 ▲▼で【トリミング】を選び、OKを押す

3 ◀または▶で【トリミング】したい写真を選び、OKを押す

トリミングの範囲を示す赤枠が表示されます。この枠内が印刷されます。

> ダイヤルボタンで番号を入力し、OKで選ぶこともできます。
>
> #を押すたびに 90°ずつ時計回りに、*を押すたびに 90°ずつ反時計回りに回転します。

4 枠の位置とサイズを選ぶ

▲▼または◀ ▶で移動します。

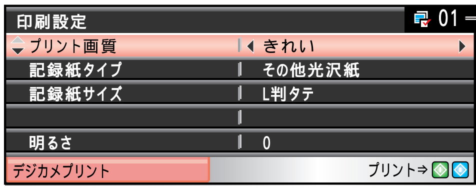
*で拡大、#で縮小します。

> 0を押すたびに 90°ずつ時計回りに枠が回転します。

5 OKを押す

6 ▲▼でプリント枚数を入力し、OKを押す

7 液晶ディスプレイで設定を確認する



> 画質や記録紙サイズなど、設定を変えることもできます。
> ⇒ 151 ページ「設定を変えて写真をプリントするには」

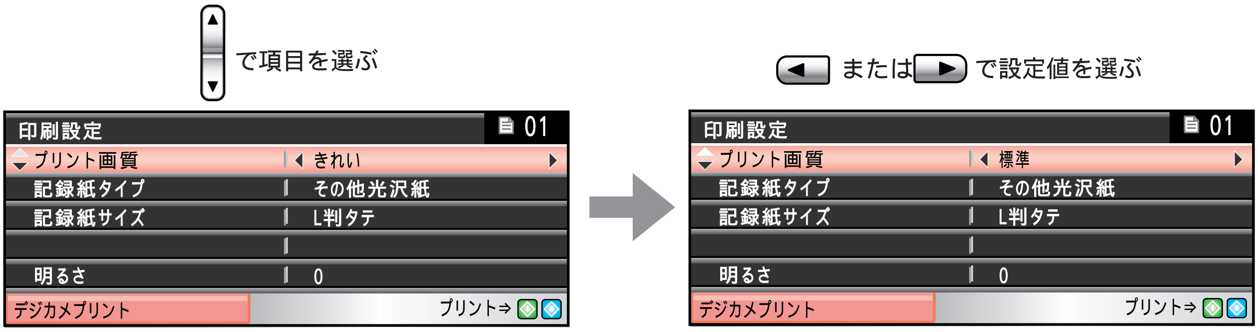
8 モノクロまたはカラーを押す

トリミングした写真が印刷されます。

いろいろなプリント方法

設定を変えて写真をプリントするには

フォトメディアキャプチャの設定画面で、写真をプリントする際の設定を変更できます。



(1) プリント画質

写真をプリントする際の画質を設定します。

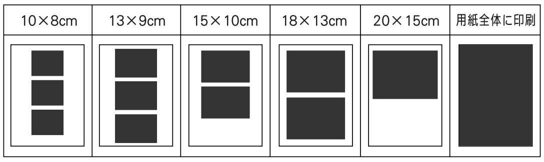
- 【標準】
  速くプリントする場合に選びます。
- 【きれい】
  写真をよりきれいにプリントする場合に選びます。

(2) 記録紙タイプ

プリントする記録紙の種類を選びます。
【普通紙／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／その他光沢紙】

(3) 記録紙サイズ

プリントする記録紙のサイズを選びます。
【L 判タテ／ 2L 判タテ／ハガキタテ／ A4】
【A4】を選んだ場合は、レイアウトを以下の設定から選びます。



(4) 明るさ（色調整プリントの場合は表示されません）

写真をプリントする際の明るさを調整します。 5 段階の調整ができます。 を押すと明るくなり、 を押すと暗くなります。

(5) コントラスト（色調整プリントの場合は表示されません）

写真をプリントする際のコントラストを調整します。 5 段階の調整ができます。 を押すとコントラストが強くなり、 を押すとコントラストが弱くなります。

(6) 画質強調（色調整プリントの場合は表示されません）

(1) で【する】を選ぶ

(2) で設定する項目を選び、 を押す

項目は以下の 3 つから選びます。

- 【ホワイトバランス】
  画像の白色部分の色合いを基準に、全体の色合いを調整します。色合いを調整することで、より自然に近い色合いに印刷できます。
- 【シャープネス】
  画像の輪郭部分のシャープさを調整して、はっきりした画像に調整できます。
- 【カラー調整】
  画像のカラー全体の濃度（色の濃さ）を調整し、画像全体をくっきりさせることができます。

(3) でレベルを調整し、 を押す

手順 2、3 をくり返して、3 つの項目を調整します。

(4) 調整が終わったら、 で【一覧へもどる】を選び、 を押す

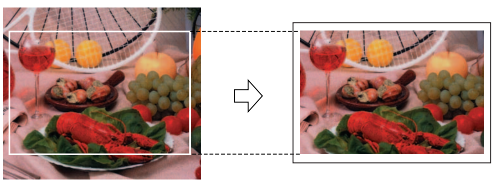
◆ フォトメディアキャプチャの設定画面に戻ります。

※ 画質強調は、画素数の少ないデジタルカメラの画像データに対して有効に働きます。
メガピクセル・クラスのカメラで撮影した写真は、そのまま印刷してください。
なお、画素数の多い画像データに画質強調を行うと、処理に数十分以上かかる場合があります。

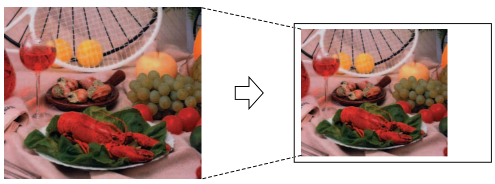
(7) 画像トリミング

プリント領域いっぱいに写真がプリントされるように、収まらない部分を切り取ります。

- 【する】
  横長の画像の場合は、縦のプリント領域に合わせて、縦長の画像の場合は、横のプリント領域に合わせてプリントします。収まりきらない部分は、切り取られます。



- 【しない】
  画像データを切り取らずに、プリント領域に収まるようにプリントします。



(8) ふちなし印刷

プリント領域いっぱいに写真をプリントします。【する】または【しない】を選びます。

変更した設定を保持する

設定を変更した後で、【設定を保持する】を選び、 を押します。【設定を保持しますか ? ／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されるので を押すと、現在の設定が初期値として登録されます。
初期値をお買い上げ時の状態に戻すには【設定をリセットする】を選びます。

例）L 判、2L 判、はがきに写真を印刷する

写真を L 判サイズやはがきサイズの記録紙に印刷する手順を説明します。

1 記録紙をセットする

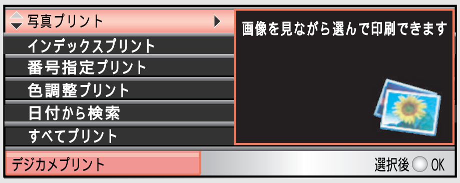
⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」

注意

- L 判サイズの記録紙は、スライドトレイにセットしてください。
  ⇒ 39 ページ「スライドトレイにセットする」
- 写真用光沢はがきは、必ず「写真用光沢はがきをセットする場合」をよくお読みになった後で、記録紙トレイにセットしてください。
  ⇒ 40 ページ「写真用光沢はがきをセットする場合」

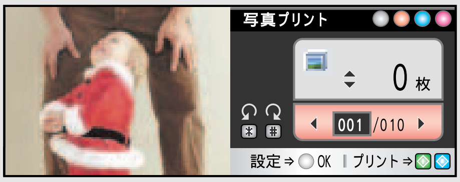
2 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットして、［デジカメプリント］を押す

フォトメディアキャプチャメニューが表示されます。



3 ［▲▼］で【写真プリント】を選び、［OK］を押す

メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真が表示されます。



4 ［◁］または［▷］でプリントしたい写真を選ぶ

5 ［▲▼］でプリントする枚数を設定し、［OK］を押す

［▲］を押すと、1 枚ずつ増えます。

フォトメディアキャプチャの設定画面が表示されます。

6 ［▲▼］で【記録紙サイズ】を選ぶ

3 で色調整プリントを選択した場合、【明るさ】【コントラスト】【画質強調】は表示されません。

7 ［◁］［▷］でセットした記録紙のサイズを選び、［OK］を押す

セットした記録紙のサイズに合わせて、【L 判タテ】【2L 判タテ】【ハガキタテ】のいずれかを選びます。

8 ［モノクロ］または［カラー］を押す

写真がプリントされます。

デジタルカメラから直接プリントする PictBridge

本製品は PictBridge に対応しています。PictBridge 対応のデジタルカメラと本製品を USB ケーブルで接続して、直接写真をプリントします。

PictBridge とは

PictBridge は、デジタルカメラやデジタルビデオカメラ、カメラ付き携帯電話などで撮影した画像を、パソコンを使わずに直接プリントするための規格です。PictBridge に対応した機器であれば、メーカーや機種を問わず、本製品と接続して写真をプリントできます。
PictBridge に対応しているデジタルカメラには、以下のロゴマークがついています。

PictBridge

注意

- ■ PictBridge ケーブル差し込み口には、PictBridge 対応のデジタルカメラおよび USB フラッシュメモリー以外を接続しないでください。本製品が損傷する恐れがあります。
- ■ PictBridge を使用している間、フォトキャプチャ機能は使用できません。
- ■ 本製品には撮影年月日の印刷機能はありません。お使いのカメラの撮影時の設定によって、撮影年月日が印刷されることがあります。

デジタルカメラで行う設定について

本製品で PictBridge 機能を使う場合は、デジタルカメラの以下の設定が有効になります。

設定項目	設定内容
記録紙サイズ	A4、10 × 15cm、L 判、2L 判、はがき
記録紙タイプ	普通紙、光沢紙、インクジェット紙
DPOF 印刷（＊ 1）	
プリント品質	標準、高画質
画質補正（＊ 2）	する、しない

＊ 1：本製品は、DPOF にも対応しています。

＊ 2：画質補正を「する」に設定した場合は、本製品のメニュー【画質強調】で、設定を行います。

設定項目や設定内容は、お使いのデジタルカメラによって異なります。詳しくは、デジタルカメラの取扱説明書をご覧ください。
デジタルカメラから設定ができない場合、またはデジタルカメラでプリンタ設定を選んだ場合は、以下の設定でプリントされます。

- 用紙サイズ：L 判
- 用紙タイプ：ふちなし
- 用紙種類：光沢紙
- 印刷品質：高画質
- 画質強調：なし

写真をプリントする

注意

- ■ PictBridge 使用中は、ファクスの送受信ができません。
- ■ PictBridge を使用する前に、本製品のカードスロットにメモリーカードがセットされていないことを確認してください。

1 デジタルカメラでプリントする写真を選択したり、記録紙サイズなどの設定を行う

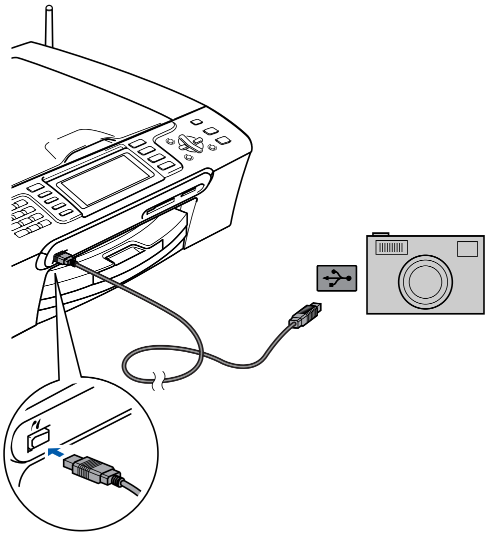
設定方法については、デジタルカメラの取扱説明書をご覧ください。

デジタルカメラから設定ができない場合は、固定の設定でプリントされます。詳しくは、左のマークの説明をご覧ください。

2 デジタルカメラの電源を切る

3 本製品とデジタルカメラを USB ケーブルで接続する

本製品前面にある、PictBridge ケーブル差し込み口に USB ケーブルを接続します。



⚠注意

● PictBridge ケーブル差し込み口には、PictBridge 対応のデジタルカメラおよび USB フラッシュメモリー以外を接続しないでください。本製品が損傷する恐れがあります。

4 デジタルカメラの電源を入れ、プリント設定をする

5 デジタルカメラからプリントを実行する

設定した内容で写真がプリントされます。

注意

■ プリントが終了するまでUSBケーブルを抜かないでください。

DPOF を使用する

DPOF（デジタルプリントオーダーフォーマット）を利用して、デジタルカメラ側でプリントする写真や枚数を指定している場合は、本製品とデジタルカメラを USB ケーブルで接続するだけで、指定したプリントが行えます。

※ DPOF とは、デジタルカメラの記録フォーマットの一つで、撮影した画像のプリントに関する規格です。印刷する写真の選択や印刷枚数の指定をデジタルカメラ側で行えます。DPOF を使用すると、印刷したい写真や枚数を本製品で指定する必要がありません。

スキャンしたデータを保存する　スキャン TO メディア

本製品でスキャンした画像を、パソコンを使用せずにメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーに保存できます。TIFF ファイル形式（＊ .tif）または PDF ファイル形式（＊ .pdf）を選ぶと、複数枚の原稿を 1 つのファイルにまとめて保存できます。

スキャンしたデータをメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーに保存する

［スキャン　TO　メディア］

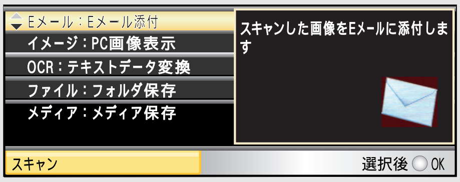
1 メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットする

2 原稿をセットする

⇒ 44 ページ「原稿をセットする」

3 スキャン を押す

スキャンメニューが表示されます。



4 △▽ で【メディア：メディア保存】を選び、OK を押す

本製品をパソコンと接続していない場合は、【メディア：メディア保存】だけが表示されます。

5 △▽ で画質を選び、OK を押す

画質は以下から選びます。
【カラー 150 dpi ／カラー 300 dpi ／カラー 600dpi ／モノクロ 200 × 100 dpi ／モノクロ 200 dpi】

6 △▽ で保存するファイル形式を選び、OK を押す

ファイル形式は以下から選びます。

- 5 で、カラーを選んだ場合
  【PDF ／ JPEG】
- 5 で、モノクロを選んだ場合
  【TIFF ／ PDF】

7 ダイヤルボタンで保存するファイルの名前を入力する

ファイル名は 6 文字以内で入力します。

※ ファイル名に漢字・ひらがな・カタカナを使うことはできません。ファイル名はアルファベットまたは数字で付けてください。

※ 間違って入力した場合は、クリア/バック を押して消去します。

※ ファイル名は、スキャンした日付が自動的に付けられています。
例）2008 年 5 月 3 日の場合は、「080503XX」という名前が付けられます。(「XX」は通し番号です)

8 モノクロ または カラー を押す

ADF に原稿をセットしたときは、スキャンが開始されます。

原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、【次の原稿はありますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

読み取る原稿が 1 枚の場合 ⇒ 11 へ

読み取る原稿が複数枚の場合 ⇒ 9 へ

9 1 あ を押す

10 原稿台ガラスに次の原稿をセットして、

OK を押す

メモリーカードまたはUSBフラッシュメモリーに保存する原稿の枚数だけ、9、10 を繰り返します。

11 すべての原稿をスキャンしたら、

2 かABC を押す

スキャンを終了します。

注意

- デジカメプリント が点滅しているときは、メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーの抜き差しをしないでください。データやメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを壊す恐れがあります。

本製品をスキャナとして使う操作については、画面で見るマニュアルをご覧ください。
⇒画面で見るマニュアル「スキャナ」

パソコンで PDF ファイルを閲覧するには、Adobe® Acrobat® Reader® または Adobe® Acrobat® が必要です。

Memo

第８章

こんなときは

日常のお手入れ

困ったときは

本製品が汚れたら

日常のお手入れ

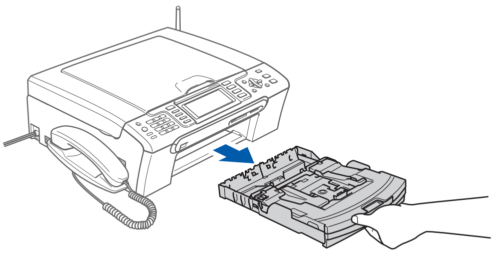
本製品が汚れたときは、必要に応じて以下のようにお手入れを行ってください。

本製品の外側を清掃する

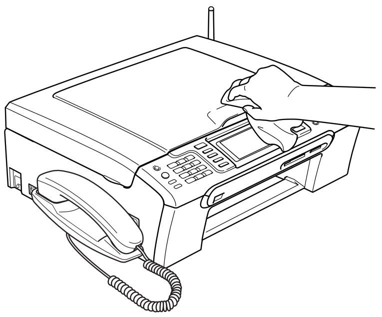
注意

■ ベンジンやシンナーなどの有機溶剤や、アルコールを使用しないでください。本製品の操作パネルの文字が消えることがあります。

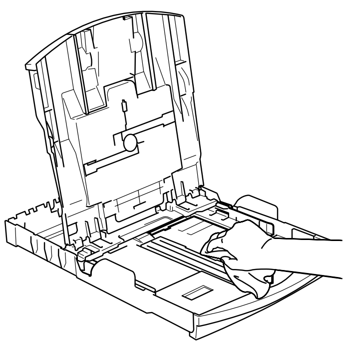
1. **記録紙トレイを引き出す**



2. **本体を乾いた柔らかい布で軽く拭く**

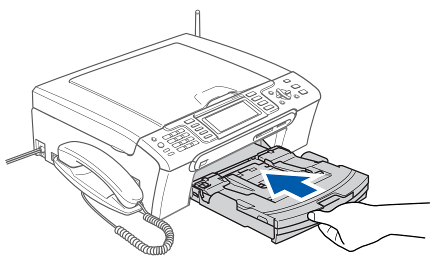


3. **トレイカバーを開いて、記録紙トレイから記録紙を取り除き、記録紙トレイの内側と外側を軽く拭く**



4. **トレイカバーを閉じ、記録紙トレイを元に戻す**

本製品から引き出した記録紙トレイを押して、元に戻します。



スキャナ (読み取り部) を清掃する

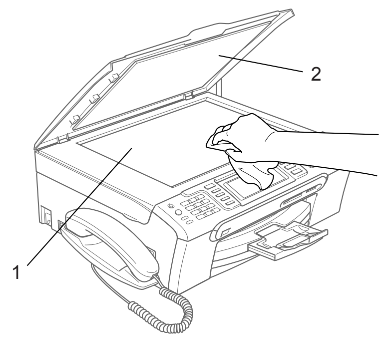
スキャナ (読み取り部) が汚れていると、ファクス送信時やコピー時の画質が悪くなります。きれいな画質を保つために、こまめにスキャナ (読み取り部) を清掃してください。

注意

■ ベンジンやシンナーなどの有機溶剤を使用しないでください。

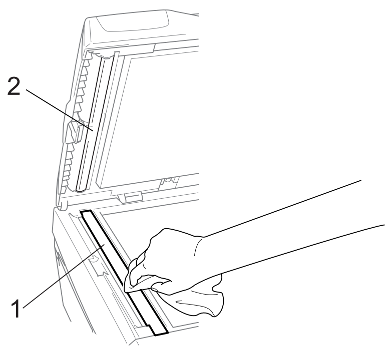
1. **原稿台カバーを開け、読み取り部を拭く**

水を含ませて硬く絞った柔らかい布で、原稿台ガラス ⑴、原稿台カバーのプラスチック面 ⑵ を拭いてください。



2. **(MFC-880CDN/CDWN の場合)**
ADF 読み取り部を拭く

水を含ませて固く絞った柔らかい布で、ADF 読み取り部（1）と白色のバー（2）を拭いてください。



注意

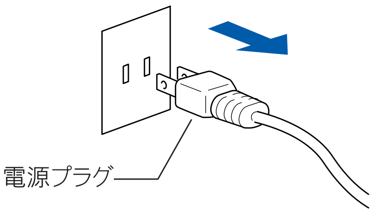
■ コピーで黒い細い線が入るときには、ADF 読み取り部（1）の清掃を行ってください。非常に細かい汚れ（ボールペンのインクや修正液など）が付着している場合がありますので、念入りに拭いてください。汚れが見えない場合は、ADF 読み取り部のグラスを手で触ってどこに汚れがあるかを確認し、その部分をオーディオ用クリーニング液 (イソプロピルアルコール) などを含ませた柔らかい布で念入りに拭いてください。最後にＡＤＦ からコピーしてみて、黒い縦線が消えていることを確認してください。

無水エタノール、OA クリーナー、メガネクリーナー、カセット用ヘッドクリーナー、CD 用レンズクリーナーが使用できます。

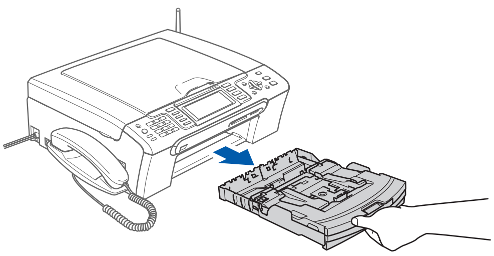
給紙ローラーを清掃する

給紙ローラーが汚れていると、給紙しにくくなります。

1 電源コードをコンセントから外す

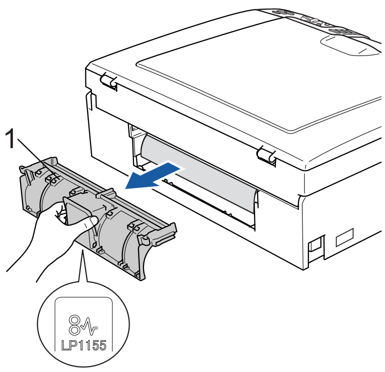


2 本製品から記録紙トレイを引き出す



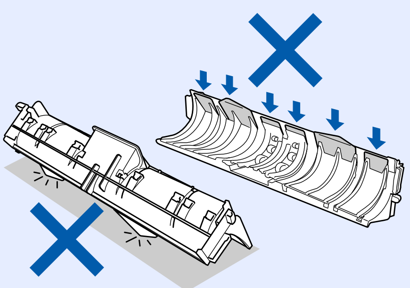
3 本製品背面の紙づまり解除カバー（1）を取り外す

中央のつまみをつまんだまま、手前に引いて取り外します。

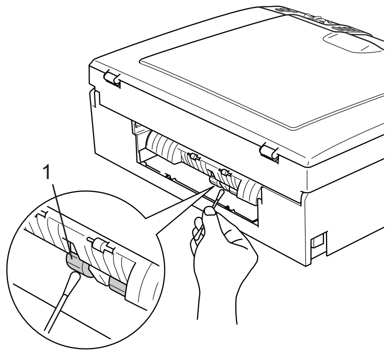


注意

■ 紙づまり解除カバー内側にある透明フィルムが変形すると、故障の原因となります。透明フィルムを下に向けて置いたり、手で触ったりしないでください。



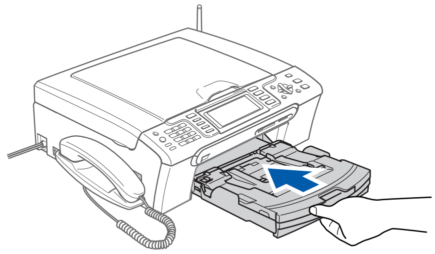
4 オーディオ用クリーニング液（イソプロピルアルコール）などを含ませた綿棒で給紙ローラー（1）を拭く



5 紙づまり解除カバーを取りつける

カバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

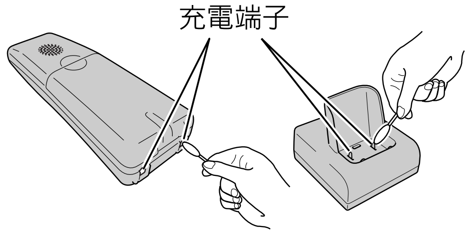
6 記録紙トレイを元に戻す



7 電源コードをコンセントに差し込む

子機を清掃する

充電端子は定期的に綿棒などで清掃してください。子機の充電端子が汚れていると、充電できなかったり、勝手に使用中の状態になったりすることがあります。充電端子の汚れは、必ず拭き取ってください。



紙がつまったときは

記録紙がつまったときは

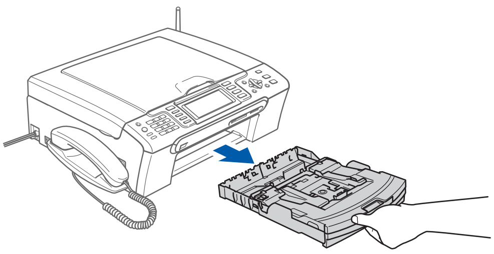
記録紙がつまると、ブザーが鳴って液晶ディスプレイに下記のメッセージが表示されます。

- 【記録紙が詰まっています】

注意

■ 紙づまりが解消されてもカバーの開け閉めは必ず行ってください。
■ プリントヘッドの下に紙がつまったときは、電源を切ってからプリントヘッドを動かし、記録紙を取り除いてください。
■ 何度も紙がつまるときは、紙の曲がりやそりを直して使用してください。
⇒ 36 ページ「カールしている記録紙について」
■ 何度も紙がつまるときは…。
- 紙の曲がりやそりを直して使用してください。⇒ 36 ページ「カールしている記録紙について」
- 給紙ローラーを清掃してください。⇒ 161 ページ「給紙ローラーを清掃する」
- 紙づまり解除カバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
⇒ 162 ページ「記録紙がつまったときは」手順 5
- 紙の切れ端、クリップなどの異物がマシンに残っていないかどうか、記録紙トレイを抜いて確認してください。
- 記録紙が使用できないものである可能性があります。ブラザー純正の専用紙、推奨紙をお使いになることをお勧めします。⇒ 35 ページ「専用紙 ・推奨紙」
- それでもエラーメッセージが消えないときは、電源の抜き差しを行ってください。

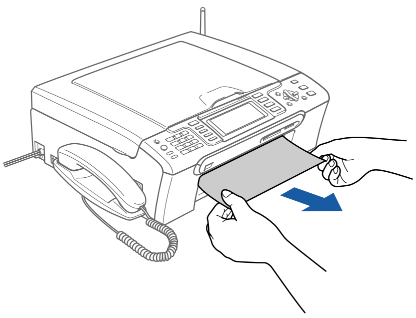
1 記録紙トレイを引き出す



2 記録紙挿入口に残っている記録紙をゆっくり引き抜く

注意

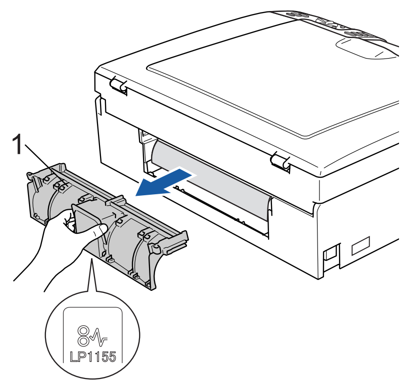
■ 記録紙挿入口に繰り込まれている記録紙は、無理に引き抜かないでください。



まだ記録紙が残っている場合は、エラーメッセージが表示されたままになっています。
次の手順に進んでください。

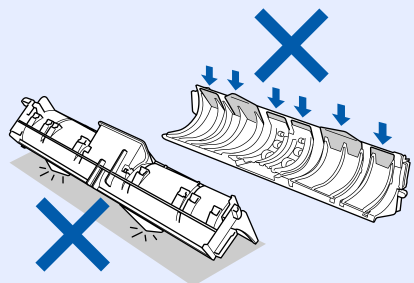
3 本体背面の紙づまり解除カバー（1）を取り外す

中央のつまみをつまんで、手前に引いて取り外します。



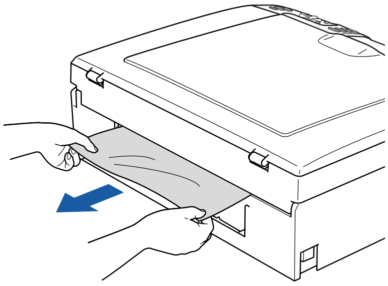
注意

■ 紙づまり解除カバー内側にある透明フィルムが変形すると、故障の原因となります。透明フィルムを下に向けて置いたり、手で触ったりしないでください。



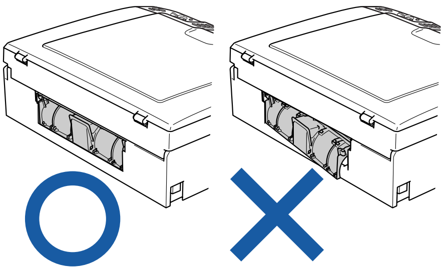
4 つまった記録紙を手前に抜き取る

紙が破れないよう、静かに抜き取ります。



5 紙づまり解除カバーを取りつける

カバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

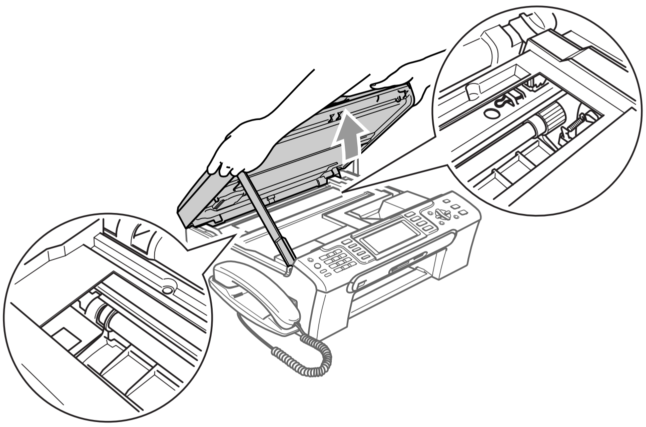


6 本体カバーを開けて、内部に記録紙が残っていないか確認する

本体カバーはしっかりと固定される位置まで上げてください。

残っている記録紙があれば取り除いてください。

紙が破れないよう、静かに抜き取ります。

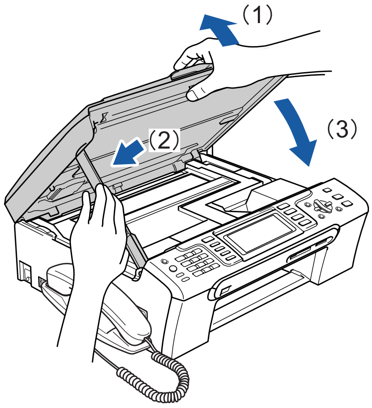


注意

- ■ プリントヘッドの下に紙がつまったときは、電源を切ってからプリントヘッドを動かし、記録紙を取り除いてください。
- ■ 内部につまった記録紙を取り除くときは、記録部に触れないでください。故障の原因となる恐れがあります。

7 本体カバーを閉める

固定をとるために少し本体カバーを持ち上げ（1）、本体カバーサポートをゆっくり押しながら（2）、本体カバーを閉めます（3）。

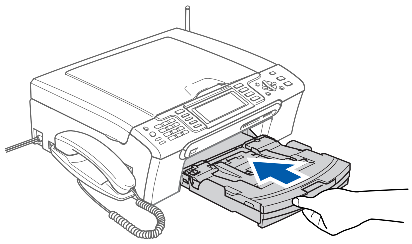


注意

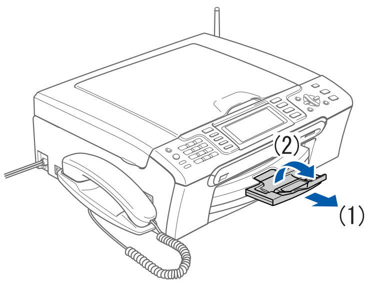
- ■ 本体カバーを閉めるときは、手をはさまないように注意して、最後まで本体カバーを持って閉めてください。

8 記録紙トレイを元に戻す

本製品から引き出した記録紙トレイを押して、元に戻します。



9 トレイに手をそえ、記録紙ストッパーを「カチッ」と音がするまで確実に引き出し（1）、フラップを上げる（2）



注意

- ■ 記録紙ストッパーは確実に引き出してください。

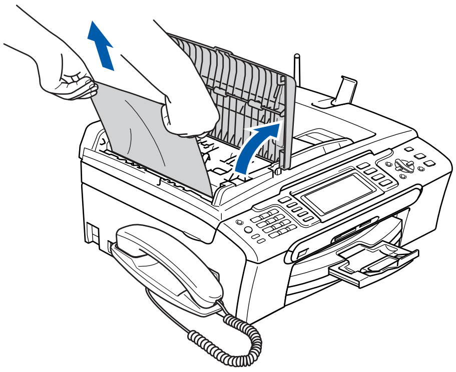
ADF に原稿がつまったときは（MFC-880CDN/CDWN のみ）

ADF で原稿がつまると、ブザーが鳴って、液晶ディスプレイに【原稿が詰まっています】と表示されます。

1 **ADF から、つまっていない原稿をすべて取り除く**

2 **ADF カバーを開き、つまった原稿を抜き取る**

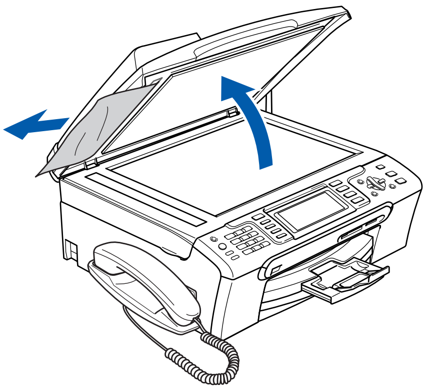
原稿が破れないように、静かに抜き取ります。



3 **ADF カバーを閉じる**

4 **原稿台カバーを開き、つまった原稿を抜き取る**

原稿が破れないように、静かに抜き取ります。



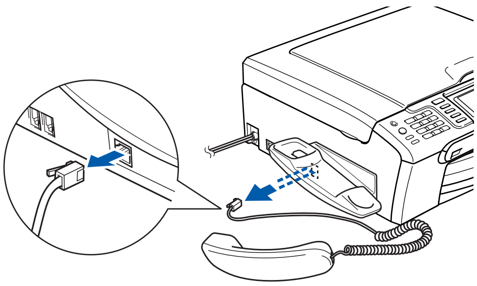
5 **原稿台カバーを閉じる**

6 停止/終了 **を押す**

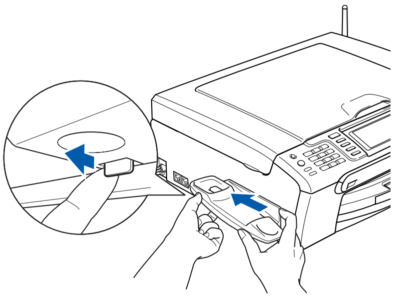
受話器を取り外して使用するときは

受話器を使用しない場合は、以下の手順で受話器台を取り外すことができます。

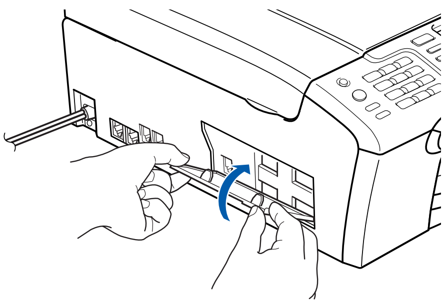
1 受話器コードを外す



2 つまみを手前に引き、受話器台を矢印の方向に外す



3 受話器台外し口カバーをつける

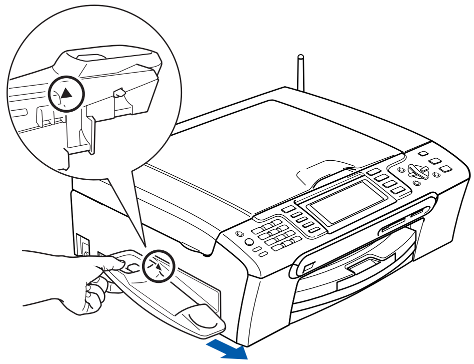


受話器台を再度取り付ける場合

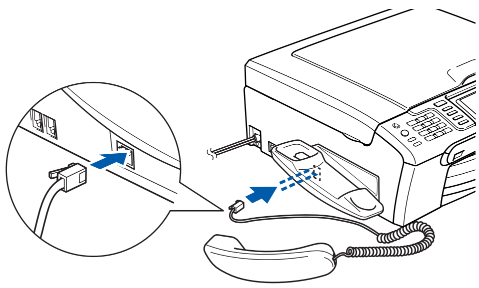
外した受話器台を取り付ける場合は、以下の手順で行ってください。

(1) **受話器台外し口カバーを外して、本製品と受話器台の▲印を合わせて矢印の方向に引いて取り付ける**

※ 受話器台外し口カバーを手で外すのが難しい場合は、コインなどを差し込んで外してください。



(2) **受話器コードを接続する**



インクがなくなったときは

本製品は、インクカートリッジの残量が少なくなると自動的に下記のメッセージを表示し、インクカートリッジの交換時期をお知らせします。インクの残りが少なくなると、文字のカスレなどが発生しやすくなります。
インクの残りが少なくなったときはできるだけ早くインクカートリッジをお求めいただくことをおすすめします。

- インクの残りが少なくなったとき（ブラックが少なくなったとき）：【まもなくインク切れ／BK ブラック】
- インクがなくなったとき：【インク切れ／BK ブラック】

注意

- ■ どれか 1 つのインクがなくなった場合でも、【インク切れ　○○】と表示されたときは、インクカートリッジを交換するまで印刷できません。以下の手順でインクカートリッジを交換してください。
- ■ 本製品は、プリントヘッドのノズルの目詰まりを防ぐために、自動的にプリントヘッドをクリーニングします。そのため、印刷をしていなくてもインクが消費されます。

必要なときに、インク残量を確認することもできます。⇒ 168 ページ「インク残量を確認する」

インクカートリッジは、ブラック（黒）LC10BK、シアン（青）LC10C、マゼンタ（赤）LC10M、イエロー（黄）LC10Y をお買い求めください。お近くの販売店で交換用の純正インクカートリッジが手に入らないときは、「ご注文シート」などでご注文ください。
⇒裏表紙「消耗品などのご注文について」

インクカートリッジを交換する

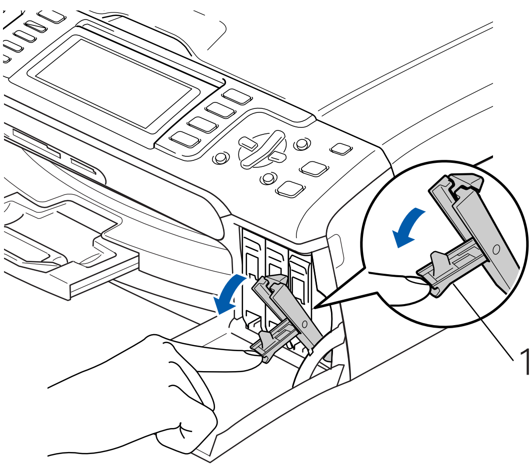
液晶ディスプレイに【インク切れ】と表示されたら、新しいインクカートリッジに交換します。

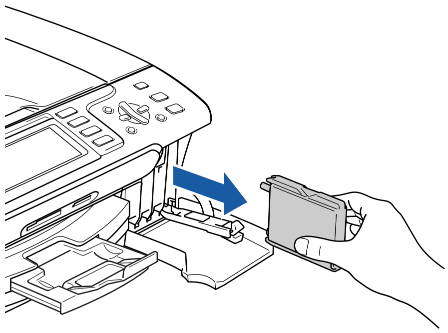
注意

- ■ 開封したインクカートリッジは、6ヶ月以内に使い切ることをおすすめします。
（6ヶ月以上のご使用は、水分が蒸発しインクの粘度が高まるため、吐出不良の恐れがあります。）
- ■ 純正以外のインクを使用したことによる不具合は、本製品が保障期間内であっても有償修理となります。
- ■ インクカートリッジにインクを補充しないでください。プリントヘッドに障害を与える可能性があります。また、この場合は保証期間内であっても無償修理の対象外となります。
- ■ インクカートリッジを分解しないで下さい。インク漏れの原因になります。

1 インクカバーを開く

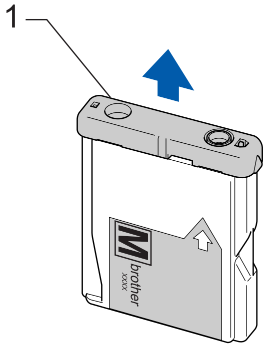
2 レバー（1）を下に引き、画面に表示された色のインクカートリッジを取り出す





3 新しいインクカートリッジを準備する

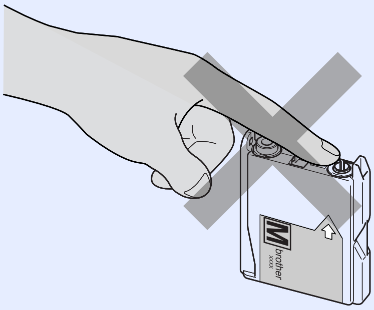
新品のインクカートリッジを開封し、黄色いキャップ（1）を取ります。



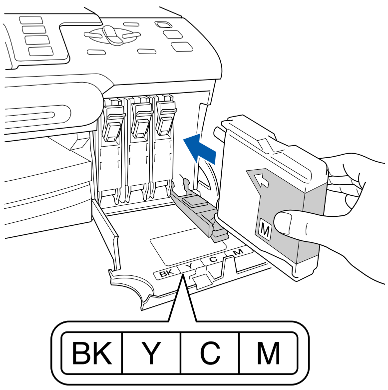
インクカートリッジの開封時にキャップが外れることがありますが、品質に影響はありませんので、そのまま取り付けてください。

注意

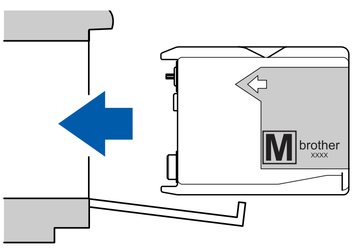
■ インクカートリッジのインク開口部には手を触れないでください。インク開口部はインクで濡れています。衣類につくとシミになりますのでご注意ください。



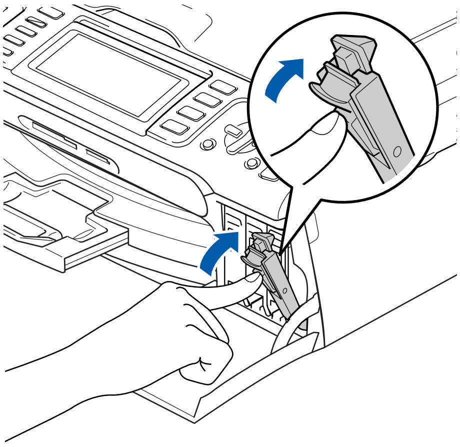
4 新しいインクカートリッジを取り付ける



インクカートリッジは、本製品に向かって左の面にラベルがあるように、垂直にして差し込みます。



5 インクカートリッジを押し込むようにレバーをゆっくりと、「カチッ」と音がするまで確実に押す



6 インクカバーを閉じる

- 【インク切れ】または【まもなくインク切れ】のメッセージが表示されているときにインクを交換した場合は、自動的に内蔵カウンターがリセットされます。
- メッセージが表示されていないときにインク交換を行った場合は、【インクを交換しましたか／BK ブラック／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。次の手順に進んでください。

7 [1 あ] を押す

内蔵カウンターがリセットされます。

注意

■ 液晶ディスプレイに【インクを交換しましたか／BK ブラック／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されたときは、必ず、[1 あ]を押してください。[1 あ]を押さなかった場合、本製品の内蔵カウンターがリセットされず、インクの残量を正しく把握できなくなります。

インクカートリッジを捨てるときは

使用済みのインクカートリッジは、インクが飛び散らないように注意し、地域の規則に従って廃棄してください。（インクカートリッジに貼られているラベルは、剥がす必要はありません。）

インク残量を確認する

[インク残量]

本製品では、以下の手順でインク残量を確認できます。

1 **インク を押し、△▽ 【インク残量】を選び、OK を押す**

「ブラック／イエロー／シアン／マゼンタ」のインク残量が表示されます。

2 **停止/終了 を押す**

確認を終了します。

パソコンからも本製品のインク残量を確認できます。詳しくは、画面で見るマニュアルをご覧ください。
⇒画面で見るマニュアル「プリンタ」－「印刷状況やインク残量を確認する（ステータスモニタ）」
⇒画面で見るマニュアル「パソコン活用」－「便利な使い方 (ControlCenter)」

印刷が汚いときは

横縞が目立つときなど、印刷画質が良くないときは、プリントヘッドのクリーニングや、印刷ズレを補正する必要があります。

> 印刷したものに横縞が目立つときは、ヘッドクリーニングが効果的です。

定期メンテナンスについて

本製品は、プリントヘッドのノズルの目詰まりを防ぐために、自動的にプリントヘッドをクリーニングします。

プリントヘッドをクリーニングする

プリントヘッドをクリーニングします。1 回のヘッドクリーニングで問題が解決しない場合、何度かクリーニングを行うことで、解決できる場合があります。ヘッドクリーニングを 5 回行っても問題が解決しない場合は、お客様相談窓口（コールセンター）「0120-590-381」へご連絡ください。

目詰まり時

正常

> ヘッドクリーニングはある程度のインクを消耗します。

1 **［インク］を押し、［▲/▼］で【ヘッドクリーニング】を選び、［OK］を押す**

ヘッドクリーニングの設定画面が表示されます。

2 **［▲/▼］でクリーニングする色を選び、［OK］を押す**

色は、【ブラック／カラー／全色】から選択します。

プリントヘッドのクリーニングが開始されます。

> 【ブラック】または【カラー】を選んだときは、クリーニングに約 30 秒かかります。【全色】を選んだときは、約 2 分かかります。

記録紙の裏面が汚れるときは

印刷した後、記録紙の裏面に汚れが付く場合は、プリンタ内部（給紙 / 排紙ローラー）にインクが付着している可能性があります。以下の手順で、クリーニングを行います。

1 **原稿台カバーを開け、スキャナ (読み取り部) に汚れがないかを確認する**

⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」

2 **原稿台や ADF に原稿をセットせずに、［コピー］［モノクロ］を押してコピーを行う**

記録紙が排紙され、それによって本製品の内部がクリーニングされます。

印刷テストを行う

【テストプリント】

プリントヘッドをクリーニングしても印刷品質が改善されない場合は、印刷テストを行い、再度クリーニングを行います。

印刷品質をチェックする

1 [インク] を押し、[▲▼]【テストプリント】を選び、[OK] を押す

2 [▲▼] で【印刷品質】を選び、[OK] を押す

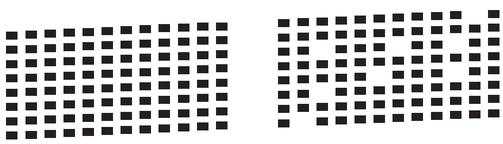
3 [モノクロ] または [カラー] を押す

「印刷品質チェックシート」が印刷されます。
印刷後は、【印刷品質は OK ですか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

4 きれいに印刷されているときは [1 あ] を、きれいに印刷されていないときは [2 か ABC] を押す

1 色でも「悪い例」のような状態があるときは、[2 か ABC] を押します。

良い例　　悪い例



[1 あ] を押した場合は、印刷品質チェックが終了します。

[2 か ABC] を押した場合は、【ブラックは OK ですか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

5 黒色がきれいに印刷されているときは [1 あ] を、きれいに印刷されていないときは [2 か ABC] を押す

【カラーは OK ですか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

6 カラーがきれいに印刷されているときは [1 あ] を、きれいに印刷されていないときは [2 か ABC] を押す

【クリーニング を開始しますか ？ ／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

7 [1 あ] を押す

プリントヘッドがクリーニングされます。
クリーニングが終わると、【スタートボタンを押す】と表示されます。

8 [モノクロ] または [カラー] を押す

もう一度、「印刷品質チェックシート」が印刷されます。
印刷後は、【印刷品質は OK ですか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。きれいに印刷されていたら、[1 あ] を押して、印刷品質チェックを終了します。きれいに印刷されていない場合は、[2 か ABC] を押して手順 5 に戻ります。

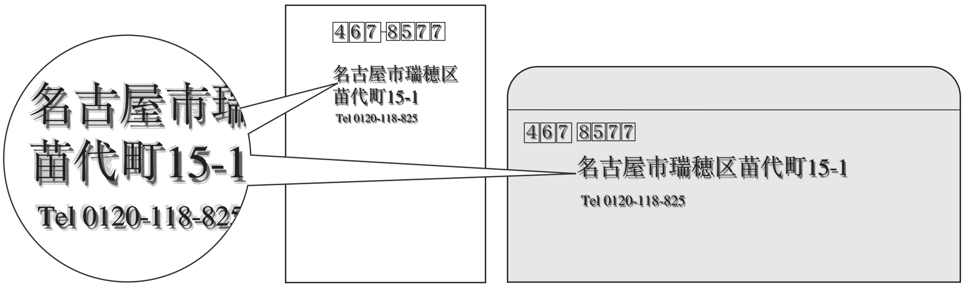
9 [停止/終了] を押す

注意

- 上記の操作を行っても正しく印刷されない場合は、インクカートリッジが正しくセットされているか確認してください。

印刷位置のズレをチェックする

印刷位置がずれている場合に、印刷位置が正しいかを確認し、必要に応じて修正します。



1 インク を押し、▲▼【テストプリント】を選び、OK を押す

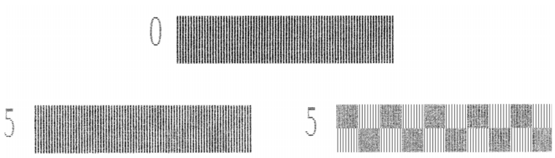
2 ▲▼ で【印刷位置】を選び、OK を押す

3 モノクロ または カラー 押す

「印刷位置チェックシート」が印刷されます。
印刷後は、【印刷位置は OK ですか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

4 600dpi、1200dpi とも「No.0」と最も似ている印字パターンが「No.5」のときは 1 を、「No.5」以外のときは 2 を押す

「No.0」と最も似ているのが「No.5」であれば正常です。



＜良い例＞　＜悪い例＞

1 を押した場合は、印刷位置チェックが終了します。
2 を押した場合は、【600DPI の補正番号選択 (1-8)】と表示されるので、次の手順に進みます。

5 600dpi について、「No.0」と最も似ている印字パターンの番号を入力する

【1200DPI の補正番号選択（1-8)】と表示されます。

6 1200dpi について、「No.0」と最も似ている印字パターンの番号を入力する

7 停止/終了 を押す

印刷位置チェックを終了します。

子機のバッテリーを交換するときは

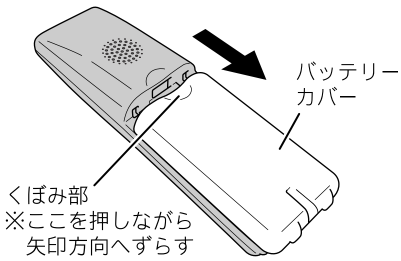
子機を充電しても使える時間が短くなってきたら、バッテリーを交換してください。使用のしかたにもよりますが、交換時期の目安は約 1 年です。交換バッテリー（型名：BCL-BT30）は、本製品または子機をお買い上げの販売店でお買い求めください。

注意

- バッテリーを交換したら必ず 12 時間以上充電してください。
- バッテリーを覆っている白色のビニールカバーは、はがさないでください。

1 バッテリーカバーを開ける

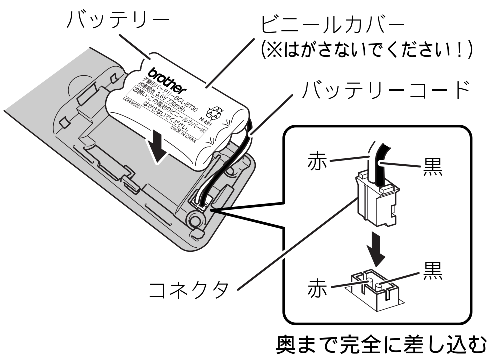
バッテリーカバーのくぼみ部を押しながら、矢印の方向へずらします。バッテリーカバーの後端部を持ち上げ、バッテリーカバーを外します。



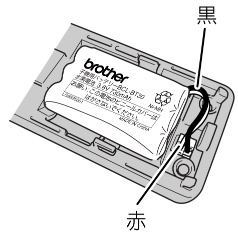
2 バッテリーを取り出し、コネクタを上へ引き抜く

3 新しいバッテリーコネクタを差し込む

コネクタは下図の向きに差し込みます。向きを間違えないように注意してください。

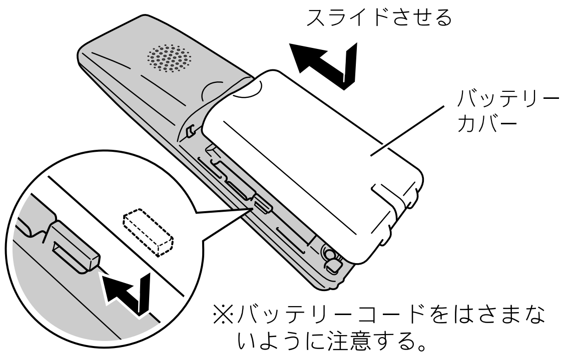


4 バッテリーを子機に入れる



5 バッテリーカバーを閉める

バッテリーコードをはさまないように注意してください。



注意

- **バッテリーには充電式ニッケル水素電池を使用しています。不要になったニッケル水素電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで、充電式電池のリサイクル協力店にお持ちください。**
  - ビニールカバーははがさないでリサイクル箱へ
  - 分解しないでリサイクル箱へ
- **使用済み電池の届け出先は、199 ページをご覧ください。**

Ni-MH

エラーメッセージ

困ったときは

本製品や電話回線に異常があるときは、下記のようなエラーメッセージと処置方法が液晶ディスプレイに表示されます。ディスプレイに表示された処置方法や、下記の処置を行ってもエラーが解決しないときは、電源コードを抜いて電源を OFF にし、数秒後にもう一度差し込んでみてください。これによって改善される場合があります。それでも不具合が改善しないときは、エラーメッセージを控えた後で「お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）0120-590-381」へご連絡ください。

エラーメッセージ	原因	対処
まもなくインク切れ BK ブラック Y イエロー C シアン M マゼンタ	インクの残りが少なくなっている。 このとき、カラーファクスの受信は中止されるため、カラーファクスが送られてきても、モノクロで受信されます。 また、一部のファクシミリからは、送信が中止されることがあります。この場合は、モノクロで送信してもらうようにしてください。	カラーファクスを受信したいときは、新しいインクカートリッジに交換してください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」 弊社ダイレクトクラブで購入することもできます。 ⇒裏表紙「消耗品などのご注文について」 なお、モノクロでのファクス受信やカラーコピーに影響はありません。【インク切れ】になるまで、利用できます。
インク切れ BK ブラック Y イエロー C シアン M マゼンタ	インク切れ。 1 色でもインクがなくなると、印刷できなくなります。このとき、ファクスメッセージはメモリーに記憶されます。また、カラーファクスはモノクロとして受信されます。	液晶ディスプレイに表示されている色のインクカートリッジを交換してください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」
印刷 できません 初期化できません スキャンできません クリーニングできません ヘッド動作できません 子機使用できません エラー No.XX	機械内部で記録紙の破片や異物がつまっているなどの機械的な異常が発生した。	本体カバーを開けて、つまった記録紙の破片や異物を取り除いて、本体カバーを閉めてください。問題が解決されない場合は、電源コードをいったん抜いて、接続し直してください。それでも問題が解決されない場合は、本製品のメモリーに残っているファクスメッセージを別のファクシミリかお使いのパソコンに転送した後、お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）へご連絡ください。 ファクスの転送方法 ⇒ 175 ページ「ファクスの転送方法」
回線設定してください	ADSL の IP フォンに接続している。 PBX に接続している。 マンションアダプタ回線に接続している。	手動で回線種別を設定し直してください。⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
カートリッジがありません	インクカートリッジが装着されていません。	インクカートリッジを装着してください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」
画像が小さすぎます	画像が小さすぎて、画像の補正、またはトリミングができない。	240 × 240dpi 以下の解像度です。この解像度ではご利用いただけません。撮影解像度を高くしてご利用ください。
画像が長すぎます	画像が長すぎて、トリミングができない。	縦横比が、8：3 より小さい比率でご利用ください。カメラ側で変更できない場合は、パソコン等をご利用ください。また、パノラマ合成写真などの印刷はサポートしておりません。
カバーが開いています 本体カバーおよびインクカバーを閉じてください	本体カバーが完全に閉まっていない。 インクカバーが、完全に閉まっていない。	本体カバーまたはインクカバーを再度閉め直してください。
記録紙が詰まっています	記録紙が記録部につまっている。	つまった記録紙を取り除き、記録紙を正しくセットし直してください。紙づまりが解消されてもカバーの開け閉めは必ず行ってください。⇒ 162 ページ「紙がつまったときは」
記録紙サイズを確認してください A4 サイズの記録紙をセットして を押してください	記録紙トレイにA4サイズ以外の記録紙がセットされている。	A4 サイズの記録紙をセットして モノクロ または カラー を押してください。
記録紙を送れません 記録紙を入れ直して を押してください	記録紙がないか、正しくセットされていない。	記録紙を補給するか、正しくセットして、モノクロ または カラー を押してください。

第1章 ご使用の前に
第2章 電話
第3章 ファクス
第4章 電話帳
第5章 留守番機能
第6章 コピー
第7章 フォトメディアキャプチャ
第8章 こんなときは
付録

エラーメッセージ	原因	対処
クリーニング中	プリントヘッドのクリーニング中。	そのまましばらくお待ちください。⇒ 169 ページ「プリントヘッドをクリーニングする」
原稿が詰まっています	ADF で原稿がつまりました。	つまった原稿を取り除いてください。⇒ 164 ページ「ADF に原稿がつまったときは（MFC-880CDN/CDWN のみ）」
使用できないハブ	USBハブまたはハブを内蔵したUSB機器がセットされている。 ※ ハブ回路が内蔵された一部のUSBフラッシュメモリーに対しても、このエラーメッセージが表示されます。	本製品はハブ、またはハブを内蔵した USB 機器には対応しておりません。ハブ、または USB 機器を抜いてください。 ※ 使用可能な USB 機器の詳細については、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（http://solutions.brother.co.jp/）にある「よくあるご質問（Q&A）」の「USB フラッシュメモリーの他社製品動作確認情報」をご覧ください。
使用不能な USB 機器 前面にケーブル接続された機器はご利用できません とり外してOn/Offボタンでリセットしてください	本製品に対応していないUSB機器が接続されている。または、接続された USB 機器が壊れている可能性がある。	USB ケーブルを抜き、本製品の電源を入れ直してください。本製品では、メモリーカードから写真を印刷することもできます。 ⇒ 139 ページ「メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーをセットする」
使用不能な USB 機器です USB機器を抜いてください	本製品に対応していない USB フラッシュメモリーがセットされている	USB フラッシュメモリーを抜いてください
室温が高すぎます 室温を下げてください	室温が高くなっている。	室温を下げてお使いください。
室温が低すぎます 室温を上げてください	室温が低くなっている。	室温を上げてお使いください。
切断されました	通信中に相手機から回線が切断された。	相手先に電話をし、原因を解除してもらい、再度送信してください。
通信エラー	回線状態が悪い。	少し時間が経ってから、もう一度送信してください。
	相手先がポーリング送信待機状態になっていないときに、ポーリング受信の操作を行った。	相手先に確認して、もう一度操作してください。
	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用している。（相手側を含む）	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況によりファクス送信／受信ができないことがありますので、IP 網を使わずに送信／受信してください。 不明な点は、ご契約のIP網サービス会社へお問い合わせください。
データが残っています	プリントデータが本体のメモリに残っている。	停止/終了 を押してください。 （印刷を中止し、印刷中の記録紙を排出します。）
	パソコン側が印刷を一時停止したままになっている。	パソコン側で印刷を再開してください。
電話機コードを接続してください	電話機コードが接続されていない。	電話機コードを接続してください。⇒かんたん設置ガイド
話し中／応答がありません	相手先が話し中か、応答がなかった。	少し時間を置いて、もう一度かけ直してください。 相手がファクスではない場合は応答しないので、再ダイヤルを繰り返したあと、【話し中／応答がありません】になります。
ファイルがありません	メモリーカード内に印刷可能なファイルが存在しない。	メモリーカードに保存されているファイル形式を確認してください。
プリンタ使用中	本製品のプリンタが、動作中。	印刷が終了してから再度操作してください。
メモリカードエラー（メモリーカードがセットされている場合） 使用不能な USB 機器です（USBフラッシュメモリーがセットされている場合）	メモリーカードがフォーマットされていない。 メモリーカードが壊れている。	メモリーカードを抜き、正しいメモリーカードを差し込んでください。
	メモリーカードがカードスロットに正しく差し込まれていない。	メモリーカードを抜いて、差し込み直してください。
	本製品のメモリーがいっぱいで、メモリーカード内のファイルが読み取れない。	本製品のメモリーをクリアするかメモリーカード内の画像データのサイズを小さくしてください。
メモリーがいっぱいです 読み取り分送信⇒ 中止⇒	空きメモリーが不足している。	空きメモリーが不足しています。ファクスメッセージや留守録データを消去してください。モノクロ または カラー を押すと、すでに読み込んだ原稿を送信します。停止/終了 を押すと送信を中止します。
メモリーがいっぱいです	空きメモリーが不足している。	メモリーに記録されている音声メッセージやファクスメッセージを消去してください。

【印刷できません】【初期化できません】などのエラーが解決されない場合は、本製品でファクスメッセージを印刷することができません。以下の方法でメモリーに残っているファクスメッセージを別のファクシミリかパソコンに転送することができます。

ファクスの転送方法

(A) 別のファクシミリに転送する場合

(1) [停止/終了] を押して、エラーメッセージを閉じる

(2) [メニュー] を押し、[▲▼]【サービス】[OK]【データ転送】[OK]【ファクス転送】[OK] を押す

◆【受信データはありません】と表示されたときは、メモリーにファクスメッセージが残っていません。

◆ファクス番号の入力画面が表示されたときは、メモリーにファクスメッセージが残っています。手順 (3) に進んでください。

(3) 転送先のファクス番号を入力し、[モノクロ] を押す

※発信元登録がされていないと転送ができません。

(B) 本製品と接続しているパソコンにファクスメッセージを転送する場合

(1) [停止/終了] を押して、エラーメッセージを閉じる

(2) [メニュー] を押し、[▲▼]【ファクス】[OK]【応用機能】[OK]【転送／メモリー受信】[OK] を押す

(3) [▲▼] で【PC ファクス受信】を選び、[OK] を押す

(4) [▲▼] で受信するパソコンの名前を選び、[OK] を押す

USB 接続しているパソコンを選ぶ場合は、＜ USB ＞を選びます。ネットワークに接続されたパソコンを選ぶ場合は、受信するパソコンの名前を選びます。

◆メモリーにファクスメッセージがあるときは、【ファクスを　PC に転送しますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

(5) [1 あ] を押す

(6) [▲▼] で本製品でも印刷するかしないかを選び、[OK] を押す

(7) [停止/終了] を押す

(C) 通信管理レポートを別のファクシミリに転送する場合

(1) [停止/終了] を押して、エラーメッセージを閉じる

(2) [メニュー] を押し、[▲▼]【サービス】[OK]【データ転送】[OK]【レポート転送】[OK] を押す

(3) 転送先のファクス番号を入力し、[モノクロ] を押す

子機のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因	対処
ガイセン　シヨウチョウ	親機またはその他の子機が使用中。	使い終わるのを待ってください。
オヤキヲ サガシテイマス	通話中のコードレス子機の使用圏内（親機から、障害物のない直線距離で約100m 以内）を越えた。	通話中は、使用圏内に戻ってください。
ツウワ　ケンガイ	電波状態が悪い、親機の電源が入っていない。	親機の状態を確認してください。 子機の 外線 を押してください。
<デンチノコリナシ> ジュウデン シテクダサイ	バッテリーがなくなった。	充電器に置いて充電してください。
ガイセンボタンヲ オシテクダサイ	子機または充電器の充電端子が汚れている。（ただし、充電器から子機をとり、何も操作しないまま約60秒経過したときも表示されます。）	子機および充電器の充電端子は定期的に掃除してください。⇒ 161 ページ「子機を清掃する」 充電器に子機を戻す、または 切 を押すと表示が消えます。
コキガ ハズレテイマス		
デンワチョウガ イッパイデス！	電話帳に登録できる件数を超えている。	不要な電話番号を消去してください。
デンワチョウトウロク トウロクガ　アリマセン	電話帳に登録がない。	電話帳を登録してください。 ⇒ 113 ページ「子機の電話帳を利用する」
ハッシンリレキナシ	発信履歴に電話番号がない。	そのまま、お使いください。

故障かな？と思ったときは (修理を依頼される前に)

修理を依頼される前に下記の項目および弊社サポートサイト (ブラザーソリューションセンター) （http://solutions.brother.co.jp/）の Q&A をチェックしてください。それでも異常があるときは、電源コードを抜いて電源を OFF にし、数秒後にもう一度差し込んでみてください。これによって改善される場合があります。それでも不具合が改善しないときは、「お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）0120-590-381」へご連絡ください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
電話	電話がかけられない。（受話器から「ツー」という音が聞こえているが、ダイヤルできない。）	回線種別が正しく設定されていますか。	手動で回線種別を設定してください。⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
	電話をかけられない場合がある。（インターネット電話や IP フォンなどの IP 網を使用している場合）	回線種別が正しく設定されていますか。	本製品を IP 網で使用する場合は、手動で回線種別を設定してください。⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
		電話帳機能を利用して、電話をかけていませんか。	「0000」発信を行って、一般の加入電話（NTT など）を選んでかけている場合は、番号の後に 再ダイヤル/ポーズ（親機）または 文字切替/P（子機）を押して、ポーズ（約 3 秒間の待ち時間）を入れてください。
		手動で「0000」発信によって一般の加入電話（NTT など）を選んでかけていませんか。	「0000」や選択番号をダイヤルした後、少し待ってからダイヤルしてください。
	電話帳を使うと、電話をかけられない場合がある。	登録している電話番号の間に、ポーズ「p」または「P」が入っていませんか。	「－」または「P」を削除して登録してください。
	スピーカーからの相手の声が聞き取りにくい。	スピーカー音量の設定が小さくないですか。	スピーカー音量を大きくしてください。 ⇒ 49 ページ「親機の音量を設定する」
	通話中に ◁ ▷ で受話音量の設定ができない。	機能設定中に電話を受けましたか。	機能設定中に電話を受けた場合は、停止/終了 を押してから ◁ ▷ で受話音量を変更してください。
	電話の着信音が小さい。	着信音量の設定が小さくないですか。	着信音量を大きくしてください。 ⇒ 49 ページ「親機の音量を設定する」
	受話器からの相手の声が聞き取りにくい。	受話音量の設定が小さくないですか。	受話音量を大きくしてください。 ⇒ 49 ページ「親機の音量を設定する」
	相手に声が聞こえないと言われる。	受話器の送話口（マイク）をふさいでいませんか。	送話口（マイク）をふさがないでください。
	子機でスピーカーホン通話がうまくできない。	まわりの音がうるさくないですか。	スピーカーホン を押して子機を持って話してください。
	電話がかかってきても応答しない／着信音が鳴らない。	呼出回数が 0 回になっていませんか。	呼出回数を確認してください。⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」
		構内交換機（PBX）に接続しているのに、ナンバー・ディスプレイの設定が【あり】になっていませんか。	ナンバー・ディスプレイの設定を【なし】にしてください。⇒ 71 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを設定する」
		電源オフ設定が【呼び出しをしない】の状態で、本製品の電源がオフになっていませんか。	電源オフ設定を【呼び出しをする】にしてください。 ⇒ 30 ページ「電源 オフ時の動作を設定する」
	携帯電話に電話がかけられない	ひかり電話サービス、直収電話サービス、ケーブル TV 局が提供する電話サービスをご利用していて、ケータイ通話お得サービスを【する】に設定していませんか。	ケータイ通話お得サービスを【しない】に設定してください。⇒ 56 ページ「ケータイ通話お得サービスを設定する」

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
電話	受話器から「ツー」という音が聞こえない。	オンフック（親機）を押して、スピーカーから「ツー」という音が聞こえていますか。	「ツー」という音が聞こえている場合は、受話器コードが親機にしっかり接続されているか確認してください。 「ツー」という音が聞こえていない場合は、電源コードと電話機コードがそれぞれしっかり接続されているか確認してください。
		電話機コードが正しく接続されていますか。	電源コードと電話機コードがそれぞれしっかり接続されているか確認してください。
		電源オフ設定が【呼び出しをしない】の状態で、本製品の電源がオフになっていませんか。	電源オフ設定を【呼び出しをする】にしてください。 ⇒ 30 ページ「電源 オフ時の動作を設定する」
	声が途切れる。	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用していませんか。 （「050」で始まる電話番号の相手にかけた場合も含む）	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況により声が途切れることがありますので、IP 網を使わずに通話してください。 不明な点は、ご契約の IP 網サービス会社へお問い合わせください。
	通話が切れる。	声やまわりの音に反応して、「親切受信」がはたらき、ファクスの受信を始めることがあります。	頻繁におこるときは、「親切受信」を【しない】に設定してください。⇒ 96 ページ「電話に出ると自動的に受ける」 このときは、ファクスは手動で受信します。⇒ 87 ページ「自動的に受ける」
		インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用していませんか。 （「050」で始まる電話番号の相手にかけた場合も含む）	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況により通話が切れることがありますので、IP 網を使わずに通話してください。 不明な点は、ご契約の IP 網サービス会社へお問い合わせください。
		ナンバー・ディスプレイサービスを契約しているのに、ナンバー・ディスプレイの設定が【なし】になっていませんか。	ナンバー・ディスプレイの設定を【あり】にしてください。⇒ 71 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを設定する」
	自分の声が響く。	音質調整の設定を変更してみてください。⇒ 190 ページ「回線状況に応じて設定する」	
	本製品のメロディが鳴りだして止まらない。	電話回線に接続されていますか。	電話機コードを使って、電話回線に接続してください。 ⇒かんたん設置ガイド それでも止まらないときは、ファクス と コピー を同時に押してください。
キャッチホン	雑音が入ったり、キャッチホンが受けられない。	ブランチ接続（並列接続）していませんか。	正しく接続し直してください。⇒かんたん設置ガイド
ナンバー・ディスプレイ	電話番号が表示されない。	ブランチ接続（並列接続）していませんか。	正しく接続し直してください。⇒かんたん設置ガイド
	電話番号は表示されるが、着信音がメロディにならない。	着信鳴り分けが【ベル】に設定されていませんか。	着信鳴り分けの設定を確認してください。⇒ 72 ページ「着信鳴り分けを設定する」
キャッチホン・ディスプレイ	キャッチホンが入ったとき、雑音が入り、電話番号が表示されない。	キャッチホン・ディスプレイの設定が【なし】に設定されていませんか。	キャッチホン・ディスプレイの設定を【あり】にしてください。⇒ 78 ページ「キャッチホン・ディスプレイサービスを利用する」
ISDN	自分の声や相手の声が大きく聞こえて話しにくい。	ISDN回線のターミナルアダプタに接続していませんか	ターミナルアダプタに受話音量の設定がある場合は、受話音量【小】に設定してください。また、本製品の受話音量を小さくしてください。⇒ 49 ページ「音量を設定する」
	電話がかけられない。	回線種別が【プッシュ回線】に設定されていますか。	回線種別を【プッシュ回線】に設定してください。⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
		本製品が接続されているアナログポート（ターミナルアダプタの接続口）を「使用しない」に設定していませんか。	「使用する」に設定してください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
ISDN	電話がかかってきても本製品の着信音が鳴らない。	電話機コードが正しく接続されていますか。	電話機コードがしっかり接続されているか確認してください。
		電源が入っていますか。	電源コードを接続してください。
		本製品に電話をかけると「あなたと通信できる機器が接続されていません」とメッセージが流れませんか。	ターミナルアダプタが正しく設定されていません。ターミナルアダプタの設定を確認してください。また、ターミナルアダプタの電源が入っているのを確認してください。
		ターミナルアダプタの設定を確認してください。	何も接続していない空きアナログポートは「使用しない」に設定してください。
		契約回線番号およびi・ナンバー情報は正しく入力されているか確認してください。	それでもうまくいかないときは、お使いになっているターミナルアダプタのメーカーまたはご利用の電話会社にお問い合わせください。
	本製品が接続されているアナログポートに 1 ～ 2 回おきにしか着信しない。	「着信優先」または「応答平均化」を使用する設定の場合、1 ～ 2 回おきにしか着信できません。	ターミナルアダプタの設定で「着信優先」または「応答平均化」を解除してください。
	本製品に電話をかけると、「あなたと通信できる機器は接続されていないか、故障しています」というメッセージが流れてつながらない。	本製品を接続しているアナログポートの設定内容を確認してください。	本製品を接続しているアナログポートの接続機器は「電話」または「ファクス付電話」にしてください。（初期値のままで使用可能です。）
			契約回線番号のアナログポートに本製品を接続している場合は、以下のように設定してください。 • サブアドレスなし着信：「着信する」 • HLC 設定：「HLC 設定しない」 • 識別着信：「識別着信しない」
			i・ナンバーやダイヤルインのアナログポートに本製品を接続している場合は、以下のように設定してください。 • サブアドレスなし着信：「着信する」 • HLC 設定：「HLC 設定しない」 • 識別着信：「識別着信しない」
		相手側のターミナルアダプタの設定を確認してください。	相手も ISDN 回線の場合、相手側のターミナルアダプタの設定が誤っていることもあります。 この場合、アナログ回線に接続したファクスと送・受信できれば本製品を接続しているターミナルアダプタの設定は正しいことになります。
		ターミナルアダプタの自己診断モードでISDN回線の状況を確認してください。	異常があった場合はご利用の電話会社へご連絡ください。
	契約回線番号に電話がかかってきたのに、i・ナンバーやダイヤルインのアナログポートに接続した機器の呼出ベルも鳴る。	i・ナンバーやダイヤルインのアナログポートの設定を確認してください。	グローバル着信は「しない」に設定してください。
	特定の相手とファクス通信できない。	特別回線対応の設定を【ISDN】にしてください。⇒ 190 ページ「特別な回線に合わせて設定する」	それでもうまくいかないときは、お客様相談窓口 0120-590-381 へご連絡ください。
	ファクス送受信ができない。（電話も使えない）	ターミナルアダプタの自己診断モードでISDN回線の状況を確認してください。	異常があった場合はご利用の電話会社へご連絡ください。 回線に異常がなければ、お客様相談窓口 0120-590-381 へご連絡ください。
ADSL	ファクス通信でエラー発生が多くなった。	他の機器とブランチ接続（並列接続）していませんか。	ブランチ接続（並列接続）をしないでください。ラインセパレーターを使用すると改善する場合があります。ラインセパレーターは、パソコンショップなどでご購入ください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
ひかり電話	電話がかけられない。	ひかり電話をご利用の場合、回線種別を自動設定できない場合があります。	手動で回線種別を「プッシュ」に設定してください。 ⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
	携帯電話にかけられない。	ケータイ通話お得サービスを【する】に設定していませんか。	ケータイ通話お得サービスを【しない】に設定してください。 ⇒ 56 ページ「ケータイ通話お得サービスを設定する」
	特定の番号だけつながらない。	一部つながらない番号があります。	ご利用の電話会社へお問い合わせください。
	ナンバー・ディスプレイが動作しない。	VoIP アダプタ側が、ナンバー・ディスプレイを使用しない設定になっていませんか。	VoIP アダプタの設定が必要です。契約内容の確認や、VoIP アダプタの設定方法については、契約電話会社にお問い合わせください。
	非通知の相手からの着信が出来ない。	VoIP アダプタ側が、着信拒否をする設定になっていませんか。	
子機	動作しない／着信音が鳴らない。	バッテリーのコネクタが正しく接続されていますか。	コネクタを正しく接続してください。⇒ 172 ページ「子機のバッテリーを交換するときは」
		バッテリーの残量がなくなっていませんか。	バッテリーを充電してください。⇒ 172 ページ「子機のバッテリーを交換するときは」
		回線種別が正しく設定されていますか。	回線種別を正しく設定してください。 ⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
		着信音量が「OFF」になっていませんか。	着信音量を「OFF」以外に設定してください。 ⇒ 49 ページ「音量を設定する」
		親機の呼出回数が 1 回に設定されていませんか。	親機の呼出回数を 2 回以上に設定してください。子機は親機よりも遅れて着信音が鳴り始める場合があります。
		親機から離れすぎていませんか。	着信音が鳴る範囲まで、(子機を) 親機に近づけてください。
		近くに雑音の原因となる電気製品がありませんか。	電気製品などから離してください。 ⇒ 196 ページ「通話がうまくいかないときは」
		親機で機能の設定、登録をしていませんか。	設定が終わるのを待ってください。
		子機通信チャンネルの設定を変更しましたか。	変更した場合は、すべての子機のバッテリーコネクタを抜き差ししてください。
		親機や他の子機を使用していませんか。	使い終わるのを待ってください。
		親機のアンテナと子機用ACアダプタのコードが近くにありませんか。	親機のアンテナから子機用 AC アダプタのコードを遠ざけてください。(アンテナに巻き付けたり、引っかけたりしないでください。)
		子機のアンテナ表示が 0 本～ 2 本になっていませんか。	子機のアンテナが 3 本表示されるところでご使用ください。
		携帯電話の充電器や、AC アダプタが近くにあったり、電源が一緒になっていませんか。	親機や子機から離れたところで、携帯電話の充電器をご使用ください。電源が一緒になっているときは、別の電源をご使用ください。
	声が途切れる。	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用していませんか。 (「050」で始まる電話番号の相手にかけた場合も含む)	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況により声が途切れることがありますので IP 網を使わずに通話してください。 不明な点は、ご契約の IP 網サービス会社へお問い合わせください。
		2.4GHz帯の無線機器の影響を受けていませんか。	無線機器を本製品から遠ざけてください。 ⇒ 196 ページ「通話がうまくいかないときは」
	通話が切れる。	声やまわりの音に反応して、「親切受信」がはたらき、ファクスの受信を始めることがあります。	頻繁におこるときは、「親切受信」を【しない】に設定してください。 ⇒ 96 ページ「電話に出ると自動的に受ける」 このときは、ファクスは手動で受信します。 ⇒ 87 ページ「子機で受ける」
		インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用していませんか。 (「050」で始まる電話番号の相手にかけた場合も含む)	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況により声が途切れることがありますので IP 網を使わずに通話してください。 不明な点は、ご契約の IP 網サービス会社へお問い合わせください。
		ナンバー・ディスプレイサービスを契約しているのに、ナンバー・ディスプレイの設定が【なし】になっていませんか。	親機で、ナンバー・ディスプレイの設定を【あり】にしてください。 ⇒ 71 ページ「ナンバー・ディスプレイサービスを設定する」

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
子機	雑音が入りやすい。	近くに電気製品や障害物はありませんか。	設置環境を確認してください。 ⇒ 196 ページ「通話がうまくいかないときは」
			親機のアンテナを立てたり、向きを調節してみてください。
			親機や子機の置き場所や向きを変えてみてください。
			親機のアンテナから子機用 AC アダプタのコードを遠ざけてください。（アンテナに巻き付けたり、引っかけたりしないでください。）
			親機、子機、電気製品の電源を別々のコンセントに接続してみてください。
		移動しながら子機を使用していませんか。	使用場所により電波が弱い場所があります。雑音が少ない場所で使用してください。または子機のアンテナが 3 本表示されるところでご使用ください。
		親機を使っても同様に雑音が入りますか。	音質調整の設定を変更してみてください。 ⇒ 190 ページ「回線状況に応じて設定する」
	雑音が入りやすい。 通話が切れる。	子機のアンテナ表示が 0 本～ 2 本になっていませんか。	子機のアンテナが 3 本表示されるところでご使用ください。
			子機の通話パワーを「ツヨイ」に設定してください。 ⇒ 193 ページ「通話パワーの設定を変更する」
	相手の声が聞こえにくい。	受話口をふさいでいませんか。	受話口をふさがないでください。
		受話音量の設定が小さくありませんか。	受話音量を大きくしてください。 ⇒ 50 ページ「受話音量を設定する」
	相手から聞こえないと言われる。	送話口（マイク）をふさいでいませんか。	受話口、送話口（マイク）をふさがないでください。
	通話中・三者通話中・スピーカーホン通話中に自分の声が響く、相手の声が聞き取りにくい。	通話音質調整の設定を変更してみてください。音質が改善されることがあります。 ⇒ 190 ページ「特別な回線に合わせて設定する」	
	子機の着信音が遅れて鳴る。	故障ではありません。（電波を使用しているため、電話がかかってくると最初に親機の着信音が鳴り、少し遅れて子機の着信音が鳴ります。）	そのままお使いください。
	充電器に置いても「ジュウデンチュウ」と表示されない。	充電器の子機用ACアダプタは確実に差し込まれていますか。	AC アダプタの電源プラグを充電器に「カチッ」と音がするまで確実に差し込み、AC アダプタをコンセントに差し込んでください。
		充電器に正しく置かれていますか。	液晶ディスプレイが正面に見える方向に、子機を置いてください。
		充電端子が汚れていませんか。	充電端子をきれいに拭いてください。 ⇒ 161 ページ「子機を清掃する」
		バッテリーを交換しましたか。	新しいバッテリーは充電されていないことがあります。その場合は、子機を充電器に置いて約 2 分後に「ジュウデンチュウ」と表示されます。そのまま約 12 時間充電をしてください。
	子機が温かい。	充電中や充電直後はバッテリーが温かくなります。故障ではありません。	そのままお使いください。
	充電できない。 電源が入らない。 何も表示されない。	バッテリーが寿命ではありませんか。	バッテリーを外して、充電器にセットしてください。 • 表示する場合 バッテリーの寿命もしくはバッテリーコードを確認してください。 • 表示しない場合 AC アダプタと充電器を確認してください。
	充電器からとったり、外線を押すと、「ピッピッピッ」と鳴る。	親機や他の子機を使用していませんか。	使い終わるのを待ってください。
		親機から離れすぎていませんか。	親機の近くに（通話圏内）に戻ってください。
		電波が干渉しやすい場所で使用していませんか。	通話できる位置まで移動してください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
子機	充電してもバッテリー警告音（ピッ…ピッ…ピッ…）が鳴り、ディスプレイに「<デンチノコリナシ>ジュウデンシテクダサイ」と表示される。	バッテリーが消耗しています。	バッテリーを交換してください。⇒ 172 ページ「子機のバッテリーを交換するときは」
			バッテリーのコネクタが子機にしっかり差し込まれているか、AC アダプタの電源プラグが奥まで完全に差し込まれているかを確認してください。
	警告音（ピーピーピー）が鳴り、ディスプレイに「コキガ　ハズレテイマス」と表示される。	充電端子が汚れていませんか。	充電端子をきれいに拭いてください。 ⇒ 161 ページ「子機を清掃する」
		充電器から子機を取り、ダイヤル操作なしで 60 秒経過していませんか。	子機を充電器に戻してください。
	通話中に警告音（ピッピッピッ）が鳴る。	子機で通話中に電波の届かない所に出ていませんか。	親機の近く（通話圏内）に戻ってください。
	通話中に警告音（ピッピッピッ、ピッピッピッ、ピッピッピッ）が鳴る。	バッテリーが少なくなっていませんか。	通話を終了して子機を充電器に戻してください。
			通話を保留にして子機を充電器に戻し、親機で通話を続けてください。
リモコン機能	外出先からの操作ができない。	トーン信号（ピッポッパッ）が出せない電話機からかけていませんか。	トーン信号の出せる電話機からかけ直してください。
		携帯電話からかけていませんか。	トーン信号の出せる固定電話からかけ直してください。
留守番機能	メッセージが録音の途中で切れている。	録音中に 8 秒以上無音が続きませんでしたか。	メッセージを入れるときは続けて話すよう、相手に伝えてください。
	メッセージが録音できない。	空きメモリーが不足していませんか。	音声メッセージを消去してください。メモリー受信したファクスがあるときは、メモリー内の不要なファクスを消去してください。
ファクス／コピー	スタートボタンを押しても送信／受信しない。	モノクロ または カラー を押す前に、受話器を戻していませんか。	モノクロ または カラー を押してから受話器を戻してください。⇒ 86 ページ「話をしてから送る」
		回線種別の設定は正しいですか。	回線種別を正しく設定してください。⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」
		ターミナルアダプタは正しく設定されていますか。（ISDN 回線の場合）	ターミナルアダプタの設定を確認してください。
	ファクス送信／受信ができない。	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網を使用していませんか。 （「050」で始まる電話番号の相手にかけた場合も含む）	インターネット電話や IP フォンなど、IP 網の状況によりファクス送信／受信ができないことがあります。IP 網を使わずに送信／受信してください。 不明な点は、ご契約の IP 網サービス会社へお問い合わせください。
			安心通信モードを設定してください。このとき、【標準】→【安心】の順にお試しください。⇒ 191 ページ「安心通信モードに設定する」
		ファクスを送信／受信できる相手とできない相手がいますか。	安心通信モードを設定してください。このとき、【標準】→【安心】の順にお試しください。⇒ 191 ページ「安心通信モードに設定する」
		音質調整の設定を変更してみてください。⇒ 190 ページ「回線状況に応じて設定する」	
	ファクスを受信できない。	転送電話（ボイスワープ）の契約をしていませんか。	転送電話（ボイスワープ）の設定をしていると、電話とファクスはすべて転送先へ送られます。詳しくはご利用の電話会社にお問い合わせください。
	カラーファクス受信ができない。	下記の機能を設定しているときは、カラーファクスの受信ができません。 ・安心通信モード ・メモリー受信／ファクス転送	カラーで受信したいときは、これらの設定を解除してください。 ・安心通信モード：【高速】または、【標準】にする⇒ 191 ページ「安心通信モードに設定する」 ・メモリー受信／ファクス転送：【オフ】にする ⇒ 99 ページ「ファクスを転送する」 ⇒ 100 ページ「受信したファクスをパソコンに送る」
		インクが残り少なくなるとカラーファクスの受信ができません。	カラーファクスを受信したいときは、新しいインクカートリッジに交換してください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
ファクス／コピー	ファクスを送信できない場合がある。(IP網を使用している場合)	電話帳機能を利用してファクスを送っていますか。	「0000」発信を行って、一般の加入電話（NTT など）を選んでかけている場合は、番号の後に［再ダイヤル/ポーズ］を押して、ポーズ（約3秒間の待ち時間）を入れてください。
		自動送信機能を利用していますか。	
		手動で「0000」発信によって一般の加入電話（NTT など）を選んでかけていませんか。	「0000」や選択番号をダイヤルした後、少し待ってからダイヤルしてください。
	電話帳を使うと、ファクスが送信できない場合がある。	登録している電話番号の間に、ポーズ「p」が入っていませんか。	「p」を削除して登録してください。
	ファクスを複数枚送信できない。	リアルタイム送信を【する】にしていませんか。	リアルタイム送信を【しない】にしてください。 ⇒ 91 ページ「原稿をすぐに送る」
		［オンフック］を押してファクスを送信していませんか。	［オンフック］を押さずに送信してください。
	送信後、相手から画像が乱れている (黒い縦の線が入る) と連絡があった。	きれいにコピーがとれますか。	コピーに異常があるときは読み取り部の清掃をしてください。⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」
		相手先に異常がありませんか。	相手先に確認してください。または、別のファクスから相手先に送信してください。
		画質モードは適切ですか。	画質を調整してください。 ⇒ 90 ページ「画質や濃度を変更する」
		キャッチホンが途中で入っていませんか。	キャッチホンが途中で入ると、画像が乱れることがあります。⇒ 69 ページ「キャッチホンサービスを利用する」 「キャッチホン II」のご利用をお勧めします。
		ブランチ接続（並列接続）された別の電話機の受話器を上げていませんか。	ブランチ接続（並列接続）はしないようにしてください。⇒かんたん設置ガイド
	送信後、相手から受信したファクスに縦の線が入っているという連絡があった。	本製品の読み取り部分、または受信側ファクシミリのプリンタのヘッドが汚れていませんか。	読み取り部の清掃を行って、きれいにコピーが取れることを確認してから送信してください。（160 ページ） それでも現象が変わらない場合は、相手のファクスの状態を調べてもらってください。
	受信したファクスが縮んでいる。	安心通信モードを【安心】に設定していませんか。	安心通信モードを【高速】または、【標準】に設定してください。
	受信したファクスに白抜けした所がある。		
	受信／コピーしても、記録紙が出てこない。	記録紙は正しくセットされていますか。	記録紙、本体カバーを正しくセットしてください。⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」
		記録紙がなくなっていませんか。	
		本体カバーまたはインクカバーは確実に閉まっていますか。	
		記録紙がつまっていませんか。	つまった記録紙を取り除いてください。 ⇒ 162 ページ「紙がつまったときは」
		インクの残量は十分ですか。	インク残量を確認してください。⇒ 168 ページ「インク残量を確認する」
	受信しても、記録紙が白紙のまま出てくる。	相手が原稿を裏返しに送信していませんか。	相手に確認し、もう一度送信し直してもらってください。
		コピーは正しくとれますか。	コピーが正しくとれるか確認してください。 ⇒ 129 ページ「コピーする」
	きれいに受信できない。	電話回線の接続が悪いときに起こります。	相手にもう一度、送信し直してもらってください。
		相手側の原稿に異常がありませんか（うすい、かすれなど）。	相手に確認し、もう一度送信し直してもらってください。
	きれいにコピーできない	読み取り部が汚れていませんか。	読み取り部を清掃してください。 ⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」
	コピーに黒い縦の線が入る	スキャナ (読み取り部) が汚れていませんか。	ADF 読み取り部を清掃してください。 ⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」
	2 枚に分かれて印刷される。	送信側の原稿が A4 より長くありませんか。	自動縮小の設定を【する】にしてください。 ⇒ 97 ページ「自動的に縮小して受ける」

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
ファクス／コピー	自動受信できない。	呼出回数が多すぎませんか。	在宅モードのときは呼出回数を 6 回以下に、留守モードのときは呼出回数を 2 回以下に設定してください。(⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する)」) または、モノクロ や カラー を押して手動で受信してください。
		お買いあげ時にはファクスはメモリーに受信する設定になっています。	自動で記録紙に印刷したいときは「みるだけ受信」の設定を解除してください。 ⇒ 89 ページ「ファクスを自動的にプリントする （みるだけ受信を設定する / 解除する)」
		メモリーがいっぱいではありませんか。	メモリーが不足しているとファクスが受信できない場合があります。メモリーに記録されている音声メッセージやファクスメッセージを消去してください。
	構内交換機（PBX）に内線接続したときに、ファクス受信できない。	内線または外線から、ファクス受信するときのベルの鳴りかたを確認します。	特別回線対応の設定を【PBX】にしてください。(⇒ 190 ページ「特別な回線に合わせて設定する」) それでも受信できないときは、「お客様相談窓口 0120-590-381」にご連絡ください。
	ADF（自動原稿送り装置）使用時、原稿が送り込まれていかない。	原稿の先が軽く当たるまで差し込んでいますか。	原稿を一度取り出し、もう一度確実にセットしてください。
		ADF（自動原稿送り装置）カバーは確実に閉まっていますか。	ADF（自動原稿送り装置）カバーをもう一度閉じ直してください。
		原稿が厚すぎたり、薄すぎたりしていませんか。	推奨する厚さの原稿を使用してください。
		原稿が折れ曲がったり、カールしたり、しわになっていませんか。	原稿台ガラスからファクスまたはコピーしてください。
		原稿が小さすぎませんか。	小さすぎる原稿は、原稿台ガラスにセットしてください。
		原稿挿入口に破れた原稿などがつまっていませんか。	ADF（自動原稿送り装置）カバーを開け、つまっている原稿を取り除いてください。
	ADF （自動原稿送り装置）使用時、原稿が斜めになってしまう。	原稿ガイドを原稿に合わせていますか。	原稿ガイドを確実に原稿に合わせてください。
		原稿挿入口に破れた原稿などがつまっていませんか。	ADF（自動原稿送り装置）カバーを開け、つまっている原稿を取り除いてください。
	A4 サイズの写真用光沢紙が送り込まれない。	給紙ローラーが汚れていませんか。	給紙ローラーを清掃してください。 ⇒ 161 ページ「給紙ローラーを清掃する」
プリント(印刷)	記録紙が重なって送り込まれる。	記録紙がくっついていませんか。	記録紙をほぐして入れ直してください。 ⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」
		記録紙がトレイの後端に乗り上げていませんか。	記録紙を押し込みすぎないでください。
		種類の違う記録紙を混ぜてセットしていませんか。	同じ種類の記録紙のみセットしてください。
	本製品が印刷しない。	本製品の電源が入っていますか。	電源を入れてください。操作パネル上の電源ボタンがオンになっているか確認してください。
		インクカートリッジは正しく取り付けられていますか。	インクカートリッジを正しく取りつけてください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」
		USB ケーブルまたは LAN ケーブルが正しく接続されていますか。また、無線 LAN 接続の場合、正しくセットアップされていますか。	USB ケーブルまたは LAN ケーブルを正しく接続してください。無線 LAN の場合も、正しくセットアップされていることを確認してください。⇒かんたん設置ガイド
		本製品のプリンタドライバを正しくインストールしていますか。	かんたん設置ガイドの手順に従って、ドライバをインストールしてください。
		本製品のプリンタドライバが選択されていますか。	本製品のプリンタドライバを選択してください。
		液晶ディスプレイにエラーメッセージが表示されていませんか。	内容を確認して、エラーを解除してください。 ⇒ 173 ページ「エラーメッセージ」
	斜めに印刷されてしまう。	記録紙が正しくセットされていますか。	記録紙をセットし直してください。⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」
		紙づまり解除カバーが正しくセットされていますか。	紙づまり解除カバーを正しく取り付けてください。 ⇒ 162 ページ「紙がつまったときは」手順 5

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
プリント(印刷)	記録紙が重なって送り込まれ、紙づまりが起こる。	記録紙ストッパーを確実に引き出していますか。	記録紙ストッパーを「カチッ」と音がするまで確実に引き出してください。 ⇒ 37 ページ「記録紙トレイにセットする」手順 9
		記録紙が正しくセットされていますか。	トレイに記録紙を正しくセットしてください。
		種類の違う記録紙を混ぜてセットしていませんか。	種類の違う記録紙は取り除いてください。
		紙づまり解除カバーがはずれていませんか。	紙づまり解除カバーを正しく取り付けてください。 ⇒ 162 ページ「紙がつまったときは」手順 5
	光沢紙がうまく送り込まれない。	給紙ローラーが汚れていませんか。	給紙ローラーを清掃してください。 ⇒ 161 ページ「給紙ローラーを清掃する」
		光沢紙を 1 枚だけセットしていませんか。	光沢紙付属の補助紙を敷いた上に、光沢紙をセットしてください。 ⇒ 40 ページ「光沢紙をセットする場合」
	印刷された画像に規則的に横縞(バンディング)が現れる。	厚紙などに印刷していませんか。	プリンタドライバの【基本設定】タブで「乾きにくい紙」をチェックしてください。
	文字や画像がゆがんでいる。	記録紙が記録紙トレイまたはスライドトレイに正しくセットされていますか。	記録紙を正しくセットし直してください。 ⇒ 37 ページ「記録紙トレイにセットする」 ⇒ 39 ページ「スライドトレイにセットする」
		紙づまり解除カバーがはずれていませんか。	紙づまり解除カバーを正しく取り付けてください。 ⇒ 162 ページ「紙がつまったときは」手順 5
	印刷速度が極端に遅い。	「画質強調」が設定されていませんか。	プリンタドライバの「基本設定」タブの「印刷品質」の［設定］をクリックして表示される画面で、「画質強調」を OFF にしてみてください。または、「画質強調」の［詳細設定］をクリックして表示される画面で、「自動イメージ処理」を OFF にしてみてください。
		「ふちなし印刷」の設定になっていませんか。	Windows® の場合は、プリンタドライバの「基本設定」タブにある「ふちなし印刷」のチェックを外してください。 Macintosh® の場合は、ページ設定画面「用紙サイズ」で「(ふちなし)」の記載がないものを選んでください。
	「画質強調」が有効に機能しない。	印刷するデータはフルカラーですか。	フルカラー以外では「画質強調」は機能しません。この機能をご利用になるには少なくとも 24 ビットカラー以上をご使用ください。Windows の［スタート］メニューから（［設定］ー）［コントロールパネル］ー［画面］ー［設定］を選び、画面の色を 24 ビット以上に設定してください。
		画素数の多いカメラで撮影した画像データですか。	メガピクセルのカメラで撮影した画像データは「画質強調」に設定する必要はありません。画素数の少ないカメラで撮影した画像データに対して有効です。
	文字が黒く化けたり、水平方向に線が入ったり、文字の上下が欠けて印刷されてしまう。	コピーは問題なくできますか。	コピーをして問題がなければ、ケーブルの接続に問題があります。接続ケーブルを確認してください。それでも解決できないときは、お客様相談窓口 0120-590-381 にご連絡ください。
	印刷した画像が明るすぎる、または暗すぎる。	インクカートリッジが古くなっていないですか。	カートリッジは製造後 2 年間は有効にご利用いただけますが、それ以上経過したものはインクが凝固している可能性があります。 外装箱に有効期限が印刷されていますのでご確認ください。期限切れの場合は新しいカートリッジをご使用ください。
		記録紙の設定が違っていませんか。	お使いいただいている記録紙に合わせて、記録紙タイプを設定してください。
		温度が高すぎる、または低すぎませんか。	本製品の使用環境温度内でご利用ください。
	印刷したページの上部中央に汚れ、またはしみがある。	記録紙が厚すぎる、またはカールしていませんか。	記録紙の厚さを確認してください。 ⇒ 36 ページ「記録紙トレイにセットできる記録紙」 カールしていない記録紙をご利用ください。
	印刷面の裏側またはページの下部が汚れる。	プラテンがインクで汚れていませんか。	プラテンを清掃してください。 ⇒ 169 ページ「記録紙の裏面が汚れるときは」
		記録紙ストッパーを確実に引き出していますか。	記録紙ストッパーを「カチッ」と音がするまで確実に引き出してください。 ⇒ 37 ページ「記録紙トレイにセットする」手順 9

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
プリント(印刷)	印刷された記録紙にしわがよる。	「双方向印刷」の設定になっていませんか。	Windows® の場合は、プリンタドライバの「基本設定」タブで「印刷品質」の［設定］をクリックし、「双方向印刷」のチェックを外してください。 Macintosh® の場合は、印刷設定画面で「印刷設定」を選び、「双方向印刷」のチェックを外してください。
	インクがにじむ。	記録紙の設定が違っていませんか。	お使いいただいている記録紙に合わせて、記録紙タイプを設定してください。
	印刷面に白い筋が入る。	プリントヘッドが汚れていませんか。	ヘッドクリーニングを行ってください。⇒ 169 ページ「プリントヘッドをクリーニングする」
		記録紙の厚さが薄すぎたり厚すぎたりしていませんか。	記録紙の厚さを確認してください。 ⇒ 36 ページ「記録紙トレイにセットできる記録紙」 弊社純正の専用紙をご利用になることをお勧めします。 ⇒ 35 ページ「専用紙 ・推奨紙」
	カラーで受信したはずのファクスがモノクロでしか印刷されない。	カラーインクカートリッジが空かほとんど空になっていませんか。	カラー用のカートリッジを交換してください。
	印刷ページの端や中央がかすむ。	本製品が平らで、水平な場所に置かれているか確認してください。	問題が改善されない場合は、ヘッドクリーニングを数回します。もう一度印刷し直しても、印刷の質が良くならない場合は、インクカートリッジを交換してください。インクカートリッジを交換してもまだ印刷の質に問題がある場合、お客様相談窓口 0120-590-381 にご連絡ください。
	印刷の質が悪い。	プリントヘッドが汚れていませんか。	ヘッドクリーニングを数回します。 それでも改善されない場合は、インクカートリッジを新しい物と交換してください。⇒ 166 ページ「インクカートリッジを交換する」
		プリンタドライバの基本設定で、用紙種類を正しく選んでいますか。	正しい用紙種類を選んでください。
		インクカートリッジの有効期限が過ぎていませんか。	有効期限内のインクカートリッジをお使いください。
		本製品に取り付けられているインクカートリッジが、6ヶ月以上取り付けられたままになっていませんか。	開封したインクカートリッジは、6ヶ月以内に使い切ってください。
		純正以外のインクを使用していませんか。	4 色とも純正インクカートリッジと交換して、ヘッドクリーニングを数回行ってください。 ヘッドクリーニングを数回してもまだ印刷の質が悪い場合は、お客様相談窓口 0120-590-381 にご連絡ください。
		記録紙の厚さが薄すぎたり厚すぎたりしていませんか。	記録紙の厚さを確認してください。 ⇒ 36 ページ「記録紙トレイにセットできる記録紙」 弊社純正の専用紙をご利用になることをお勧めします。 ⇒ 35 ページ「専用紙 ・推奨紙」
		室温が高すぎるか低すぎませんか。	印字品質のためには、室温が 20 ～ 33 ℃の状態でご利用になることをお勧めします。 ⇒ 218 ページ「電源その他」
	写真印刷でインクが乾くのに時間がかかる。	記録紙の設定が違っていませんか。	写真用光沢紙を使用している場合は、記録紙タイプの設定が正しいことを確認してください。パソコンから印刷している場合は、プリンタドライバの「基本設定」タブの用紙種類で設定します。
	「2 ページ」プリントがうまくプリントできない。	アプリケーションソフトの用紙設定とプリンタドライバの設定を確認してください。	アプリケーションで「2 ページ」を設定している場合は、プリンタドライバの「2 ページ」の設定を解除してください。
	マイクロソフト「エクセル」または「パワーポイント」をご使用中にオブジェクトに設定したハッチパターンがうまくプリントできない。	プリンタドライバの［拡張機能］タブで［イメージタイプ］の設定を確認してください。	「イメージタイプ」の設定を「写真」にしてください。
PictBridge	デジタルカメラと本製品を接続しても、プリントができない。	デジタルカメラと本製品が正しく接続されていますか。	PictBridge 対応の USB ケーブルをお使いください。USB ケーブルは、本製品前面の PictBridge ケーブル差し込み口に接続してください。
		お使いのデジタルカメラが、PictBridge に対応していますか。	お使いのデジタルカメラやパッケージなどに、PictBridge のロゴマークが付いているかどうかご確認ください。または、デジタルカメラの取扱説明書をご確認ください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
スキャナ	スキャン開始時にTWAINエラーが表示される。	ブラザーTWAINドライバが選択されていますか。	アプリケーションで［ファイル］-［TWAIN 対応機器の選択］の選択をして、ブラザー TWAIN ドライバを選択し、「選択」をクリックしてください。
	スキャンした画像のまわりに余白がある。	Windows® XP をお使いの場合、スキャンした画像に余白が入る場合があります。	余白がついた場合は、スキャンした画像を画像処理ソフトで開いて、必要な部分を切り出してください。
	ADF（自動原稿送り装置）を使ってきれいにスキャンできない。(黒い縦の線が入る)	スキャナ (読み取り部) が汚れていませんか。	ADF 読み取り部を清掃してください。 ⇒ 160 ページ「スキャナ (読み取り部) を清掃する」
ソフト Windows®	「本製品接続エラー」か「本製品はビジー状態です。」というエラーメッセージが表示される。	本製品の電源は入っていますか。	電源を入れてください。
		USB ケーブルをパソコンに直接接続していますか。	USB ケーブルは他の周辺機器（Zip ドライブ、外付 CD-ROM、スイッチボックスなど）を経由して接続しないでください。
	アドビ・イラストレーターを使用時にうまく印刷できない。	印刷解像度が高すぎませんか。	印刷解像度を低く設定してみてください。
	BRUSB: USBxxx: への書き込みエラーが表示される。	液晶ディスプレイに【インク切れ XXXXX】と表示されていませんか。	液晶ディスプレイに表示されている色のインクカートリッジを交換してください。
	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリーがリムーバブルディスクとして正常に動作しない。 ※ リムーバブルディスクとして使用できるのは、USB 接続の場合のみです。ネットワーク経由でメモリーカードにアクセスする場合は、Control Center をご利用ください。 ⇒画面で見るマニュアル「ネットワーク経由でメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーにアクセスする」	ドライバがインストールされていますか。	ドライバをインストールしてください。インストール方法については、かんたん設置ガイドをご覧ください。
		メモリーカードが停止状態になっていませんか。	メモリーカードを取り出し、再度挿入してください。 メモリーカードの取り出し操作を行っている場合、メモリーカードを取り出さないと次の操作に移ることができません。
		アプリケーションからメモリーカード内のファイルを開いていたり、エクスプローラでメモリーカード内のフォルダを表示していませんか。	パソコン上で「取り出し」操作を行おうとしたときにエラーメッセージが現れたら、それは現在カードにアクセス中を意味します。しばらく待ってからやり直してください。（メモリーカードを使用中のアプリケーションやエクスプローラをすべて閉じないと、「取り出し」操作はできません。）
		一度、パソコンと本製品の電源を切り、再度入れてみてください。	上記の操作でも問題が解決しない場合は、いったんパソコンと本製品の電源を切って電源コードを抜いてください。電源コードを入れなおし、電源を入れてください。
	ネットワークリモートセットアップの接続に失敗した。	ネットワークの設定を変更したり、別の機器と置き換えたりしていませんか。	接続失敗のエラーメッセージ画面から［検索］をクリックし、表示される機器の一覧から、使用する機器（本製品）を選び、再度設定してください。 ⇒画面で見るマニュアル「ネットワーク設定」-「ネットワークリモートセットアップ機能を使う」
	ネットワーク接続で、ウィルス対策ソフトのファイアウォール機能を有効にすると、使用できない機能がある。	自動でインストールすると、本製品の接続先がノード名で設定されます。この場合、ファイアウォールの機能によっては接続できないことがあるため、ドライバのインストールを最初からやり直してください。その際は、本製品の IP アドレスを固定してからインストールを行ってください。 インストール中、接続方式を選ぶ画面で、「カスタム」をチェックし、本製品の IP アドレスを指定してください。本製品の IP アドレスは、LAN 設定内容リストで確認できます。 IP 取得方法の変更　⇒画面で見るマニュアル「ネットワークの設定」－「IP 取得方法」 LAN 設定内容リストの印刷　⇒かんたん設置ガイド－「Macintosh® に接続する」－「ネットワークの設定内容リストを印刷する」	
ソフト Macintosh®	Brother Ink がセレクタに表示されない。	プリンタの電源が入っていますか。	プリンタの電源を入れてください。
		USB ケーブルが正しく接続されていますか。	USB ケーブルを正しく接続してください。⇒かんたん設置ガイド
		プリンタドライバが正しくインストールされていますか。	プリンタドライバを正しくインストールしてください。
	使用しているアプリケーションから印刷できない。	供給されている Macintosh® のプリンタドライバがシステムフォルダに正しくインストールされていますか、また、セレクタで選択されていますか。	供給されている Macintosh® のプリンタドライバをシステムフォルダに正しくインストールして、セレクタで選択してください。
	アドビ・イラストレーターを使用時にうまく印刷できない。	印刷解像度が高すぎませんか。	印刷解像度を低く設定してみてください。

項目	こんなときは	ここをチェック	対処のしかた
その他	電源が入らない。	電源プラグは確実に差し込まれていますか。	電源プラグを確実に差し込んでください。雷で電源が入らなくなったときは、有償修理になります。
	操作をしていないのに、本製品が動き出す。	本製品は、定期的にプリントヘッドのクリーニングを行います。	そのまましばらくお待ちください。
	(1) 出力された記録紙の下端が汚れる。 (2) 出力された記録紙が揃わない。	記録紙ストッパーを閉じたままにしていませんか。	記録紙ストッパーは常時開いた状態で使います。記録紙ストッパーを開いてください。 ⇒ 37 ページ「記録紙のセットのしかた」
	液晶ディスプレイの文字が読みにくい。	液晶ディスプレイのコントラストが【薄く】になっていませんか。	液晶ディスプレイのコントラストを【濃く】に設定してください。⇒ 53 ページ「画面の設定を変更する」
	スピーカーからの音（キータッチ音など）が割れる。	アンテナとスピーカーの位置が近くないですか。	アンテナを回転してスピーカーから遠ざけてください。
	OK を押していないのに液晶ディスプレイで行う設定が変更される。	設定変更後、▲▼ で他の設定項目に移動していませんか。	液晶ディスプレイで設定を変更し、▲▼ で移動すると、OK を押さなくても変更が確定されるものがあります。続けて他の設定項目に移動するときは、直前に行なった設定をよく確認してから移動してください。 ⇒ 28 ページ「画面の操作例」
	モノクロ印刷しかしていないのに、カラーのインクがなくなる。	本製品は、プリントヘッドのノズルの目づまりを防ぐために、自動的にプリントヘッドをクリーニングします。そのため、印刷していなくてもインクが消費されます。	
	記録紙トレイが抜けない。	記録紙トレイが抜けにくい場合は、一旦奥まで差し込んで一気に引き出してください。	
	ネットワーク接続でのトラブル	ネットワーク接続にて、印刷できない、スキャンできないなどの問題がありましたら、「画面で見るマニュアル」の「ネットワーク設定」－「トラブルシューティング」を参照してください。	

動作がおかしいときは（修理を依頼される前に）

本製品に次のような不具合が発生したときは、外部からの大きなノイズによって誤作動しているおそれがあります。

- ディスプレイが正しく表示できない
- ボタンが操作できない
- 設定内容リストなどが正しく印刷できない
- コピーなど、印刷できない状態が頻繁に起きる
- その他、正しく動作できない

このようなときは、**電源コードを抜いて電源を OFF にし、数秒後にもう一度差し込んでみてください。**これによって、改善される場合があります。

上記の操作をしても、不具合が改善されないときは「お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）：0120-590-381」へご連絡ください。

特別設定について

通話や通信がうまくいかないときは、状況に応じて、以下の操作をお試しください。

特別な回線に合わせて設定する

[特別回線対応]

ファクスがうまく送信・受信できないときは、使用している電話回線の種類に合わせて以下の設定を行ってください。お買い上げ時は【一般】に設定されています。

1 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【その他】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【特別回線対応】を選ぶ

4 ◁ または ▷ で、回線種別を選び、OK を押す

回線種別は、お使いの環境に合わせて、【一般】、【ISDN】、【PBX】から選びます。

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

【PBX】に設定すると、自動的にナンバー・ディスプレイの設定が【なし】になります。ナンバー・ディスプレイの設定を【あり】にするときは、特別回線対応の設定を【一般】にしてください。

回線状況に応じて設定する

[通話音質調整]

三者通話または外線通話中に相手の声が聞こえにくかったり、スピーカーホン通話で自分の声が響いたりするときは、通話音質調整を設定することにより改善されることがあります。

お買い上げ時は、「設定 1」に設定されています。親機は「設定 1」から「設定 3」、子機は「設定 1」から「設定 4」の順にお試しください。設定は、親機で行います。

1 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【その他】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【通話音質調整】を選び、OK を押す

4 ▲▼ で【子機通話調整】または【親機通話調整】を選ぶ

5 ◁ または ▷ で、現在の設定とは異なるレベルを選び、OK を押す

6 停止/終了 を押す

設定を終了します。

安心通信モードに設定する

［安心通信モード］

通信エラーが発生しやすい相手や回線でファクスをより確実に送信・受信したい場合は、「安心通信モード」の設定を変えます。

- MFC-650CD/650CDW/870CDN/870CDWN の場合
  お買い上げ時は【標準】に設定されているので、【安心】に設定してお試しください。
- MFC-880CDN/CDWN の場合
  お買い上げ時は【高速】に設定されているので、【標準】、【安心】の順に設定してお試しください。

1 メニュー を押し、▲▼ で【ファクス】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【安心通信モード】を選ぶ

3 ◁ または ▷ で、設定を選び、OK を押す

注意

■【安心】に設定すると、カラーファクスの受信ができません。（相手のファクシミリによっては、モノクロに変換して受信します。）

4 停止/終了 を押す

設定を終了します。

- ファクスの送信・受信にかかる時間は、【高速】→【標準】→【安心】の順に、長くなります。
- IP フォンで通信エラーが発生する場合は、電話番号の前に「0000」（ゼロを 4 つ）付けておかけください。このとき、通信料は NTT などの一般の加入電話からの請求になります。
  ひかり電話をご利用の場合は、「0000」（ゼロを 4 つ）付けてかけることができません。
- 【安心】への設定は通信エラーの多発する特定の相手との通信時のみに限定して一時的に変更してください。通常時は【標準】または【高速】に設定して使用します。
- ファクスの通信エラーは、本製品の設定以外に、以下のような要素から起こります。このため、本製品の設定だけでは、通信エラーを解消できないことがあります。
  - 通信回線の品質
  - 信号レベル
  - 通信相手機の影響
  - 屋内線の配線や接続している機器の影響

ダイヤルトーン検出の設定をする

［ダイヤルトーン設定］

ファクス送信時に、「おかけになった番号は現在使われておりません」などのメッセージが流れて正しく自動送信ができない場合は、ダイヤルトーンを【検知する】に設定してください。お買い上げ時は【検知しない】に設定されています。

注意

■ 使用している PBX や IP 電話のアダプタによっては、【検知する】に設定すると発信できなくなる場合があります。その場合は【検知しない】のままお使いください。

1 メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 ▲▼ で【その他】を選び、OK を押す

3 ▲▼ で【ダイヤルトーン設定】を選ぶ

4 ◁ または ▷ で、設定を選び、OK を押す

5 停止/終了 を押す

設定を終了します。

子機の通信状況を改善する

無線 LAN の通信速度が低下する場合や通話状況がよくない場合、無線 LAN で使用している電波と、親機～子機間の通信で使用している電波が干渉している可能性があります。この場合、親機～子機間の通信チャンネルを切り替えると、改善されることがあります。

ステップ 1　無線 LAN の使用チャンネルを確認する

無線 LAN が使用しているチャンネルを確認するには、LAN 設定内容リストを出力します。

1 **メニュー を押し、▲▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押す**

2 **▲▼ で【LAN 設定内容リスト】を選び、OK を押す**

3 **モノクロ を押す**

LAN 設定内容リストが出力されます。
<Wireless Link Status> の「Operating Ch=」で使用チャンネルを確認してください。

ステップ 2　親機～子機間の通信チャンネルを確認する

親機～子機間の通信チャンネルは、以下の手順で確認します。

1 **メニュー を押し、▲▼ で【初期設定】を選び、OK を押す**

2 **▲▼ で【その他】を選び、OK を押す**

3 **▲▼ で【子機通信チャンネル】を選び、OK を押す**

親機～子機間の通信チャンネルが表示されます。

ステップ 3　無線 LAN と親機～子機間のチャンネルが干渉しないよう設定を変更する

無線 LAN が使用しているチャンネルと、親機～子機間の通信チャンネルで、干渉が起きているかどうか表で確認します。

ステップ 1 の チャンネルが この場合	ステップ 2 の通信 チャンネルが これなら干渉の 可能性があります	これに変更して ください
1 ～ 4	設定 2、設定 3	設定 1
5 ～ 8	設定 1、設定 3	設定 2
9 ～ 14	設定 1、設定 2	設定 3

たとえば、ステップ 1 が 7 チャンネル、ステップ 2 が設定 3 の場合は、干渉が起きている可能性があります。設定の変更が必要です。

1 **ステップ 2 の手順 3 までを行う**

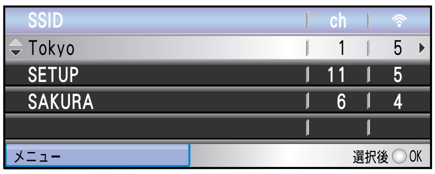
2 **表を参考に、◁ ▷ で子機の通信チャンネルを変更する**

3 **停止/終了 を押す**

設定を終了します。

他の無線 LAN 機器からの干渉により、子機の通話状況が悪化することもあります。この場合は、本製品をこれらの機器から遠ざけてください。

本製品が認識している無線ネットワークは、メニュー を押し、【LAN】－【無線 LAN】－【無線接続ウィザード】を選択して表示される画面で確認できます。



通話パワーの設定を変更する

子機の電波状況がよくないとき、通話パワーを「ツヨイ」にすると、通話品質が改善されることがあります。お買い上げ時は、「ヒョウジュン」に設定されています。

注意

■「ツヨイ」に設定すると、連続通話時間が約 5 時間（「ヒョウジュン」に設定しているときの約７割）になることがあります。

1. 機能/確定 **を押す**
2. ▲▼ **で「ツウワパワー」を選び、** 機能/確定 **を押す**
3. ▲▼ **で「ツヨイ」を選び、** 機能/確定 **を押す**
4. 切 **を押す**

設定を終了します。

子機を増設する

［子機増設モード］

別売の増設子機を購入して、子機を増設するときに必要な設定です。設定終了後、増設した子機を使用することができます。

- 増設子機は別売りです。本製品または子機をお買い上げの販売店または弊社ダイクレクトクラブでお買い求めください。⇒裏表紙「消耗品などのご注文について」
- 登録方法は増設子機（別売り）の取扱説明書をご覧ください。

初期状態に戻す

登録した内容をお買い上げ時の状態に戻したり、電話帳に登録した内容をすべて消去することができます。

注意

■ メモリーに受信したファクスデータも消去されます。未読のファクスがないかをご確認の上、操作してください。（⇒ 88 ページ「受信したファクスをディスプレイで見る（みるだけ受信）/ 印刷する」、⇒ 101 ページ「メモリー受信したファクスを印刷する」）

■ 初期状態に戻してしまうと、設定・電話帳などの内容は元に戻せません。初期状態に戻す前に、電話帳に登録されている電話番号は印刷して保存しておいてください。⇒ 112 ページ「電話帳リストを印刷する」

個人情報を消去する

［個人情報クリア］

次の内容を一度にすべて消去することができます。

- お客様の名前・電話番号（⇒ 34 ページ「名前とファクス番号を設定する」）
- 電話帳の内容（⇒ 108 ページ「親機の電話帳を利用する」）
- グループダイヤルの内容（⇒ 111 ページ「グループダイヤルを登録する」）
- 発信履歴（再ダイヤル機能）の内容
- ファクス転送先の内容と転送設定解除（⇒ 125 ページ「外出先に転送する」）
- 暗証番号（⇒ 123 ページ「暗証番号を設定する」）
- メモリーの内容（受信データと音声メッセージも消去されます。）
- みるだけ受信したファクス
- PC-FAX 受信データの未転送分（パソコンに転送したファクスのデータは消去されません。）
- ポーリング待機中の原稿の内容
- 応答メッセージ
- タイマー送信する相手先の内容（⇒ 92 ページ「時間を指定して送る」）
- 一括に送信する相手先の内容（⇒ 95 ページ「複数の相手先に同じ原稿を送る」）
- 着信履歴の内容（⇒ 75 ページ「着信履歴を利用する」）
- 通信管理レポートの内容（⇒ 103 ページ「通信管理レポートを印刷する」）

1 メニュー を押し、△▽ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【その他】を選び、OK を押す

3 △▽ で【個人情報クリア】を選び、OK を押す

【個人情報をクリアしますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

4 1 あ を押す

【決定 ⇒1 を押してください／キャンセル ⇒2 を押してください】と表示されます。

5 もう一度 1 あ を押す

【受付けました】と表示されたあと、【お待ちください】と表示されます。

個人情報が消去されたあと、待ち受け画面に戻ります。

子機の個人情報を消去する

［個人情報消去（子機）］

子機の次の内容を一度にすべて消去することができます。

- 発信履歴の内容（⇒ 61 ページ「最近かけた相手にかける（発信履歴）」）
- 着信履歴の内容（⇒ 62 ページ「最近かかってきた相手にかける（着信履歴）」）
- 電話帳の内容（⇒ 113 ページ「子機の電話帳を利用する」）

1 続けて 機能/確定 ＊記号/トーン 機能/確定 ＊記号/トーン を押す

「コジンジョウホウ　ショウキョ？／1. スル　2. シナイ」と表示されます。

2 1ア を押す

「スベテショウキョ？／1. スル　2. シナイ」と表示されます。

3 もう一度 1ア を押す

個人情報が消去されます。

4 切 を押す

機能設定を元に戻す

［機能設定リセット］

本製品の以下の設定を一度にお買い上げ時の状態に戻すことができます。ただし、個人情報は消去されません。

- 回線種別の設定（⇒ 33 ページ「回線種別を設定する」）
- 現在の日付と時刻（⇒ 33 ページ「日付と時刻を設定する」）
- 着信音の回数（⇒ 47 ページ「呼出回数を設定する（ファクスのとき着信音を鳴らさずに受信する）」）

1 メニュー を押し、△▽ で【初期設定】を選び、OK を押す

2 △▽ で【その他】を選び、OK を押す

3 △▽ で【機能設定リセット】を選び、OK を押す

【機能設定をリセットしますか？／はい ⇒ 1 を押してください／いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

4 1あ を押す

【決定 ⇒ 1 を押してください／キャンセル ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

5 もう一度 1あ を押す

【受付けました】と表示されたあと、【お待ちください】と表示されます。

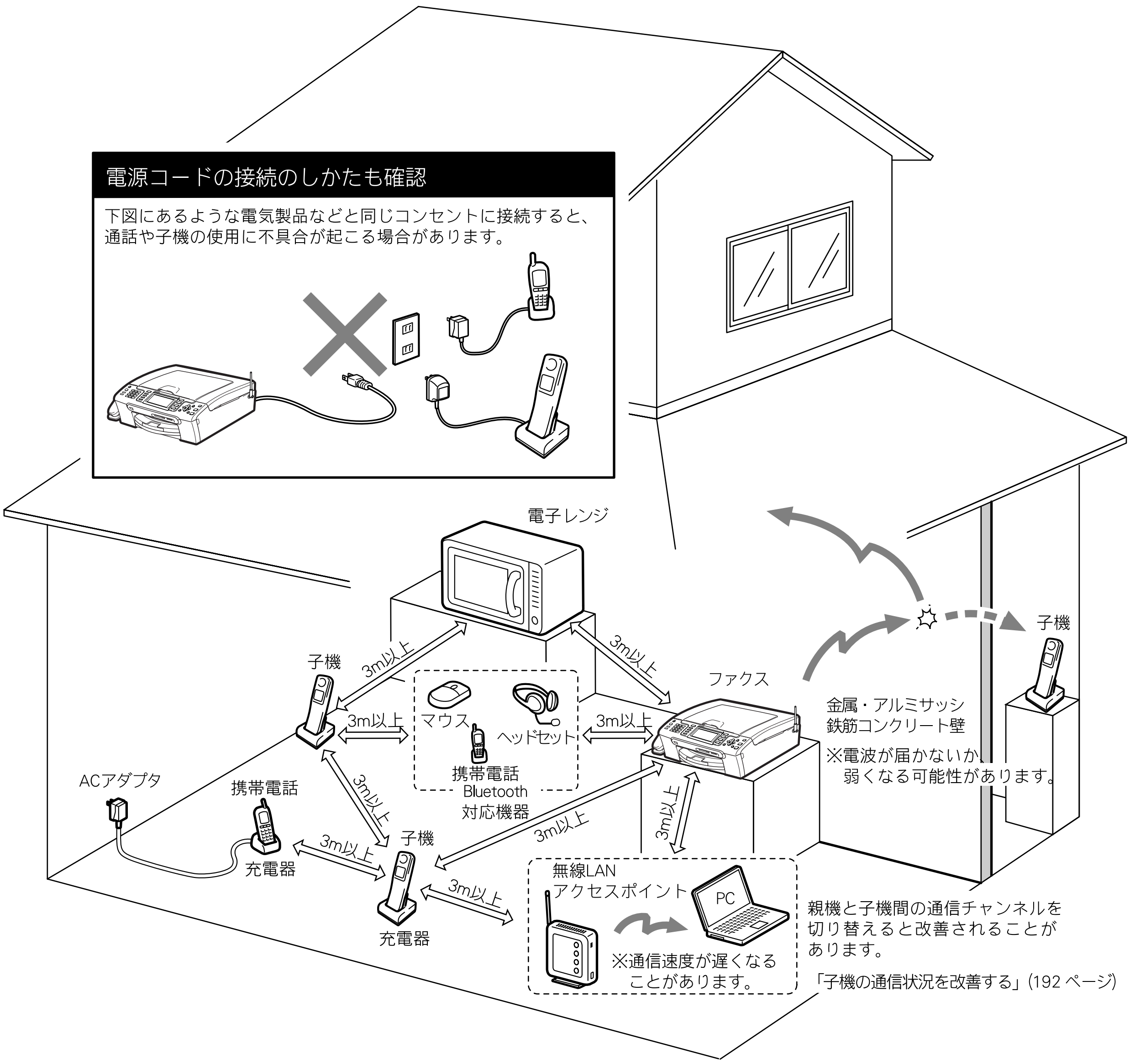
設定した機能が消去されたあと、回線種別の自動設定が始まります。

こんなときは

通話がうまくいかないときは

通話や子機の使用に影響をおよぼす可能性のある環境

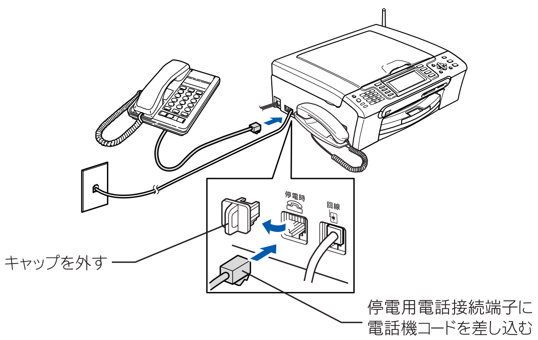
親機や子機の近くに微弱な電波を発する電気製品がある場合は、通話や子機の使用に影響を受けることがあります。通話状況が良くないときは、以下の環境をご確認ください。



停電になったときは

本製品は AC 電源を必要としているため、停電時は親機も子機も使用できなくなります。停電時に備えて、あらかじめ停電用電話機（AC 電源を必要としない電話機）を保管することをおすすめします。停電用電話機を親機の停電用電話機接続端子に接続すると、停電時に停電用電話機で電話をかけたり受けることができます。
停電したときは以下のようにデータが消去されます。

消去されないデータ	電話帳（親機、子機）、各種登録・設定内容、着信履歴（子機）、発信履歴（子機）
停電が数時間以上続くと消去されるデータ	着信履歴（親機）、発信履歴（親機）、通信管理レポート、受信メモリー文書、録音されたメッセージ、送信メモリー文書



注意

- ■ 停電時以外は停電用電話機を接続しないでください。誤動作により正常に使用できないことがあります。
- ■ 日付と時刻は再度設定し直してください。⇒ 33 ページ「日付と時刻を設定する」
- ■ 停電によって消去されたデータを復活させることはできません。
- ■ 通話中に停電になったときは、親機、子機ともに電話は切れます。
- ■ 留守モード時、メッセージを録音中に停電になったときは、録音中の内容は保存されません。

ナンバー・ディスプレイサービスをご利用いただいているときは

停電中に電話がかってくると、停電用電話機のみ、着信音が短く 5 ～ 6 回鳴ります。その後、通常の着信音に変わりますので、音が変わったら停電用電話機の受話器をとって電話を受けてください。最初の短い着信音のときに受話器をとると、通話できません。

本製品を輸送するときは

引っ越しなどで本製品を輸送するときは、以下の点に注意してください。
- ● インクカートリッジをすべて抜き取り、保護部材を取り付けてください。保護部材は、本製品をお買い上げの際に入っていた物をご使用ください。
- ● 保護部材がない場合は、インクカートリッジを入れたまま輸送してください。保護部材またはインクカートリッジを取り付けずに本製品を輸送すると、本製品に障害を与える可能性があります。
- ● USBケーブルやLANケーブルは本製品から外してください。

本製品のシリアルナンバーを確認する

[シリアルナンバー]

1. メニュー を押し、▲▼ で【製品情報】を選び、OK を押す
2. OK を押す
   液晶ディスプレイに、本製品のシリアルナンバーが表示されます。
3. 停止/終了 を押す

本製品の設定内容や機能を確認する［レポート印刷］

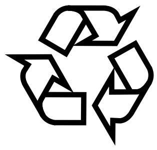
[設定内容リスト／機能案内リスト]

1. 記録紙をセットする
2. メニュー を押し、▲▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押す
3. ▲▼ で【機能案内】または【設定内容リスト】を選び、OK を押す
4. モノクロ または カラー 押す
   設定内容リストまたは機能案内リストが印刷されます。
5. 停止/終了 を押す

本製品を廃棄するときは

本製品には充電式ニッケル水素電池が組み込まれています。本製品を廃棄するときは、本製品に組み込まれている電池を取り外してください。また、取り外した電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店または弊社回収拠点にお持ちください。

- 被覆ははがさないでリサイクル箱へ
- 分解しないでリサイクル箱へ
- コード先端をテープなどで絶縁して、リサイクル箱へ



本製品のバッテリーは以下の手順で取り外します。

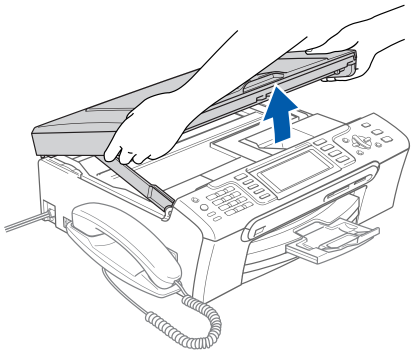
注意

● バックアップ用のバッテリーは、本製品を廃棄するとき以外は外さないでください。本製品が使用できなくなります。

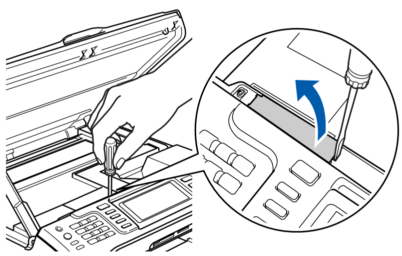
1 マイナスドライバー（小）とはさみを用意する

2 本製品の本体カバーを開ける

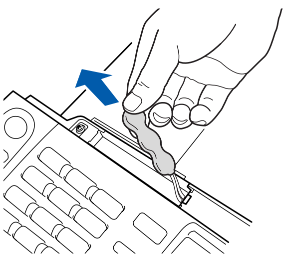
本体カバーをしっかりと固定される位置まで上げてください。



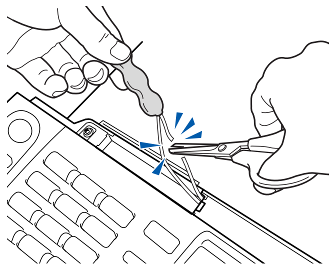
3 バッテリーの入っている溝にマイナスドライバーを差し込み、矢印方向にバッテリーカバーを開ける



4 バッテリーカバーをさらに大きく開き、中からバッテリーを引き出す

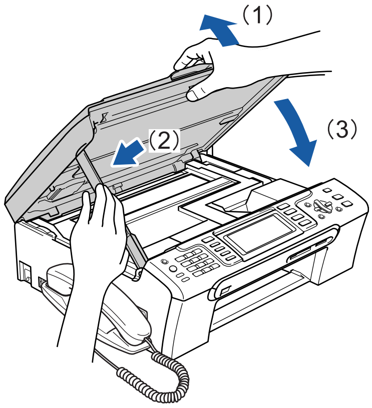


5 引き出したバッテリーのコードの部分を1本ずつはさみで切って、バッテリーを取り外す



6 本体カバーを閉じる

固定をとるために少し本体カバーを持ち上げ（1）、本体カバーサポートをゆっくり押しながら（2）、本体カバーを閉めます。



注意

■ 本体カバーを閉めるときは、手をはさまないように注意して、最後まで本体カバーを持って閉めてください。

使用済み電池の届け出

使用済みの製品から取り外した電池のリサイクルに関しては、ショートによる発煙、発火のおそれがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、ポリ袋に入れて、以下の回収拠点にお届けください。

(1) **ご家庭でご使用の場合**

最寄りの「リサイクル協力店」に設置した充電式電池回収 BOX に入れてください。「リサイクル協力店」のお問い合わせは、下記へお願いします。

- 有限責任中間法人 JBRC（旧小形二次電池再資源化推進センター）
  電話：03-6403-5673
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- 財団法人 電池工業会
  電話：03-3434-0261
  ホームページ：http://www.baj.or.jp
- ブラザー工業（株）環境推進部 環境推進グループ
  電話：052-824-2407

(2) **事業所でご使用の場合**

弊社の回収拠点へ届け出ください。回収拠点のお問い合わせは、下記へお願いします。

- ブラザー販売（株）東京事業所　情報機器事業部
  〒 104-0031　東京都中央区京橋 3-3-8
  電話：03-3274-6911
- ブラザー販売（株）関西事業所　情報機器事業部
  〒 550-0012　大阪府大阪市西区立売堀 4-4-2
  電話：06-6543-9120
- ブラザー工業（株）環境推進部 環境推進グループ
  電話：052-824-2407
- 有限責任中間法人 JBRC（旧小形二次電池再資源化推進センター）
  電話：03-6403-5673
  ホームページ：http://www.jbrc.com

パソコンと本製品との接続方法を変更したいときは

注意

■ パソコンと本製品との接続方法を、有線 LAN から無線 LAN に、または無線 LAN から有線 LAN に切り替える場合は、はじめに本製品の【有線 / 無線切替え】で、変更するネットワークインターフェースを指定してください。

⇒画面で見るマニュアル「ネットワークの設定」－「有線 / 無線切替え」

■ MFC-650CD/CDW は USB 接続のみです。

1 ドライバをアンインストールする

［スタート］メニューから、［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［MFC-XXX］－［アンインストール］を選び、画面の指示に従ってアンインストールをしてください。

2 CD からドライバとソフトウェアをインストールし直す

詳しくは「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

- **パソコンと本製品を USB 接続する場合**
  Windows®
  ⇒「パソコン（Windows®）に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「USB ケーブルで接続する場合」
  Macintosh®
  ⇒「Macintosh® に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「USB ケーブルで接続する場合」
- **パソコンと本製品を有線 LAN 接続する場合**
  Windows®
  ⇒「パソコン（Windows®）に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「LAN ケーブルで接続する場合（MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ）」
  Macintosh®
  ⇒「Macintosh® に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「LAN ケーブルで接続する場合（MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ）」
- **パソコンと本製品を無線 LAN 接続する場合**
  Windows®
  ⇒「パソコン（Windows®）に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「無線 LAN 環境に接続する場合（MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ）」
  Macintosh®
  ⇒「Macintosh® に接続する」－「ドライバとソフトウェアをインストールする」－「無線 LAN 環境に接続する場合（MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ）」

Memo

付 録

親機での文字の入れかた

発信元登録、電話帳の登録では、ダイヤルボタンを使って文字を入力します。親機で入力できる文字は、ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、数字、記号です。

入力できる文字と入力制限

入力できる文字 （文字列一覧表）

ボタン	ひらがな	カタカナ	英字	数字
1 あ	あいうえおぁぃぅぇぉ	アイウエオァィゥェォ	―	1
2 か ABC	かきくけこ	カキクケコ	abcABC	2
3 さ DEF	さしすせそ	サシスセソ	defDEF	3
4 た GHI	たちつてとっ	タチツテトッ	ghiGHI	4
5 な JKL	なにぬねの	ナニヌネノ	jklJKL	5
6 は MNO	はひふへほ	ハヒフヘホ	mnoMNO	6
7 ま PQRS	まみむめも	マミムメモ	pqrsPQRS	7
8 や TUV	やゆよゃゅょ	ヤユヨャュョ	tuvTUV	8
9 ら WXYZ	らりるれろ	ラリルレロ	wxyzWXYZ	9
0 わ 、。	わをん、。ー（スペース）	ワヲン、。ー		0
＊ ゛゜ トーン ⏮	゛ ゜	゛ ゜	-/(スペース).,:@;!?	＊
# 記号 ⏭	，．・：；？！゛゜´｀¨＾￣＿〇‐―／＼ ～‖｜…‥‘’“”（）〔〕［］｛｝〈〉《》 「」『』【】＋－±×÷＝≠＜＞≦≧∞∴ ♂♀°′″℃￥＄￠￡％＃＆＊＠§☆★○●◎ ◇◆□■△▲▽▼※〒→←↑↓⇒⇔≡≒≪≫√♯♭♪	"#$%&'() ＊ +<>=[]^_ （＊ 1）		＃

＊ 1 ヨミガナ（半角文字）を入力する際に使用できる記号の一覧です。全角入力の場合は、ひらがなのときと同じ記号が入力できます。

入力できる文字の種類や文字数

項目	ひらがな・漢字	カタカナ	英字・数字・記号	入力文字数
電話番号・ファクス番号	×	×	○（＊ 1）	20
読み仮名	×	○	○	16
名前（＊ 2）	○	○	○	10

＊ 1 電話帳での電話番号入力時は、0 ～ 9、「＊」、「#」、ポーズ（約 3 秒間の待ち時間）のみ入力できます。

ポーズは 再ダイヤル/ポーズ で入力します。入力したポーズはディスプレイに「p」で表示されます。

クリア/バック を押すと、カーソルの文字が削除されます。

発信元登録での電話番号入力時は 0 ～ 9「＋」（先頭のみ）、スペースのみ入力できます。ハイフンは入力できません。

＊ 2 発信元登録では、16 文字まで入力できます。

> 漢字は JIS 第一水準および第二水準に対応しています。

文字の入力方法

入力した文字の変換・確定などは以下のボタンを使って行います。

ボタン	内容
△	入力できる文字の種類を切り替えます。押すたびに ひらがな→カタカナ→英字→数字 の順で切り替わります。
▽	ひらがなを漢字に変換します。
OK	入力した文字を確定します。
クリア/バック	選択中の文字を消去します。

変換範囲を変更することはできません。

文字の入れかた（変更のしかた）

電話番号や文字は以下の操作で入力します。

したいこと	操作のしかた
文字を入れる	0 ～ 9、＊、# を押す
漢字の変換候補を切り替える	▽ を押して変換候補を切り替える
文字の種類を切り替える	△ を押す（ひらがな→カタカナ→英字→数字）
電話番号に「ポーズ」を入れる ※ポーズ（約3秒の待ち時間）	再ダイヤル/ポーズ を押す ※入力したポーズは電話帳やダイヤル入力時は「p」で表示されます。
文字を削除する	◁ を押して削除したい文字まで ■（カーソル）を移動し クリア/バック を押す ※選択している文字を削除します。
文字を挿入する	◁ を押して ■（カーソル）を戻し、文字を入力する ※■（カーソル）の左側に文字が挿入されます。
スペース（空白）を入れる	▷ を押して ■（カーソル）を右に移動させる（ひらがな入力のときは 0（7回押）でもスペースを入れることができます）
記号を入力する	ひらがな、カタカナ入力のときは、# を押して記号を選ぶ 英字入力のときは、＊ または # を押して記号を選ぶ
同じボタンで続けて文字を入力する	▷ を押して、■（カーソル）を1文字分移動させて入力する
入力した内容を確定させる	OK を押す

入力例

「鈴木エリ」と入力するときは、以下のように操作します。

操作のしかた	ディスプレイ表示
3 を3回押す	す
▷ を1回押す	す
3 を3回押す	すす
＊ を1回押す	すず
2 を2回押す	すずき
▽ を1回押す	鈴木 スズキ すずき ※画面に変換候補が表示される
△▽ で候補を選び OK を押す	鈴木
△ を1回押す	※入力できる文字の種類が「カタカナ」に替わります。
1 を4回押す	鈴木エ
9 を2回押す	鈴木エリ

子機での文字の入れかた

電話帳の登録では、ダイヤルボタンを使って文字を入力します。子機で入力できる文字は、カタカナ、アルファベット、数字、記号です。

子機で入力できる文字と入力制限

入力できる文字（文字列一覧表）

ボタン	カタカナ	英・数字
1ア	アイウエオァィゥェォ	1
2カABC	カキクケコ	abcABC2
3サDEF	サシスセソ	defDEF3
4タGHI	タチツテトッ	ghiGHI4
5ナJKL	ナニヌネノ	jklJKL5
6ハMNO	ハヒフヘホ	mnoMNO6
7マPQRS	マミムメモ	pqrsPQRS7
8ヤTUV	ヤユヨャュョ	tuvTUV8
9ラWXYZ	ラリルレロ	wxyzWXYZ9
0ワ゛゜	ワヲン゛゜、。ー	0
＊記号1トーン	ー／．（スペース）！"＃＄％＆'（）＊＋，	
＃記号2	_:@;< = >?[ ]^	

入力できる文字の種類や文字数

項目		カタカナ	英字・数字・記号	入力文字数
電話帳	電話番号	×	○（＊1）	20文字
	名前	○	○	11文字

＊1
電話帳での電話番号入力時は、0～9、「＊」、「#」、ポーズ（約3秒間の待ち時間）のみ入力できます。

ポーズは 文字切替/P で入力します。入力したポーズはディスプレイに「P」で表示されます。

文字の入れかた（変更のしかた）

電話番号や文字は以下の操作で入力します。

したいこと	操作のしかた
カタカナと英数字を切り換える	文字切替/P を押す ※押すたびにカナ（半角カタカナ）、英数（アルファベット・数字）が切り替わります。
文字を入れる	0 ～ 9、＊記号1トーン、＃記号2 を押す
電話番号に「ポーズ」（約3秒の待ち時間）を入れる	文字切替/P を押す
文字を削除する	◀▶ を押して削除したい文字まで ■（カーソル）を移動し、クリア を押す
文字を変更する	◀▶ を押して変更したい文字まで ■（カーソル）を移動し、文字を削除して入力し直す
文字や電話番号の間を開ける（スペースを入れる）	▶ を2回押す または ＊記号1トーン を4回押す
記号を入力する	入力したい記号ボタン（＊記号1トーン または ＃記号2）を押して記号を選ぶ
同じボタンで続けて文字を入力する	▶ を押して、■（カーソル）を1文字分移動させて入力する
入力した内容を確定させる	機能/確定 を押す

入力例

電話帳に「スズキ　ケイコ」と入力するときは下記のように操作します。

操作のしかた	ディスプレイ表示
文字切替/P を押して、「カナ」を表示させる	カナ
3 サ DEF を3回押す	ス
▶ を1回押す	ス
3 サ DEF を3回押す	スス
0 ワ を4回押す	スス
2 カ ABC を2回押す	スス゛キ
▶ を2回押す（または ＊ 記号 トーン を4回押す）	スス゛キ
2 カ ABC を4回押す	スス゛キ　ケ
1 ア を2回押す	スス゛キ　ケイ
2 カ ABC を5回押す	スス゛キ　ケイコ

第1章 ご使用の前に
第2章 電話
第3章 ファクス
第4章 電話帳
第5章 留守番機能
第6章 コピー
第7章 フォトメディアキャプチャ
第8章 こんなときは
付録

機能一覧

本製品で設定できる機能や設定は次のようになります。ディスプレイに表示されるメッセージにしたがって、登録や設定を行います。

親機

メニューボタン

メニュー を押して表示される画面で、以下の設定ができます。

● 基本的な設定

機能	設定項目		機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
基本設定	モードタイマー		ファクスモードに戻る時間を設定します。「切」を選ぶと最後に使ったモードを保持します。	切／0秒／30秒／1分／**2分**／5分	29 ページ
	記録紙タイプ		記録紙トレイにセットした記録紙に合わせて、設定します。	**普通紙**／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／その他光沢紙／OHP フィルム	42 ページ
	記録紙サイズ		記録紙トレイにセットした記録紙に合わせて、設定します。	**A4** ／ A5 ／ B5 ／ハガキ／ 2L 判／ L 判	42 ページ
	音量	着信音量	着信音の音量を設定します。	切／小／**中**／大	49 ページ
		ボタン確認音量	操作パネルのボタンを押したときの音量を設定します。	切／**小**／中／大	
		スピーカー音量	オンフック時の音量を設定します。	切／小／**中**／大	
		受話音量	受話器を持って通話するときの音量を設定します。	小／**中**／大	
	電源オフ設定		電源をオフにしたときの動作を設定します。	**呼び出しをする**／呼び出しをしない	30 ページ
	画面の設定	画面のコントラスト	画面のコントラストを設定します。	薄く／**標準**／濃く	53 ページ
		画面の明るさ	画面の明るさを設定します。	**明るく**／暗く	
		照明ダウンタイマー	液晶ディスプレイのライトを暗くするまでの時間を設定します。	切／ 10 秒／ 20 秒／ **30 秒**	
		照明オフタイマー	液晶ディスプレイのライトを消灯するまでの時間を設定します。	**切**／ 1 分／ 2 分／ 3 分／ 5 分／ 10 分／ 30 分	
		壁紙選択	待ち受け画面のデザインを 3 種類から選択します。	－	

● ファクス

機能	設定項目		機能説明	設定内容 （太字：初期設定値）		参照ページ
ファクス	受信設定	呼出回数	「在宅モード」「留守モード」ごとに、着信してから本製品が応答するまでに鳴る呼出回数を設定します。	在宅モード	0 から 15 ／無制限（初期設定は **8**）	47 ページ
				留守モード	0 から 7 ／トールセーバー（初期設定は **2**）	
		再呼出設定	在宅モード時に電話がかかってきた場合の対応を設定します。	**オン（相手にベル）**／オン（相手にメッセージ）／オフ（ファクス専用） ※「オン」を選択した場合は、【20 秒／ **30 秒**／ 40 秒／ 70 秒】から時間を選びます。		48 ページ
		親切受信	自動受信する前に電話を取った場合でも、自動的にファクスを受信する機能を設定します。	**する**／しない		96 ページ
		みるだけ受信	受信したファクスを液晶ディスプレイで確認できます。	**する**／しない		89 ページ
		自動縮小	A4 サイズより長い原稿が送られてきたとき、自動的に縮小するかしないかを設定します。	**する**／しない		97 ページ
	レポート設定	送信レポート	ファクス送信後に、送信結果を印刷するための設定をします。	オン／オン＋イメージ／オフ／**オフ＋イメージ**		104 ページ
		通信管理レポート	通信管理レポートの出力間隔を設定します。	レポート出力しない／ **50 件ごと**／ 6 時間ごと／ 12 時間ごと／ 24 時間ごと／ 2 日ごと／ 7 日ごと		103 ページ
	応用機能	転送／メモリー受信	ファクスを転送したり、メモリー受信の設定を行います。	**オフ**／ファクス転送／留守録転送／メモリー受信／ PC ファクス受信		99 ページ 100 ページ 125 ページ
		暗証番号	外出先から本製品を操作するための暗証番号を設定します。	暗証番号：－－－＊		123 ページ
		ファクス出力	メモリーに蓄積されたファクスを印刷します。 【みるだけ受信】に設定されているときは、【ファクス出力】は設定できません。	－		101 ページ
	通信待ち確認		タイマー送信などの設定を確認したり解除したりできます。	－		105 ページ
	メロディ設定	着信音	着信音を選びます。	**ベル 1 ～ 4** ／メロディ 1 ～ 30		51 ページ
		保留メロディ	保留音を選びます。	メロディ 1 ～ 30 （**花のワルツ**）		51 ページ
	留守番電話設定	応答メッセージ	留守応答メッセージ、在宅応答メッセージの録音／再生／削除をします。	留守応答 1 ／留守応答 2 ／在宅応答		119 ページ
		録音時間	1 件の音声メッセージの最長録音時間を設定します。	30 秒／ **60 秒**／ 120 秒／ 180 秒		118 ページ
		留守録モニター	留守録メモリーに録音中の相手の声が、スピーカーから聞こえる／聞こえないの設定をします。	**する**／しない		120 ページ
	安心通信モード		安心通信モードに設定します。	MFC-650CD ／650CDW ／870CDN ／870CDWN の場合 **標準**／安心 MFC-880CDN ／ 880CDWN の場合 **高速**／標準／安心		191 ページ

● LAN (MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ)

本製品をネットワーク環境で使用する場合の詳細については、画面で見るマニュアルをご覧ください。

機能	設定項目			機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)
LAN	有線 LAN	TCP/IP	IP 取得方法	IP の取得先を指定します。	**Auto**／Static／RARP／BOOTP／DHCP
			IP アドレス	IP アドレスを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			サブネット マスク	サブネットマスクを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			ゲートウェイ	ゲートウェイのアドレスを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			ノード名	ノード名を設定します。	BRNxxxxxxxxxxxx（x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字）
			WINS 設定	WINS の解決方法を設定します。	**Auto** ／ Static
			WINS サーバ	WINS サーバを設定します。	プライマリ／セカンダリ
			DNS サーバ	DNS サーバを設定します。	プライマリ／セカンダリ
			APIPA	APIPA を設定します。	**オン**／オフ
		イーサネット		LAN のリンクモードを設定します	**Auto** ／ 100B-FD ／ 100B-HD ／ 10B-FD ／ 10B-HD
	無線 LAN	TCP/IP	IP 取得方法	IP の取得先を指定します。	**Auto**／Static／RARP／BOOTP／DHCP
			IP アドレス	IP アドレスを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			サブネット マスク	サブネットマスクを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			ゲートウェイ	ゲートウェイのアドレスを設定します。	[000-255].[000-255].[000-255].[000-255].
			ノード名	ノード名を設定します。	BRWxxxxxxxxxxxx（x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字）
			WINS 設定	WINS の解決方法を設定します。	**Auto** ／ Static
			WINS サーバ	WINS サーバを設定します。	プライマリ／セカンダリ
			DNS サーバ	DNS サーバを設定します。	プライマリ／セカンダリ
			APIPA	APIPA を設定します。	**オン**／オフ
		無線接続ウィザード		無線 LAN の設定を行います。	－
		AOSS		無線 LAN の設定を自動的に行います。	－
		無線状態	接続状態	無線 LAN の接続状態を表示します。	－
			電波状態	無線 LAN の電波状態を表示します。	－
			SSID	接続先の無線 LAN の SSID（ネットワーク名）を表示します。	－
			通信モード	無線 LAN の通信モードを表示します。	－
	有線／無線切替え			有線 LAN ／無線 LAN を切り替えます。	**有線 LAN** ／無線 LAN
	LAN 設定リセット			ネットワークの設定（有線・無線とも）をすべて初期値に戻します。	－

● レポート印刷

機能	設定項目	機能説明	参照ページ
レポート印刷	送信レポート	ファクスの送信結果を印刷します。	104 ページ
	機能案内	本製品の機能一覧を印刷します。	197 ページ
	電話帳リスト	電話帳に登録されている内容を印刷します。	112 ページ
	通信管理レポート	送信・受信した最新の 200 通分の結果を印刷します。	103 ページ
	設定内容リスト	各種機能に登録・設定されている内容を印刷します。	197 ページ
	LAN 設定内容リスト	ネットワークの設定内容を印刷します。 現在動作しているネットワーク（有線 LAN または無線 LAN）の設定内容を印刷します。	画面で見るマニュアル
	着信履歴リスト	着信履歴を印刷します。	75 ページ

● 製品情報

機能	設定項目	機能説明	参照ページ
製品情報	シリアル No.	本製品のシリアルナンバーを表示します。	197 ページ

● 初期設定

機能	設定項目		機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
初期設定	時計セット		液晶ディスプレイに表示される現在の日付・時刻と、ファクスに記される日付・時刻を設定します。	−	33 ページ
	発信元登録		ファクスに印刷される発信元の名前、ファクス番号を設定します。	ファクス／名前	34 ページ
	回線種別設定		お使いの電話回線に合わせて回線種別を設定します。	プッシュ回線／ダイヤル 10PPS ／ダイヤル 20PPS ／自動設定	33 ページ
	ナンバーディスプレイ	ナンバーディスプレイ	ナンバー・ディスプレイサービスを使用する／しないを設定します。	**あり**／なし	71 ページ
		着信鳴り分け設定	電話帳に登録した電話番号ごとに、着信先や着信音を設定します。	着信先：ファクス／迷惑指定／電話 着信音：ベル 1 ～ 4 ／メロディ 1 ～ 30	72 ページ
		非通知着信拒否	電話番号非通知の相手先からの着信を拒否します。	する／**しない**	74 ページ
		公衆電話拒否	公衆電話からの着信を拒否します。	する／**しない**	
		着信拒否モニター	着信拒否メッセージを再生するとき、スピーカーから聞こえる／聞こえないを設定します。	する／**しない**	74 ページ
		キャッチディスプレイ	キャッチホン・ディスプレイサービスを使用する／しないを設定します。	あり／**なし**	78 ページ
	子機増設モード		増設子機（別売）の ID 登録をします。登録後、増設子機が使用できます。	増設／登録子機を消去	193 ページ
	その他	ダイヤルトーン設定	ダイヤルトーンの検出をするかしないかを設定します。	検知する／**検知しない**	191 ページ
		特別回線対応	特別な電話回線に合わせて回線種別を設定します。	**一般**／ ISDN ／ PBX	190 ページ
		通話音質調整	親機や子機での通話中やファクス通信時の回線状況に応じて調整します。	子機通話調整（設定 1 ／設定 2 ／設定 3 ／設定 4）／ 親機通話調整（設定 1 ／設定 2 ／設定 3）	190 ページ
		子機通信チャンネル	使用環境によって、通話状況が良くないときなどに設定します。	設定 1 ／設定 2 ／**設定 3**	192 ページ
		ケータイ通話お得サービス	携帯電話に電話をかけるとき、携帯電話番号の前に事業者識別番号を付けて発信するように設定します。	する／しない	56 ページ
		事業者識別番号	【ケータイ通話お得サービス】を【する】に設定している場合に、携帯電話番号の前に付ける事業者識別番号を設定します。	−	57 ページ
		個人情報クリア	電話帳や着信履歴、メモリーなどをすべて消去します。	−	194 ページ
		機能設定リセット	本製品の設定を、お買い上げ時の状態に戻します。	−	195 ページ
		デモ動作設定	デモ画面を表示するかしないかを設定します。	する／**しない**	−

コピーボタン

コピー
を押して表示される画面で、コピーに関する設定ができます。

設定項目	機能説明	設定内容 （太字：初期設定値）	参照ページ
コピー画質	印刷品質に合わせて設定します。	高速／**標準**／高画質	131 ページ
拡大／縮小	コピーしたいサイズに合わせて設定します。	40％ A4 ⇒ L 判 46％ A4 ⇒ハガキ 69％ A4 ⇒ A5 86％ A4 ⇒ B5 **100％ 等倍** 113％ L 判⇒ハガキ 115％ B5 ⇒ A4 142％ A5 ⇒ A4 204％ハガキ⇒ A4 240％ L 判⇒ A4 カスタム（25 - 400％）	
記録紙タイプ	記録紙トレイにセットした記録紙に合わせて設定します。	**普通紙**／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／その他光沢紙／ OHP フィルム	
記録紙サイズ	記録紙トレイにセットした記録紙に合わせて設定します。	**A4** ／ A5 ／ B5 ／ハガキ／ 2L 判／ L 判	
明るさ	原稿に合わせて設定します。	－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	132 ページ
コントラスト	コントラスト（色の濃度）を調整します。	－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
カラー調整 レッド（R）	色のバランスを調整します。	－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
カラー調整 グリーン（G）		－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
カラー調整 ブルー（B）		－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
レイアウト　コピー	原稿をレイアウトしてコピーするとき設定します。	**オフ（1 in 1）** ／ 2 in 1（タテ長）／ 2 in 1（ヨコ長）／ 4 in 1（タテ長）／ 4 in 1（ヨコ長）／ポスター（3 x 3）	134 ページ
設定を保持する	変更した設定を保持します。	－	132 ページ
設定をリセットする	設定をお買い上げ時の状態に戻します。	－	

デジカメプリントボタン

デジカメプリント を押して表示される画面で、フォトメディアキャプチャ機能に関する設定ができます。

設定項目	機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
写真プリント	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真をプリントします。	－	140 ページ
インデックスプリント	インデックスプリントを印刷します。	－	141 ページ
番号指定プリント	番号を指定してプリントします。	－	142 ページ
色調整プリント	プリントの時の色や明るさ、赤目を自動的に補正して美しくプリントします。モノクロやセピア調にもプリントできます。	－	143 ページ
日付から検索	撮影日を指定して写真を検索し、プリントします。	－	147 ページ
すべてプリント	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内のすべての写真をプリントします。	－	148 ページ
スライドショー	メモリーカードまたは USB フラッシュメモリー内の写真を次々に表示します。	－	149 ページ
トリミング	画像の一部を切り出したり、回転させたりしてプリントします。	－	150 ページ

また、【写真プリント】【番号指定プリント】【色調整プリント】【日付から検索】【すべてプリント】【スライドショー】【トリミング】を選んだ後で OK を押すと、以下の設定を確認・変更できます。

設定項目	機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
プリント画質	プリント時の画質を設定します。	標準／**きれい**	151 ページ
記録紙タイプ	記録紙の種類を設定します。	普通紙／インクジェット紙／ブラザー専用光沢紙／**その他光沢紙**	
記録紙サイズ	記録紙のサイズを設定します。	**L 判タテ**／ 2L 判タテ／ハガキタテ／ A4	
プリントサイズ	記録紙サイズで【A4】を選んだ場合に設定します。	**用紙全体に印刷**／ 10 x 8 c m ／ 13 x 9 c m ／ 15 x 10 c m ／ 18 x 13 c m ／ 20 x 15 c m	
明るさ※	プリントの明るさを調整します。	－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
コントラスト※	プリントのコントラスト（色の濃度）を調整します。	－ 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2	
画質強調※	＜ホワイトバランス＞ 画像の白色部分の色合いを調整します。	する： － 2/ － 1/ **0** / ＋ 1/ ＋ 2 **しない**	
	＜シャープネス＞ 画像の輪郭部分のシャープさを調整します。		
	＜カラー調整＞ 画像のカラー全体の濃度を調整します。		
画像トリミング	プリント領域に収まらない画像を自動的に切り取ってプリントするかしないかを設定します。	**する**／しない	
ふちなし印刷	ふちなし印刷をするかしないかを設定します。	**する**／しない	
設定を保持する	変更した設定を保持します。	－	152 ページ
設定をリセットする	設定をお買い上げ時の状態に戻します。	－	

※ 色調整プリントの場合は表示されません。

ファクスボタン

を押して表示される画面で、ファクス機能に関する設定ができます。

設定項目	機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
ファクス画質	送信時の画質を設定します。	**標準**／ファイン／スーパーファイン／写真	90 ページ
原稿濃度	原稿に合わせて濃度を一時的に設定します。	**自動**／濃く／薄く	
電話帳 / 短縮	電話帳の内容を検索します。	－	85 ページ
発信履歴	発信履歴を表示します。	－	84 ページ
着信履歴	着信履歴を表示します。 ※ナンバー・ディスプレイをご契約されていない場合は、着信履歴は表示されません。	－	
同報送信	複数の相手先に同じ原稿を送ります。	－	95 ページ
タイマー送信	タイマー送信を行うときの送信時刻を設定します。	する（00:00）／**しない**	92 ページ
とりまとめ送信	タイマー送信で同じ相手に同じ時刻に送信する原稿がある場合、まとめて送信するように設定します。	する／**しない**	93 ページ
リアルタイム送信	メモリーを使わずに、原稿を読み取りながら送信するときに設定します。	する／**しない**	91 ページ
ポーリング送信	ポーリング通信でファクスを送信するときに設定します。	標準／機密／**しない**	94 ページ
ポーリング受信	ポーリング通信でファクスを受信するときに設定します。	標準／機密／タイマー／**しない**	98 ページ
海外送信モード	海外にファクスを送るときに設定します。	する／**しない**	93 ページ
設定を保持する	変更した設定を保持します。	－	91 ページ
設定をリセットする	設定をお買い上げ時の状態に戻します。	－	

スキャンボタン

スキャン を押して表示される画面で、スキャン機能に関する設定ができます。

設定項目	機能説明	参照ページ
E メール：E メール添付	スキャンしたデータを添付ファイルにしてメールソフトを起動します。	画面で見るマニュアル「スキャン」
イメージ：PC 画像表示	スキャンしたデータをパソコンに保存します。	
OCR：テキストデータ変換	スキャンしたデータをテキストに変換してパソコンに保存します。	
ファイル：フォルダ保存	スキャンしたデータをパソコンの指定したフォルダに保存します。	
メディア：メディア保存	スキャンしたデータをメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーに保存します。	156 ページ

また、【メディア：メディア保存】を選び、OK をクリックすると、以下の設定を確認・変更できます。

設定項目	機能説明	設定内容	参照ページ
スキャン画質	スキャン TO メディア時の画質を設定します。	カラー 150 dpi ／カラー 300 dpi ／カラー 600 dpi ／モノクロ 200x100dpi ／モノクロ 200 dpi	156 ページ
ファイル形式	スキャンするときのファイル形式を設定します。	JPEG ／ PDF ／ TIFF	
ファイル名	ファイル名を設定します。	－	

みるだけ受信ボタン

みてから送信 みるだけ受信 を押して表示される画面で、以下の設定が行えます。

設定項目	機能説明	参照ページ
すべてプリント	メモリー内のすべてのファクスを印刷します。	89 ページ
すべて消去	メモリー内のすべてのファクスを削除します。	

インクボタン

インク を押して表示される画面で、インクに関する設定が行えます。

機能	設定項目	機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
インク	テストプリント	印刷テストを行います。	印刷品質／印刷位置	170 ページ
	ヘッドクリーニング	ヘッドクリーニングを行います。	ブラック／カラー／全色	169 ページ
	インク残量	インク残量を確認します。		168 ページ

電話帳／短縮ボタン

を押して表示される画面で、以下の設定が行えます。

機能	設定項目	機能説明	参照ページ
電話帳 / 短縮	検索	電話帳の内容を検索します。	63 ページ
	電話帳登録	2 桁の短縮番号に、相手先番号と名前を登録します。	108 ページ
	グループ登録	複数の相手先を「グループ」として登録します。	111 ページ

子機

電話帳ボタン

を押して表示される画面で、電話帳の登録・変更が行えます。

設定項目		機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
デンワチョウトウロク		子機の電話帳に相手の名前と電話番号を登録します。	(全 100 件)	113 ページ
(ナマエ)	ヘンコウ	電話帳に登録した内容を変更・削除します。	ー	113 ページ
	ショウキョ			

機能ボタン

機能 確定 を押して表示される画面で、電話帳の登録・変更が行えます。

設定項目		機能説明	設定内容 (太字：初期設定値)	参照ページ
メイドウオン セッテイ	1. チャクシンオン	着信音を選択します。	ベル／アヴェ･マリア／オオキナフルドケイ／ガボット／キラキラボシ／シキヨリ [ハル] ／ハナノワルツ	52 ページ
	2.チャクシン　ナリワケ	電話帳に登録した電話番号の着信音を設定します。		73 ページ
	3. ボタンカクニンオン	ボタンを押したときの音を設定します。	ー	50 ページ
ハッシン リレキ	1 ケン　ショウキョ	発信履歴から 1 件削除します。	ー	76 ページ
	ゼンケン　ショウキョ	発信履歴の内容をすべて削除します。	ー	76 ページ
	デンワチョウトウロク	発信履歴から電話帳に登録します。	ー	114 ページ
チャクシン リレキ	1 ケン　ショウキョ	着信履歴から 1 件削除します。	ー	76 ページ
	ゼンケン　ショウキョ	着信履歴の内容をすべて削除します。	ー	76 ページ
	デンワチョウトウロク	着信履歴から電話帳に登録します。	ー	114 ページ
ガメンノコントラスト		ディスプレイの明るさを設定します。	1 ～ 7 段階 (**4**)	54 ページ
トケイセッテイ		現在の日付と時刻を登録します。	―	34 ページ
ツウワパワー		子機の電波環境の悪いときに設定します。	**ヒョウジュン**／ツヨイ	193 ページ
コキ　ゾウセツ		増設子機の ID 登録をします。	ー	193 ページ

仕様

親機

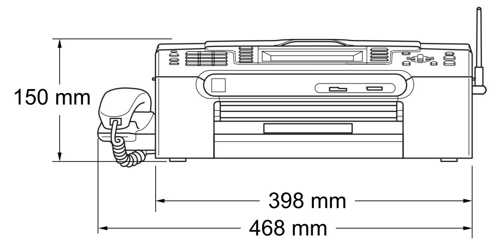
電話／ファクス

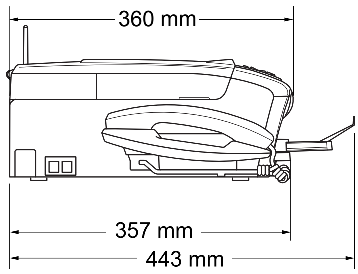
形式	MFC-650CD ／ 870CDN： ITU-T Group 3（G3） MFC-880CDN： ITU-T SuperGroup 3（Super G3）
圧縮方式	MH/MR/MMR/JPEG
電送時間 *1	MFC-650CD ／ 870CDN：約 6 秒 MFC-880CDN：約 3.5 秒
通信速度	MFC-650CD ／ 870CDN： 14400/12000/9600/7200/4800/2400bps MFC-880CDN： 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps （自動フォールバッグ付き）
原稿サイズ	原稿台ガラス使用時： 最大　幅 215.9mm ×長さ 297mm ADF（自動原稿送り装置）使用時： 最大　幅 215.9mm ×長さ 355.6mm
記録紙サイズ	A4（幅 210mm ×長さ 297mm）
最大有効読取幅 *2	208mm
最大有効記録幅	204mm
記録方式	インクジェット式
読取方式	CIS 方式
ハーフトーン	256 階調
走査線密度	主走査：8 ドット /mm 副走査（モノクロ時） • 標準：3.85 本 /mm • ファイン / 写真：7.7 本 /mm • S. ファイン：15.4 本 /mm 副走査（カラー時） • 標準：7.7 本 /mm • ファイン：7.7 本 /mm • 「写真」「S. ファイン」なし
総録音可能時間 *4	1 回の最大録音時間 3 分× 99 件
適用回線	一般電話回線、2 線式専用回線、ファクシミリ通信網（16Hz のみ対応）
メモリー記憶枚数 *3*4	約 400 枚

*1：A4 サイズ 700 字程度の原稿を標準的画質（8 ドット× 3.85 本／ mm）で高速モード（14400bps33600bps）で送ったときの速さです。これは画像情報のみの電送時間で通信の制御時間は含まれておりません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線状態により異なります。
*2：B4 記録が可能な相手機種の場合の最大有効読取幅です。
*3：A4 サイズ 700 字程度の原稿を標準的画質（8 ドット× 3.85 本／ mm）で読み取った場合の枚数です。実際の読み取り枚数は原稿の濃度や画質により異なります。
*4：録音可能時間やメモリー記憶枚数は、メモリーの使用状況によって変わることがあります。（例えば、ファクスメッセージがメモリーに記憶されているときは録音可能時間が短くなります。）

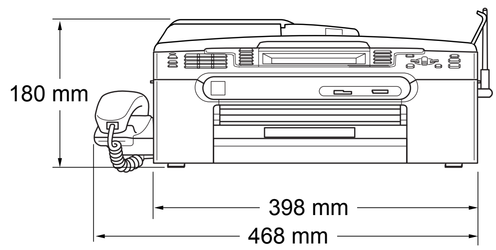
外形寸法

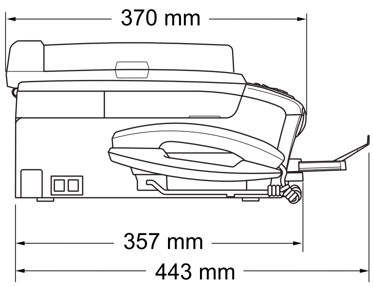
MFC-650CD ／ 650CDW ／ 870CDN ／ 870CDWN





880CDN ／ 880CDWN





※ 外観 • 仕様などは、改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

コピー

コピースピード	• モノクロ： 22 ページ / 分 （A4 サイズ / 普通紙 / 高速モード） • カラー： 20 ページ / 分 （A4 サイズ / 普通紙 / 高速モード）
拡大縮小	25 ～ 400 （%）
プリント解像度	• モノクロ： 最大1200（主走査）× 1200（副走査）dpi • カラー： 最大 600（主走査）× 1200（副走査）dpi

電源その他

使用環境	温度：10 ～ 35 ℃、湿度：20 ～ 80% ※ 印字品質のためには、20 ～ 33 ℃でご利用になることをお勧めします。
電源	AC100 － 120 ± 10V　50 ／ 60Hz
消費電力	MFC-650CD ／ 650CDW： 動作時：平均 22W 以下 待機時：平均 7W 以下 MFC-870CDN ／ 870CDWN： 動作時：平均 23W 以下 待機時：平均 8W 以下 MFC-880CDN ／ 880CDWN： 動作時：平均 35W 以下 待機時：平均 8W 以下
稼働音	動作時：50db 以下 ※ お使いの機能により数値は変わります。
メモリ容量	32MB
本体重量	MFC-650CD：7.7kg MFC-870CDN：7.8kg MFC-880CDN：8.6kg ※ インクカートリッジを含む

プリンタ＆スキャナ

対応パソコン	PC/AT 互換機 Apple社製Macintosh®のUSBポート搭載機
対応 OS	Windows® 2000 Professional/XP/Vista™ Windows® XP Professional x64 Edition Mac OS X 10.2.4 以降
インターフェース	USB インターフェース対応 ネットワーク（10BASE-T/100BASE-TX 対応）
プリント方式	インクジェット式
プリント解像度	最大 1200（主走査）× 6000（副走査）dpi
プリント速度	モノクロ 30 枚 / 分　カラー 25 枚 / 分 （ドラフトモード、普通紙、当社基準 A4 原稿）
スキャナ解像度	光学解像度 原稿台ガラス使用時： 最大 600（主走査）dpi x 2400（副走査）dpi ADF（自動原稿送り装置）使用時： 最大 600（主走査）dpi x 600（副走査）dpi

フォトメディアキャプチャ

対応メディア	• メモリースティック® メモリースティック PRO™、メモリースティックデュオ、メモリースティック PRO デュオも使用できます。 メモリースティックデュオ、メモリースティック PRO デュオを本製品にセットするときは、アダプターが必要です。 ※マジックゲート機能（著作権保護機能）には対応していません。 • コンパクトフラッシュ®（TYPE1） マイクロドライブ、TYPE2 には対応していません。 無線 LAN カードなどのデバイス系のカードには対応していません。 • SD メモリーカード ™/SDHC メモリカード ™ miniSD カード ™ /microSD カード ™ を本製品にセットするときは、アダプターが必要です。 ※著作権保護機能には対応していません。 • xD-Picture Card™ 本製品は、xD-Picture Card™ TypeM/TypeH シリーズに対応しています • マルチメディアカード ™ USB フラッシュメモリー
メディアファイルフォーマット	DPOF 形式、EXIF 形式、DCF 形式
対応画ファイルフォーマット	デジカメプリント JPEG 形式 拡張子が「.jpg」のファイルに限ります。 プログレッシブ JPEG には対応していません。 ファイルとフォルダをあわせて 999 個までの対応です。 5 階層以上のフォルダには対応していません。 スキャン TO メディア カラー：JPEG 形式、PDF 形式 モノクロ：TIFF 形式、PDF 形式

子機

コードレス子機

使用周波数	2.40GHz ～ 2.4835GHz
変調方式	周波数ホッピング方式
使用可能距離	見通し距離約 100m
充電完了時間	約 12 時間
使用可能時間（充電完了後）	待機状態：約 200 時間、 連続通話：約 7 時間
使用環境	温度：5 ～ 35 ℃、湿度：45 ～ 80%
電源	DC3.6V（子機用専用バッテリー使用）
消費電力	−
外形寸法	43（横幅）× 25（奥行き）× 154（高さ）mm
質量	約 140g（子機用専用バッテリー含む）

充電器

使用環境	温度：5 ～ 35 ℃、湿度：45 ～ 80%
電源	AC100 ± 10V　50 ／ 60Hz
消費電力	約 2W（充電時）
外形寸法	74 横幅）× 79（奥行き）× 65（高さ）mm
質量	約 60g

使用環境

本製品とパソコンを接続してお使いいただくには、以下のパソコン環境が必要になります。

Windows® の場合

本製品とパソコン（Windows®）を接続する場合、以下の動作環境が必要となります。

OS/CPU/ メモリ

- Windows® 2000 Professional
  300MHz 以上の 32 ビット（x86）プロセッサ
  64MB（推奨 256MB）以上のシステムメモリ
- Windows ® XP Professional
  300MHz 以上の 32 ビット（x86）プロセッサ
  128MB（推奨 256MB）以上のシステムメモリ
- Windows ® XP Professional x64 Edition
  64 ビット（x64）プロセッサ
  256MB（推奨 512MB）以上のシステムメモリ
- Windows Vista™
  1.0GHz 以上の 32 ビット（x86）または、64 ビット（x64）プロセッサ
  512MB（推奨 1GB）以上のシステムメモリ

※ 上記プロセッサの他、Intel ® 社互換プロセッサも使用できます。
※ 本製品のすべての機能を快適にご使用いただくために以下の環境を推奨します。

- Windows® 2000 ProfessionalまたはWindows® XP Professional をお使いの場合
  1.2GHz 以上の 32 ビット（x86）プロセッサと 256MB 以上のシステムメモリを搭載したパソコン。
- Windows Vista™ をお使いの場合
  1.2GHz 以上の 32 ビットまたは 64 ビットのデュアルコアプロセッサと 1GB 以上のシステムメモリを搭載したパソコン。

ディスク容量

700MB 以上（Windows Vista™ 以外）/
1.1GB 以上（Windows Vista™）の空き容量

Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 6 以上が必要です。

インターフェース

- USB2.0 フルスピード
- ネットワーク（10BASE-T/100BASE-TX 対応）＊
- 無線ネットワーク（IEEE802.11b/g）＊

＊ MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ

※ LAN ケーブルは市販品をご利用ください。
※ USB ケーブルは長さが 2.0m 以下のものをお使いください。
※ USB2.0ハイスピード対応のパソコンでもご使用いただけますが、12M ビット/秒のフルスピードモードでの接続になります。
※ USB1.1 対応のパソコンとも接続できます。

CPU のスペックやメモリの容量に余裕があると、動作が安定します。

Macintosh® の場合

本製品と Macintosh® を接続する場合、以下の動作環境が必要となります。

OS

Mac OS X 10.2.4 以降
PowerPC G3 350MHz 以上
(PowerPC G4/G5、Intel ®Cone ™ Solo/Duo を含む)
※ Classic 環境ではご使用になれません。
※ CD-ROM ドライブ必須

ディスク容量

480MB 以上の空き容量

インターフェース

- USB2.0 フルスピード
- ネットワーク（10BASE-T/100BASE-TX 対応）＊
- 無線ネットワーク（IEEE802.11b/g）＊

＊ MFC-870CD(W)N/880CD(W)N のみ

※ LAN ケーブルは市販品をご利用ください。
※ USB ケーブルは長さが 2.0m 以下のものをお使いください。
※ USB2.0 ハイスピード対応の Macintosh® でもご使用いただけますが、12M ビット / 秒のフルスピードモードでの接続になります。
※ USB1.1 対応の Macintosh® とも接続できます。

CPU のスペックやメモリの容量に余裕があると、動作が安定します。

Mac OS X への対応状況は、弊社ホームページにて最新の情報を公開しています。以下のアドレスを参照してください。
http://solutions.brother.co.jp/

用語解説

＝あ＝

● **アース端子**

アース（接地）を行う場合に使用します。使用環境によっては、アースを行うと通信性能や耐ノイズ性能が改善します。

● **アプリケーションソフトウェア**

ワープロや表計算など、ユーザーが直接操作するソフトウェアです。

● **インクジェット**

専用のインクをプリントヘッドのノズルから記録紙に吹き付けて印刷する方式です。

● **インターフェース**

パソコンと周辺装置のように、機能や条件の違うものの間で、データをやりとりするためのハードウェアまたはソフトウェアです。

● **ウィザード**

Windows® などで、設定作業を半自動化してくれる機能です。

● **オプション機能**

標準仕様に対し、お客様の希望に応じて変更できる機能です。

＝か＝

● **回線種別**

電話に使われているダイヤリングの方法です。発生したパルスを数えて検出するダイヤル式と、周波数を検出して判別するプッシュ式があります。

● **画質強調**

解像度や明るさを自動的に調整して、より鮮やかに印刷する機能です。

● **機密ポーリング**

受信側と送信側が同じパスワードを使用することによって、パスワードを知っている人だけがファクスを受け取れる機能です。

● **原稿台ガラス**

コピーやファクスのときに原稿を置くところです。ここから原稿を読み取ります。

＝さ＝

● **親切受信**

ファクスを着信したときに間違えて電話を取ってしまったときでも自動的に本製品がファクス受信を行う機能です。

● **スプリッタ**

ADSL 環境で必要な機器の 1 つです。音声信号とデータ信号を分けたり重ねたりします。

＝た＝

● **ターミナルアダプタ**

ISDN 回線で必要な機器の 1 つです。パソコンや電話機を ISDN 回線に接続するために必要な信号の変換を行います。

● **タスクバー**

Windows® の画面上にあるプログラムの起動やフォルダの表示のためのボタンを配置してある場所のことです。

● **デバイス**

ハードディスクやプリンタのような、パソコンで使用されるハードウェアのことです。

● **デュアルアクセス**

1 つの機能の動作中に別の機能を並行して処理できることです。

● **同報送信**

同じ原稿を複数の送信先に対して一度に送る機能です。

● **取りまとめ送信**

メモリーに貯えられているタイマー送信用のデータを、同一の相手ごとにまとめて送る機能です。

＝な＝

● **ナンバー・ディスプレイ（ND）**

電話がかかってきたときに相手の電話番号を液晶ディスプレイに表示するサービスです。このサービスを利用するには、ご利用の電話会社との契約が必要です。（有料）

＝は＝

● **ファクス転送**

受信したファクスメッセージを、指定したファクシミリに転送する機能です。

● **プリンタドライバ**

パソコンから印刷をするために必要なソフトウェアです。

● **ポーリング通信**

受信側のファクス操作で送信側のファクスにセットしてある原稿を自動的に送信させる機能です。

● **ポスターコピー**

1 枚の原稿を 9 分割し、9 枚の記録紙に拡大コピーします。

＝ま＝

● **メモリー送信**

ファクス原稿を初めに読み取り、それをメモリーに貯えてから送信する機能です。

● **メモリー受信**

受信したファクスを印刷するとともに本製品のメモリーに記憶する機能です。

● **メモリー代行受信**

記録紙がセットされていないときなどに、受信したデータをいったんメモリーに保存する機能です。記録紙をセットすると印刷されます。

＝ら＝

● **リアルタイム送信**

メモリーに貯えず、原稿を読み取りながら送信する機能です。

● **リモートセットアップ**

本製品に対する機能設定をパソコン上で簡単に行うことができる機能です。

● **リモコンアクセス**

外出先から本製品をリモートコントロールして操作を行う機能です。

● **留守録転送**

音声メッセージがメモリーに蓄えられると、外出先の電話に知らせる機能です。

● ログオン（ログイン）

パソコンやシステムへアクセスするときに行う操作です。

＝数字＝

● 2 in 1

2枚の原稿を縮小し、1枚の記録紙にコピーする機能です。

● 4 in 1

4枚の原稿を縮小し、1枚の記録紙にコピーする機能です。

＝ A to Z ＝

● ADSL

通常の電話回線（アナログ回線）で、従来使っていなかった帯域を利用してデータを高速に伝送する通信サービスです。

● CMYK

Cyan、Magenta、Yellow、BlacK の 4 文字を示しています。光の三原色、赤、青、緑（RGB）による、加法混色に対し、補色の三原色、緑青（シアン）、赤紫（マゼンタ）、黄を用いた減法混色のことを指します。本製品は加法混色を行っており、印刷には CMY に加え黒インクを併用しています。

● CSV 形式

Comma Separated Value の略。レコード中の各フィールドを、コンマ（,）を区切りとして列挙したデータ形式です。Microsoft Excel などの表計算ソフトウェアでは、CSV 形式でのデータ出力、データ入力機能が用意されています。

● DPI

Dot Per Inch の略で、1 インチ (2.54cm) 幅に印刷できるドット数を表す単位で、解像度を示します。

● ECM 通信

Error Correction Mode の略。通信中雑音などにより送信データが影響を受けても、自動的に影響を受けた部分だけ送り直し、画像の乱れのない通信を行います。

● EM64T

Intel Extended Memory 64 Technology の略。IA-32 アーキテクチャを拡張したもので、より大容量のメモリにアクセスできるようになります。ソフトウェアも EM64T に最適化する必要があります。

● IP フォン

インターネットで使用されている IP（インターネット・プロトコル）技術を利用した電話のことです。

● ISDN

デジタル回線による通信サービスです。1 回線でパソコンと電話など一度に 2 回線分使うことができます。

● OCR 機能

Optical Character Recognition（光学的文字認識）の略で、スキャナで画像データとして読み込んだ文字を、文字認識技術によって編集可能なテキストデータに変換する機能です。

● OS

Operating System（オペレーティングシステム）の略で、パソコンの基本ソフトウェア群です。

● PBX（構内交換機）

企業の構内などで利用する交換機です。内線電話同士の接続や、一般回線への接続などを行います。

● PC

Personal Computer（パーソナルコンピュータ）の略で、個人仕様の一般的なコンピュータです。

● PC/AT 互換機

IBM 社が開発したパーソナルコンピュータ（IBM.PC/AT）の互換パソコンに付いた名称です。日本では DOS/V パソコンとも言われます。

● PC-FAX

パソコンのアプリケーションで作成したファイルをファクスとして送信する機能です。あらかじめ、PC-FAX の電話帳に相手先を登録しておくことでファクスの宛先を簡単に指定することができます。また、送付書を添付して送信することもできます。

● PC-FAX 受信

受信したファクスを本製品と接続しているパソコン上で確認する機能です。

● TWAIN

Technology Without Any InterestedName の略でスキャナなどパソコンに画像を取り込む装置と Presto!®PageManager® などのソフトウェアを連携させるための規格です。

● USB ケーブル

Universal Serial Bus（ユニバーサルシリアルバス）の略。ハブを介して最大 127 台までの機器をツリー状に接続できるケーブルです。機器の接続を自動的に認識するプラグアンドプレイ機能や、パソコンの電源を入れたままコネクタの接続ができるホットプラグ機能を持っています。

● Vcards(vcf 形式)

電子メールで個人情報をやり取りするための規格。電子メールの添付ファイルの機能を拡張して、氏名、電話番号、住所、会社名などをやり取りできます。この規格に対応するアプリケーション間では、受信時に情報が自動的に更新されます。

● WIA

Windows Imaging Acquisition の略で、スキャナなどパソコンに画像を取り込む装置と Presto!®PageManager® などのソフトウェアを連携させるための規格です。TWAIN の機能を置き換えるもので、Windows® Me/XP で標準サポートされています。

索引

数字

A

B

C

D

E

I

M

O

P

S

T

U

W

X

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

リモコンアクセスカード

外出先から本製品を操作する場合（⇒ 123 ページ「外出先から本製品を操作する」）、下記の「リモコンアクセスカード」を切り取ってお持ちいただくと便利です。

<キリトリ線>

リモコン　アクセス

暗　証　番　号

○○○＊

あなたの暗証番号を記入してください。

リモコンアクセスの使用方法

1. プッシュボタン回線方式の電話機を使って、電話をかけます。
2. 応答メッセージが再生されたら、#、*を押します。
3. 暗証番号を入力します。
4. リモコンコードを入力します。
5. 「90」を入力して、リモコンアクセスを終了します。

リモコンコードは、裏面の一覧表を参照してください。

注意：間違った操作を行ったときには、もう１度やり直してください。

<キリトリ線>

リモコン　アクセス

暗　証　番　号

○○○＊

あなたの暗証番号を記入してください。

リモコンアクセスの使用方法

1. プッシュボタン回線方式の電話機を使って、電話をかけます。
2. 応答メッセージが再生されたら、#、*を押します。
3. 暗証番号を入力します。
4. リモコンコードを入力します。
5. 「90」を入力して、リモコンアクセスを終了します。

リモコンコードは、裏面の一覧表を参照してください。

注意：間違った操作を行ったときには、もう１度やり直してください。

<キリトリ線>

リモコン　アクセス

暗　証　番　号

○○○＊

あなたの暗証番号を記入してください。

リモコンアクセスの使用方法

1. プッシュボタン回線方式の電話機を使って、電話をかけます。
2. 応答メッセージが再生されたら、#、*を押します。
3. 暗証番号を入力します。
4. リモコンコードを入力します。
5. 「90」を入力して、リモコンアクセスを終了します。

リモコンコードは、裏面の一覧表を参照してください。

注意：間違った操作を行ったときには、もう１度やり直してください。

＜キリトリ線＞

リモコンコード

操作内容	ボタン操作
音声のメッセージを再生	91（※3）
戻し（再生中から戻し）	911（91＋1）
送り（再生中から送り）	912（91＋2）
音声メッセージを消去（※1）	93
メモリー受信をOFFにする（※5）	951
ファクス転送の設定	952（※4）
ファクス転送番号の登録・変更	954+転送番号入力+##
メモリー受信をONにする	956

操作内容		ボタン操作
ファクスの取り出し	ファクスの取り出し	962+ダイヤル入力+##
受信状況の チェック（※2）	ファクス	971
	音声メッセージ	972
受信モードの 変更	留守	981
	在宅	982
終了		90

※1：「ピピピッ」という音が聞こえたら、すべてのメッセージがまだ再生されていないか、消去するメッセージがないため消去ができないことを示しています。
※2：「ピー」という音が聞こえたら、メッセージを受信しています。
「ピピピッ」という音が聞こえたら、メッセージを受信していません。
※3：中止するときは 9 を入力してください。
※4：転送番号が登録されていないときは、転送機能をONにすることはできません。
※5：留守録転送やファクス転送の設定も解除されます。

＜キリトリ線＞

リモコンコード

操作内容	ボタン操作
音声のメッセージを再生	91（※3）
戻し（再生中から戻し）	911（91＋1）
送り（再生中から送り）	912（91＋2）
音声メッセージを消去（※1）	93
メモリー受信をOFFにする（※5）	951
ファクス転送の設定	952（※4）
ファクス転送番号の登録・変更	954+転送番号入力+##
メモリー受信をONにする	956

操作内容		ボタン操作
ファクスの取り出し	ファクスの取り出し	962+ダイヤル入力+##
受信状況の チェック（※2）	ファクス	971
	音声メッセージ	972
受信モードの 変更	留守	981
	在宅	982
終了		90

※1：「ピピピッ」という音が聞こえたら、すべてのメッセージがまだ再生されていないか、消去するメッセージがないため消去ができないことを示しています。
※2：「ピー」という音が聞こえたら、メッセージを受信しています。
「ピピピッ」という音が聞こえたら、メッセージを受信していません。
※3：中止するときは 9 を入力してください。
※4：転送番号が登録されていないときは、転送機能をONにすることはできません。
※5：留守録転送やファクス転送の設定も解除されます。

＜キリトリ線＞

リモコンコード

操作内容	ボタン操作
音声のメッセージを再生	91（※3）
戻し（再生中から戻し）	911（91＋1）
送り（再生中から送り）	912（91＋2）
音声メッセージを消去（※1）	93
メモリー受信をOFFにする（※5）	951
ファクス転送の設定	952（※4）
ファクス転送番号の登録・変更	954+転送番号入力+##
メモリー受信をONにする	956

操作内容		ボタン操作
ファクスの取り出し	ファクスの取り出し	962+ダイヤル入力+##
受信状況の チェック（※2）	ファクス	971
	音声メッセージ	972
受信モードの 変更	留守	981
	在宅	982
終了		90

※1：「ピピピッ」という音が聞こえたら、すべてのメッセージがまだ再生されていないか、消去するメッセージがないため消去ができないことを示しています。
※2：「ピー」という音が聞こえたら、メッセージを受信しています。
「ピピピッ」という音が聞こえたら、メッセージを受信していません。
※3：中止するときは 9 を入力してください。
※4：転送番号が登録されていないときは、転送機能をONにすることはできません。
※5：留守録転送やファクス転送の設定も解除されます。

特許、規制

VCCI 規格

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
ユーザーズガイドに従って、正しい取り扱いをしてください。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

商標について

本文中では、OS 名称を略記しています。

Windows® 2000 Professional の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system です。
（本文中では Windows® 2000 と表記しています。）
Windows® XP の正式名称は、Microsoft® Windows® XP operating system です。
Windows® XP Professional x64 Edition の正式名称は、Microsoft® Windows® XP operating system Professional x64 Edition です。
Windows Vista™ の正式名称は、Microsoft® Windows Vista™ operating system です。

Microsoft 、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Apple、Macintosh は、Apple Inc. の登録商標です。
Adobe、Photoshop は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。
Presto! PageManager は NewSoft Technology Corp. の登録商標です。
コンパクトフラッシュは、サンディスク社の登録商標です。
Memory Stick 、メモリースティックはソニー株式会社の商標または登録商標です。
SD メモリーカードは松下電器産業株式会社、サンディスク社、株式会社東芝の商標です。
xD-Picture Card は富士フイルム株式会社の商標です。
マルチメディアカードは独 Infineon Technologies AG の商標です。
PictBridge は、CIPA（Camera&Imaging Products Association）の商標です。
「デジカメ」は三洋電機株式会社の登録商標です。
AOSS は株式会社バッファローの商標です。
本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

“Part of the software embedded in this product is gSOAP software.
Portions created by gSOAP are Copyright (C) 2001.2004 Robert A. van Engelen, Genivia inc. All Rights Reserved.
THE SOFTWARE IN THIS PRODUCT WAS IN PART PROVIDED BY GENIVIA INC AND ANY EXPRESS
OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY
AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL
THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED
AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING
NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANYWAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN
IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.”

関連製品のご案内

innobella

innobella（イノベラ）は、ブラザーの純正消耗品の新シリーズです。イノベラの名前は、イノベーション（innovation.「革新的」）とベラ（Bella・イタリア語で「美しい」）の２つの言葉に由来しています。　革新的なプリント技術により美しく鮮やかな高品質のプリントを実現します。写真の印刷には「イノベラ写真光沢紙」をおすすめいたします。イノベラインクと合わせてお使い頂ければ、鮮やかでキメの細かい発色、つややかな仕上がりの超高画質の写真プリントを実現します。また、安定した印刷品質の維持のためにも、イノベラインク・イノベラ写真光沢紙、およびブラザー純正の専用紙のご使用をお勧めいたします。

消耗品

インクカートリッジ

インクが残り少なくなったら、以下のインクカートリッジをお買い求めください。

種類	型番	印字可能枚数
ブラック（黒）	LC10BK	約 500 枚
イエロー（黄）	LC10Y	約 400 枚
シアン（青）	LC10C	約 400 枚
マゼンタ（赤）	LC10M	約 400 枚
4 個パック ［ブラック（黒）/ マゼンタ（赤）/ イエロー（黄）/ シアン（青）各 1 個］	LC10-4PK	ブラック（黒）：約 500 枚 マゼンタ（赤）/ イエロー（黄）/ シアン（青）：各色約 400 枚
黒 2 個パック ［ブラック（黒）2 個］	LC10BK-2PK	約 500 枚× 2

印字可能枚数は、以下の条件を想定したものです。
- 新しいインクカートリッジを取り付けてから、液晶ディスプレイに【インク切れ】と表示されるまでの期間
- 5％印刷密度、600 × 600dpi の標準モードで印刷を続ける

本製品にはじめてインクカートリッジをセットした場合は、本体にインクを充填させるため、2 回目以降にセットするインクカートリッジと比較して印字可能枚数が少なくなります。

専用紙・推奨紙

印刷品質維持のため、下記の弊社純正の専用紙をご利用になることをお勧めします。

記録紙種類	商品名	型番（サイズ）	枚数
普通紙	上質普通紙	BP60PA（A4）	250 枚入り
光沢紙	写真光沢紙	BP61GLA（A4）、BP61GLLJ（L 判）	20 枚入り
		BP61GLLJ50（L 判）	50 枚入り
		BP61GLLJ100（L 判）	100 枚入り
		BP61GLLJ300（L 判）	300 枚入り
マット紙	インクジェット紙（マット仕上げ）	BP60MA（A4）	25 枚入り

また、OHP フィルムは以下の推奨品をお使いください。
- Transparency 3M Transparency Film（型番：CG3410）

最新の専用紙・推奨紙については、以下のホームページをご覧ください。
http://solutions.brother.co.jp/

消耗品などのご注文について

- 純正消耗品はお近くの家電量販店でも取り扱いがございますが、当社にてインターネット、電話によるご注文も承っております。
- 配送料は、お買い上げ金額の合計が 3,000 円以上の場合は全国無料です。
  3,000 円未満の場合は 350 円の配送料をいただきます。(代引き手数料は全国一律無料)
- 納期については土・日・祝日、長期休暇をはさむ場合はその日数が下記に加算されます。
- 配送地域は日本国内に限らせていただきます。

< 代引き >　・・・ご注文後 2 ～ 3 営業日後の商品発送

< お振込み (銀行・郵便)>　・・・ご入金確認後 2 ～ 3 営業日後の商品発送

※ 代金は先払いとなります。(銀行／郵便局備え付けの振込用紙などからお振り込みください。)

※ 振り込み手数料はお客様負担となります。

< クレジットカード >　・・・カード番号確認後 2 ～ 3 営業日後の商品発送

ご注文先

ブラザー販売（株）	情報機器事業部ダイレクトクラブ
インターネット	http://direct.brother.co.jp
ファクス	052-825-0311
電話	0120-118-825(土・日・祝日、長期休暇を除く 9 時～ 12 時、13 時～ 17 時)
振込先	口座名義：ブラザー販売株式会社 銀行：三井住友銀行　上前津 (カミマエヅ) 支店　普通 6428357 銀行：振り込み番号　00860 － 1 － 27600

アフターサービスのご案内

この度は本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。ご愛用いただきます製品が、安心してご使用いただけますよう下記窓口を設置しております。ご不明な点、もしくはお問い合わせなどございましたら下記までご連絡ください。その際、ディスプレイにどのような表示が出ているかなどをおたずねいたしますので、あらかじめご確認いただけますと助かります。

● 【お客様相談窓口（ブラザーコールセンター）】

MFC 製品のご質問と障害に関するご相談

TEL： 0120-590-381

電話番号はおかけ間違いのないようご注意ください。

受付時間：月～金　9：00 ～ 20：00

土・祝　9：00 ～ 17：00

日曜日および当社 (ブラザー販売 (株)) 休日は休みとさせていただきます。

お客様相談窓口の情報は、下記のサポートサイトにてご確認ください。

サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）：http://solutions.brother.co.jp/

オンラインユーザー登録：https://regist.brother.jp/

brother

〒 467-8561
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町 15-1
ブラザー工業株式会社

※ ユーザーズガイドに乱丁、落丁があったときは、「お客様相談窓口　（ブラザーコールセンター）0120-590-381（フリーダイヤル)」にご連絡ください。

※ Presto!®PageManager® については、以下にお問い合わせください。

ニューソフトジャパンカスタマーサポートセンター

TEL : 03-5472-7008　FAX : 03-5472-7009　10：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00（土日・祝日を除く）

テクニカルサポート電子メール：nj.nsc@newsoft.co.jp　ホームページ：http://www.newsoft.co.jp

本製品は日本国内のみでのご使用となりますので、海外でのご使用はお止めください。海外での各国の通信規格に反する場合や、海外で使用されている電源が本製品に適切ではない恐れがあります。海外で本製品をご使用になりトラブルが発生した場合、当社は一切の責任を負いかねます。また、保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

These machines are made for use in Japan only. We can not recommend using them overseas because it may violate the Telecommunications Regulations of that country and the power requirements of your fax machine may not be compatible with the power available in foreign countries. Using Japan models overseas is at your own risk and will void your warranty.

● お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。

● 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後 5 年です。